

令和4年度における環境調査の結果等について
【東京都】

令和5年6月

東海旅客鉄道株式会社

目 次

	頁
1 概要	1-1-1
1-1 本書の概要	1-1-1
1-2 事業の実施状況	1-2-1
2 事後調査	2-1-1
2-1 植物	2-1-1
2-1-1 調査項目	2-1-1
2-1-2 調査方法	2-1-1
2-1-3 調査地点	2-1-1
2-1-4 調査期間	2-1-2
2-1-5 調査結果	2-1-3
3 モニタリング	3-1-1
3-1 大気質	3-1-1
3-1-1 調査項目	3-1-1
3-1-2 調査方法	3-1-1
3-1-3 調査地点	3-1-1
3-1-4 調査期間	3-1-5
3-1-5 調査結果	3-1-6
3-2 騒音	3-2-1
3-2-1 調査項目	3-2-1
3-2-2 調査方法	3-2-1
3-2-3 調査地点	3-2-1
3-2-4 調査期間	3-2-3
3-2-5 調査結果	3-2-4
3-3 振動	3-3-1
3-3-1 調査項目	3-3-1
3-3-2 調査方法	3-3-1
3-3-3 調査地点	3-3-1
3-3-4 調査期間	3-3-3
3-3-5 調査結果	3-3-4

3-4 水質	3-4-1
3-4-1 調查項目	3-4-1
3-4-2 調查方法	3-4-1
3-4-3 調查地点	3-4-2
3-4-4 調查期間	3-4-4
3-4-5 調查結果	3-4-5
3-5 地下水	3-5-1
3-5-1 調查項目	3-5-1
3-5-2 調查方法	3-5-1
3-5-3 調查地点	3-5-2
3-5-4 調查期間	3-5-9
3-5-5 調查結果	3-5-12
3-6 水資源	3-6-1
3-6-1 調查項目	3-6-1
3-6-2 調查方法	3-6-1
3-6-3 調查地点	3-6-2
3-6-4 調查期間	3-6-8
3-6-5 調查結果	3-6-9
3-7 地盤沈下	3-7-1
3-7-1 調查項目	3-7-1
3-7-2 調查方法	3-7-1
3-7-3 調查地点	3-7-1
3-7-4 調查期間	3-7-7
3-7-5 調查結果	3-7-10
3-8 土壤污染	3-8-1
3-8-1 調查項目	3-8-1
3-8-2 調查方法	3-8-1
3-8-3 調查地点	3-8-1
3-8-4 調查期間	3-8-3
3-8-5 調查結果	3-8-3

4 環境保全措置の実施状況	4-1-1
4-1 工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置.....	4-1-1
4-1-1 品川駅	4-1-1
4-1-2 第一首都圏トンネル（北品川工区）	4-1-7
4-1-3 目黒川変電所	4-1-11
4-1-4 東雪谷非常口	4-1-16
4-1-5 片平非常口	4-1-20
4-1-6 第一首都圏トンネル（小野路工区）	4-1-25
4-1-7 上小山田非常口	4-1-29
5 その他特に実施した調査	5-1-1
5-1 希少猛禽類の営巣地の状況調査	5-1-1
5-1-1 調査方法	5-1-1
5-1-2 調査地点	5-1-1
5-1-3 調査期間	5-1-1
5-1-4 調査結果	5-1-2
5-2 動物（片平）	5-2-1
5-2-1 調査方法	5-2-1
5-2-2 調査地域	5-2-5
5-2-3 調査期間	5-2-8
5-2-4 調査結果	5-2-10
5-3 植物（片平）	5-3-1
5-3-1 調査方法	5-3-1
5-3-2 調査地域	5-3-4
5-3-3 調査期間	5-3-7
5-3-4 調査結果	5-3-8
5-4 生態系	5-4-1
5-4-1 調査方法	5-4-1
5-4-2 調査地点	5-4-1
5-4-3 調査期間	5-4-3
5-4-4 調査結果	5-4-3

6	工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績	6-1-1
6-1	廃棄物等	6-1-1
6-1-1	集計項目	6-1-1
6-1-2	集計方法	6-1-1
6-1-3	集計対象箇所	6-1-1
6-1-4	集計期間	6-1-1
6-1-5	集計結果	6-1-1
6-2	温室効果ガス	6-2-1
6-2-1	集計項目	6-2-1
6-2-2	集計方法	6-2-1
6-2-3	集計対象箇所	6-2-1
6-2-4	集計期間	6-2-1
6-2-5	集計結果	6-2-1
7	業務の委託先	7-1-1
参考資料1.	事業の実施状況	参1-1
参考資料2.	騒音・振動の簡易計測	参2-1
参考資料3.	動物	参3-1
参考資料4.	植物	参4-1
非公開版		(別冊)

1 概要

1-1 本書の概要

本書は、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【東京都】平成26年8月」（以下、「評価書【東京都】」という。）及び「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成26年11月」に基づいて、令和4年度に実施した事後調査、モニタリング及び環境保全措置の実施状況について取りまとめ、報告するものである。

1-2 事業の実施状況

令和4年度における、東京都内の事業の実施状況は、以下のとおりである。

港区港南の品川駅、品川区北品川の目黒川変電所及び大田区東雪谷の東雪谷非常口において、工事を引き続き進めた。第一首都圏トンネル（北品川工区）において、地域の皆様に中央新幹線事業や工事等に対するご理解を深めていただくため、中央新幹線の計画路線周辺にお住まいの方を対象としたオープンハウス型の説明会を令和4年12月から令和5年2月にかけて実施し、ご来場の方々に中央新幹線の計画やシールドトンネル工事の概要について展示したパネル等を自由に見て回っていただくだけでなく、弊社の社員が個別にご質問などをお伺いしながら、ご説明を行った。

町田市上小山田町の上小山田非常口において、工事を引き続き進め、令和4年9月には北側工事用道路が完成した。第一首都圏トンネル（小野路工区）においては、令和4年11月には、地元住民の皆様にシールド掘進工事（調査掘進等）説明会を実施し、町田市小野路町でシールド機発進準備を進めた。

町田市能ヶ谷に隣接した神奈川県川崎市麻生区片平の片平非常口においては、令和4年4月から工事着手し、工事施工ヤード整備、地中連続壁工を開始した。

建設発生土については、UCR（株式会社 建設資源広域利用センター）の斡旋による受入先等に活用した。

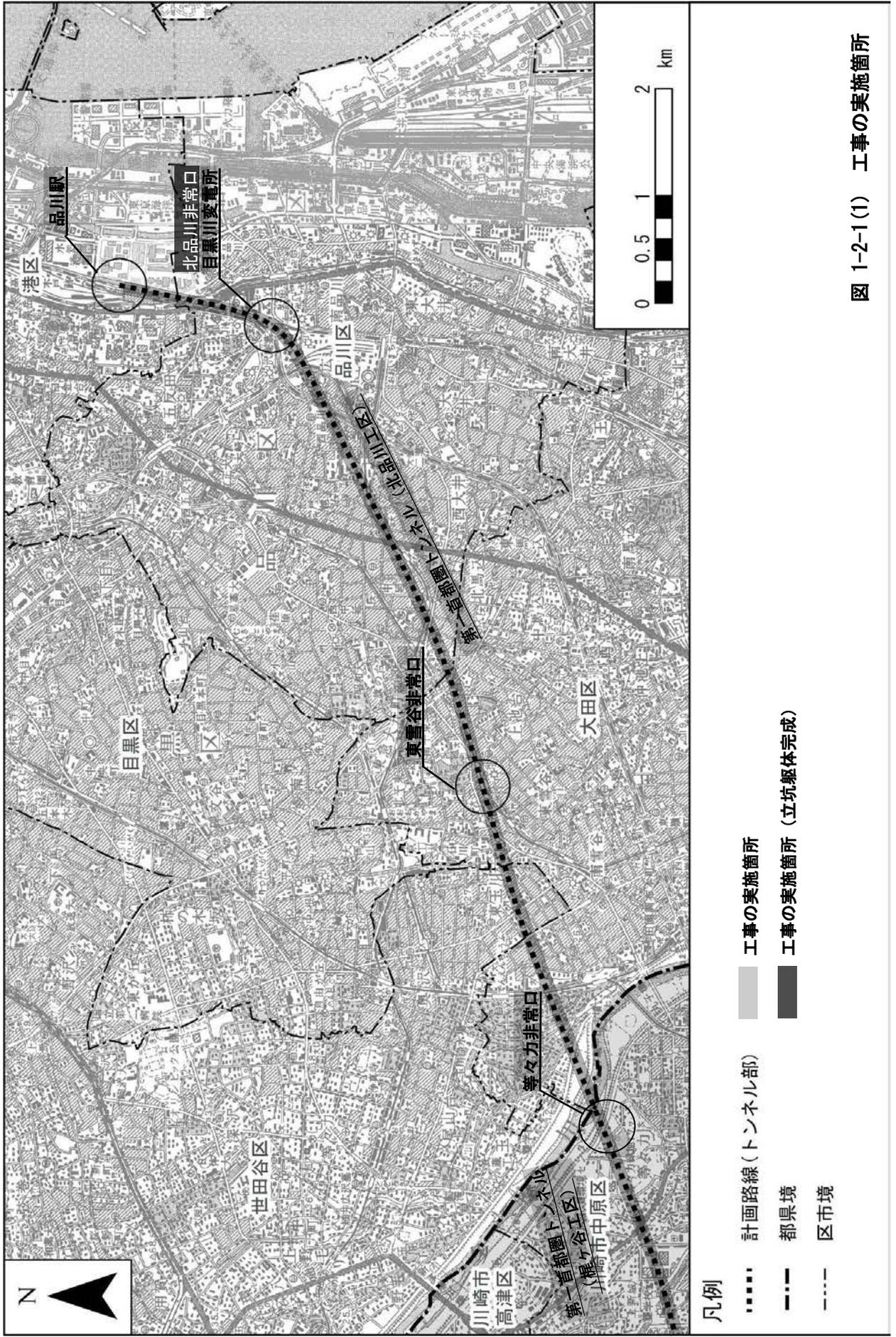
令和4年度の工事の実施状況を表 1-2-1に示す。また、工事の実施箇所を図 1-2-1に示す。

表 1-2-1 令和4年度の工事の実施状況

実施箇所	実施状況
品川駅	・地中連続壁工、工事桁架設工等を施工した。
北品川非常口	・立坑が完成した（令和元年度）。
第一首都圏トンネル （北品川工区）	・調査掘進等を施工した。
目黒川変電所	・掘削工、躯体構築工等を施工した。
東雪谷非常口	・躯体構築工等を施工した。
片平非常口	・工事用道路が完成した（令和3年度）。 ・工事施工ヤード整備、地中連続壁工等を施工した。
小野路非常口	・立坑が完成した（令和2年度）。
第一首都圏トンネル （小野路工区）	・シールド機発進準備工等を施工した。
上小山田非常口 ^{注1}	・北側工事用道路が完成した（令和4年度）。 ・ニューマチックケーソン工（躯体構築、掘削）等を施工した。

注1 上小山田非常口の工事は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構に委託している。

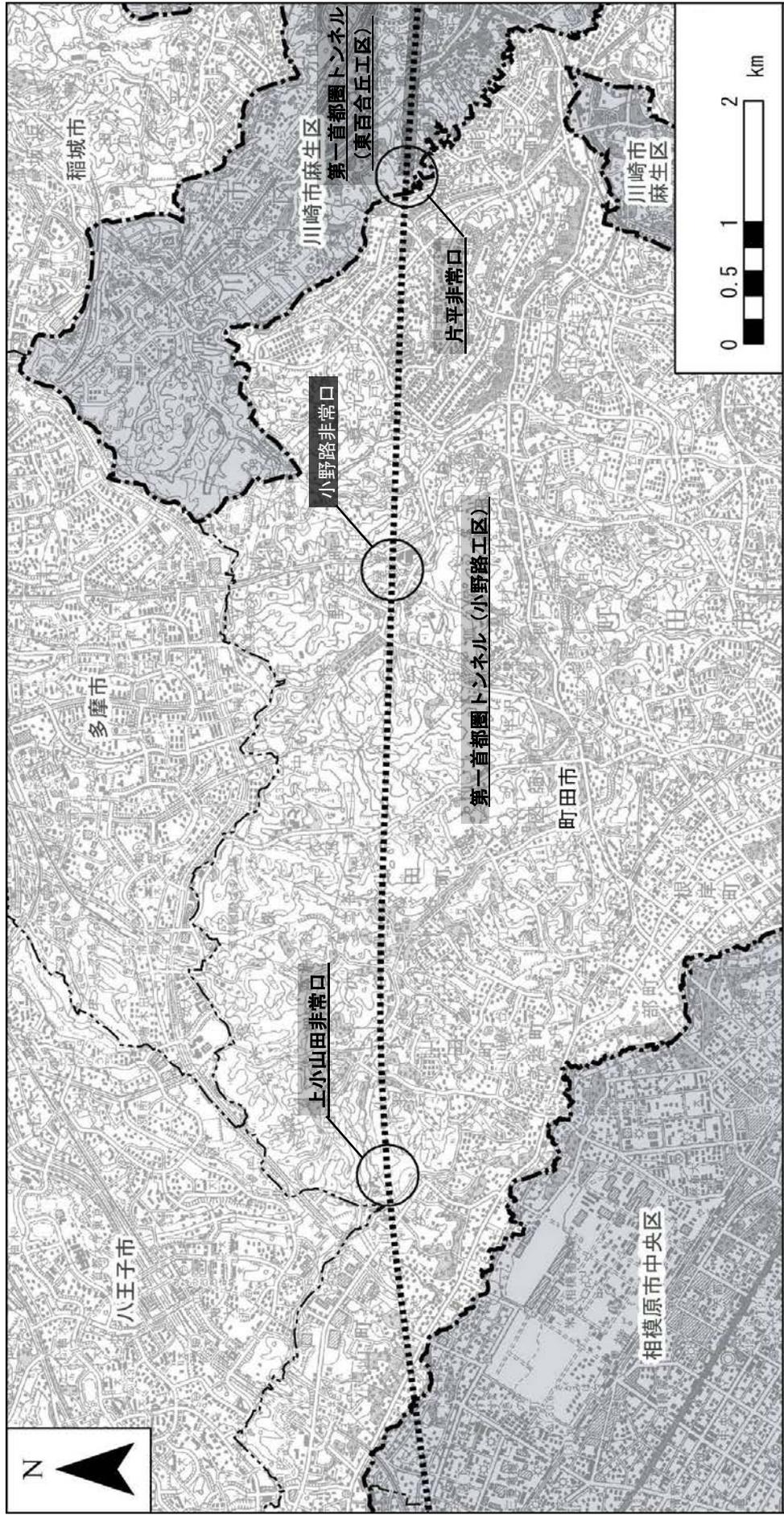
注2 各トンネル等の施工状況は、参考資料1-1に記載している。



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- - - - 区市境
- 工事の実施箇所
- 工事の実施箇所(立坑躯体完成)

図 1-2-1(1) 工事の実施箇所



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- - - - 区市境
- 工事の実施箇所
- 工事の実施箇所 (立坑駆体完成)

図 1-2-1(2) 工事の実施箇所

2 事後調査

令和4年度は、植物について事後調査を実施した。なお、専門家等の助言を受けて、希少種の保護の観点から調査結果等の一部については非公開とした。

2-1 植物

重要な種の移植の効果に不確実性があることから、平成27年度、平成28年度及び令和3年度に移植を実施した植物の生育状況の事後調査を実施した。

2-1-1 調査項目

調査項目は、移植した植物の生育状況とした。

2-1-2 調査方法

現地調査（任意観察）により移植を実施した植物の生育状況を確認した。

2-1-3 調査地点

現地調査地点は、移植を実施した地点とし、対象を表 2-1-3-1 に示すとおりである。

表 2-1-3-1 移植を実施した植物

種名	科名	移植前の生育地	移植の実施箇所	移植の実施時期		
オニカナワラビ	オシダ科	町田市 小野路町	町田市 小野路町	平成27年11月25日 平成27年11月26日		
タマノカンアオイ	ウマノスズクサ科			平成27年11月25日 平成27年11月26日		
				平成28年7月5日 平成28年7月6日		
オカタツナミソウ	シソ科			平成27年11月25日 平成27年11月26日		
				平成28年7月5日 平成28年7月6日		
ホソバヒカゲスゲ	カヤツリグサ科			平成27年11月25日 平成27年11月26日		
キンラン	ラン科			平成27年11月25日 平成27年11月26日		
				平成28年7月5日 平成28年7月6日		
				町田市 上小山田町	町田市 上小山田町	令和3年8月18日 (再移植個体を含む)
ササバギンラン	ラン科			町田市 小野路町	町田市 小野路町	平成27年11月25日 平成27年11月26日
ギンラン	ラン科	町田市 上小山田町	町田市 上小山田町	令和3年8月18日		

2-1-4 調査期間

移植後の生育状況の現地調査は、表 2-1-4-1 に示す時期に実施した。なお、移植後の生育状況調査は、移植作業後 1 か月以内及び移植後 1 年間は開花期と結実期 1 回ずつ、それ以降は結実期（結実が地上から確認できないものは開花期）に年 1 回実施することを基本として、専門家等の技術的助言を踏まえて設定することとした。

表 2-1-4-1 生育状況の現地調査の時期

調査対象種	調査箇所	調査日
オニカナワラビ	町田市 小野路町	令和 4 年 6 月 20 日
タマノカンアオイ		令和 4 年 4 月 27 日、28 日
オカタツナミソウ		令和 4 年 7 月 25 日
ホソバヒカゲスゲ		令和 4 年 4 月 27 日
キンラン		令和 4 年 4 月 27 日
	町田市 上小山田町	令和 4 年 5 月 9 日、7 月 26 日
ササバギンラン	町田市 小野路町	令和 4 年 4 月 27 日
ギンラン	町田市 上小山田町	令和 4 年 5 月 9 日、7 月 26 日

2-1-5 調査結果

(1) オニカナワラビ

小野路町における令和4年度の展葉期の確認*（6月20日）においては、展葉しており、胞子嚢も形成されていたことから良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

※：開花・結実する種ではないため、葉が増える展葉期に確認を実施した。



移植後の生育状況【展葉】（移植個体）

令和4年6月20日

(2) タマノカンアオイ

小野路町における令和4年度の開花期の確認（4月27日、28日）においては、移植株数と同等の個体数が確認され、開花率についても昨年度と比較し、増加していることから良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

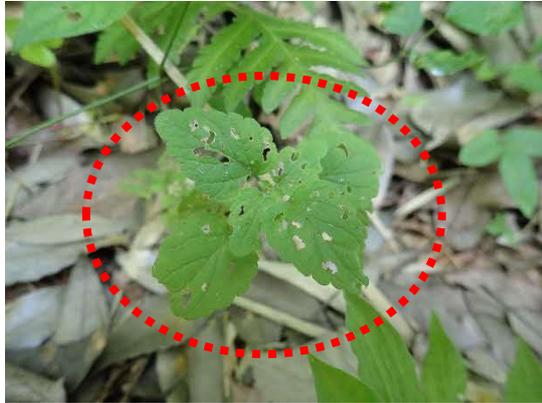


移植後の生育状況【開花】（移植個体）

令和4年4月27日、28日

(3) オカタツナミソウ

小野路町における令和4年度の結実期の確認（7月25日）においては、昨年度と比較して個体数、結実率ともに増加していることから、良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況【結実】（移植個体）

令和4年7月25日

(4) ホソバヒカゲスゲ

小野路町における令和4年度の開花期・結実期の確認（4月27日）において、移植株がすべて残存しており、開花・結実も見られることから、良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況【開花・結実】（移植個体）

令和4年4月27日

(5) キンラン

小野路町における令和4年度の開花期の確認（4月27日）において、昨年度と比較して開花率が増加していること、地上部の個体の大きさが大きく変わらないことから、良好に生育していると考えられる。



移植後の生育状況【開花】（移植個体）

令和4年4月27日

上小山田町における令和4年度の開花期の確認（5月9日）において、全体の生存率は56%、生存が確認された個体のうち開花率は75%であった。また、令和4年度の結実期（7月26日）において、全体の生存率は44%、生存が確認された個体のうち結実率は25%であった。キンランは経年的に地上部の出現状況が異なると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況【開花】（移植個体）

令和4年5月9日

(6) ササバギンラン

小野路町における令和4年度の開花期の確認（4月27日）において、ササバギンランと思われる株の展開、開花は、昨年度と同様に確認されなかった。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

(7) ギンラン

上小山田町における令和4年度の開花期の確認（5月9日）において、全体の生存率は33%、生存が確認された個体のうち開花率は100%であった。また、令和4年度の結実期（7月26日）において全体の生存率は33%、生存が確認された個体のうち結実率は0%であった。ギンランは経年的に地上部の出現状況が異なると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況【開花】（移植個体）

令和4年5月9日、7月26日

3 モニタリング

令和4年度は、大気質、騒音、振動、水質、地下水、水資源、地盤沈下及び土壌汚染について、モニタリングを実施した。

3-1 大気質

建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る大気質について、工事最盛期におけるモニタリングを実施した。

3-1-1 調査項目

調査項目は、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び粉じん等とした。

3-1-2 調査方法

調査方法は、表 3-1-2-1 に示すとおりである。

表 3-1-2-1 調査方法

調査項目	調査方法	測定高さ
二酸化窒素 (NO ₂)	「二酸化窒素に係る環境基準について」 (昭和 53 年環境庁告示第 38 号) に定める測定方法	地上 1.5m
浮遊粒子状物質 (SPM)	「大気の汚染に係る環境基準について」 (昭和 48 年環境庁告示第 25 号) に定める測定方法	地上 3.0m
粉じん等 (降下ばいじん量)	「衛生試験法・注解(2015)」(2015、日本薬学会) に基づくダストジャー法	地上 1.5m

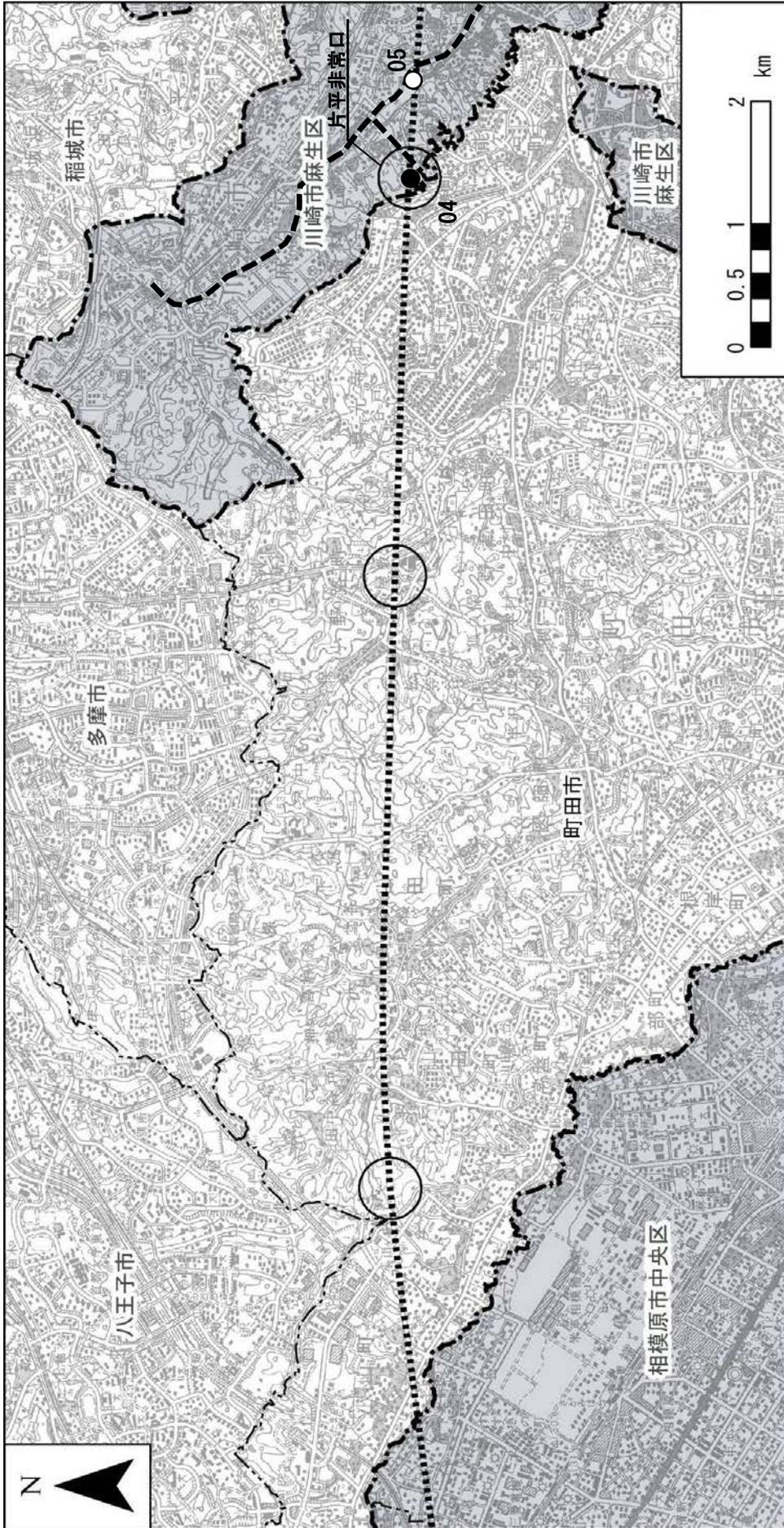
3-1-3 調査地点

調査地点は、表 3-1-3-1 及び図 3-1-3-1 に示すとおりである。

表 3-1-3-1 調査地点

調査項目	地点番号	調査地点	区市名	所在地	実施箇所
建設機械の稼働	04	環境 04-①	川崎市 麻生区	片平 (能ヶ谷)	片平非常口
		環境 04-②	町田市		
資材及び機械の運搬に用いる 車両の運行	04	沿道 04	大田区	東雪谷	東雪谷非常口
	05	沿道 05	川崎市 麻生区	片平	片平非常口

注：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。



凡例

..... 計画路線(トンネル部)

--- 都県境

- - - 区市境

● 地点番号(建設機械の稼働)

○ 地点番号(資材及び機械の運搬に用いる車両の運行)

■ ■ ■ 工専用車両ルート

図 3-1-3-1(2) 地点番号(大気質)

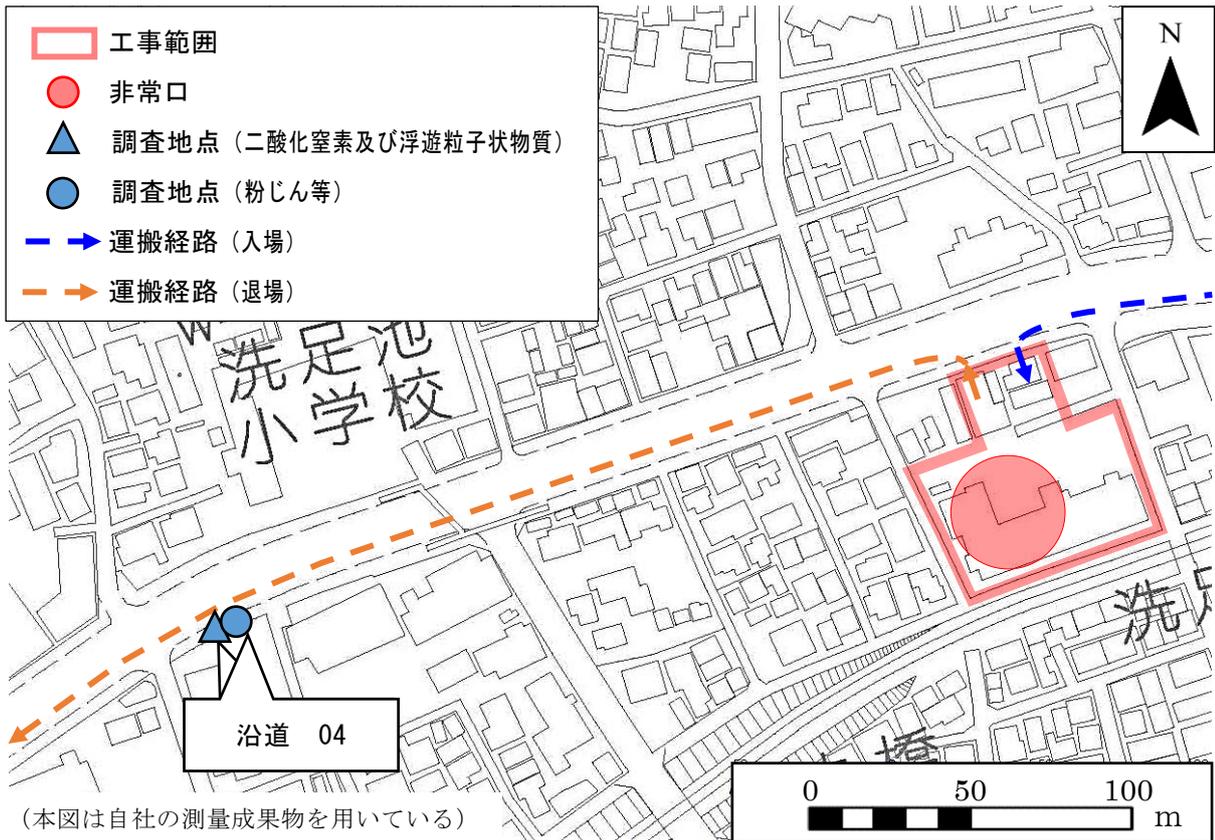


図 3-1-3-1(3) 調査地点 (大気質) (04 東雪谷)

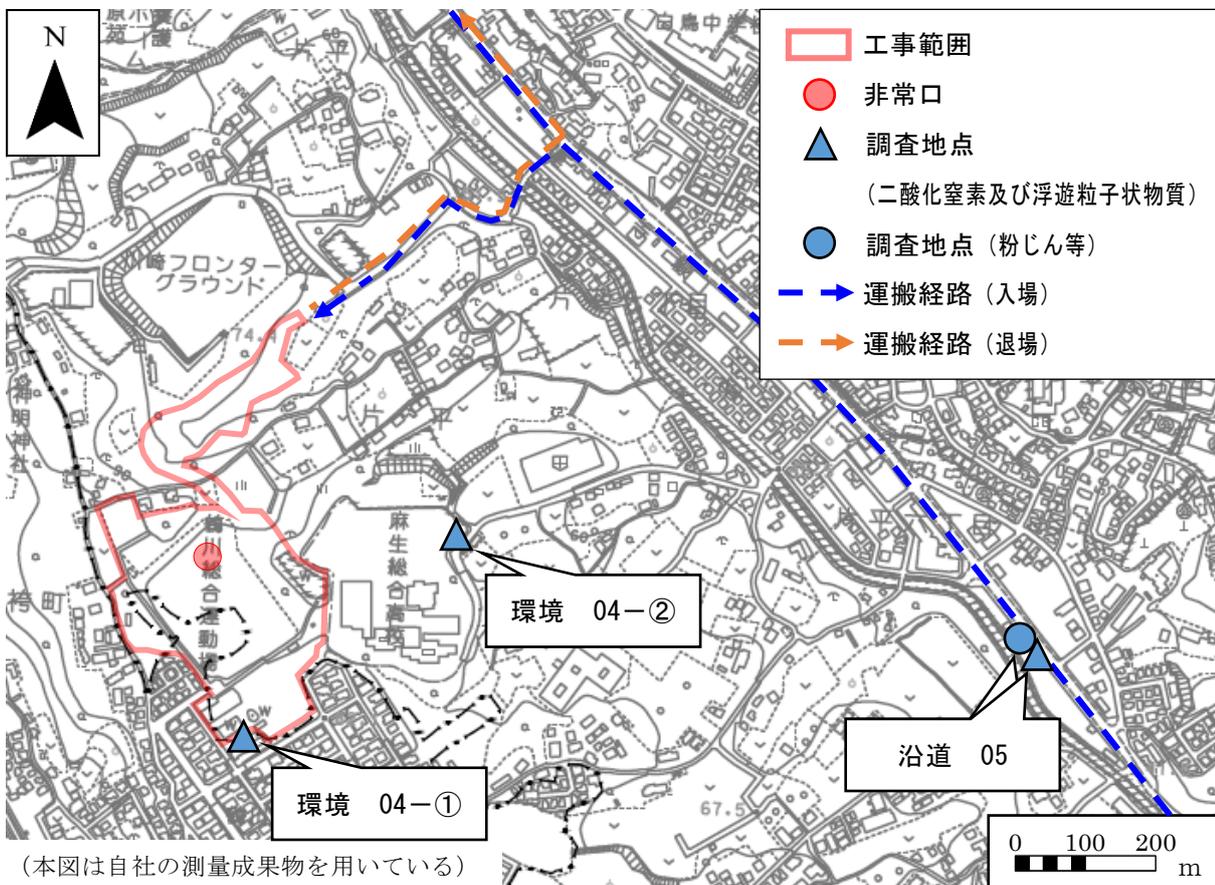


図 3-1-3-1(4) 調査地点 (大気質) (04、05 片平)

3-1-4 調査期間

調査期間は、表 3-1-4-1 に示すとおりである。調査は四季調査を実施するものとし、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については各季 7 日間連続測定を、粉じん等については各季 1 か月間連続測定を行った。なお、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行（二酸化窒素及び浮遊粒子状物質、粉じん等）の地点 04 については、令和 3 年度からの調査結果をもって四季調査が完了するため、令和 3 年度分を再掲する。建設機械の稼働（二酸化窒素及び浮遊粒子状物質）の地点 04、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行（二酸化窒素及び浮遊粒子状物質、粉じん等）の地点 05 については、令和 5 年度に実施する調査結果をもって四季調査を完了する計画である。

工事最盛期の対象工事は、評価書【東京都】の予測対象工事を基本として、工事期間全体の中で工事内容を勘案し、調査項目ごとに工事による影響が最大となる時期を選定した。

表 3-1-4-1(1) 調査期間

調査項目	地点番号	季節	調査期間	調査期間中の主な工事内容	備考
建設機械の稼働 （二酸化窒素及び 浮遊粒子状物質）	04	秋季	令和 4 年 10 月 19 日～25 日	地中連続壁工 等	今回調査
		冬季	令和 5 年 1 月 17 日～23 日	地中連続壁工 等	
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行 （二酸化窒素及び 浮遊粒子状物質）	04	夏季	令和 3 年 7 月 14 日～20 日	掘削工 等	R 3 年度調査
		秋季	令和 3 年 10 月 20 日～26 日	掘削工 等	
		冬季	令和 4 年 1 月 21 日～27 日	掘削工 等	
	春季	令和 4 年 4 月 7 日～13 日	躯体構築工 等	今回調査	
	05	秋季	令和 4 年 10 月 21 日～27 日	地中連続壁工 等	今回調査
		冬季	令和 5 年 1 月 19 日～25 日	地中連続壁工 等	

表 3-1-4-1 (2) 調査期間

調査項目	地点番号	季節	調査期間	調査期間中の主な工事内容	備考
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行(粉じん等)	04	夏季	令和3年7月13日～ 8月12日	掘削工 等	R3年度調査
		秋季	令和3年10月19日～ 11月18日	掘削工 等	
		冬季	令和4年1月10日～ 2月9日	掘削工 等	
		春季	令和4年4月6日～ 5月6日	躯体構築工 等	今回調査
	05	秋季	令和4年10月19日～ 11月18日	地中連続壁工 等	今回調査
		冬季	令和5年1月5日～ 2月4日	地中連続壁工 等	

3-1-5 調査結果

a) 建設機械の稼働に係るモニタリング

調査結果は、表 3-1-5-1 に示すとおりである。

地点 04 は四季調査の二季分の結果であるが、二酸化窒素の日平均値の最高値は 0.017ppm、浮遊粒子状物質の日平均値の最高値は 0.017mg/m³ であった。

表 3-1-5-1 (1) 調査結果 (二酸化窒素)

地点番号	調査地点	有効測定日数	測定時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	日平均値が0.06ppm を超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm 以上0.06ppm以下の 日数とその割合		基準 ^注
							日	%	日	%	
04	環境 04-①	14	336	0.012	0.041	0.017	0	0	0	0	日平均値の 年間 98% 値が 0.06ppm 以下
	環境 04-②	14	336	0.010	0.035	0.015	0	0	0	0	

注：環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-1-5-1(2) 調査結果 (浮遊粒子状物質)

地点 番号	調査地点	有効 測定 日数	測定 時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	1時間値0.20mg/m ³ を超えた時間数と その割合		日平均値0.10mg/m ³ を超えた日数と その割合		基準 ^注
							時間	%	日	%	
04	環境 04-①	14	336	0.010	0.033	0.017	0	0	0	0	日平均値の 年間 2%除外値 が 0.10mg/m ³ 以下
	環境 04-②	14	336	0.009	0.076	0.017	0	0	0	0	

注：環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

b) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係るモニタリング

調査結果は、表 3-1-5-2 に示すとおりである。

地点 04 における二酸化窒素は、年間（四季）を通じた日平均値の最高値は 0.030ppm で、基準の値を下回っている。また、浮遊粒子状物質は、年間（四季）を通じた日平均値の最高は 0.024mg/m³ で、基準の値を下回っている。

地点 05 は四季調査の二季分の結果であるが、二酸化窒素の日平均値の最高値は 0.018ppm、浮遊粒子状物質の日平均値の最高は 0.018mg/m³ であった。

降下ばいじん量については、地点 04 で最大 9.3 t /km²/月、地点 05 で最大 4.4 t /km²/月であった。

表 3-1-5-2(1) 調査結果 (二酸化窒素)

地点 番号	調査地点	有効 測定 日数	測定 時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその 割合		日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の 日数とその割合		基準 ^注
							日	%	日	%	
04	沿道 04	28	672	0.018	0.072	0.030	0	0	0	0	日平均値の 年間 98%値が 0.06ppm 以下
05	沿道 05	14	336	0.012	0.038	0.018	0	0	0	0	

注：環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-1-5-2(2) 調査結果 (浮遊粒子状物質)

地点 番号	調査地点	有効 測定 日数	測定 時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	1時間値0.20mg/m ³ を超えた時間数と その割合		日平均値0.10mg/m ³ を超えた日数と その割合		基準 ^注
							時間	%	日	%	
04	沿道 04	28	672	0.013	0.040	0.024	0	0	0	0	日平均値の 年間 2%除外値 が 0.10mg/m ³ 以下
05	沿道 05	14	336	0.010	0.051	0.018	0	0	0	0	

注：環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-1-5-2(3) 調査結果（降下ばいじん量）^{注1}

地点 番号	調査地点	春季	夏季	秋季	冬季	指標値 ^{注2}
		t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	
04	沿道 04	9.30	4.50	2.20	4.20	20t/km ² /月
05	沿道 05	令和5年度調査予定		3.10	4.40	

注1：調査結果は、バックグラウンド濃度と建設機械の稼働による寄与分の合計となる。

注2：スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標 20t/km²/月（「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年環大自84号）を、環境を保全するうえでの降下ばいじん量の目安とした。

なお、評価書【東京都】では、建設機械の稼働による寄与分については、上記指標値から降下ばいじん量の比較的高い地域の値である 10t/km²/月（平成5年～平成9年の全国の一般環境大気測定局における降下ばいじん量データの上位2%除外値）を差し引いた 10t/km²/月を、整合を図るべき基準等の参考値とした。

3-2 騒音

建設機械の稼働に係る騒音について、工事最盛期におけるモニタリングを実施した。

3-2-1 調査項目

調査項目は、建設機械の稼働に係る騒音（騒音レベルの90%レンジ上端値： L_{A5} ）とした。

3-2-2 調査方法

調査方法は、表 3-2-2-1 に示すとおりである。

表 3-2-2-1 調査方法

調査項目		調査方法	測定高さ
建設機械の稼働に係る騒音	90%レンジ上端値 (L_{A5})	JIS Z 8731 (環境騒音の表示・測定方法)	地上 1.2m

3-2-3 調査地点

調査地点は、表 3-2-3-1 及び図 3-2-3-1 に示すとおりである。

表 3-2-3-1 調査地点

調査項目	地点番号	区市名	所在地	実施箇所
建設機械の稼働に係る騒音	01	港区	港南	品川駅

注：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

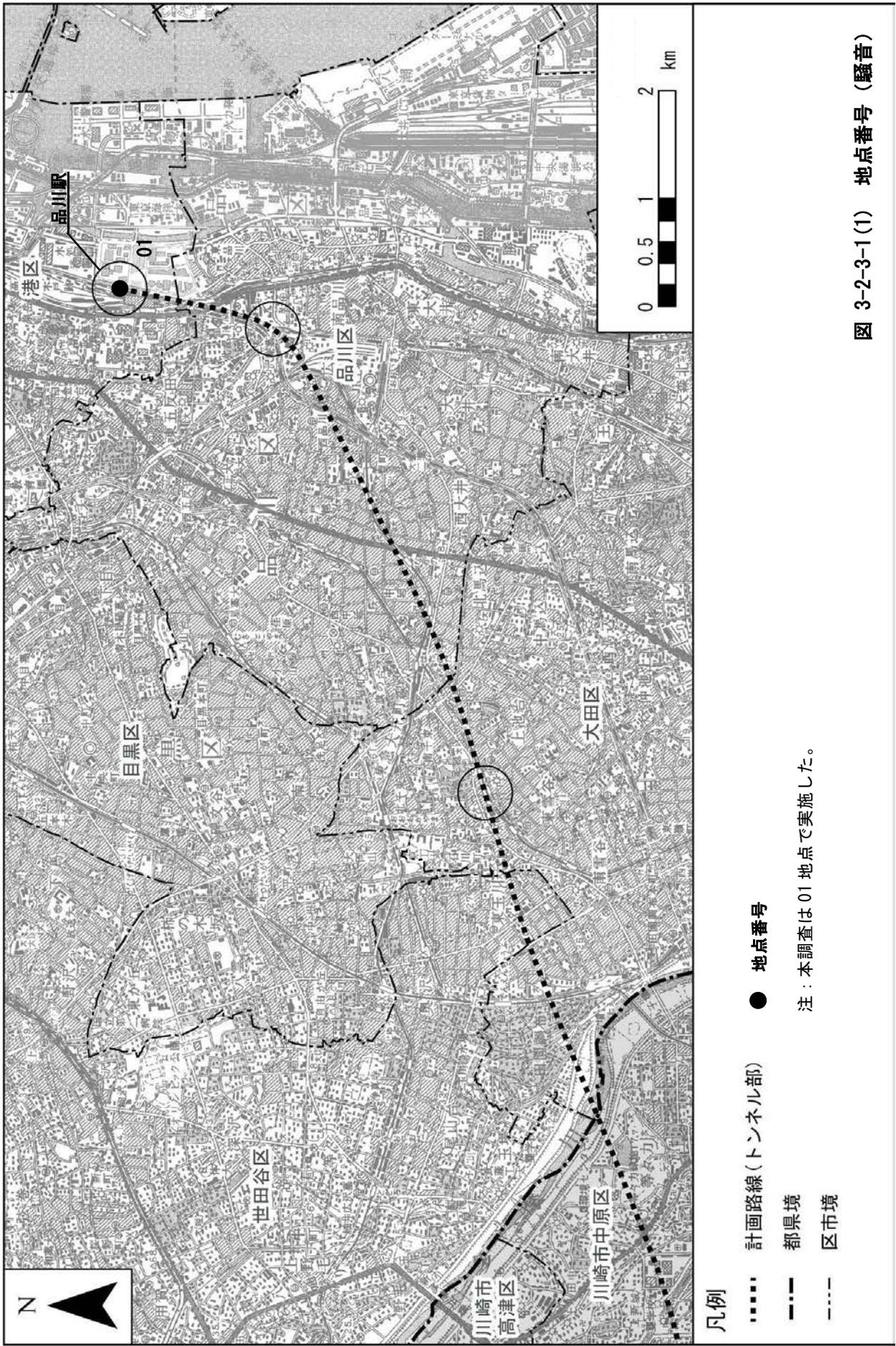


図 3-2-3-1(1) 地点番号 (騒音)

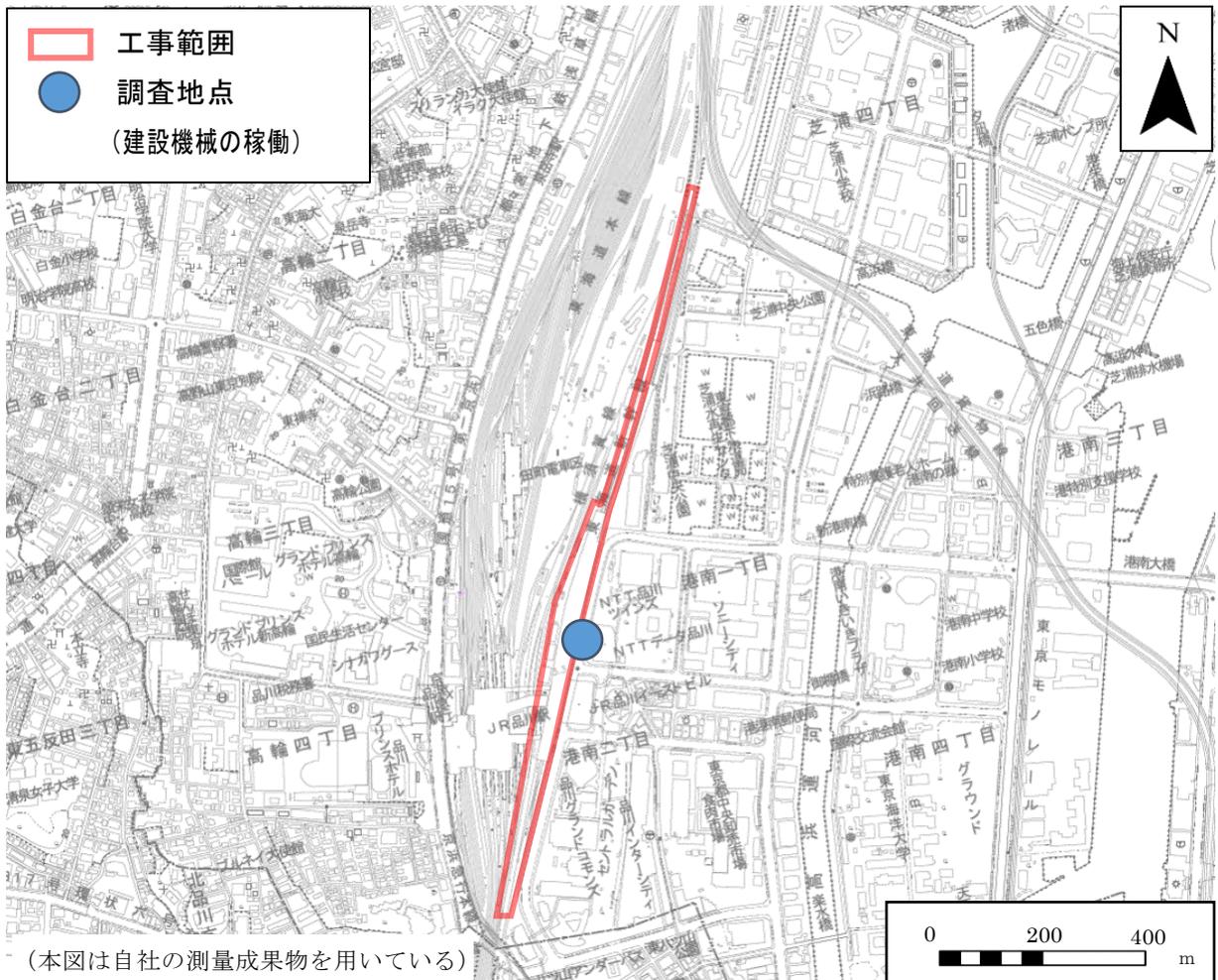


図 3-2-3-1(2) 調査地点(騒音) (01 品川駅)

3-2-4 調査期間

調査期間は、表 3-2-4-1 に示すとおりである。なお、調査期間は工事最盛期の 1 回とし、対象工事は、評価書【東京都】の予測対象工事を基本として工事期間全体の中で工事内容を勘案し、工事による騒音の影響が最大となる時期を選定した。

表 3-2-4-1 調査期間

調査項目	地点番号	調査期間	調査期間中の主な工事内容	調査時間帯
建設機械の稼働に係る騒音	01	令和 4 年 5 月 23 日(月)、 24 日(火)	掘削・支保工の準備工 (地中連続壁工)、 掘削・支保工 等	8:00~翌 8:00

3-2-5 調査結果

調査結果は、表 3-2-5-1 に示すとおりである。

建設機械の稼働に係る騒音については、「騒音規制法」に定める「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和 43 年 11 月 27 日、厚生省・建設省告示第 1 号）並びに各地方公共団体により定められる基準等（「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」に係る指定建設作業の基準値）の値を下回った。

表 3-2-5-1 調査結果（建設機械の稼働に係る騒音）

調査項目	地点番号	調査結果 (dB) ^{注 1}	規制基準 (dB) ^{注 2}	
		L _{A5}	指定建設作業	特定建設作業
建設機械の稼働に係る騒音	01	76	80	85

注 1：調査結果は騒音レベル L_{A5} が、調査の時間帯で最大となった値を示す。

注 2：規制基準

指定建設作業：「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例施行規則」（平成 13 年東京都）指定建設作業に適用する勧告基準

特定建設作業：「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和 43 年厚生省・建設省告示）

3-3 振動

建設機械の稼働に係る振動について、工事最盛期におけるモニタリングを実施した。

3-3-1 調査項目

調査項目は、建設機械の稼働に係る振動（振動レベルの 80%レンジの上端値：L₁₀）とした。

3-3-2 調査方法

調査方法は、表 3-3-2-1 に示すとおりである。

表 3-3-2-1 調査方法

調査項目		調査方法	測定高さ
建設機械の稼働に係る振動	80%レンジ 上端値(L ₁₀)	JIS Z 8735（振動レベル測定方法）	地表面

3-3-3 調査地点

調査地点は、表 3-3-3-1 及び図 3-3-3-1 に示すとおりである。

表 3-3-3-1 調査地点

調査項目	地点 番号	区市名	所在地	実施箇所
建設機械の稼働に係る振動	01	港区	港南	品川駅

注：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

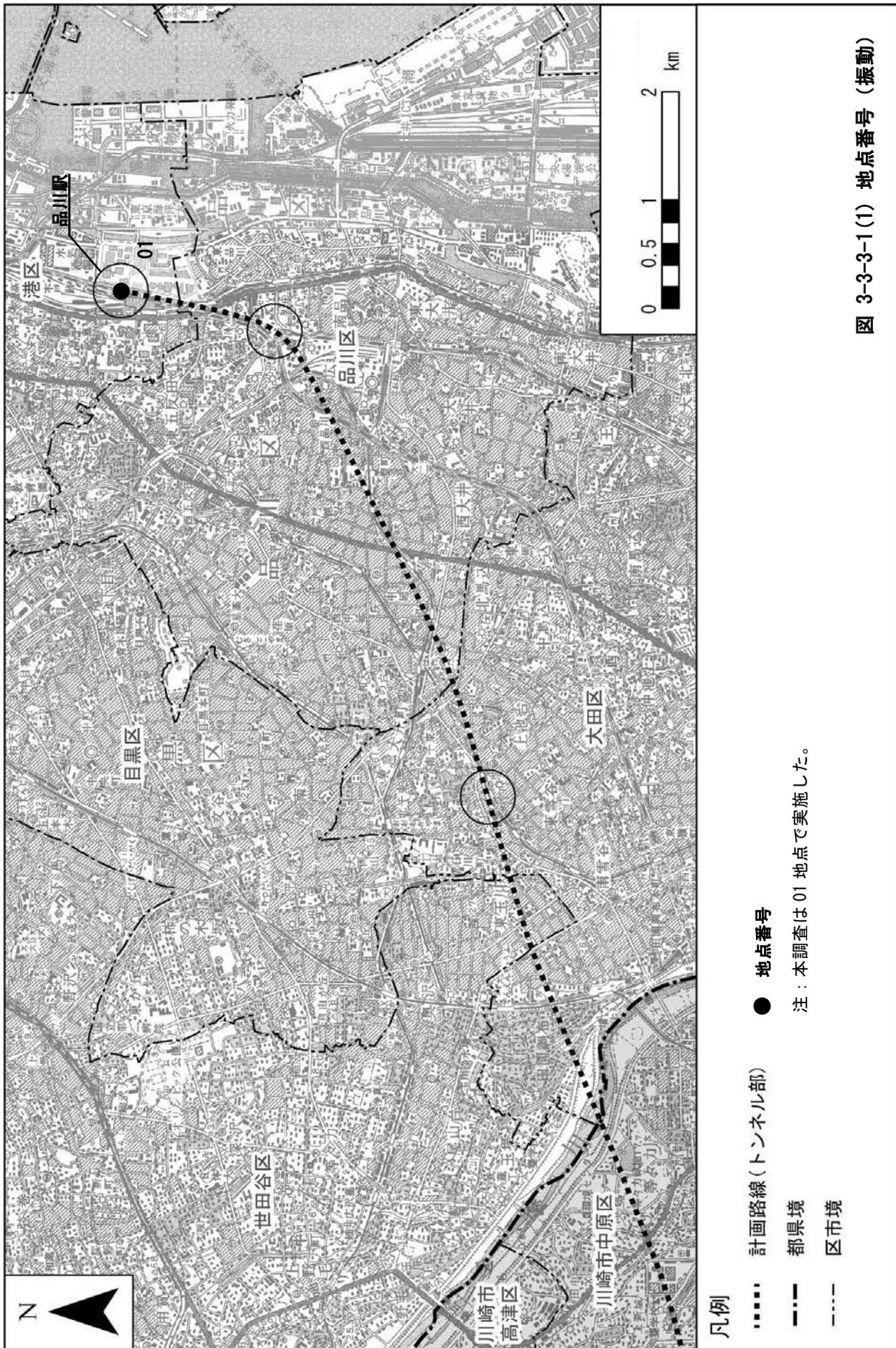


図 3-3-3-1(1) 地点番号 (振動)

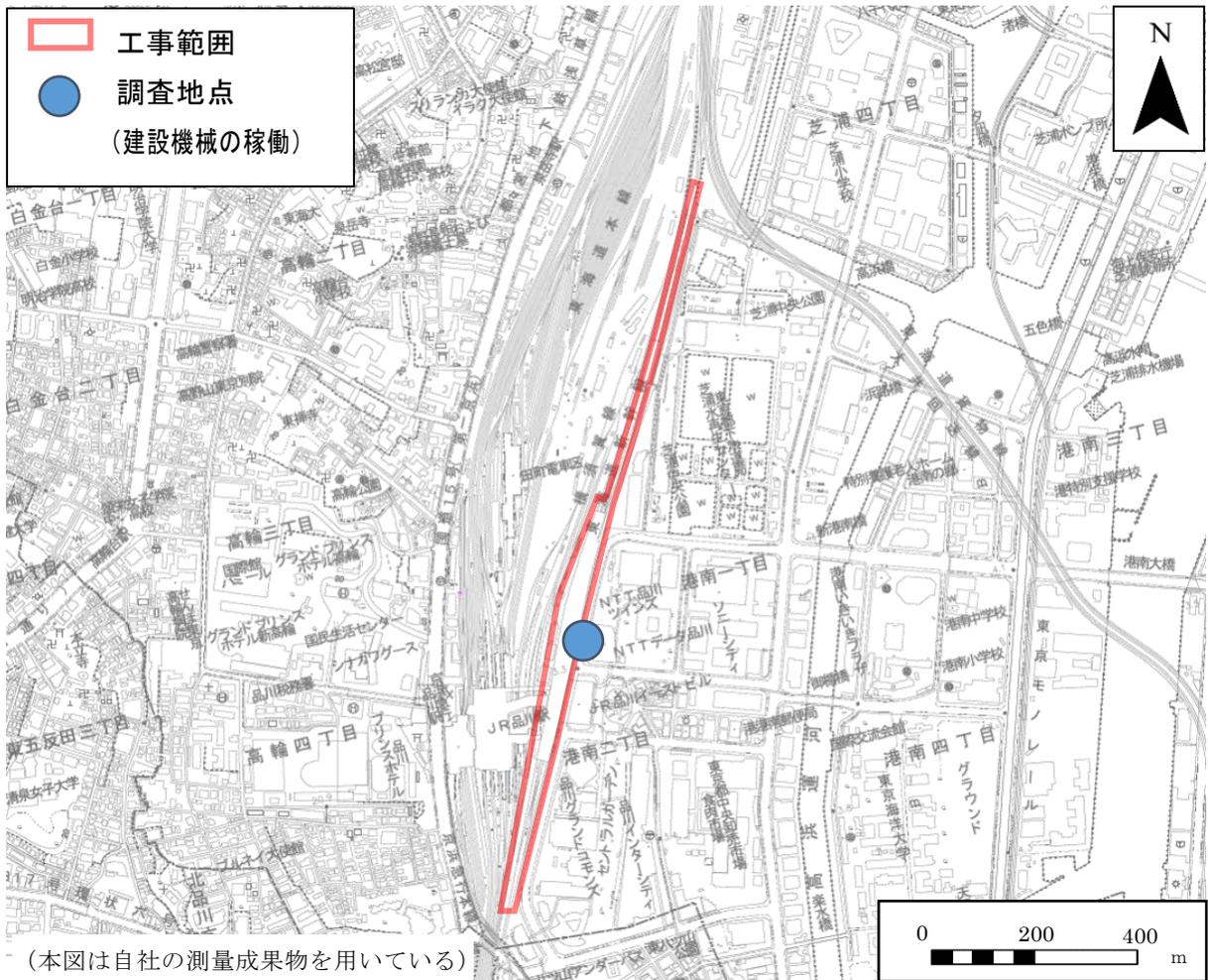


図 3-3-3-1(2) 調査地点（振動）（01 品川駅）

3-3-4 調査期間

調査期間は、表 3-3-4-1 に示すとおりである。なお、調査期間は工事最盛期の 1 回とし、対象工事は、評価書【東京都】の予測対象工事を基本として工事期間全体の中で工事内容を勘案し、工事による振動の影響が最大となる時期を選定した。

表 3-3-4-1 調査期間

調査項目	地点番号	調査期間	調査期間中の主な工事内容	調査時間帯
建設機械の稼働に係る振動	01	令和 4 年 5 月 23 日(月)、 24 日(火)	掘削・支保工の準備工 (地中連続壁工)、 掘削・支保工 等	8:00～翌 8:00

3-3-5 調査結果

調査結果は、表 3-3-5-1 に示すとおりである。

建設機械の稼働に係る振動については、「振動規制法施行規則」（昭和 51 年総理府令第 58 号）に定める「特定建設作業の規制に関する基準」並びに各地方公共団体により定められる基準等（「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」に係る指定建設作業の基準値）の値を下回った。

表 3-3-5-1 調査結果（建設機械の稼働に係る振動）

調査項目	地点 番号	調査結果 (dB) 注 1	規制基準 (dB) 注 2	
		L ₁₀	指定建設作業	特定建設作業
建設機械の稼働 に係る振動	01	52	70	75

注 1：調査結果は振動レベル L₁₀ が、調査の時間帯で最大となった値を示す。

注 2：規制基準

指定建設作業：「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例施行規則」（平成 13 年東京都 指定建設作業に適用する勧告基準

特定建設作業：「振動規制法施行規則」（昭和 51 年総理府令第 58 号）「特定建設作業の規制に関する基準」

3-4 水質

公共用水域（河川）の水質について、工事中のモニタリングを実施した。

3-4-1 調査項目

調査項目は、浮遊物質量（SS）、水温、水素イオン濃度（pH）及び自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）の状況とした。

3-4-2 調査方法

調査方法は、表 3-4-2-1 に示すとおりである。

表 3-4-2-1 調査方法

調査項目		調査方法
浮遊物質量（SS）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日環境庁告示第 59 号）に定める測定方法
水温		「地下水調査および観測指針（案）」（平成 5 年建設省河川局）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日環境庁告示第 59 号）に定める測定方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」（平成 22 年 3 月建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
ほう素		

3-4-3 調査地点

調査地点を、表 3-4-3-1 及び図 3-4-3-1 に示す。

表 3-4-3-1 調査地点

地点番号	区市名	水系	対象河川	実施箇所	調査項目
05	町田市	鶴見川	小野路川	第一首都圏トンネル (小野路工区)	浮遊物質 (SS)、水温、 水素イオン濃度 (pH)、 自然由来の重金属等
06			平川	上小山田非常口	

注：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

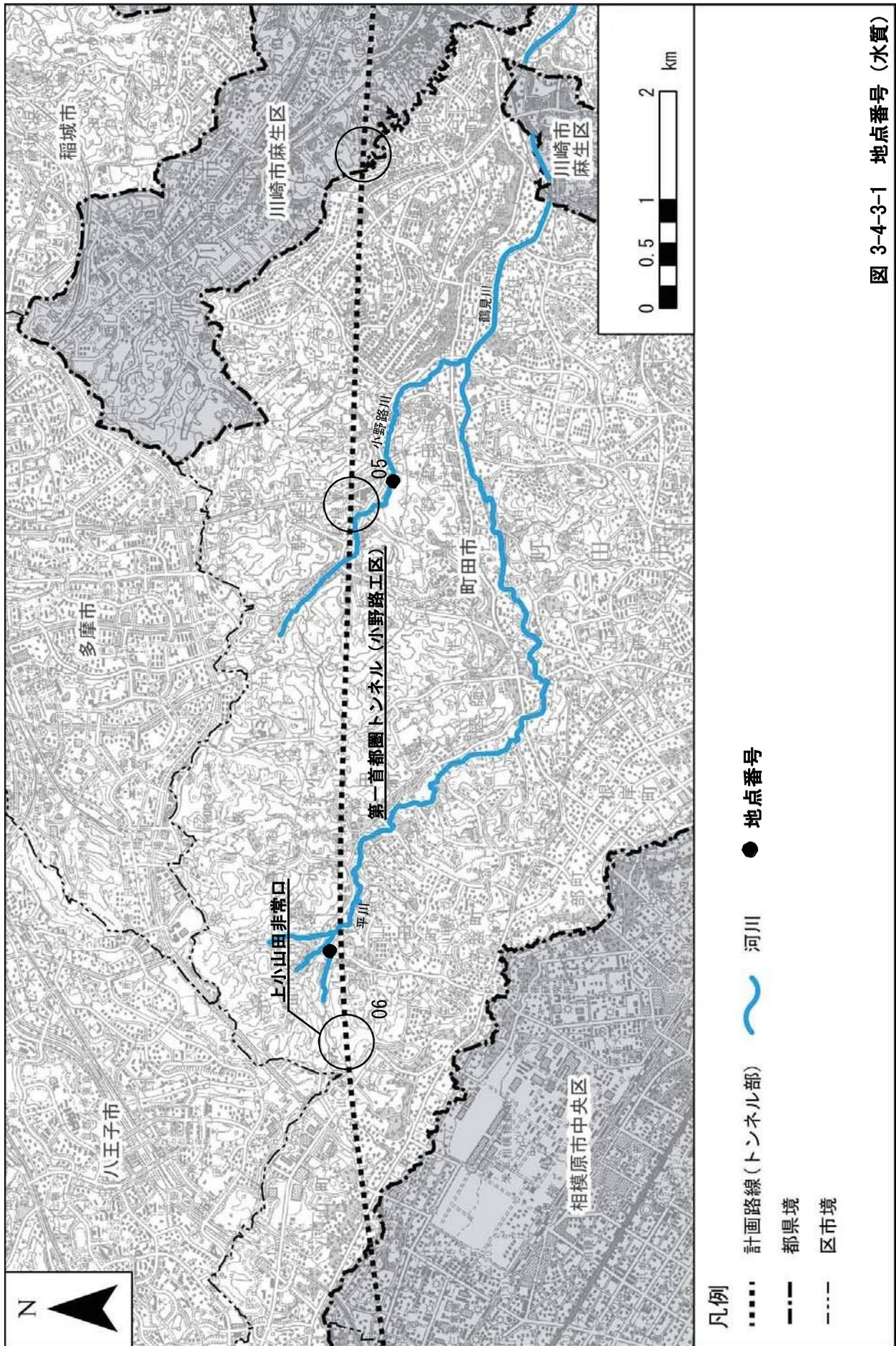


図 3-4-3-1 地点番号 (水質)

3-4-4 調査期間

調査期間を、表 3-4-4-1 に示すとおりである。

表 3-4-4-1 調査期間

地点番号	対象河川	実施時期の種別	調査時期	調査頻度
05	小野路川	工事中	豊水期：令和4年8月22日 低水期：令和5年1月10日	年2回
06	平川	工事中	豊水期：令和4年8月22日 低水期：令和5年1月10日	年2回

3-4-5 調査結果

調査結果は、表 3-4-5-1 に示すとおりである。工事中の調査である地点番号 05、06 については、各項目とも環境基準等に適合した。

表 3-4-5-1 調査結果

地点番号		05		06		環境基準等 ^{注2}
対象河川		小野路川		平川		
類型指定 ^{注1}		(D)		(D)		
調査時期		豊水期	低水期	豊水期	低水期	
流量 (m ³ /s)		3.2×10 ⁻²	3.1×10 ⁻²	1.2×10 ⁻²	9.7×10 ⁻³	—
浮遊物質 (SS) (mg/L)		2	3	<1	1	100mg/L 以下
水温 (°C)		21.8	9.4	21.2	8.8	—
気象の状況		曇り	晴れ	曇り	晴れ	—
土質の状況		砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	—
水素イオン濃度 (pH)		7.7	7.5	8.1	8.1	6.0 以上 8.5 以下
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	0.001	<0.001	0.003	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	0.003	0.001	0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下

注1 類型指定のない河川は、合流する河川の類型指定を準用し、() とした。

注2 浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注3 「<」は未満を示す。

なお、工事中における小野路非常口及び上小山田非常口からの工事排水の水質についても、浮遊物質、水温、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行っている。測定は定期的に行っているが、値は年間最大値（水素イオン濃度及び水温は年間最大・最小値）を記載した。

小野路非常口の測定結果は、浮遊物質が最大で49mg/L、水素イオン濃度は6.9～8.3であり、いずれも法令に定める排水基準に適合した。水温は7～25℃であった。また、自然由来の重金属等については、カドミウムは0.0003mg/L未満、六価クロムは0.02mg/L未満、水銀は0.0005mg/L未満、セレンは0.001mg/L未満、鉛は0.001mg/L未満、ヒ素0.001mg/L、ふっ素は0.2mg/L、ほう素は0.2mg/L未満であり、いずれも法令に定める排水基準に適合した。

上小山田非常口の測定結果は、浮遊物質が最大で60mg/L、水素イオン濃度は6.9～8.5であり、いずれも法令に定める排水基準に適合した。水温は0～28℃であった。また、自然由来の重金属等については、カドミウムは0.0003mg/L未満、六価クロムは0.01mg/L未満、水銀は0.0005mg/L未満、セレンは0.002mg/L未満、鉛は0.005mg/L未満、ヒ素は0.002mg/L未満、ふっ素は0.1mg/L、ほう素は0.1mg/L未満であり、いずれも法令に定める排水基準に適合した。

3-5 地下水

地下水について、工事中のモニタリングを実施した。

3-5-1 調査項目

調査項目は、地下駅、非常口（都市部）及び地下変電所付近の井戸の地下水の水位の状況とした。

3-5-2 調査方法

調査方法は、表 3-5-2-1 に示すとおりである。

表 3-5-2-1 調査方法

調査項目	調査方法
水位	「地下水調査および観測指針（案）」（平成 5 年 建設省河川局）に定める測定方法

3-5-3 調査地点

調査地点は、表 3-5-3-1、図 3-5-3-1 及び図 3-5-3-2 に示すとおりである。

表 3-5-3-1(1) 調査地点

地点番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点		地表面標高 ^{注1}	スレーナ-深度 ^{注1}	地層名
01	港区	港南	品川駅	01-①(1)	浅層	T. P. +3. 4m	T. P. -11m~-19m	東京層
					深層	T. P. +3. 4m	T. P. -56m~-66m	上総層
				01-①(2)	浅層	T. P. +3. 4m	T. P. -11m~-19m	東京層
					深層	T. P. +3. 4m	T. P. -56m~-66m	上総層
				01-②	浅層	T. P. +2. 5m	T. P. -10m~-18m	東京層
					深層	T. P. +2. 5m	T. P. -46m~-66m	上総層
				01-③	浅層	T. P. +3. 4m	T. P. -11m~-19m	東京層
					深層	T. P. +3. 4m	T. P. -49m~-61m	上総層
01-④	浅層	T. P. +3. 3m	T. P. -11m~-18m	東京層				
	深層	T. P. +3. 3m	T. P. -49m~-59m	上総層				
02	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	02-①	浅層	T. P. +3. 0m	T. P. -12m~-20m	東京層
					深層	T. P. +3. 0m	T. P. -70m~-82m	上総層
				02-②	浅層	T. P. +3. 0m	T. P. -12m~-20m	東京層
					深層	T. P. +3. 0m	T. P. -64m~-76m	上総層
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	03-①	浅層	T. P. +27m	T. P. +19m~+10m	東京層
					深層	T. P. +27m	T. P. -45m~-59m	上総層
				03-②	浅層	T. P. +24m	T. P. +15m~+9m	東京層
					深層	T. P. +24m	T. P. -46m~-59m	上総層
04	川崎市 麻生区	片平	片平非常口	04-①	浅層	T. P. +78m	T. P. +70m~+46m	上総層
					深層	T. P. +78m	T. P. -17m~-39m	上総層
				04-②	浅層	T. P. +78m	T. P. +63m~+43m	上総層
					深層	T. P. +78m	T. P. -23m~-44m	上総層

注1：水位は東京湾平均海面（T. P.）を0mとした場合の高さを示す。

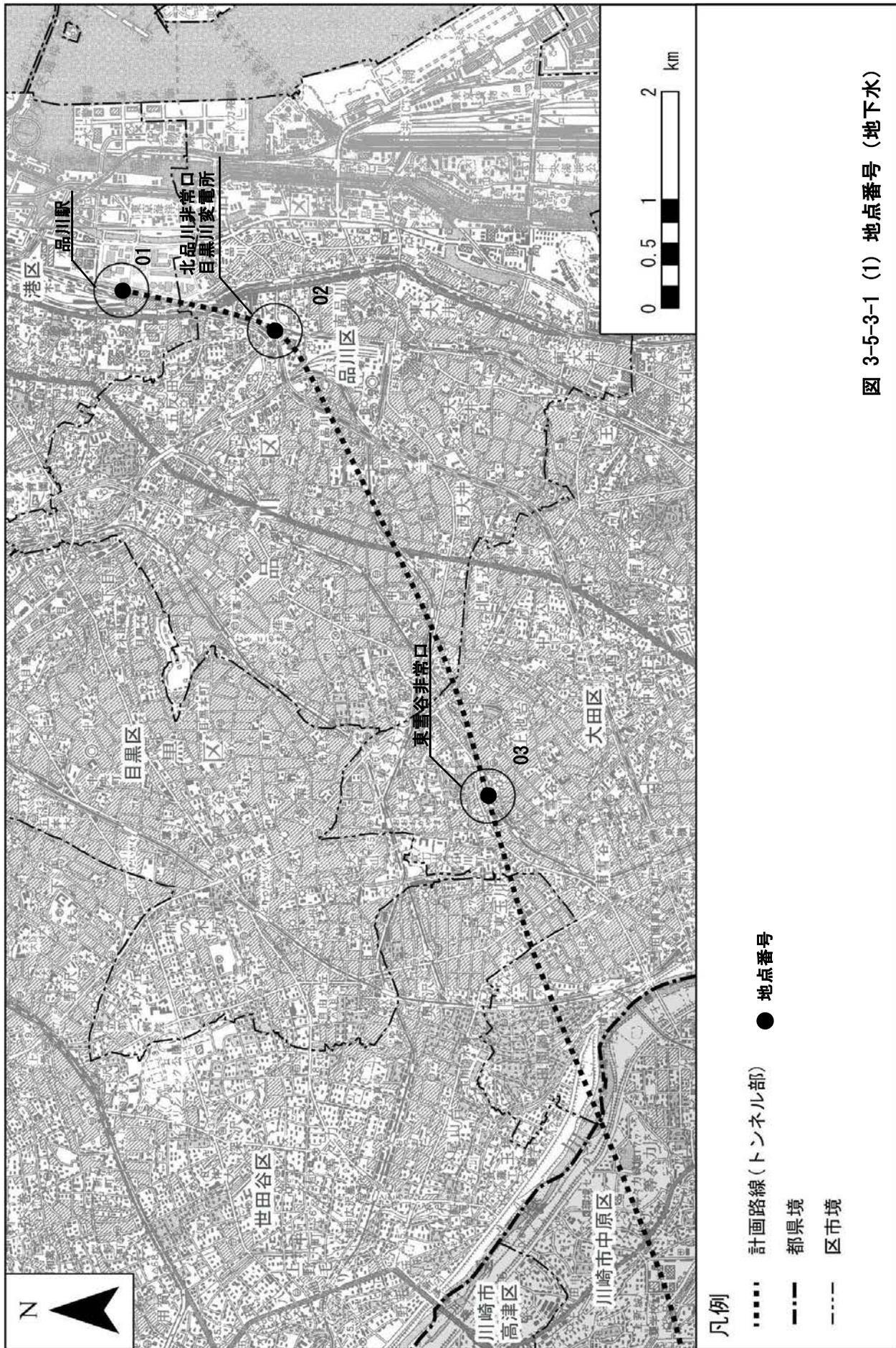
注2：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

表 3-5-3-1(2) 調査地点

地点 番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点	地表面標高 ^{注1}	スレーナ-深度 ^{注1}	地層名	
06	町田市	上小山田町	上小山田非常口	06-①	浅層	T. P. +155m	T. P. +119m～ +109m	上総層
					深層	T. P. +155m	T. P. +65m～+55m	上総層
				06-②	浅層	T. P. +140m	T. P. +115m～ +105m	上総層
					深層	T. P. +140m	T. P. +65m～+55m	上総層

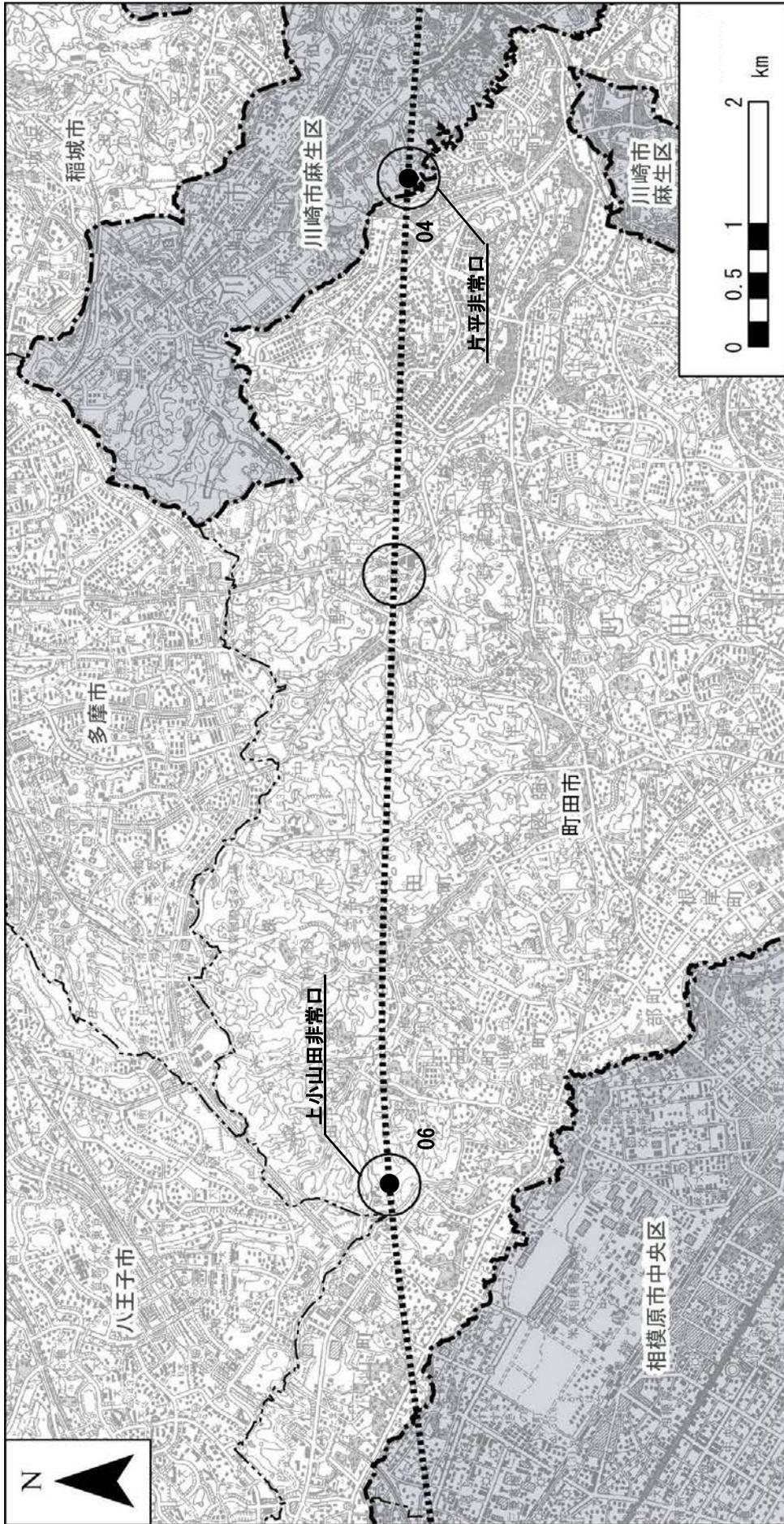
注1：水位は東京湾平均海面（T.P.）を0mとした場合の高さを示す。

注2：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。



- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 地点番号
 - 都県境
 - - - 区市境

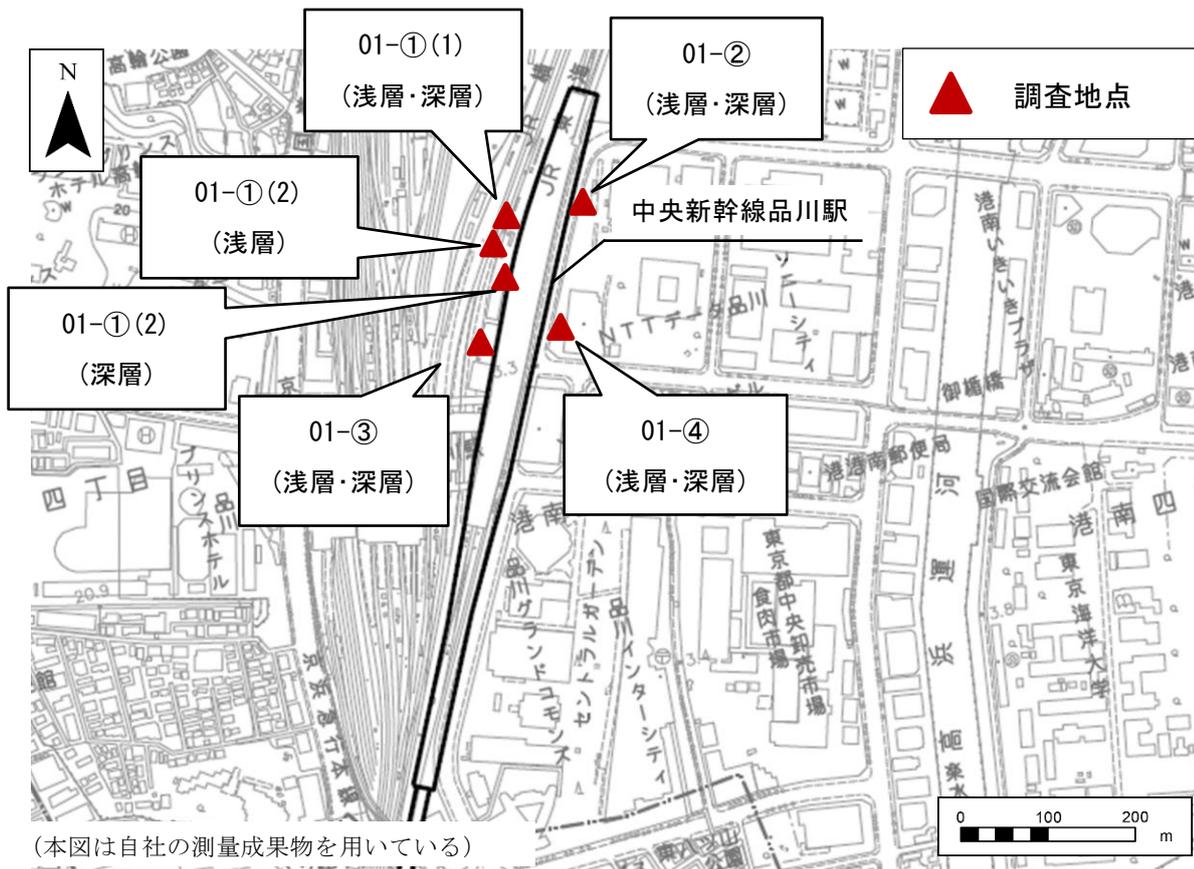
図 3-5-3-1 (1) 地点番号 (地下水)



凡例

- 計画路線(トンネル部) ● 地点番号
- - - 都県境
- · - 区市境

图 3-5-3-1 (2) 地点番号 (地下水)



注 令和5年3月に工事に井戸が支障するため、01-①(1)から01-①(2)へ井戸の盛替えを行った。

図 3-5-3-2(1) 調査地点 (地下水) (01 品川駅)

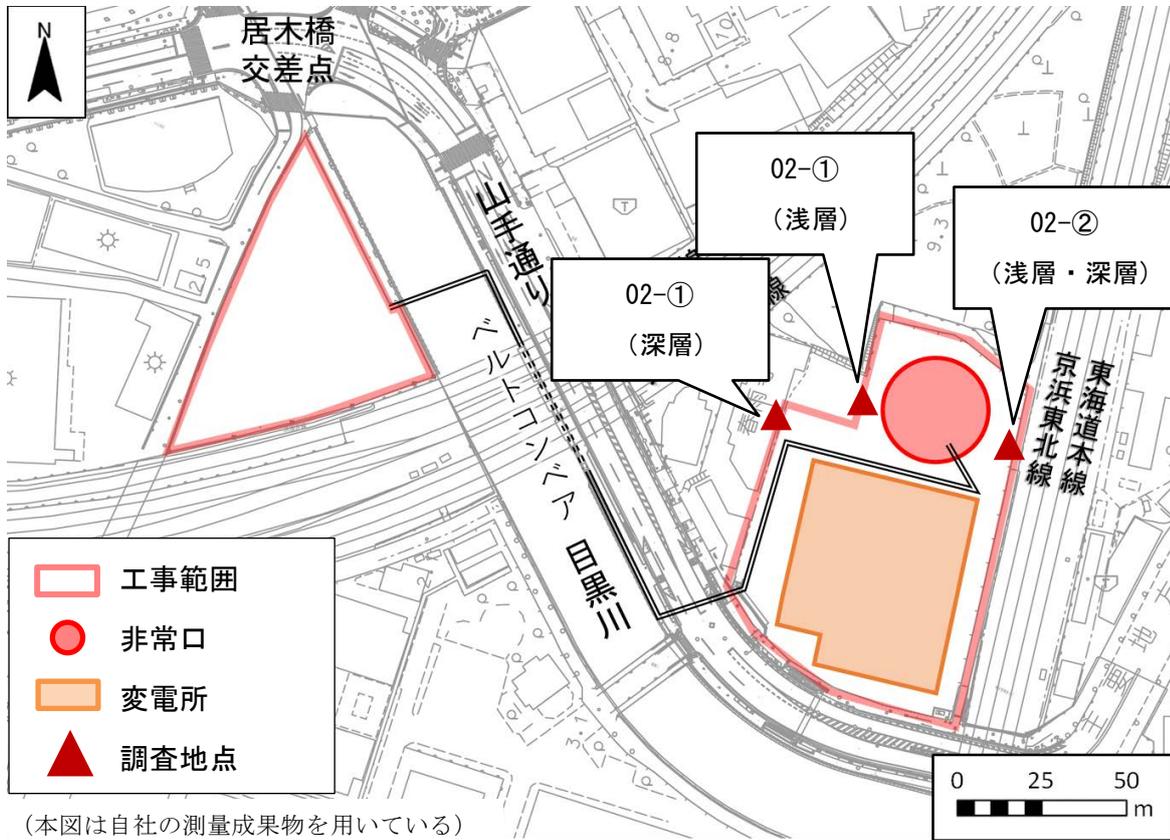


図 3-5-3-2(2) 調査地点 (地下水) (02 北品川)

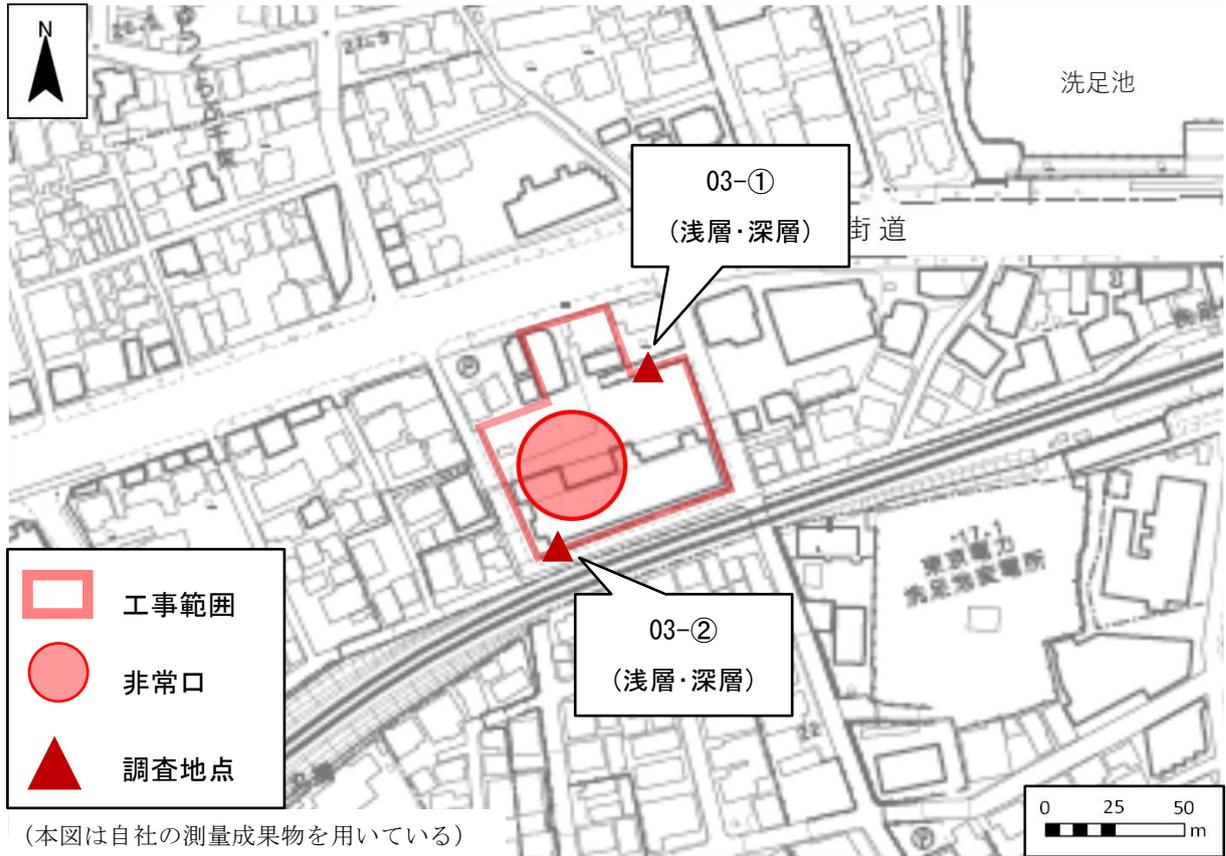


図 3-5-3-2(3) 調査地点（地下水）（03 東雪谷）

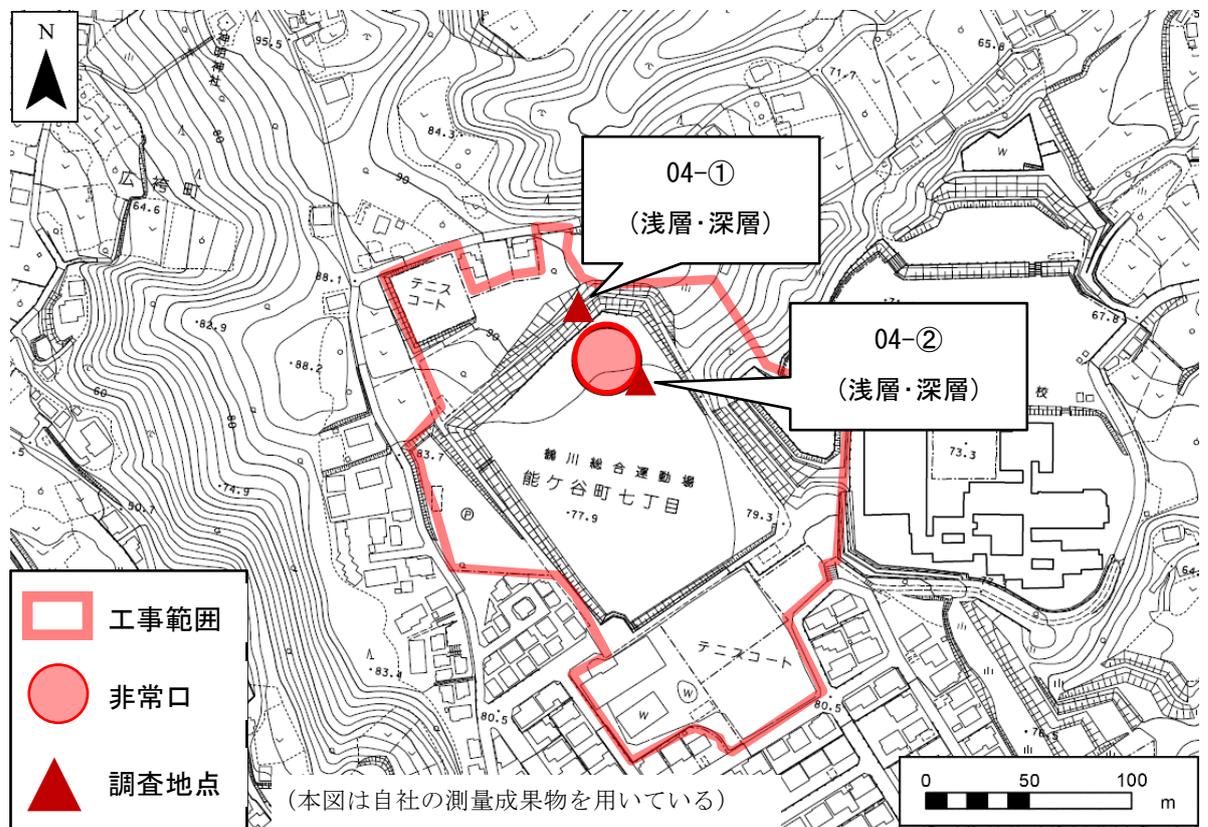


図 3-5-3-2(4) 調査地点（地下水）（04 片平）

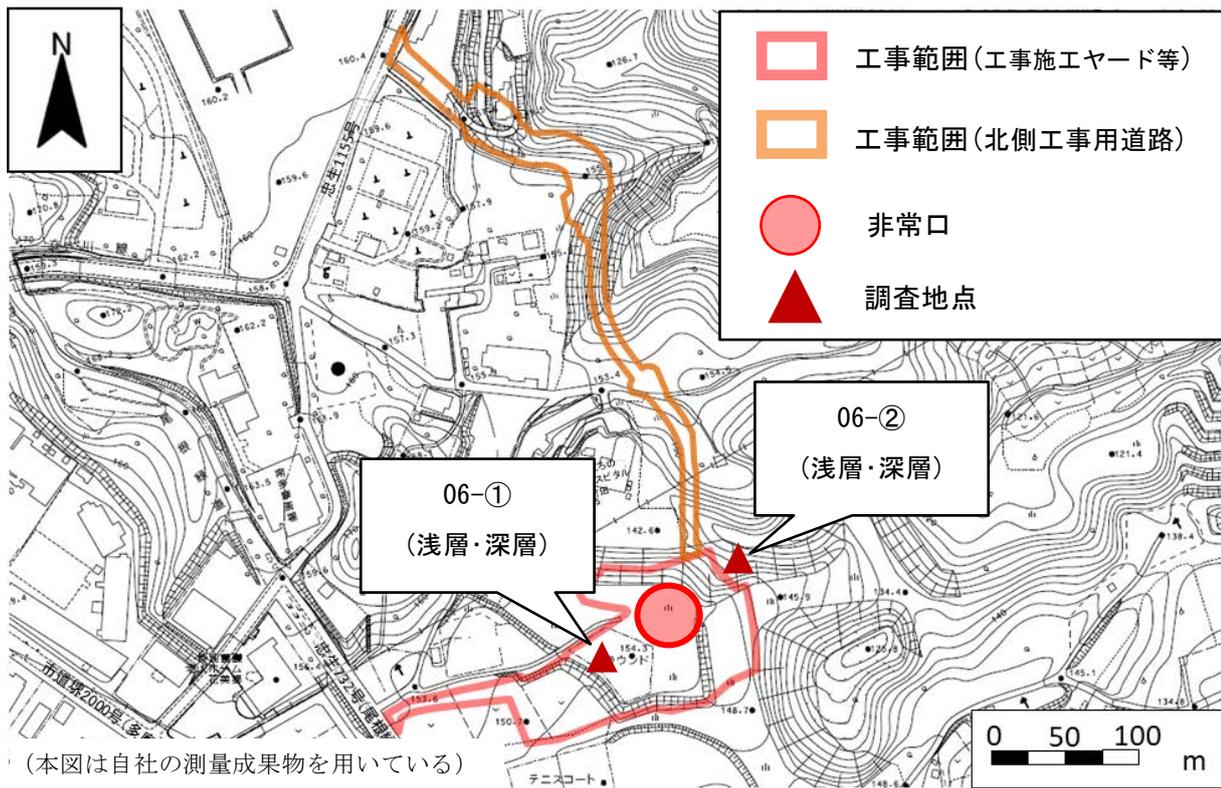


図 3-5-3-2(5) 調査地点 (地下水) (06 上小山田)

3-5-4 調査期間

調期間は表 3-5-4-1 に示すとおりである。

表 3-5-4-1(1) 調査期間

地点 番号	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01-①(1) 01-①(2) 01-② 01-③ 01-④	地下工事中	令和4年4月1日～30日	自記水位計による連続観測
		令和4年5月1日～31日	
		令和4年6月1日～30日	
		令和4年7月1日～31日	
		令和4年8月1日～31日	
		令和4年9月1日～30日	
		令和4年10月1日～31日	
		令和4年11月1日～30日	
		令和4年12月1日～31日	
		令和5年1月1日～31日	
		令和5年2月1日～28日	
		令和5年3月1日～31日	
02-① 02-②	地下工事中	令和4年4月1日～30日	自記水位計による連続観測
		令和4年5月1日～31日	
		令和4年6月1日～30日	
		令和4年7月1日～31日	
		令和4年8月1日～31日	
		令和4年9月1日～30日	
		令和4年10月1日～31日	
		令和4年11月1日～30日	
		令和4年12月1日～31日	
		令和5年1月1日～31日	
		令和5年2月1日～28日	
		令和5年3月1日～31日	

3-5-4-1(2) 調査期間

地点番号	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
03-① 03-②	地下工事中	令和4年4月1日～30日	自記水位計による連続観測
		令和4年5月1日～31日	
		令和4年6月1日～30日	
		令和4年7月1日～31日	
		令和4年8月1日～31日	
		令和4年9月1日～30日	
		令和4年10月1日～31日	
		令和4年11月1日～30日	
		令和4年12月1日～31日	
		令和5年1月1日～31日	
		令和5年2月1日～28日	
		令和5年3月1日～31日	
04-① 04-②	地下工事前 ^注	令和4年4月19日	月1回
		令和4年4月27日～30日	自記水位計による連続観測
		令和4年5月1日～31日	
		令和4年6月1日～30日	
		令和4年7月1日～31日	
		令和4年8月1日～31日	
		令和4年9月1日～30日	
	地下工事中	令和4年10月1日～31日	
		令和4年11月1日～30日	
		令和4年12月1日～31日	
		令和5年1月1日～31日	
		令和5年2月1日～28日	
		令和5年3月1日～31日	

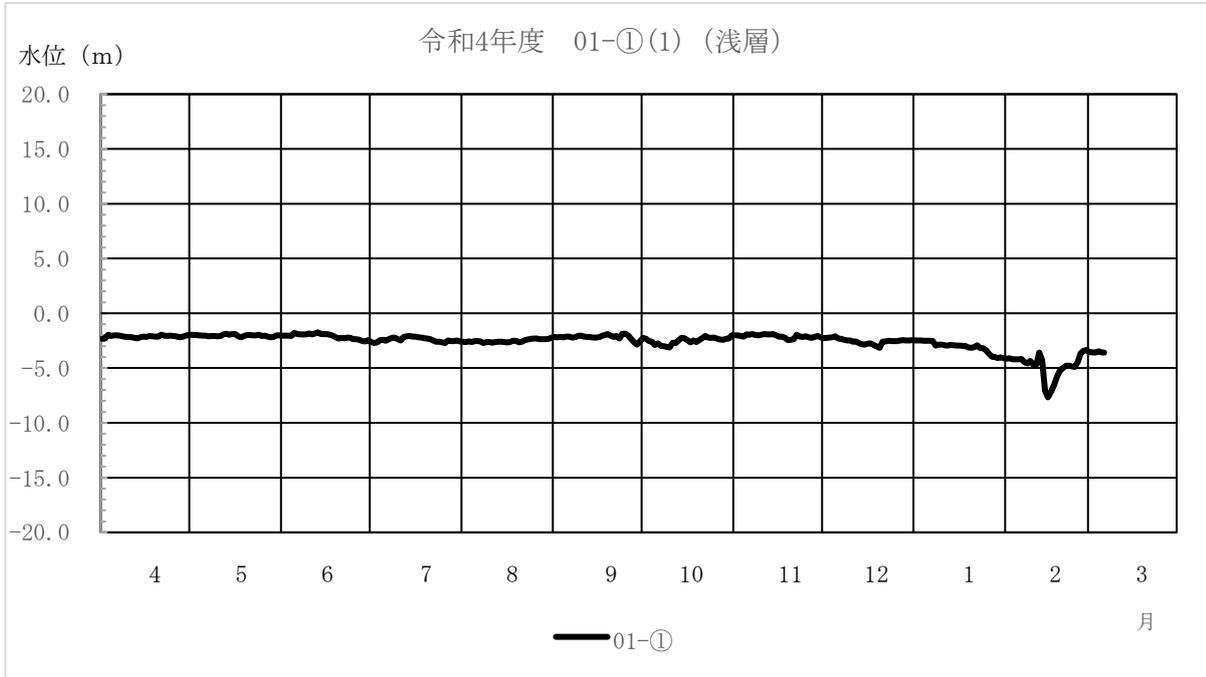
注 地点 04-①、04-②の地下工事前は、土留壁工開始前を示す。

表 3-5-4-1(3) 調査期間

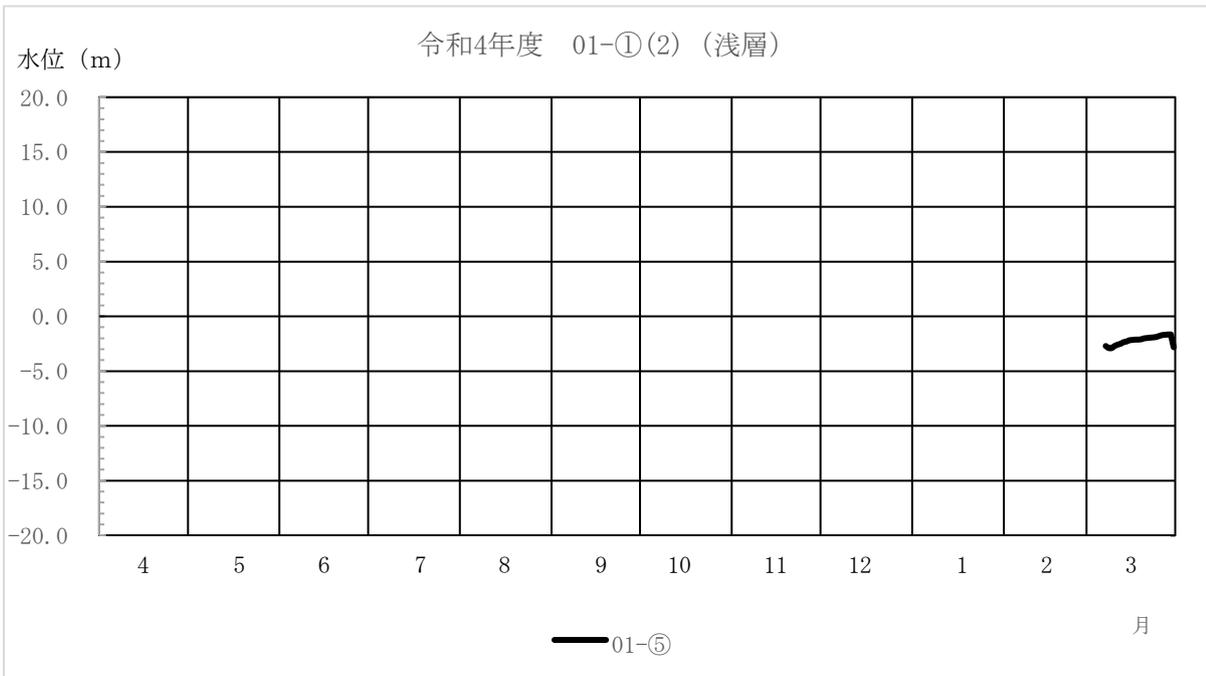
地点 番号	実施時期の種別	調査日	計測頻度
06-① 06-②	地下工事中	令和4年 4月 1日～30日	自記水位計による連続観測
		令和4年 5月 1日～31日	
		令和4年 6月 1日～30日	
		令和4年 7月 1日～31日	
		令和4年 8月 1日～31日	
		令和4年 9月 1日～30日	
		令和4年 10月 1日～31日	
		令和4年 11月 1日～30日	
		令和4年 12月 1日～31日	
		令和5年 1月 1日～31日	
		令和5年 2月 1日～28日	
		令和5年 3月 1日～31日	

3-5-5 調査結果

調査結果は、図 3-5-5-1 に示すとおりである。なお、水位は東京湾平均海面（T.P.）を 0m とした場合の高さを示す。

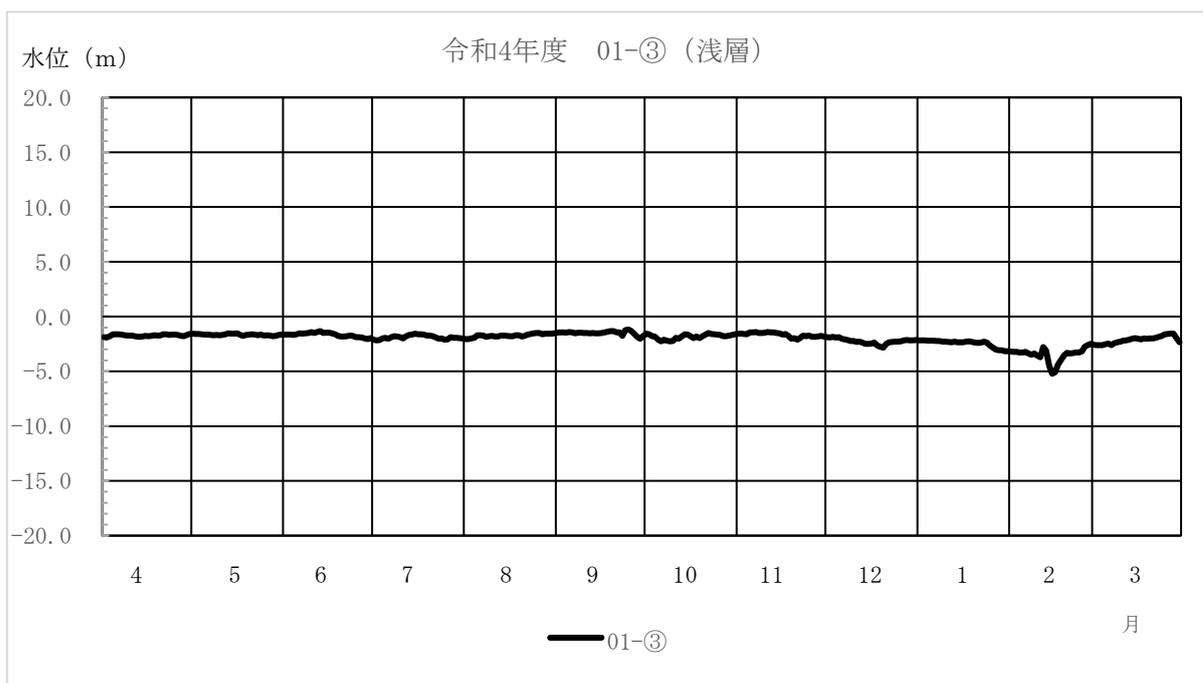
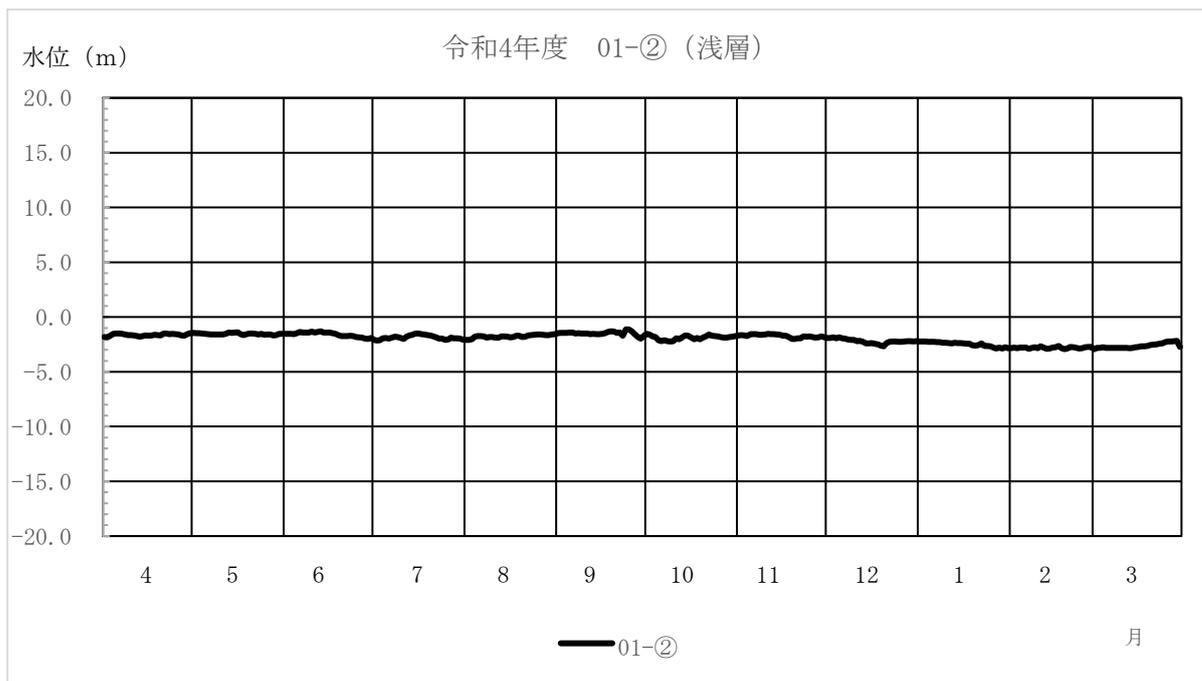


注 令和5年2月以降に水位が低下したが、当該時期において観測井付近で地下水に変動を与えるような作業を実施していないことから、本工事に起因したものではないと考えられる。なお、令和5年3月に工事に井戸が支障するため、01-①(1)から01-①(2)へ井戸の盛替えを行った。



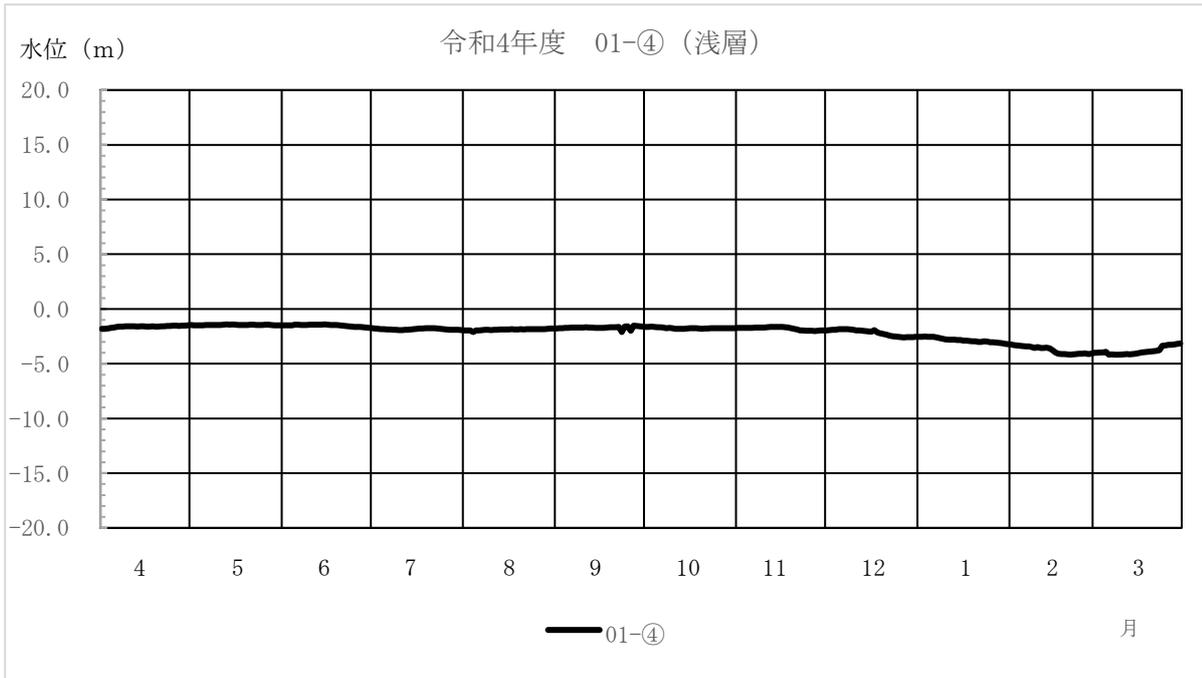
注 令和5年3月に工事に井戸が支障するため、01-①(1)から01-①(2)へ井戸の盛替えを行った。

図 3-5-5-1(1) 地下水の水位の調査結果 (01 品川駅 (浅層))



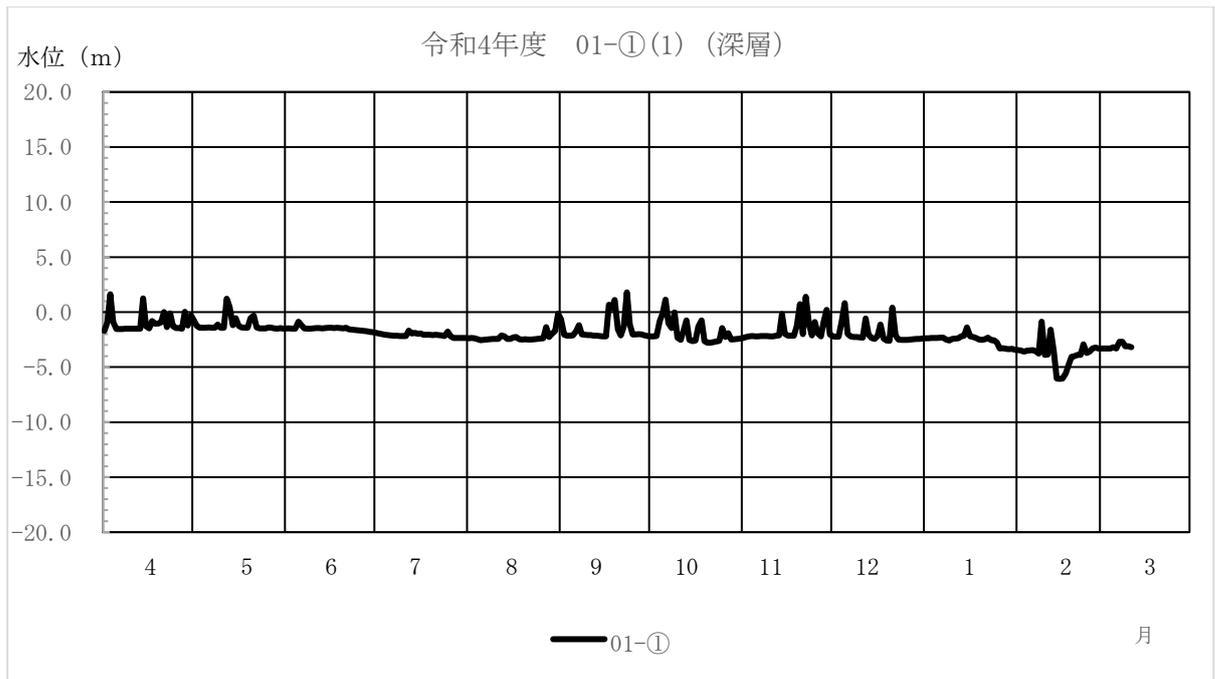
注 令和5年2月以降に水位が低下したが、当該時期において観測井付近で地下水に変動を与えるような作業を実施していないことから、本工事に起因したものでないと考えられる。

図 3-5-5-1(2) 地下水の水位の調査結果 (01 品川駅 (浅層))

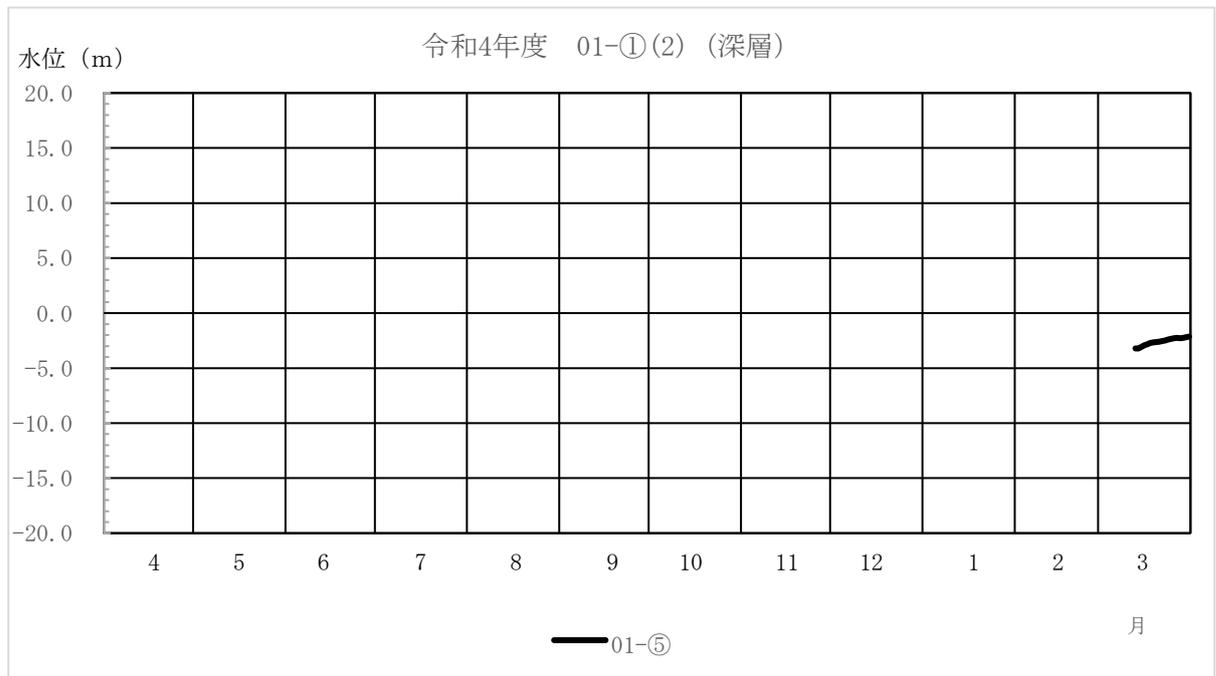


注 令和5年2月以降に水位が低下したが、上流側の井戸（01-①、01-③）に同様の傾向が見られることから本工事に起因したものでないと考えられる。

図 3-5-5-1(3) 地下水の水位の調査結果 (01 品川駅 (浅層))

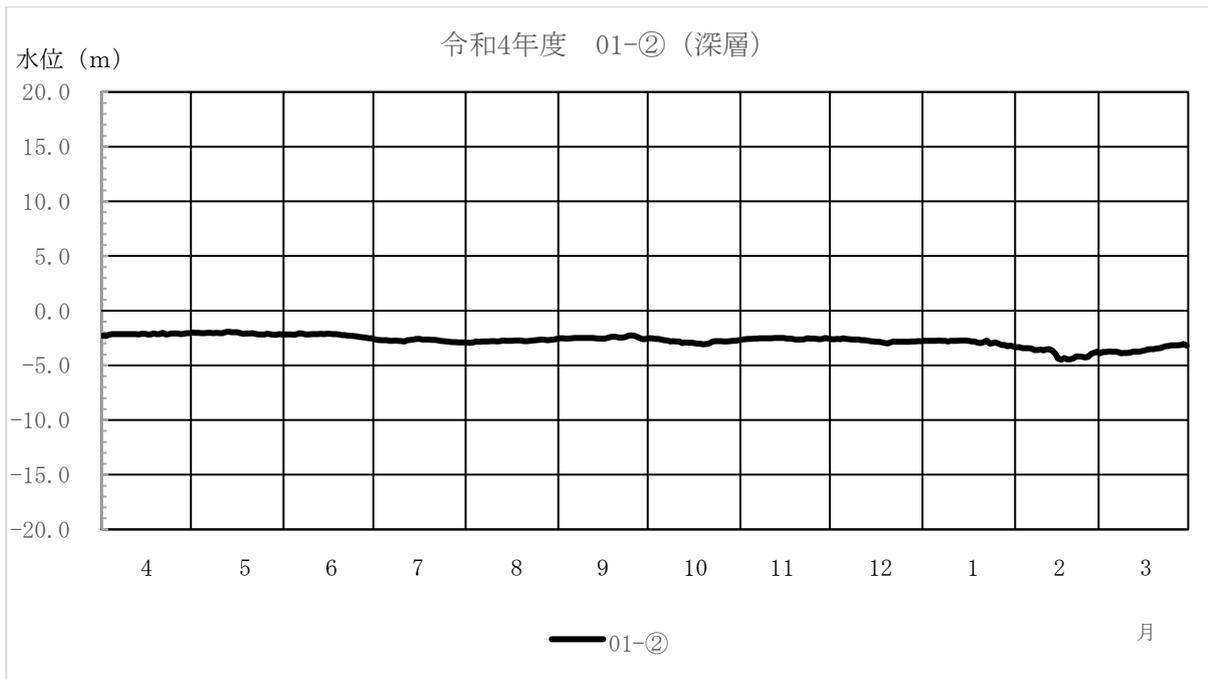


注 車両通行により井戸の蓋が破損したことに伴い、雨が井戸内に直接流入したことで水位が一時的に上昇した。なお、破損した蓋については破損の都度修復した。令和5年2月に水位が低下したが、当該時期において観測井付近で地下水に変動を与えるような作業を実施していないことから、本工事に起因したものでないと考えられる。また、令和5年3月に工事に井戸が支障するため、01-①(1)から01-①(2)へ井戸の盛替えを行った。

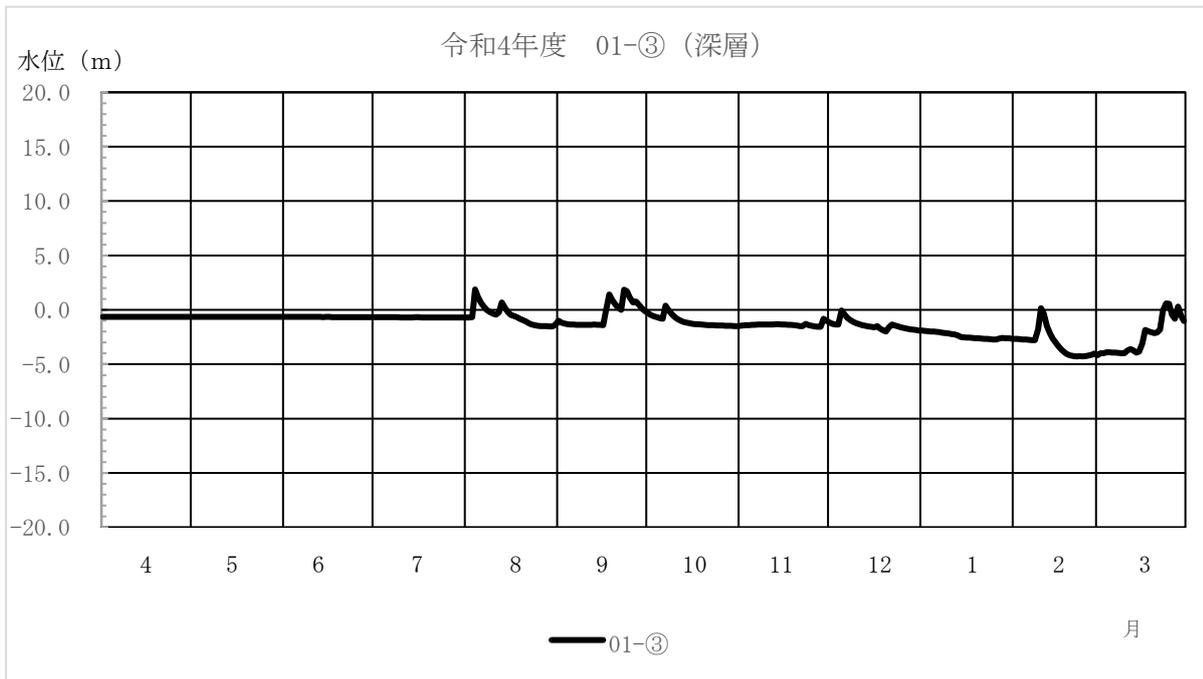


注 令和5年3月に工事に井戸が支障するため、01-①(1)から 01-①(2)へ井戸の盛替えを行った。

図 3-5-5-1(4) 地下水の水位の調査結果 (01 品川駅 (深層))

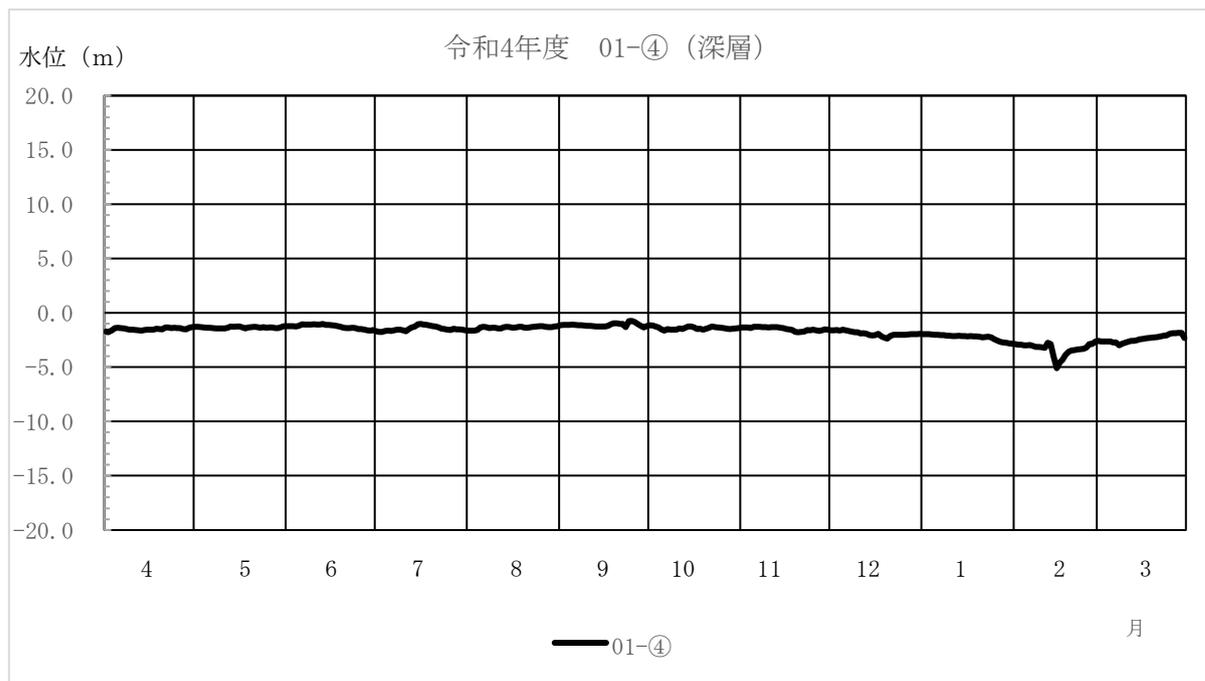


注 令和5年2月に水位が低下したが、上流側の井戸（01-①、01-③）に同様の傾向が見られることから本工事に起因したものでないと考えられる。



注 車両通行により井戸の蓋が故障したことに伴い、雨が井戸に直接流入したことで水位が一時的に上昇した。また、令和5年2月以降に水位が低下したが、当該時期において観測井付近で地下水に変動を与えるような作業を実施していないことから、本工事に起因したものでないと考えられる。

図 3-5-5-1(5) 地下水の水位の調査結果 (01 品川駅 (深層))



注 令和5年2月に水位が低下したが、上流側の井戸（01-①、01-③）に同様の傾向が見られることから本工事に起因したものでないと考えられる。

図 3-5-5-1(6) 地下水の水位の調査結果 (01 品川駅 (深層))

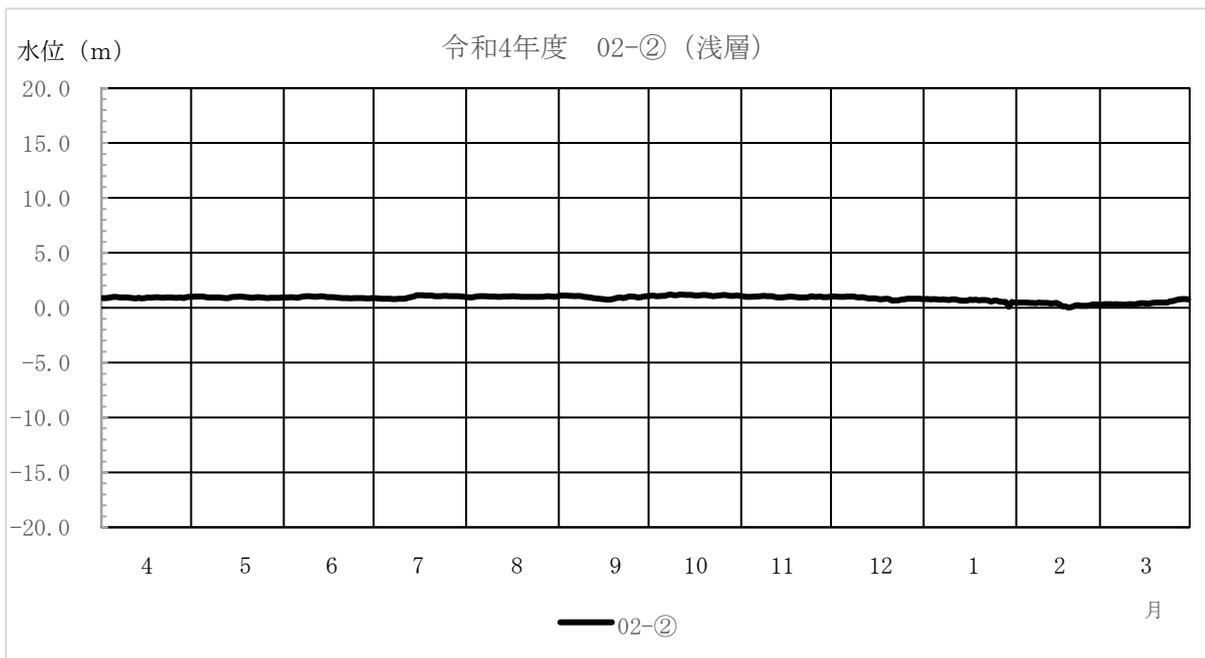
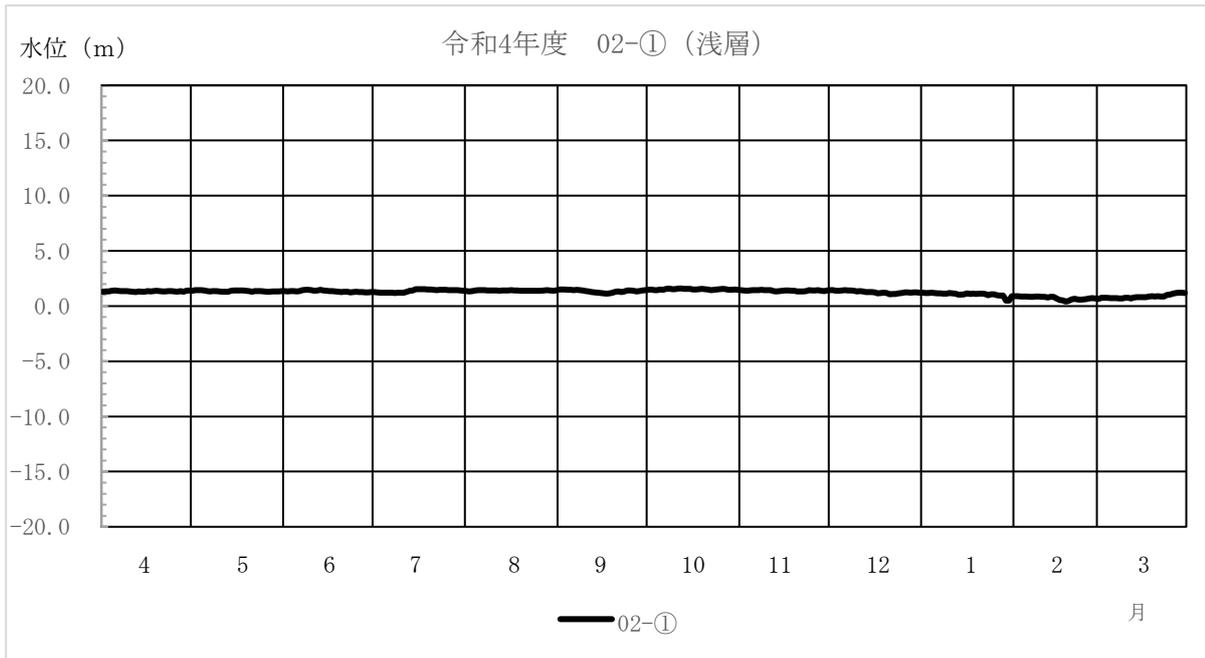
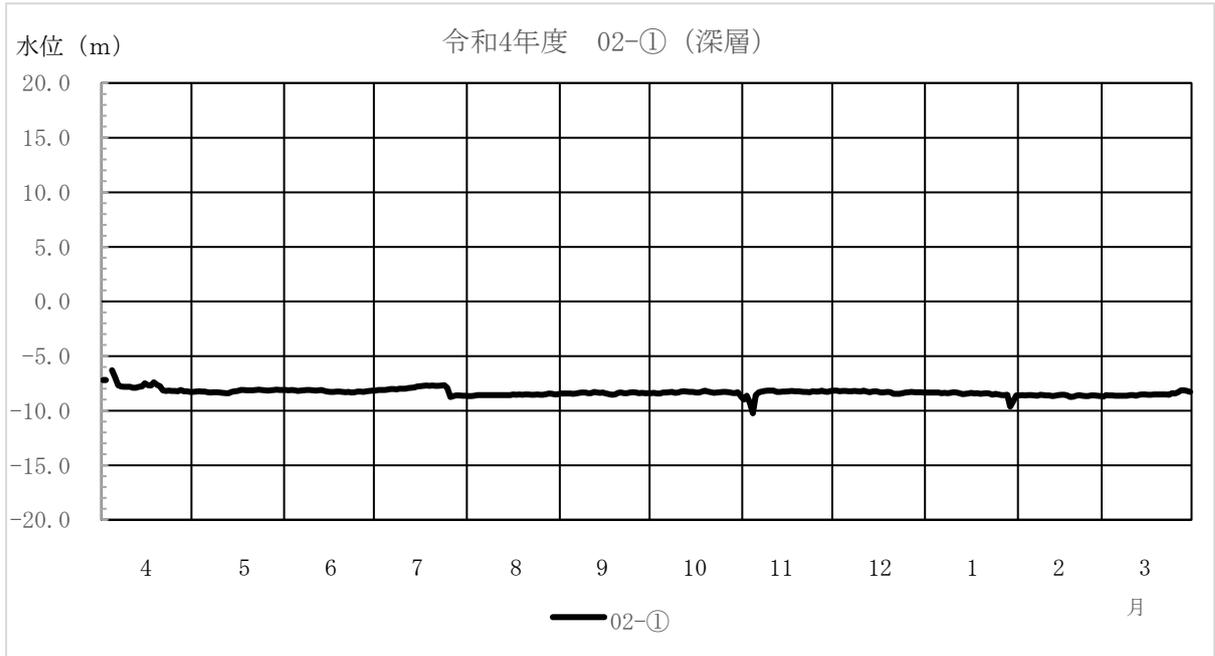
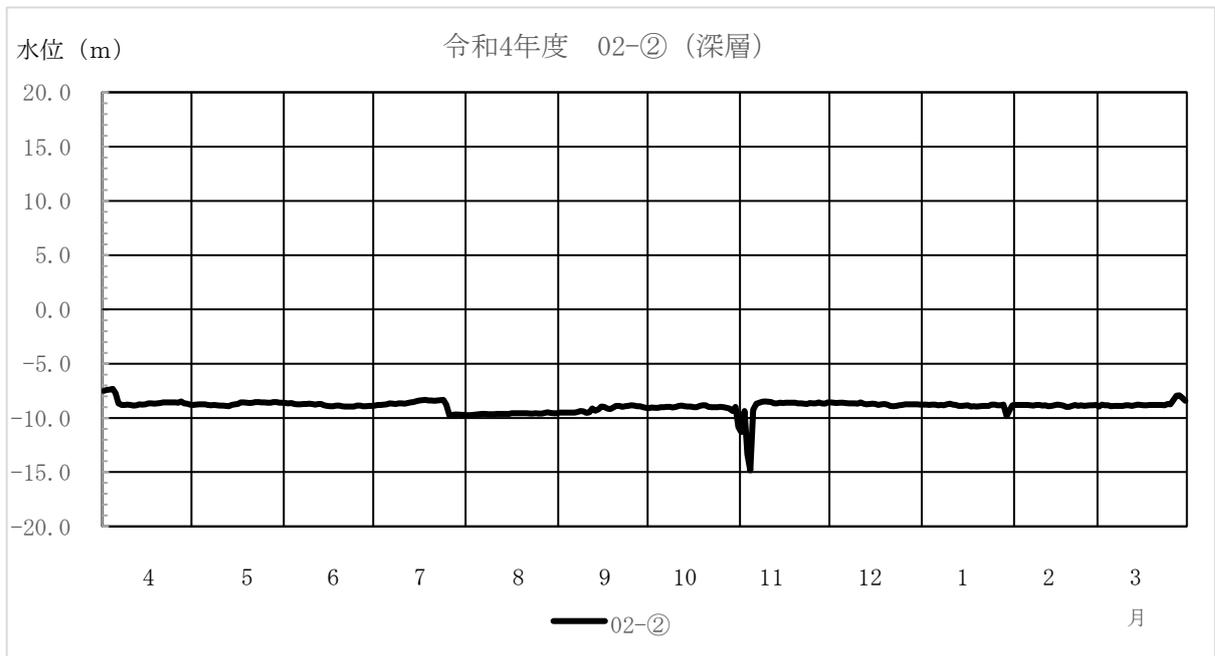


図 3-5-5-1(7) 地下水の水位の調査結果 (02 北品川 (浅层))



注 令和4年4月以降については、変電所の施工に伴い、揚水量を増やしたため水位に変動があった。令和4年11月については、第一首都圏トンネル（北品川工区）工事において揚水試験を行ったため、水位変動があった。また、令和5年1月について、地下水の水質調査に伴い揚水作業を行ったことにより一時的に水位が低下した。



注 令和4年4月以降については、変電所の施工に伴い、揚水量を増やしたため水位に変動があった。令和4年11月については、第一首都圏トンネル（北品川工区）工事において揚水試験を行ったため、水位変動があった。また、令和5年1月について、地下水の水質調査に伴い揚水作業を行ったことにより一時的に水位が低下した。

図 3-5-5-1(8) 地下水の水位の調査結果 (02 北品川 (深層))

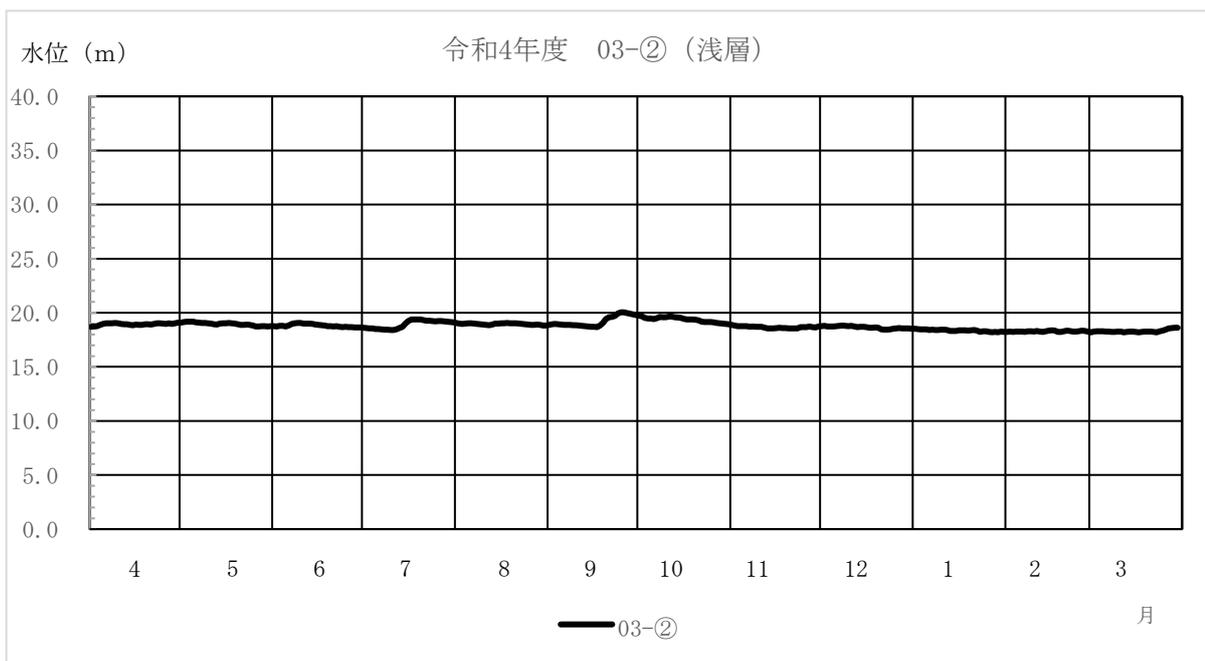
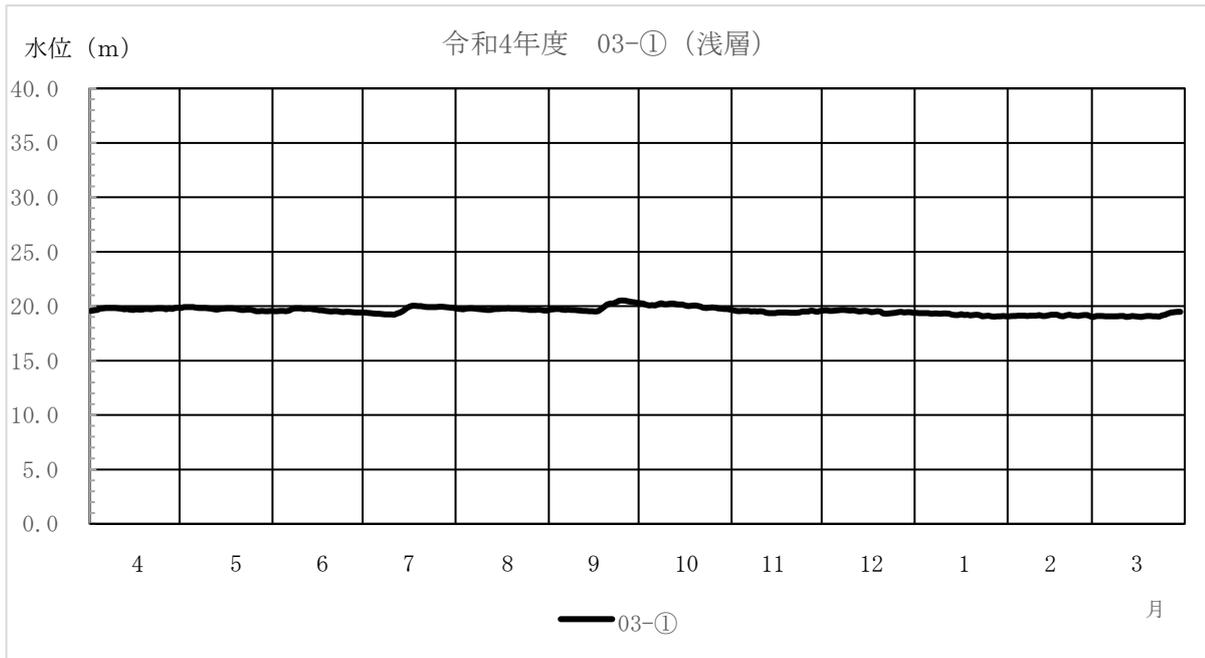


図 3-5-5-1(9) 地下水の水位の調査結果 (03 東雪谷 (浅层))

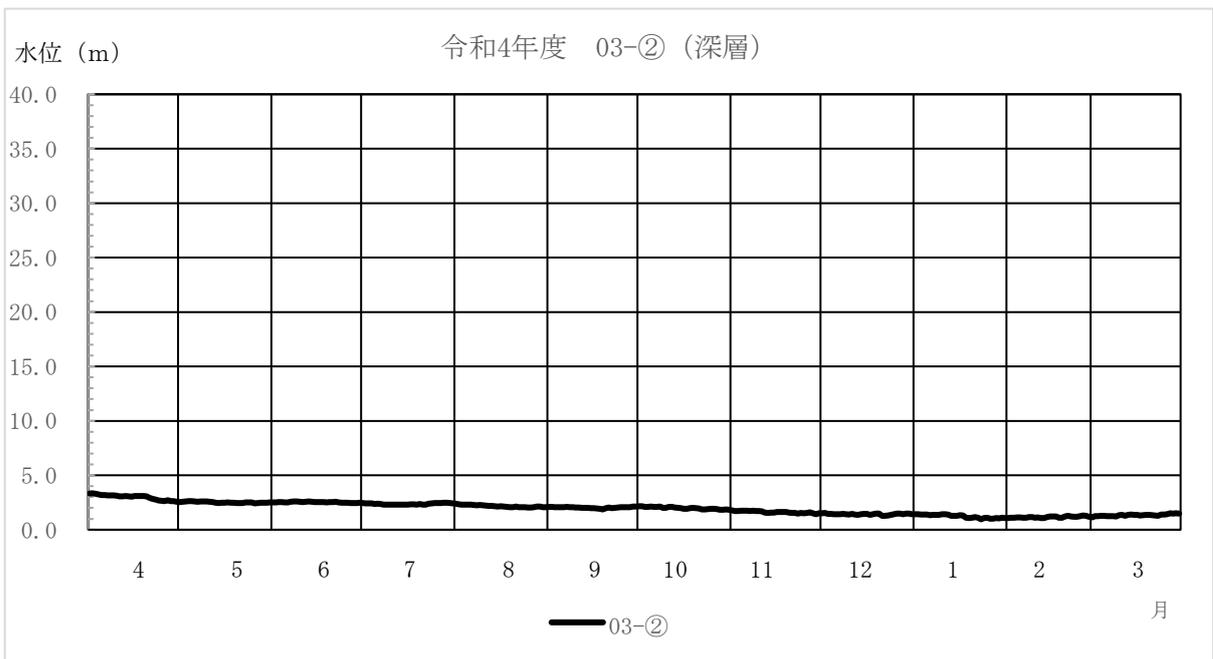
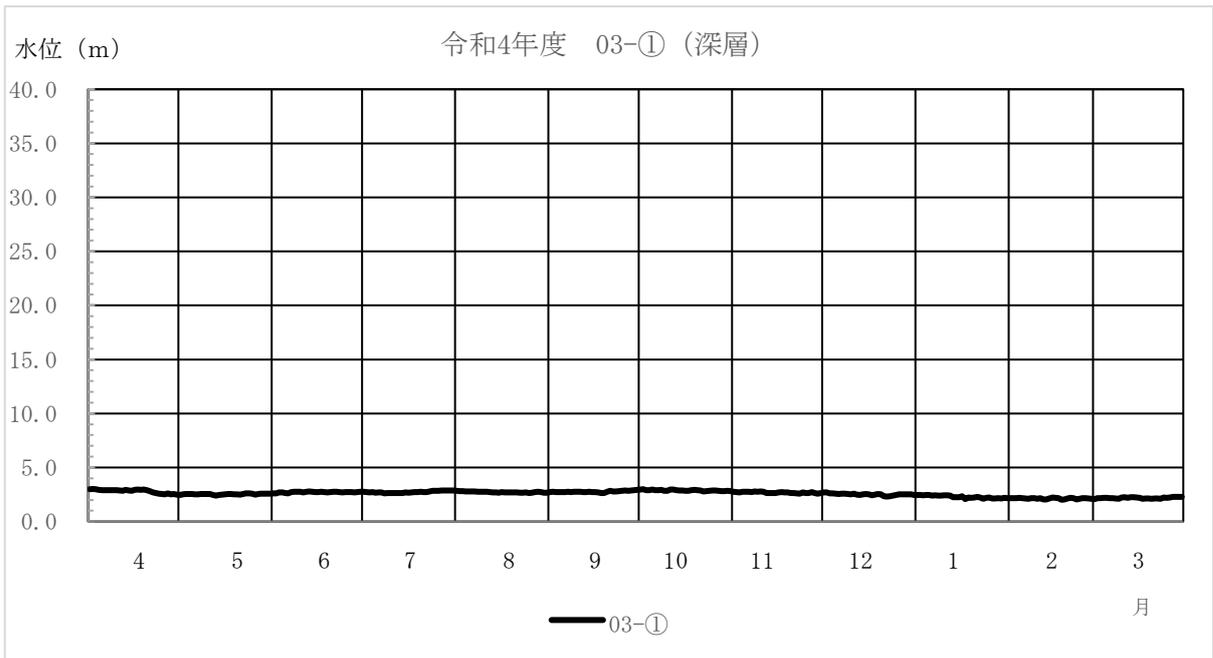
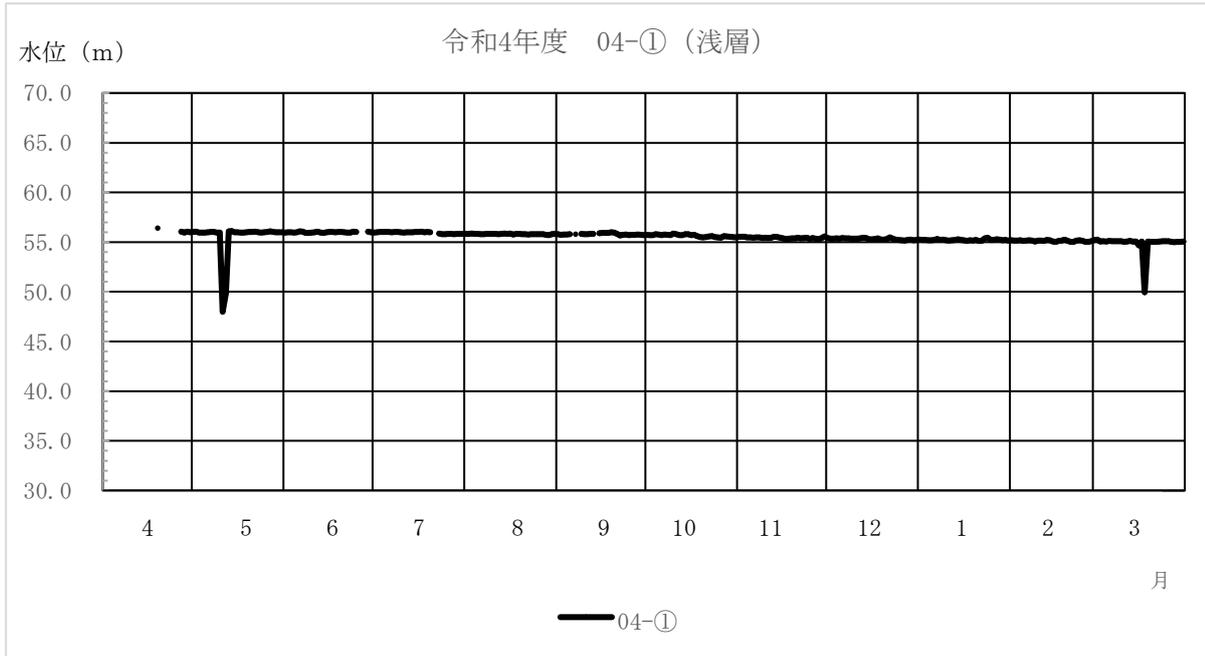
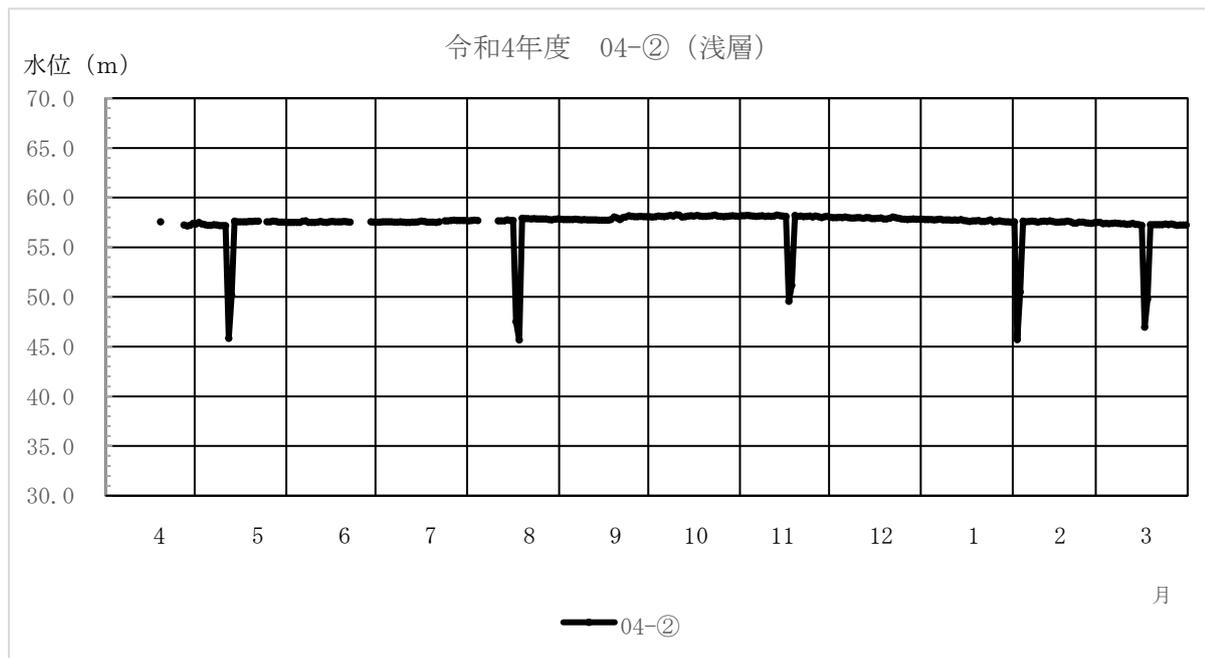


図 3-5-5-1(10) 地下水の水位の調査結果 (03 東雪谷 (深層))

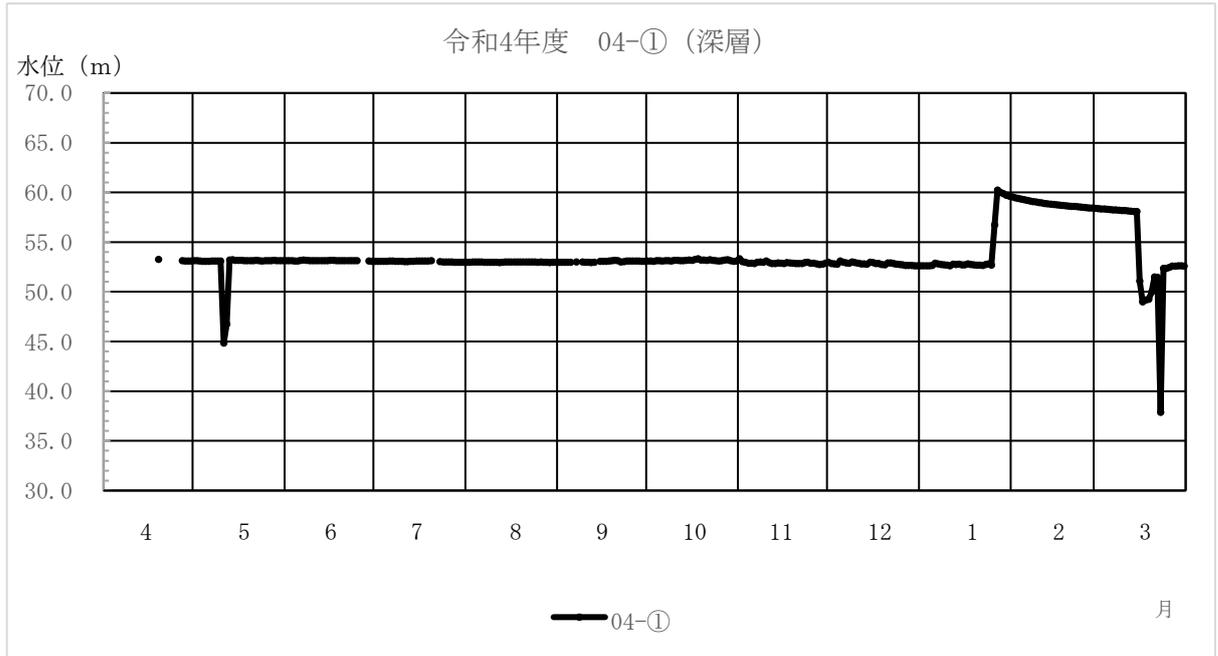


注 令和4年5月及び令和5年3月に地下水の水質調査に伴う揚水作業を行ったことにより、一時的に水位が低下した。

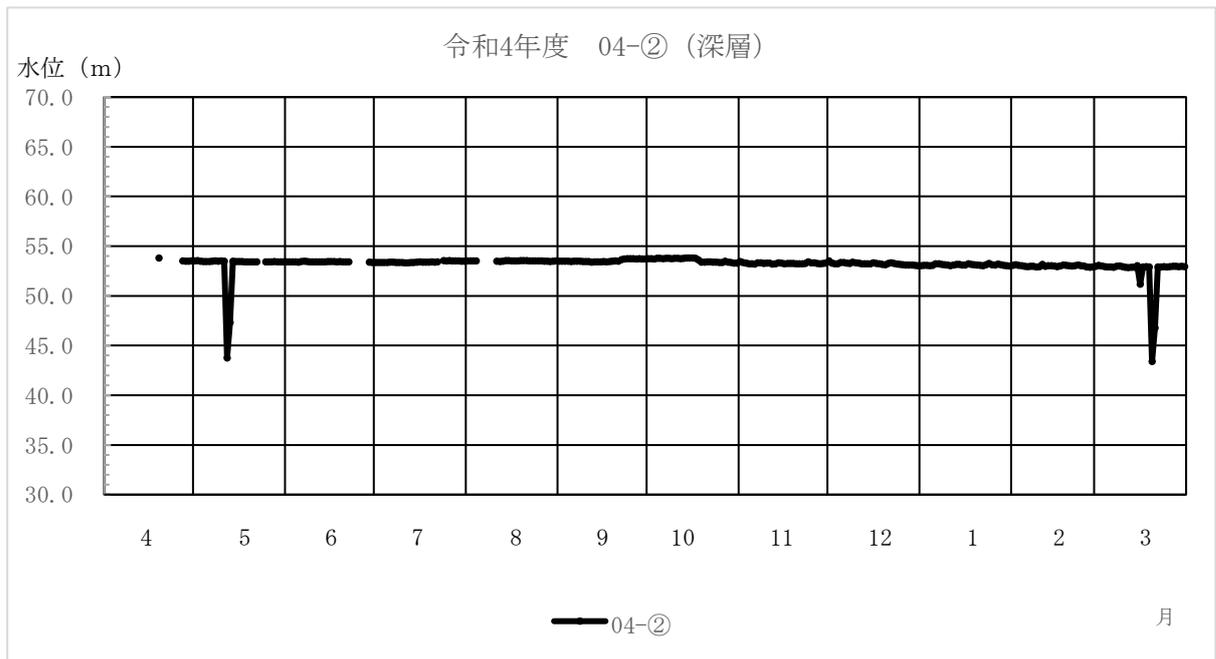


注 令和4年5月、8月、11月、令和5年2月、3月に地下水の水質調査に伴う揚水作業を行ったことにより、一時的に水位が低下した。

図 3-5-5-1(11) 地下水の水位の調査結果 (04 片平 (浅層))

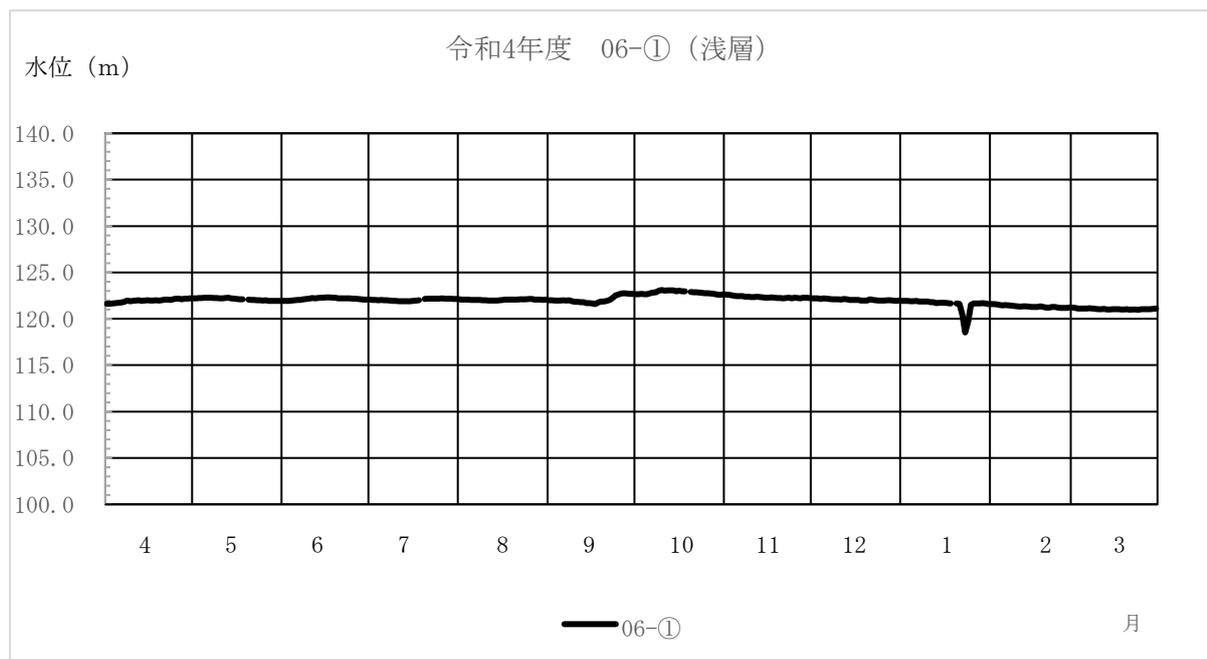


注 令和5年1月から令和5年2月にかけて水位の変動が見られた。これは、観測井直近での掘削（地中連続壁工）の施工の影響と考えられる。また、令和4年5月及び令和5年3月に地下水の水質調査に伴う揚水作業を行ったことにより、一時的に水位が低下した。

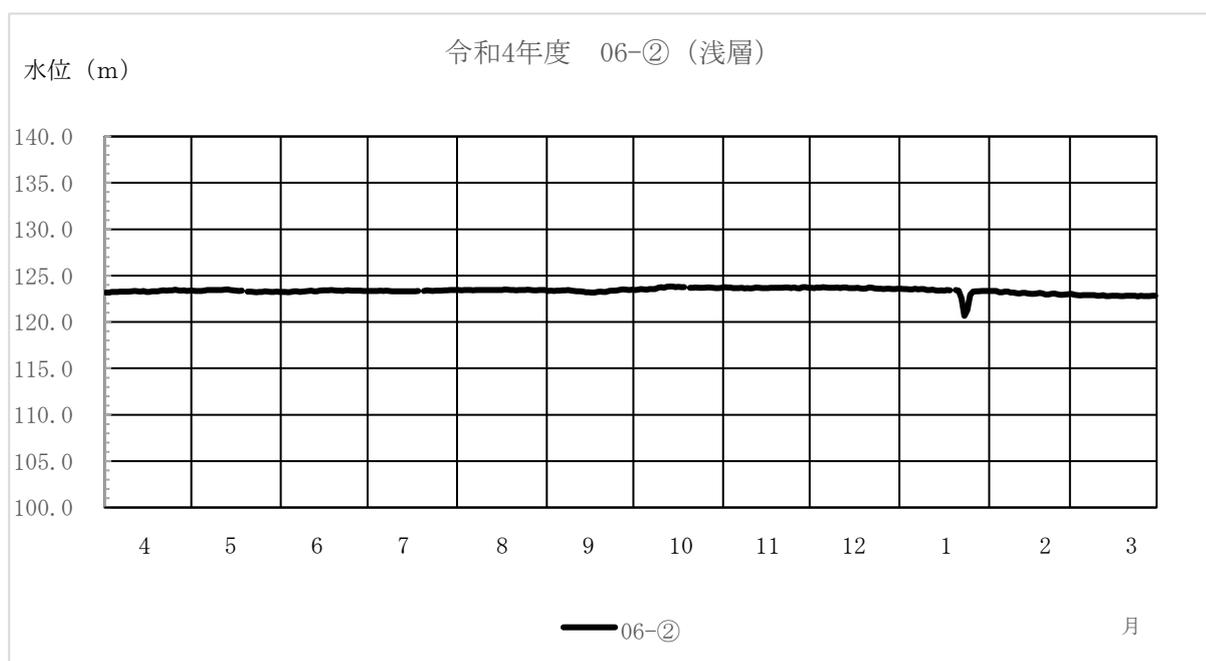


注 令和4年5月及び令和5年3月に地下水の水質調査に伴う揚水作業を行ったことにより、一時的に水位が低下した。

図 3-5-5-1(12) 地下水の水位の調査結果 (04 片平 (深層))



注 令和5年1月に地下水の水質調査に伴う揚水作業を行ったことにより、一時的に水位が低下した。



注 令和5年1月に地下水の水質調査に伴う揚水作業を行ったことにより、一時的に水位が低下した。

図 3-5-5-1(13) 地下水の水位の調査結果 (06 上小山田 (浅層))

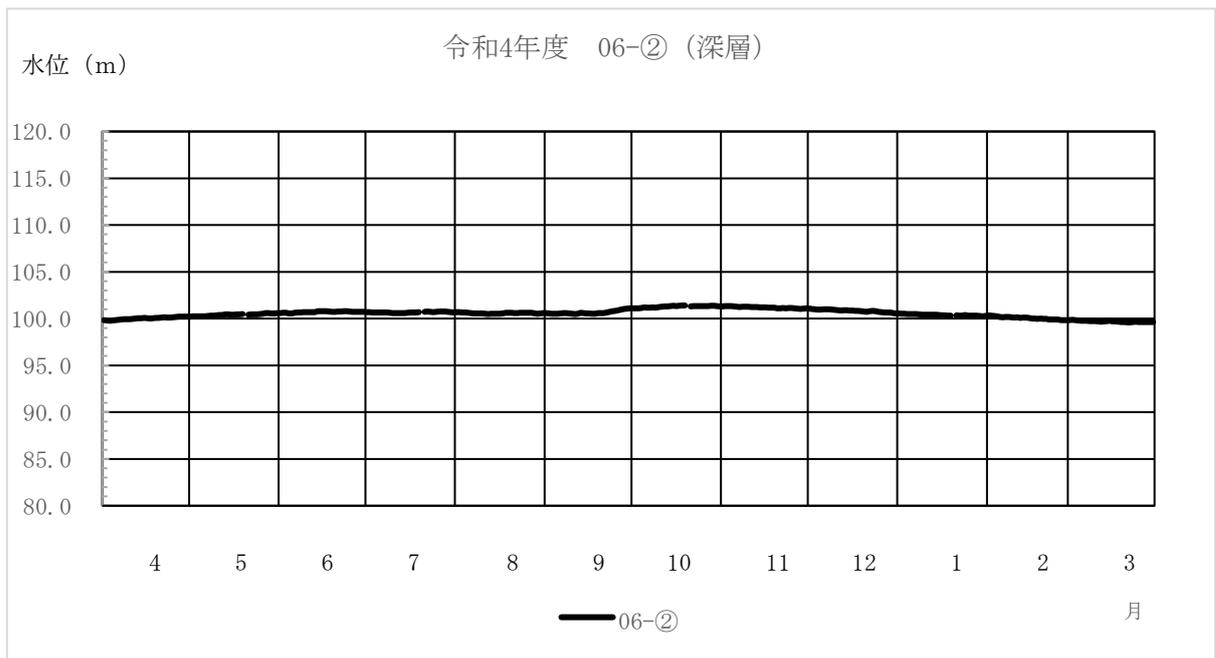
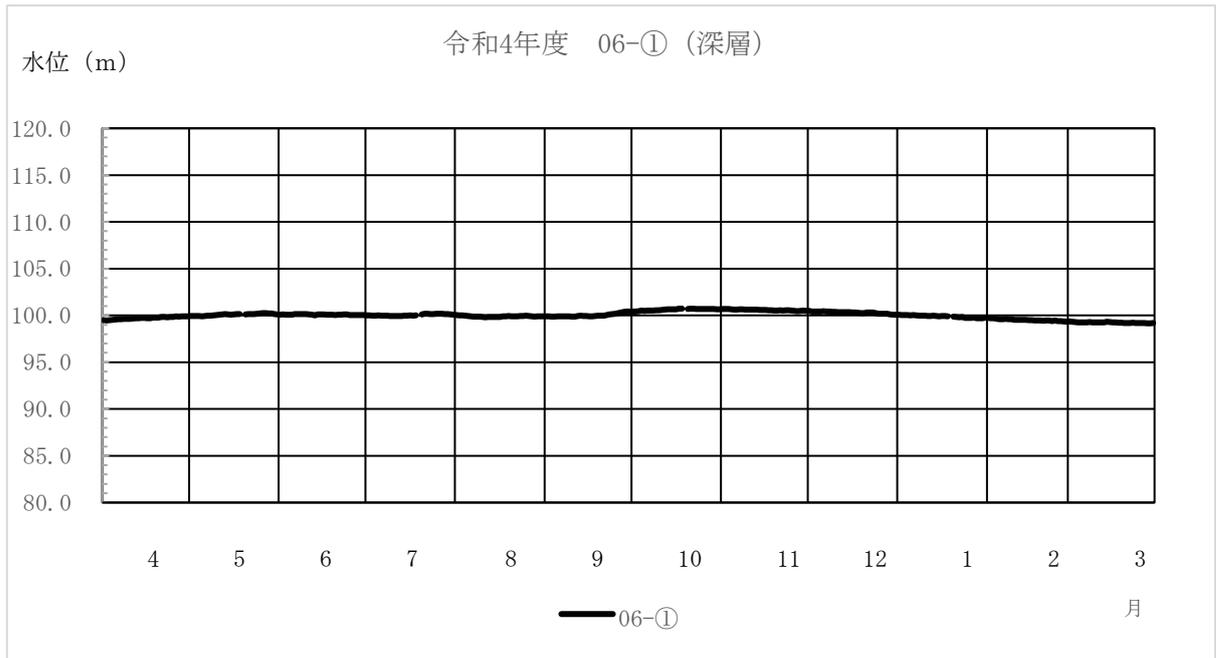


図 3-5-5-1(14) 地下水の水位の調査結果 (06 上小山田 (深層))

3-6 水資源

水資源（井戸）について、工事中のモニタリングを実施した。

3-6-1 調査項目

調査項目は、自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）及び水素イオン濃度（pH）の状況とした。

3-6-2 調査方法

調査方法を、表 3-6-2-1 に示す。

表 3-6-2-1 調査方法

調査項目		調査方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」（平成 22 年 3 月建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法に準拠する。
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	
水素イオン濃度(pH)		「地下水調査および観測指針（案）」（平成 5 年、建設省河川局）に準拠する。

3-6-3 調査地点

調査地点は、表 3-6-3-1 及び図 3-6-3-1、図 3-6-3-2 に示すとおりである。

表 3-6-3-1 調査地点

地点番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点		調査項目
01	港区	港南	品川駅	01-①	浅層観測井	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)
					深層観測井	
				01-②	浅層観測井	
					深層観測井	
02	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	02-①	浅層観測井	
					深層観測井	
				02-②	浅層観測井	
					深層観測井	
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	03-①	浅層観測井	
					深層観測井	
				03-②	浅層観測井	
					深層観測井	
04	川崎市 麻生区	片平	片平非常口	04-①	浅層観測井	
					深層観測井	
				04-②	浅層観測井	
					深層観測井	
06	町田市	上小山田町	上小山田非常口	06-①	浅層観測井	
					深層観測井	
				06-②	浅層観測井	
					深層観測井	

注：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

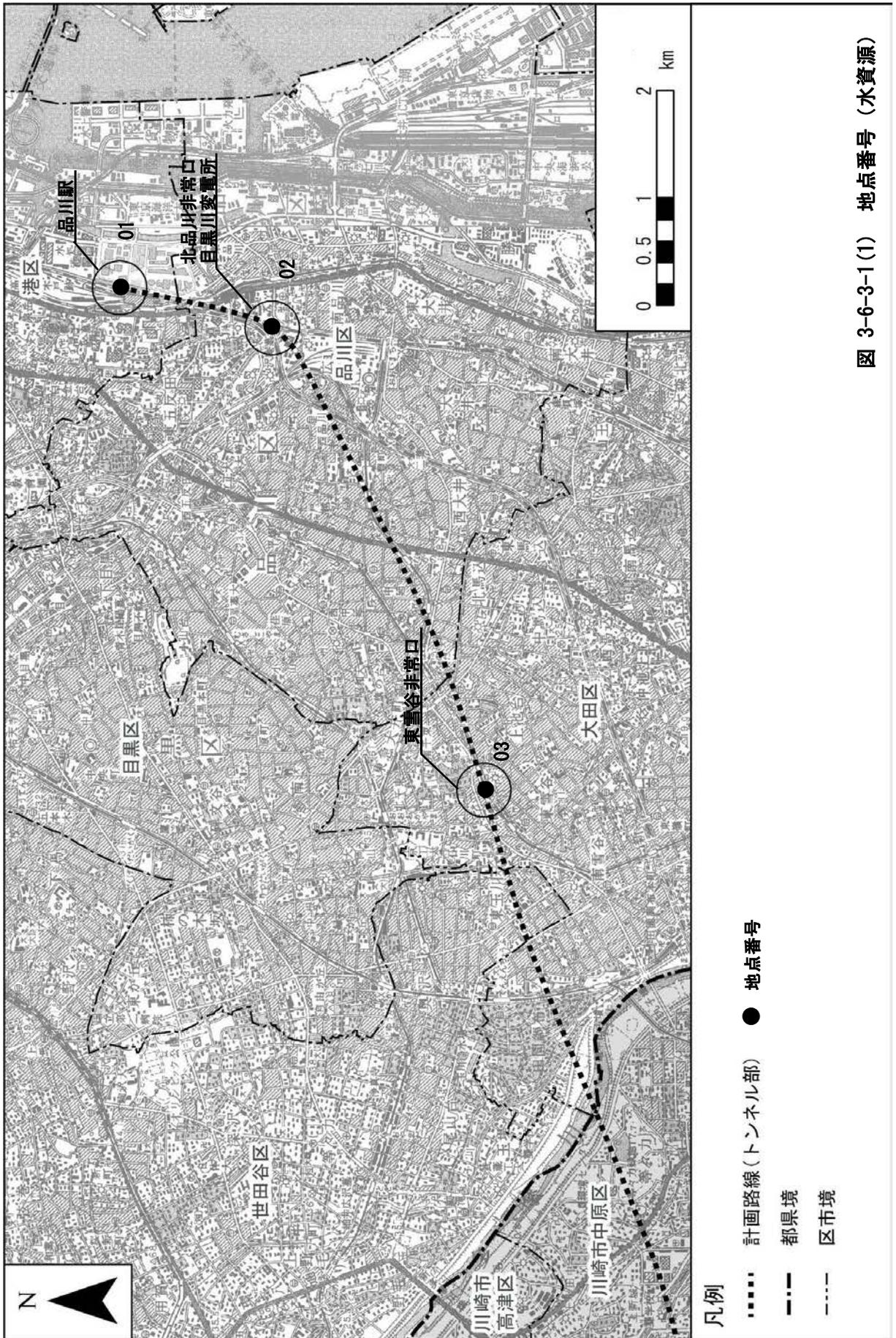


図 3-6-3-1(1) 地点番号 (水資源)

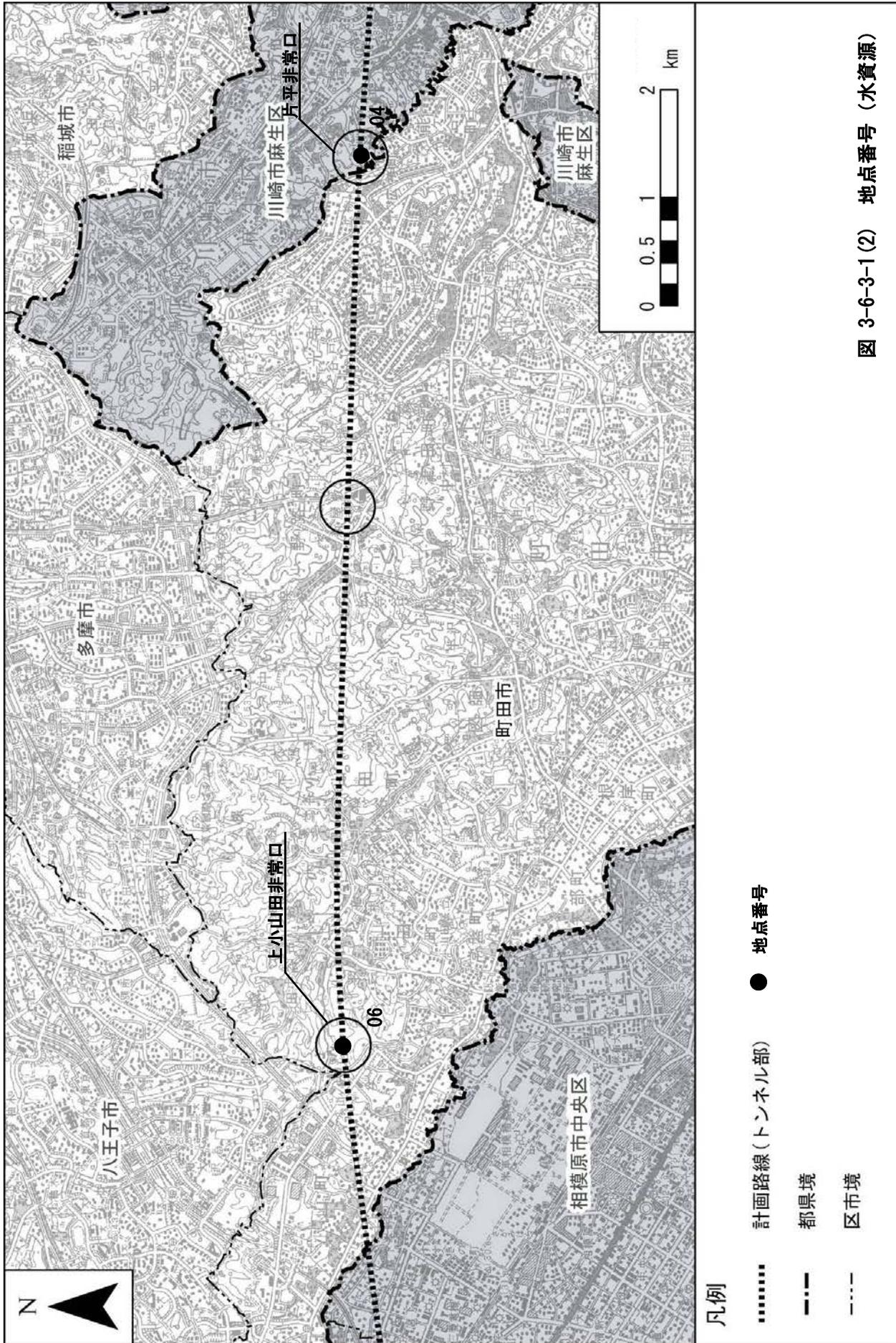
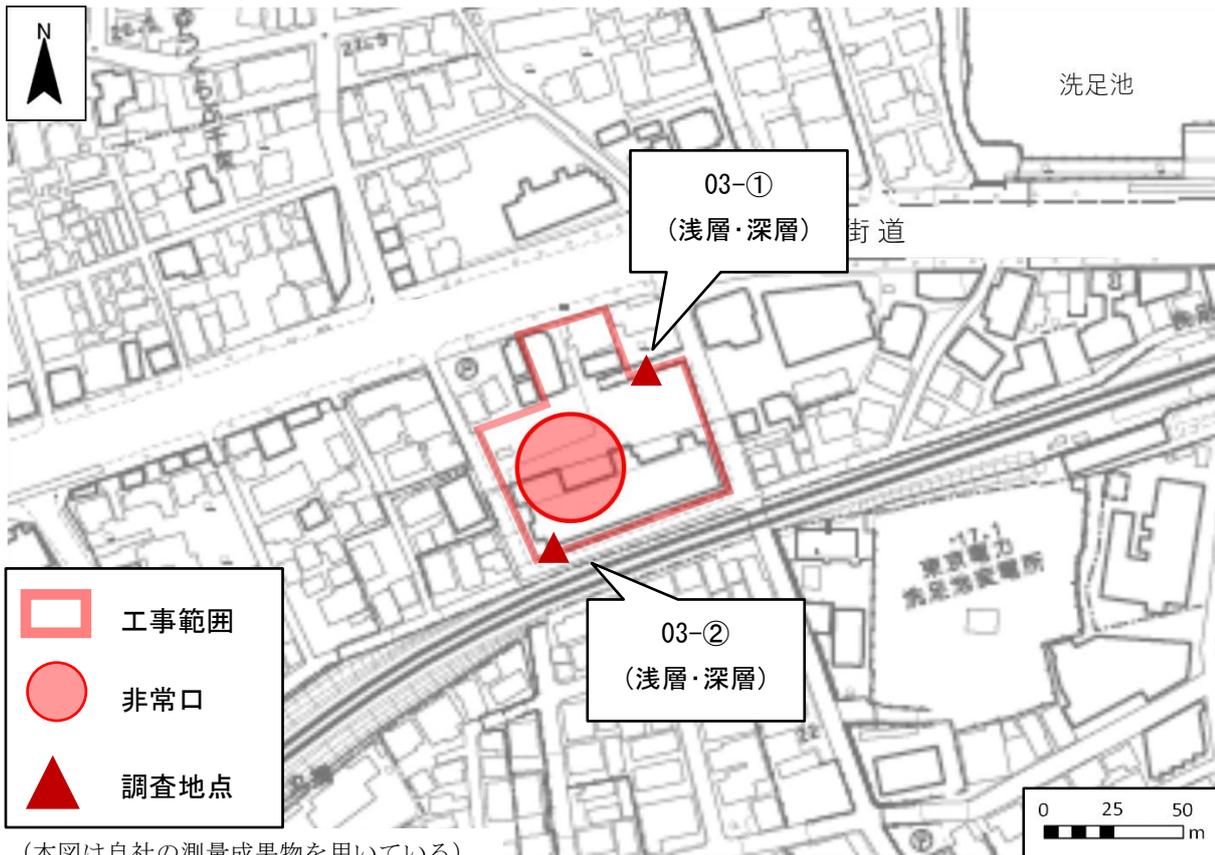
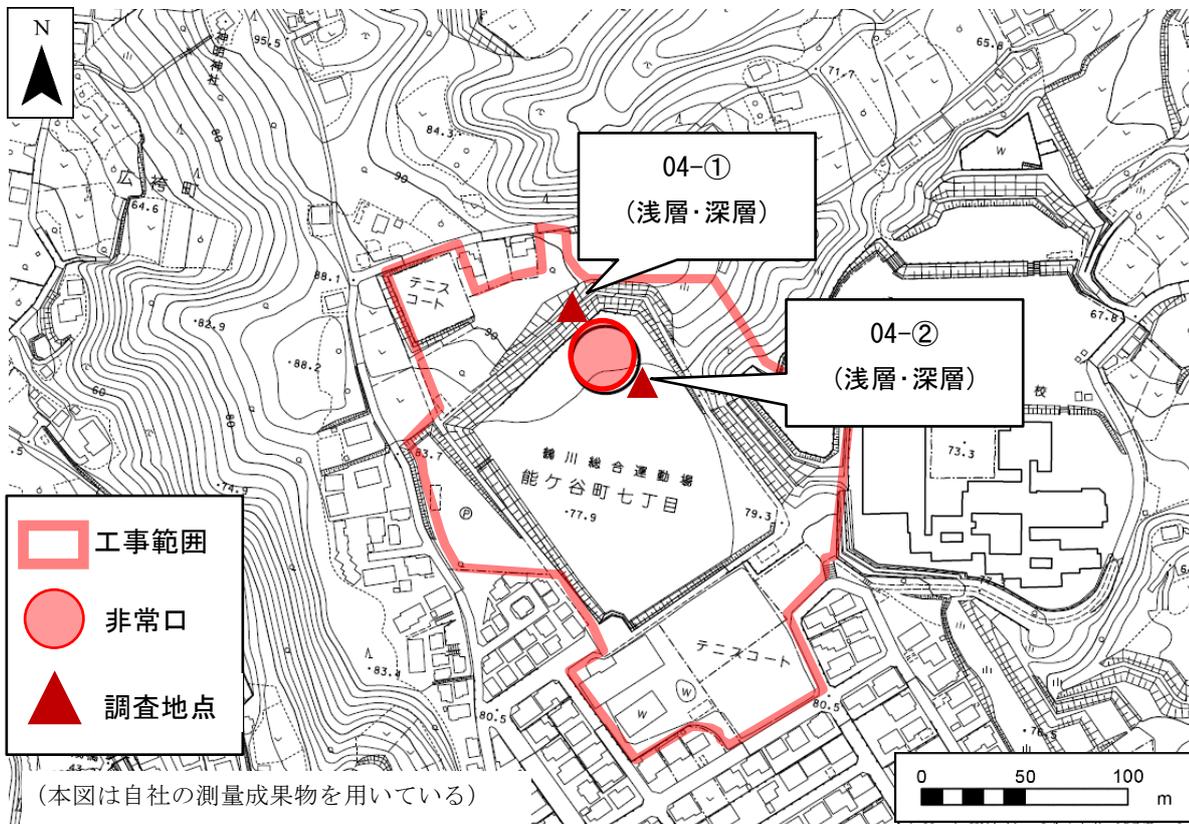


图 3-6-3-1(2) 地点番号 (水資源)



(本図は自社の測量成果物を用いている)

図 3-6-3-2(3) 調査地点 (水資源) (03 東雪谷)



(本図は自社の測量成果物を用いている)

図 3-6-3-2(4) 調査地点 (水資源) (04 片平)

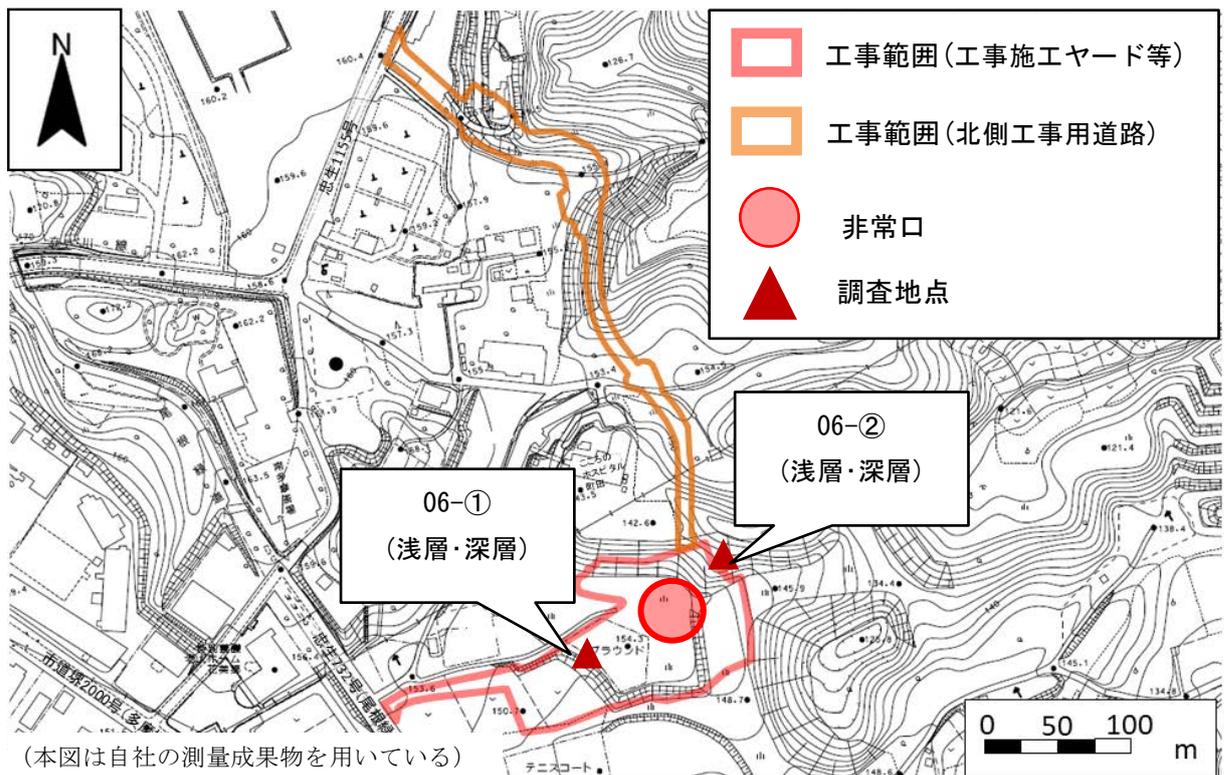


図 3-6-3-2(5) 調査地点(水資源) (06 上小山田)

3-6-4 調査期間

現地調査の期間は、表 3-6-4-1 に示すとおりである。

表 3-6-4-1 調査期間

地点 番号	調査項目	実施時期 の種別	調査時期
01-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事中	令和5年1月18日 (浅層)
01-②			令和5年1月18日 (深層)
			令和5年1月18日 (浅層)
令和5年1月18日 (深層)			
02-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事中	令和5年1月31日 (浅層)
02-②			令和5年1月31日 (深層)
			令和5年1月31日 (浅層)
令和5年1月31日 (深層)			
03-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事中	令和5年1月18日 (浅層)
03-②			令和5年1月18日 (深層)
			令和5年1月19日 (浅層)
令和5年1月19日 (深層)			
04-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事中	令和5年3月18日 (浅層)
04-②			令和5年3月23日 (深層)
			令和5年3月18日 (浅層)
令和5年3月21日 (深層)			
06-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事中	令和5年1月20日 (浅層)
06-②			令和5年1月20日 (深層)
			令和5年1月20日 (浅層)
令和5年1月20日 (深層)			

3-6-5 調査結果

現地調査の結果は、表 3-6-5-1 に示すとおりである。

自然由来の重金属等について、令和 3 年度を除く平成 29 年度から引き続き地点 01-②の観測井でほう素が環境基準の値を上回っていた。その他の地点においては、いずれも環境基準の値に適合した。

表 3-6-5-1(1) 調査結果 (01 品川駅)

調査項目	調査地点				環境基準 ^{注1}	
	01-①		01-②			
	浅層	深層	浅層	深層		
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素	<0.002	<0.002	0.002	0.002	0.01mg/L 以下
	ふっ素	0.4	0.1	0.2	0.2	0.8mg/L 以下
	ほう素	0.3	0.3	0.4	1.1	1.0mg/L 以下
水素イオン 濃度	(pH)	7.6	8.7	7.8	8.4	—

注1：地下水の水質汚濁に係る環境基準（平成 9 年 3 月 13 日環境庁告示第 10 号）

注2：「<」は未満を示す。

表 3-6-5-1(2) 調査結果 (02 北品川)

調査項目		調査地点				環境基準 ^{注1}
		02-①		02-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	0.002	0.002	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素	0.009	<0.001	0.004	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素	0.67	0.35	0.13	0.21	0.8mg/L 以下
	ほう素	0.6	0.6	0.1	0.3	1.0mg/L 以下
水素イオン 濃度	(pH)	8.3	8.3	7.2	7.6	—

注1：地下水の水質汚濁に係る環境基準（平成9年3月13日環境庁告示第10号）

注2：「<」は未満を示す。

表 3-6-5-1(3) 調査結果 (03 東雪谷)

調査項目		調査地点				環境基準 ^{注1}
		03-①		03-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	0.8mg/L 以下
	ほう素	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	1.0mg/L 以下
水素イオン 濃度	(pH)	7.1	7.0	6.9	7.9	—

注1：地下水の水質汚濁に係る環境基準（平成9年3月13日環境庁告示第10号）

注2：「<」は未満を示す。

表 3-6-5-1(4) 調査結果 (04 片平)

調査項目		調査地点				環境基準 ^{注1}
		04-①		04-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素	0.003	0.002	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素	0.08	<0.08	<0.08	0.1	0.8mg/L 以下
	ほう素	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1.0mg/L 以下
水素イオン 濃度	(pH)	7.5	8.0	6.7	7.9	—

注1：地下水の水質汚濁に係る環境基準（平成9年3月13日環境庁告示第10号）

注2：「<」は未満を示す。

表 3-6-5-1(5) 調査結果 (06 上小山田)

調査項目	調査地点				環境基準 ^{注1}	
	06-①		06-②			
	浅層	深層	浅層	深層		
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.005	<0.005	<0.005	0.007	0.01mg/L 以下
	ヒ素	<0.002	<0.002	<0.002	0.002	0.01mg/L 以下
	ふっ素	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.8mg/L 以下
	ほう素	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1.0mg/L 以下
水素イオン 濃度	(pH)	7.1	7.5	6.8	7.2	—

注1：地下水の水質汚濁に係る環境基準（平成9年3月13日環境庁告示第10号）

注2：「<」は未満を示す。

3-7 地盤沈下

工事実施箇所周辺における地表面の地盤沈下について、工事中のモニタリングを実施した。

3-7-1 調査項目

調査項目は、地表面の地盤の高さの状況とした。

3-7-2 調査方法

調査方法は、工事前に地下駅、非常口（都市部）及び地下変電所周辺に設置した測量標を用いた水準測量等とした。

3-7-3 調査地点

調査地点は、表 3-7-3-1 及び図 3-7-3-1、図 3-7-3-2 に示すとおりである。

表 3-7-3-1 調査地点

地点番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点
01	港区	港南	品川駅	01-①
				01-②
				01-③
02	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	02-③
				02-⑤
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	03-②
				03-③
04	川崎市 麻生区	片平	片平非常口	04-①
06	町田市	上小山田町	上小山田非常口	06-①
				06-③

注：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

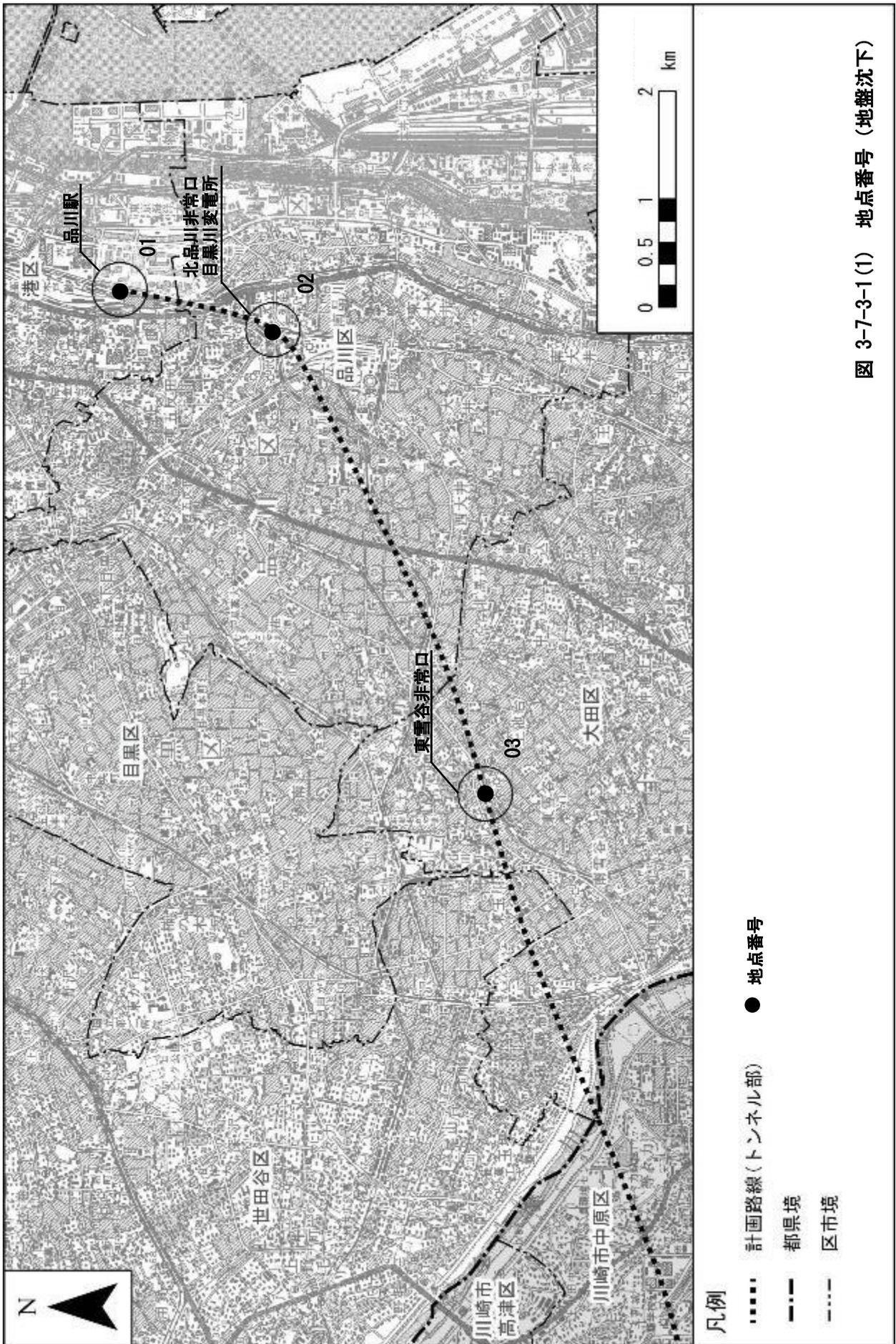


图 3-7-3-1(1) 地点番号 (地盤沈下)

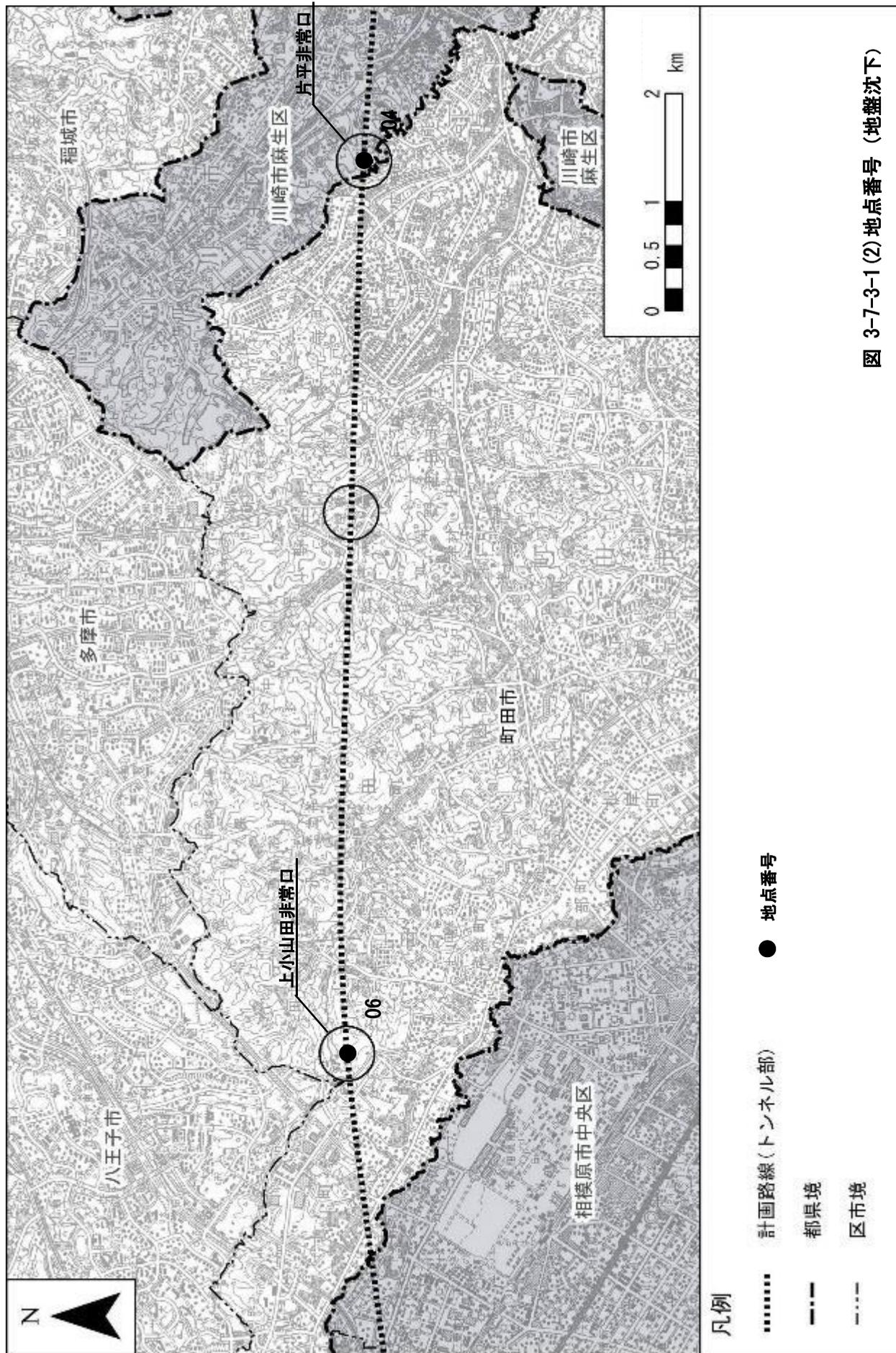


图 3-7-3-1 (2) 地点番号 (地盤沈下)

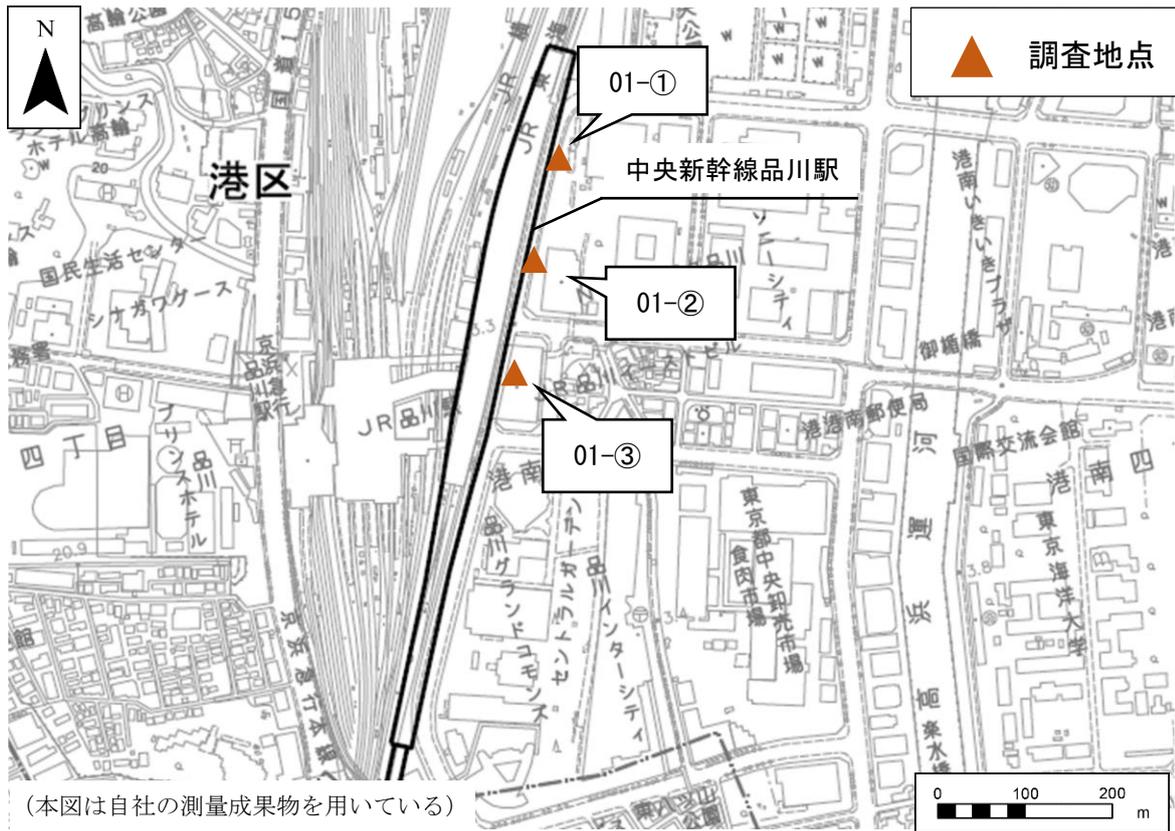


図 3-7-3-2(1) 調査地点（地盤沈下）（01 品川駅）

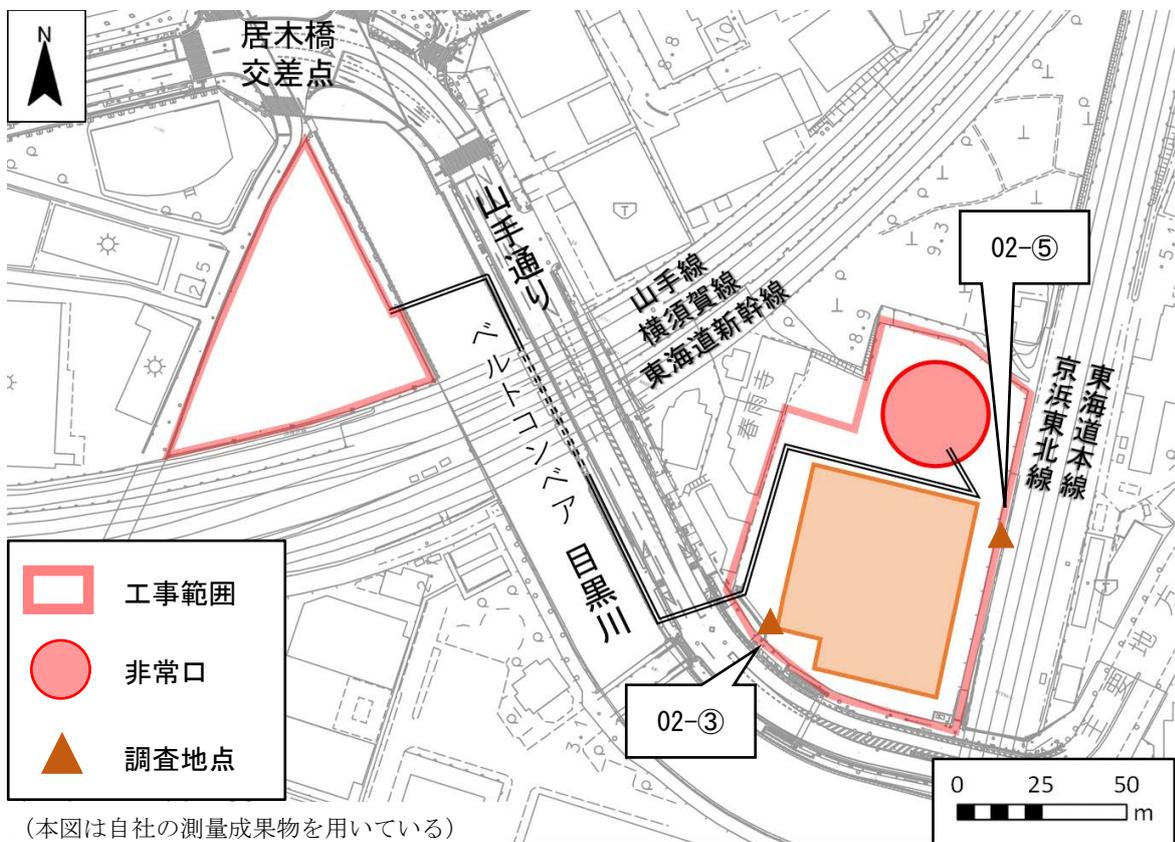


図 3-7-3-2(2) 調査地点（地盤沈下）（02 北品川）

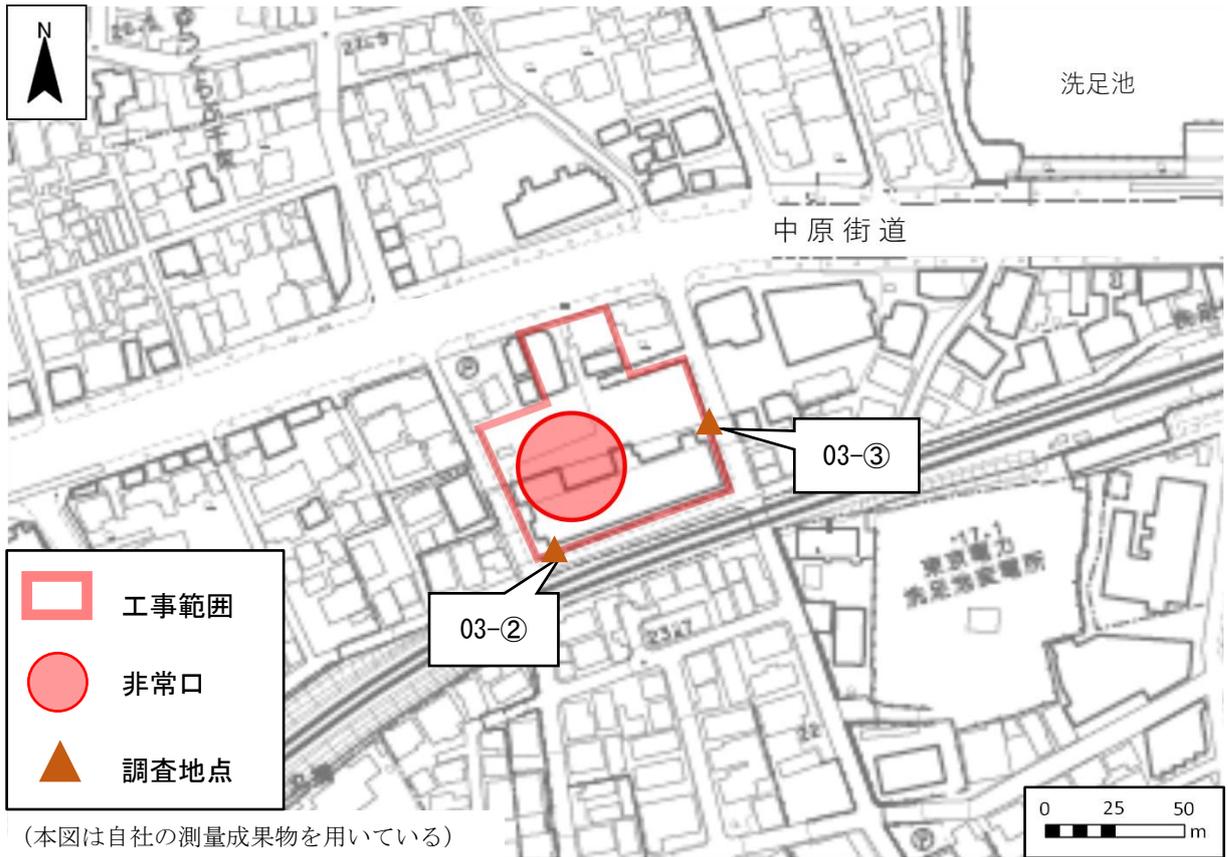


図 3-7-3-2(3) 調査地点（地盤沈下）（03 東雪谷）

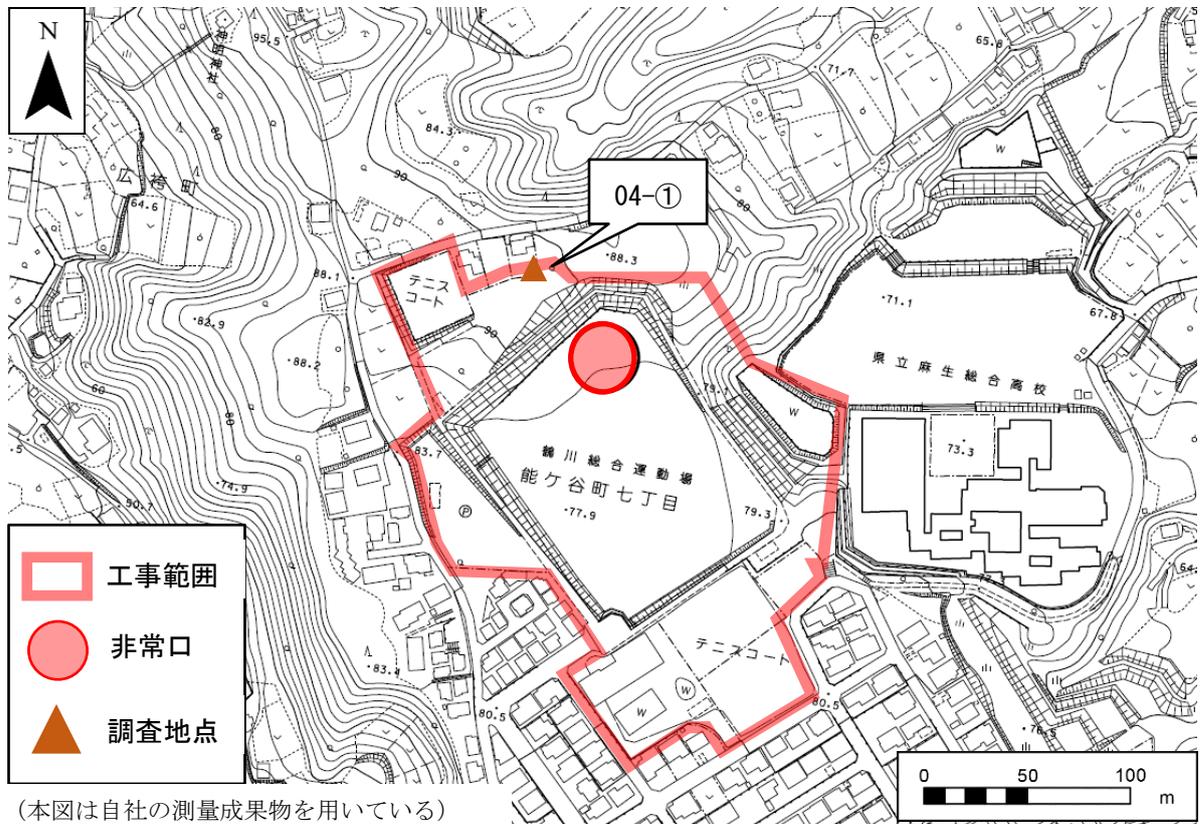
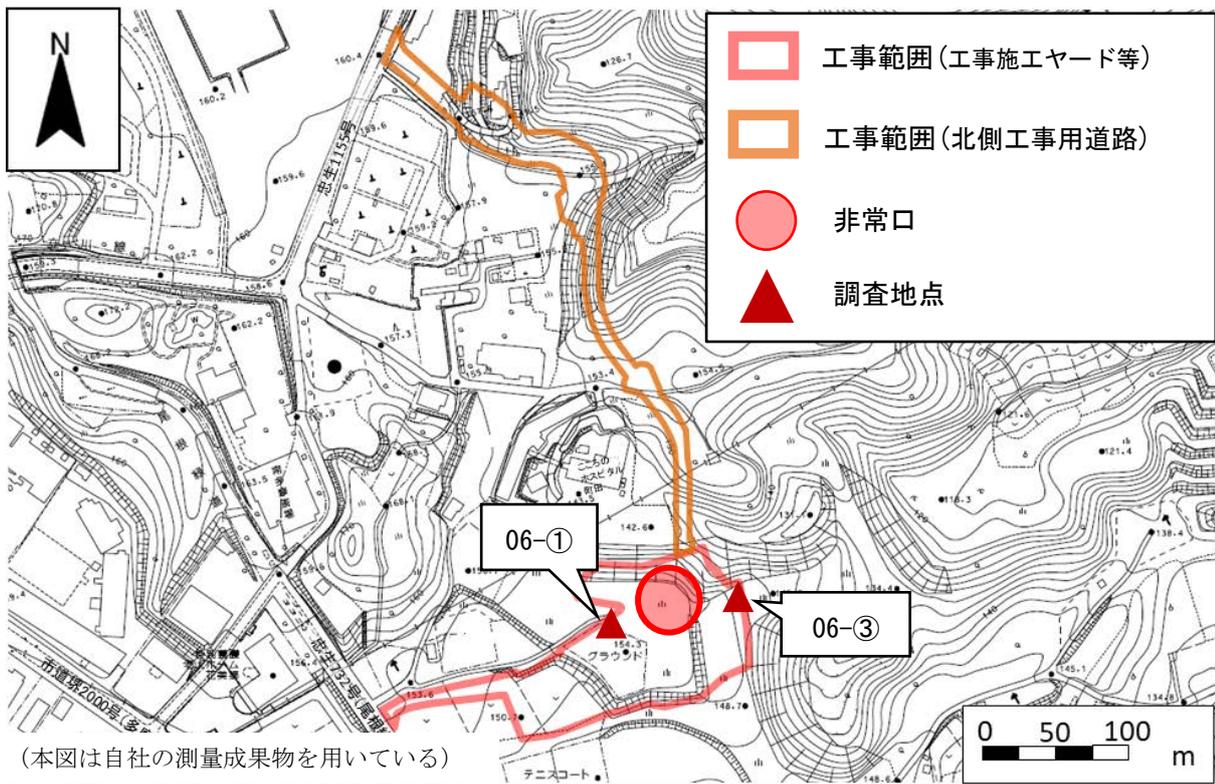


図 3-7-3-2(4) 調査地点（地盤沈下）（04 片平）



(本図は自社の測量成果物を用いている)

図 3-7-3-2(5) 調査地点 (地盤沈下) (06 上小山田)

3-7-4 調査期間

調査期間等を表 3-7-4-1 に示すとおりである。

表 3-7-4-1(1) 調査期間

地点番号	区市名	所在地	実施箇所	実施時期の種別	調査期間	調査時期
01-①	港区	港南	品川駅	地下工事中	令和4年4月 ～ 令和5年3月	令和4年4月6日 令和4年5月10日 令和4年6月4日 令和4年7月13日 令和4年8月6日 令和4年9月2日 令和4年10月7日 令和4年11月16日 令和4年12月9日 令和5年1月18日 令和5年2月2日 令和5年3月16日
01-②						令和4年4月7日 令和4年5月18日 令和4年6月21日 令和4年7月22日 令和4年8月27日 令和4年9月24日 令和4年10月15日 令和4年11月23日 令和4年12月17日 令和5年1月12日 令和5年2月2日 令和5年3月14日
01-③						令和4年4月12日 令和4年5月17日 令和4年6月14日 令和4年7月12日 令和4年8月23日 令和4年9月13日 令和4年10月18日 令和4年11月15日 令和4年12月15日 令和5年1月16日 令和5年2月15日 令和5年3月15日

表 3-7-4-1(2) 調査期間

地点番号	区市名	所在地	実施箇所	実施時期の種別	調査期間	調査時期
02-③ 02-⑤	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	地下工事中	令和4年4月 ～ 令和5年3月	令和4年4月4日 令和4年5月11日 令和4年6月8日 令和4年7月7日 令和4年8月1日 令和4年9月12日 令和4年10月4日 令和4年11月1日 令和4年12月5日 令和5年1月5日 令和5年2月6日 令和5年3月1日
03-② 03-③	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	地下工事中	令和4年4月 ～ 令和5年3月	令和4年4月28日 令和4年5月27日 令和4年6月30日 令和4年7月28日 令和4年8月31日 令和4年9月29日 令和4年10月28日 令和4年11月29日 令和4年12月26日 令和5年1月30日 令和5年2月23日 令和5年3月31日
04-①	町田市	能ヶ谷	片平非常口	地下工事中	令和4年4月 ～ 令和5年3月	令和4年4月27日 令和4年5月30日 令和4年6月30日 令和4年7月29日 令和4年8月24日 令和4年9月26日 令和4年10月20日 令和4年11月22日 令和4年12月15日 令和5年1月27日 令和5年2月24日 令和5年3月30日

表 3-7-4-1(3) 調査期間

地点 番号	区市名	所在地	実施箇所	実施時期 の種別	調査期間	調査時期
06-①	町田市	上小山田町	上小山田非常口	地下工事中	令和4年4月 ～ 令和5年3月	令和4年4月28日 令和4年5月23日 令和4年6月30日 令和4年7月27日 令和4年8月29日 令和4年9月30日 令和4年10月27日 令和4年11月28日 令和4年12月23日 令和5年1月24日 令和5年2月27日 令和5年3月30日
06-③						令和4年4月22日 令和4年5月25日 令和4年6月29日 令和4年7月29日 令和4年8月31日 令和4年9月27日 令和4年10月31日 令和4年11月30日 令和4年12月27日 令和5年1月23日 令和5年2月22日 令和5年3月1日

3-7-5 調査結果

調査結果は、図 3-7-5-1に示すとおりである。なお、地盤高は東京湾平均海面（T.P.）を0mとした場合の高さを示す。

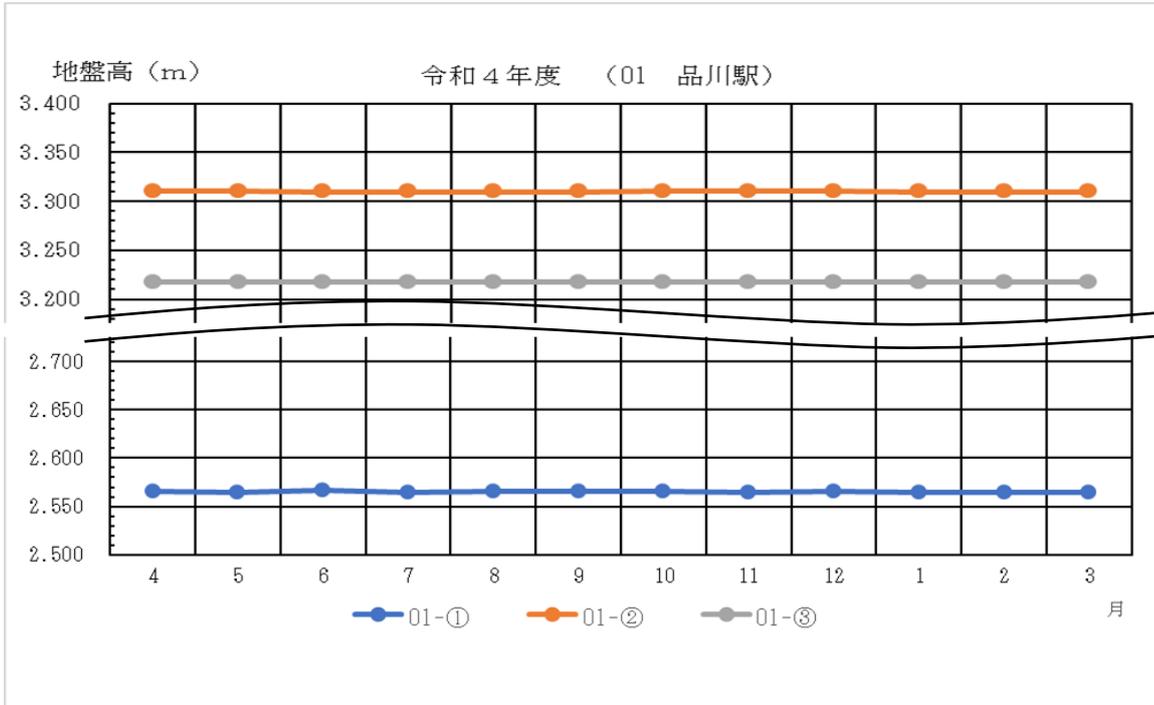


図 3-7-5-1(1) 調査結果 (01 品川駅)

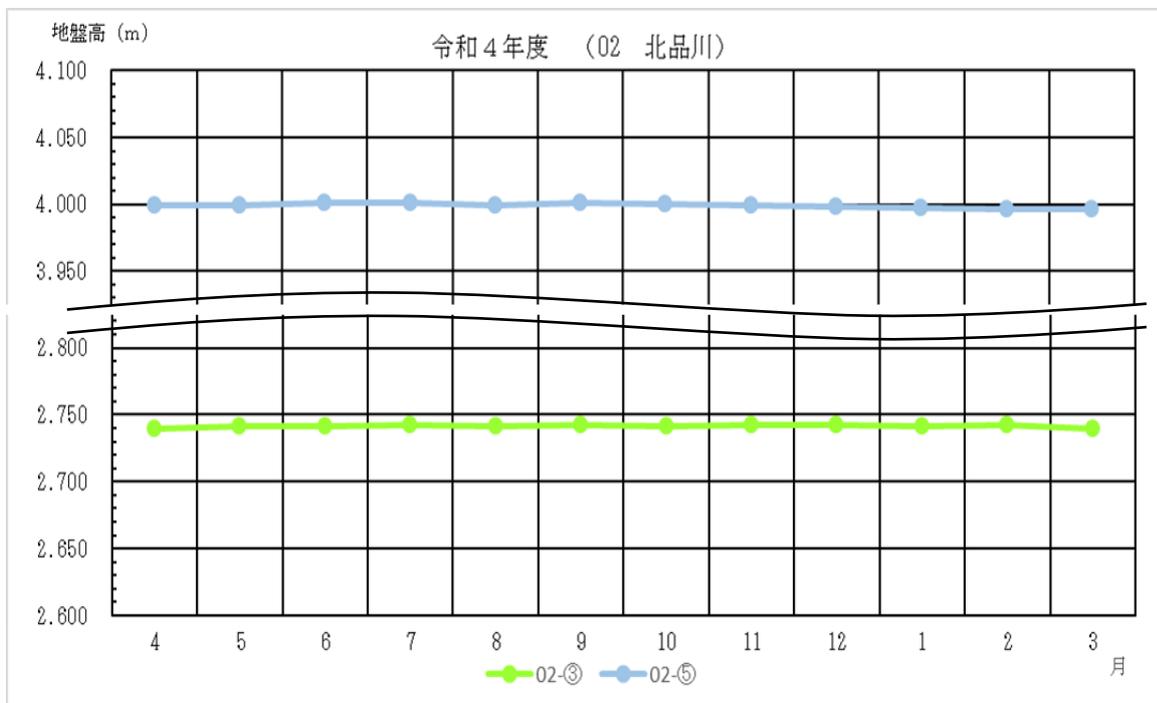


図 3-7-5-1(2) 調査結果 (02 北品川)

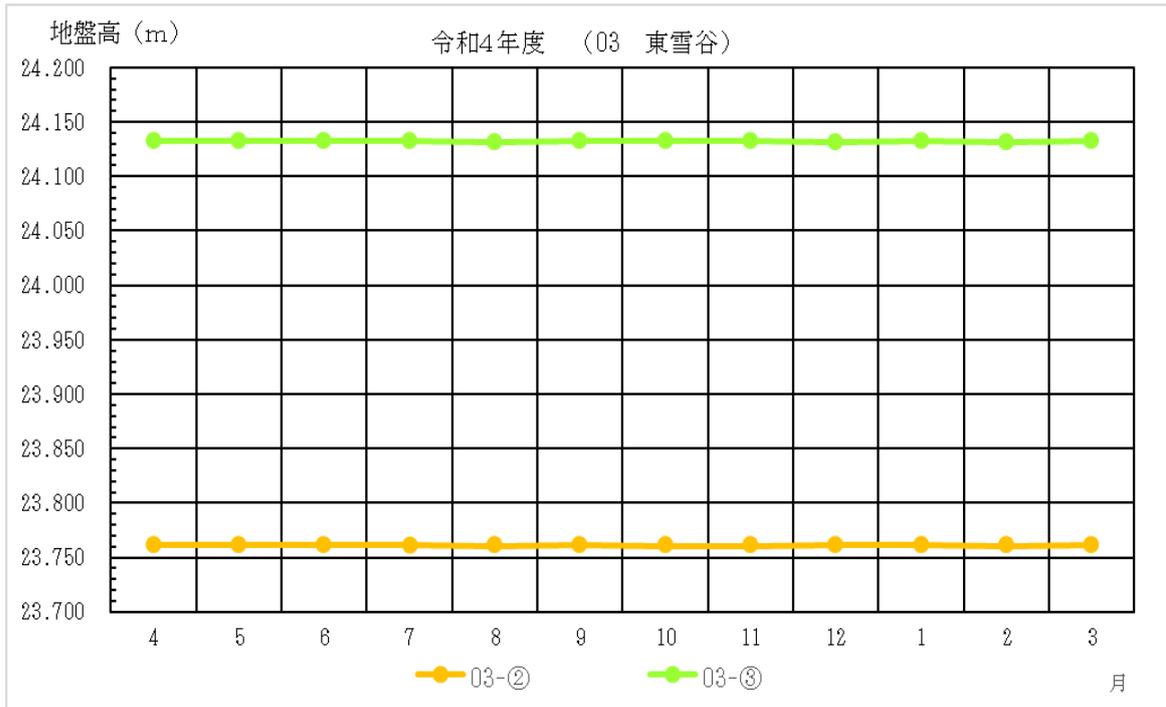


図 3-7-5-1(3) 調査結果 (03 東雪谷)

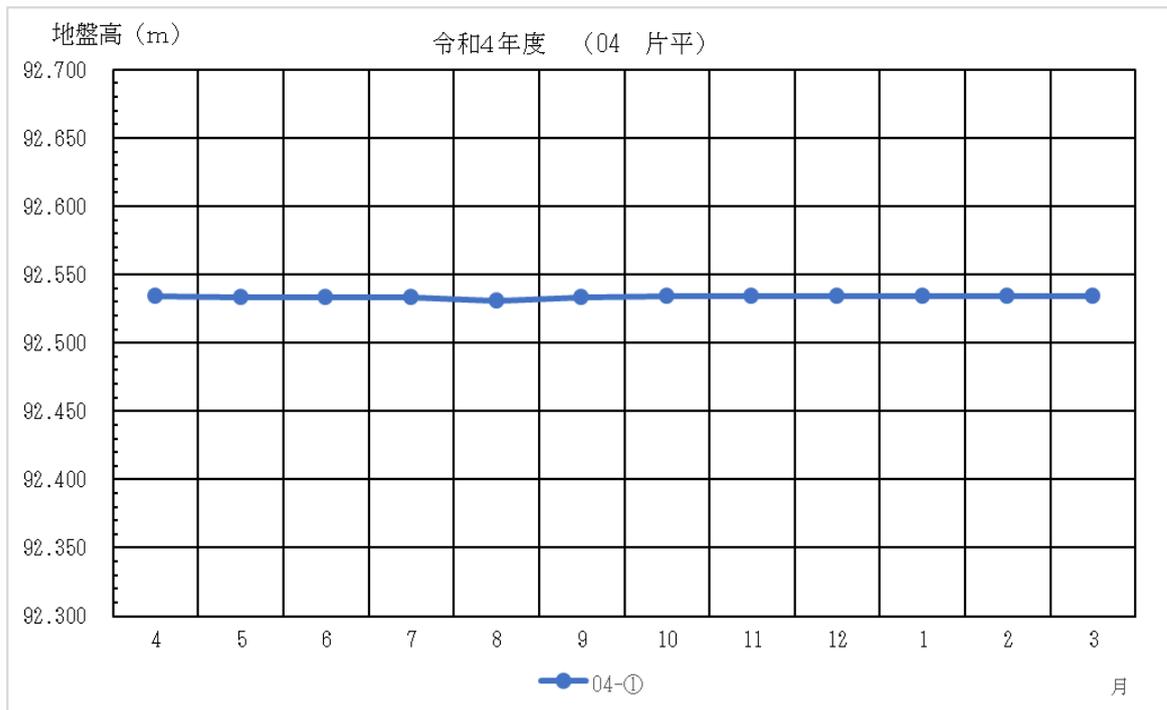
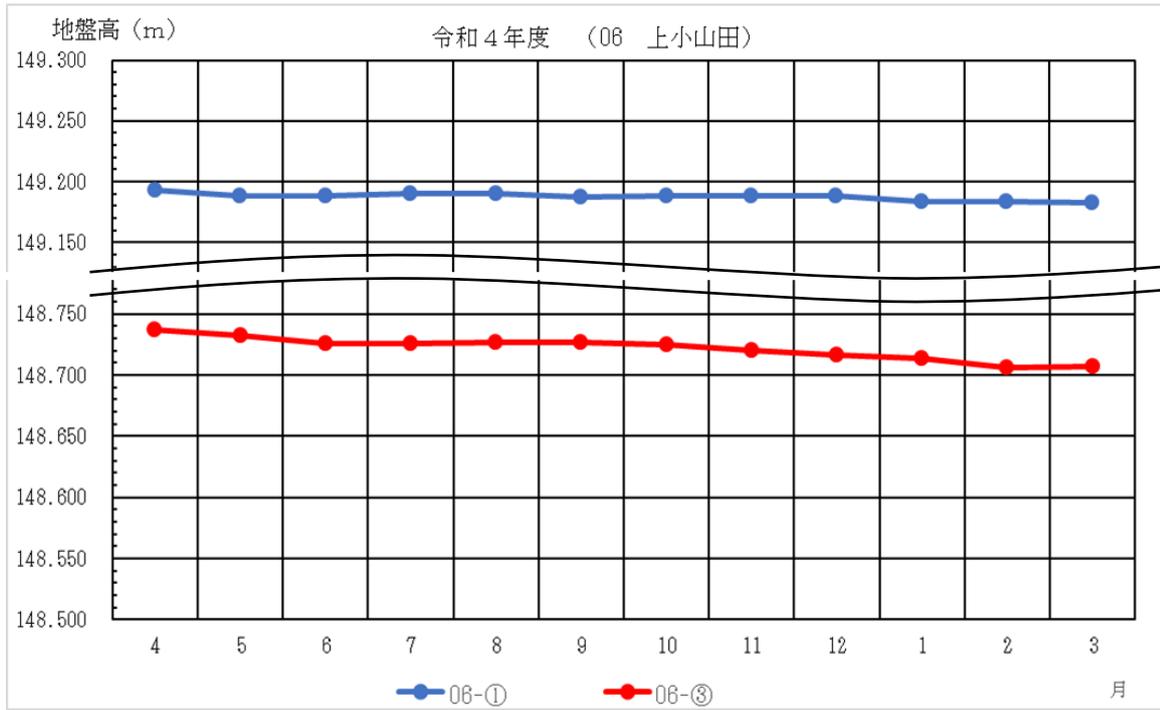


図 3-7-5-1(4) 調査結果 (04 片平)



注 非常口躯体沈設時における躯体と地山の摩擦により、測点 06-①、06-③の測定値に変動が見られたものの、ヤード周辺で別途実施している測量の結果から局所的なものと考えられる。また、今後も継続的に計測を行い周辺への影響を確認していく。地表付近の地層は埋土・盛土であり、今後も変動が見られる可能性があるが、滑剤を用いて躯体と地山の摩擦を抑える等の対策を行い周辺地盤への影響低減に努める。

図 3-7-5-1 (6) 調査結果 (06 上小山田)

3-8 土壌汚染

工事実施箇所における発生土の土壌汚染について、工事前及び工事中のモニタリングを実施した。

3-8-1 調査項目

調査項目は、土壌汚染の状況（自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素））とした。

3-8-2 調査方法

調査方法は、表 3-8-2-1 に示すとおりである。

表 3-8-2-1 調査方法

調査項目	地点番号	調査方法
土壌溶出量調査	01、02	土壌溶出量調査に係る測定方法を定める件 (平成 15 年環境省告示 18 号)
	01、02	海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律施行令第五条第一項に規定する埋立場所等に排出しようとする廃棄物に含まれる金属等の検定方法 (平成 12 年環境庁告示第 78 号)
土壌含有量調査	01、02	底質調査方法 (平成 24 年環水大水発第 120725002 号)

3-8-3 調査地点

調査地点は、表 3-8-3-1 及び図 3-8-3-1 に示すとおりである。

表 3-8-3-1 調査地点

地点番号	区市名	所在地	実施箇所
01	港区	港南	品川駅
02	品川区	北品川	目黒川変電所

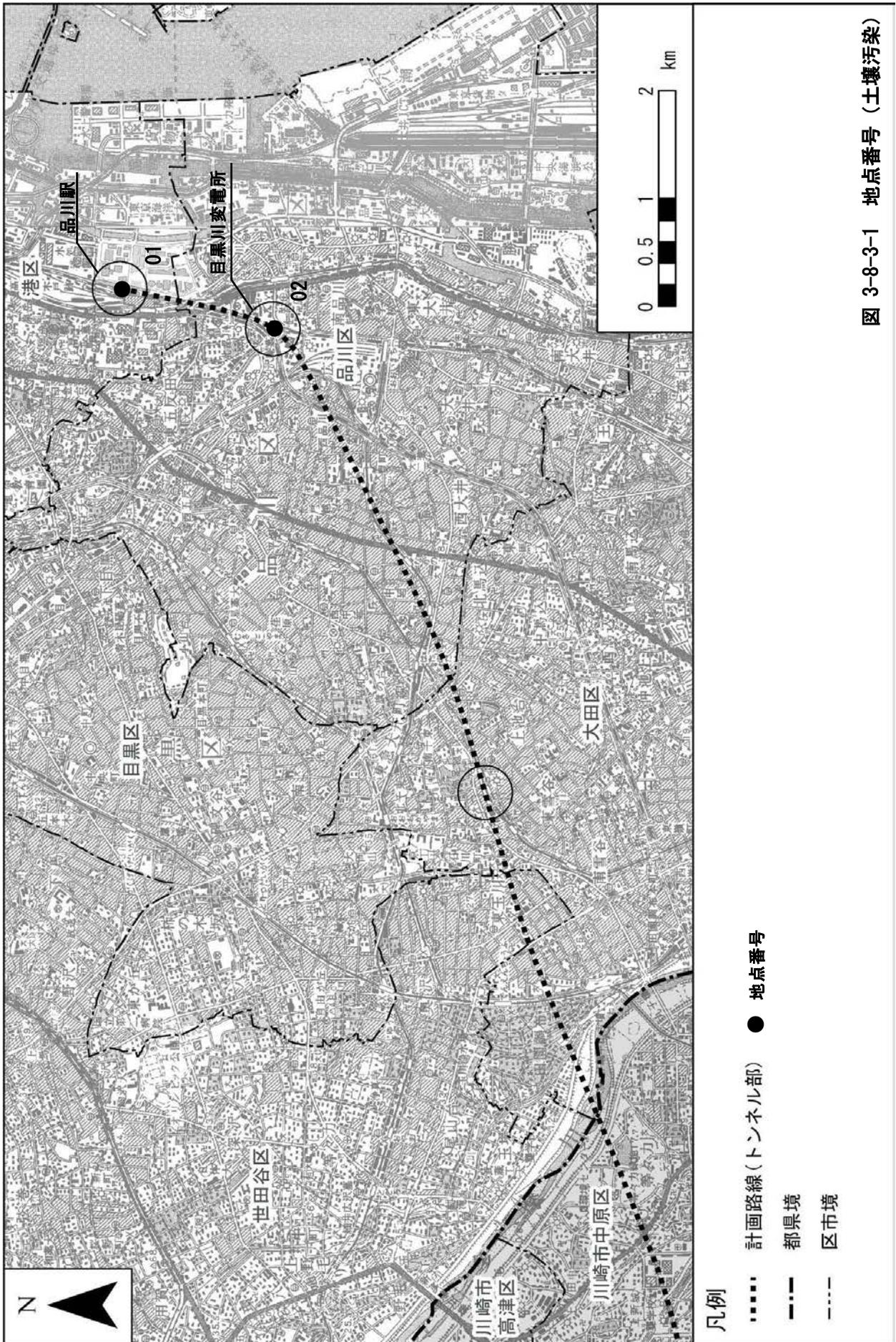


図 3-8-3-1 地点番号 (土壌汚染)

3-8-4 調査期間

調査期間は、表 3-8-4-1 に示すとおりである。

表 3-8-4-1 調査期間

地点番号	調査項目	調査期間
01	土壌溶出量試験 土壌含有量試験	令和4年6月1日、9月20日、11月9日 令和5年1月12日
02	土壌溶出量試験 土壌含有量試験	令和4年3月25日

3-8-5 調査結果

調査結果について、土壌溶出量調査は表 3-8-5-1、土壌含有量調査は表 3-8-5-2 に示すとおりである。なお、調査結果は、当該月の最大値を記載した。

地点 01、02 においては、全ての調査項目で受入先基準に適合していた。

**表 3-8-5-1(1)
重金属等の受け入れ先基準による溶出量試験結果(月別最大値)①(地点 01)**

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
令和4年6月	<0.0003	<0.02	<0.0005	<0.002	<0.005	0.004	0.2	<0.1
令和4年11月	<0.0003	<0.02	<0.0005	<0.002	<0.005	<0.002	0.1	<0.1
令和5年1月	<0.0003	<0.02	<0.0005	<0.002	<0.005	<0.002	0.1	<0.1
受入先基準 01-①	0.003	0.05	0.0005	0.01	0.01	0.01	0.8	1

注：「<」は未満を示す。

**表 3-8-5-1(2)
重金属等の受け入れ先基準による溶出量試験結果(月別最大値)②(地点 01)**

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
令和4年9月	<0.0003	<0.02	0.0005	0.004	0.004	0.021	0.53	0.28
受入先基準 01-②	0.1	0.5	0.005	0.1	0.1	0.1	15	1

注：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-1 (3)
重金属等の受け入れ先基準による溶出量試験結果(月別最大値)(地点 02)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
令和4年 3月	<0.0003	<0.005	<0.0005	0.006	0.008	0.05	0.11	0.1
受入先基準 02	0.1	0.5	0.005	0.1	0.1	0.1	15	1

注：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-2 (1)
重金属等の受け入れ先基準による含有量試験結果(月別最大値)(地点 01)

調査時期	水銀 (mg/kg)
令和4年 9月	0.08
受入先基準 01-②	25

表 3-8-5-2 (2)
重金属等の受け入れ先基準による含有量試験結果(月別最大値)(地点 02)

調査時期	水銀 (mg/kg)
令和4年 3月	0.05
受入先基準 02	25

4 環境保全措置の実施状況

令和4年度においては、以下の通り環境保全措置を実施した。

4-1 工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置

4-1-1 品川駅

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-1-1 及び写真 4-1-1-1 から写真 4-1-1-15 に示す。
 なお、本工区の令和4年度の工事については、地中連続壁工及び工事桁架設工等の実施となるため、当該工事に関わる報告とする。

表 4-1-1-1(1) 令和4年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和4年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-1-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-1-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-1-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-1-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真4-1-1-4

表 4-1-1-1 (2) 令和4年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和4年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-1-5
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真4-1-1-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	下水道への排水	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・土壌汚染 	仮置場における発生土の適切な管理	写真4-1-1-7
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	写真4-1-1-8
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・土壌汚染 	薬液注入工法における指針の順守	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真4-1-1-9
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真4-1-1-10

表 4-1-1-1(3) 令和4年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和4年度に実施した環境保全措置	備考
・ 土壌汚染	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
・ 土壌汚染	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
・ 廃棄物等	建設汚泥の脱水処理	写真4-1-1-11
・ 廃棄物等	建設発生土の再利用	
・ 温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真4-1-1-12
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真4-1-1-13
・ 廃棄物等	発生土を有効利用する事業者への情報提供	
・ 温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
・ 大気質（粉じん等）	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真4-1-1-14
・ 大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真4-1-1-15
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	写真4-1-1-12



写真4-1-1-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真4-1-1-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真4-1-1-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-1-4 工事現場の清掃、散水



写真4-1-1-5 工事従事者への講習・指導



写真4-1-1-6 工事排水の適切な処理



写真4-1-1-7 仮置場における発生土の適切な管理



写真4-1-1-8 処理設備の点検・整備による性能維持



写真4-1-1-9 地下水の継続的な監視

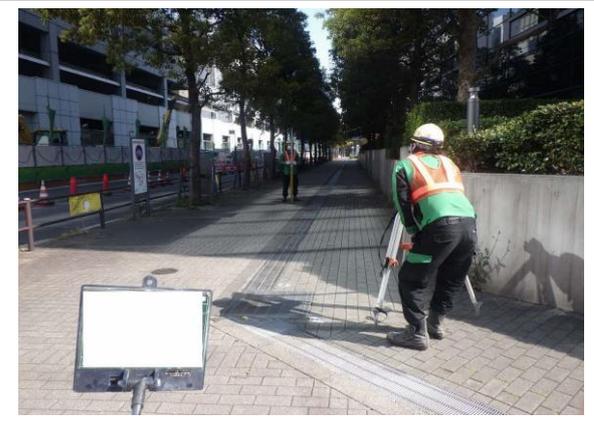


写真4-1-1-10 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真4-1-1-11 建設汚泥の脱水処理



写真4-1-1-12 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化、低公害型の工事用車両の選定



写真4-1-1-13 副産物の分別、再資源化



写真4-1-1-14 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真4-1-1-15 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄

4-1-2 第一首都圏トンネル（北品川工区）

環境保全措置の実施状況を表 4-1-2-1 及び写真 4-1-2-1 から写真 4-1-2-8 に示す。なお、本工区の令和 4 年度の工事については、調査掘進等を実施しているため、当該工事に関わる報告とする。

表4-1-2-1(1) 令和 4 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 4 年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-2-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-2-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-2-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-2-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-2-4
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-2-5
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	下水道への排水	

表4-1-2-1(2) 令和4年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和4年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> 地下水（地下水の水質、地下水の水位） 水資源 	適切な構造及び工法の採用	写真 4-1-2-6
<ul style="list-style-type: none"> 水質（水の濁り、水の汚れ） 水資源 	工事排水の監視	写真 4-1-2-7
<ul style="list-style-type: none"> 水質（水の濁り、水の汚れ） 水資源 土壤汚染 	処理設備の点検・整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物等 温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-2-8
<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） 騒音 振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（粉じん等） 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-2-3
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） 騒音 振動 温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 騒音 振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	低公害型の工事用車両の選定	
<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	



写真4-1-2-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真4-1-2-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真4-1-2-3 工事現場の清掃、散水、資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄



写真4-1-2-4 工事従事者への講習・指導



写真4-1-2-5 工事排水の適切な処理



写真4-1-2-6 適切な構造及び工法の採用
(密閉性の高いシールド工法の採用)



写真4-1-2-7 工事排水の監視



写真4-1-2-8 副産物の分別、再資源化

4-1-3 目黒川変電所

環境保全措置の実施状況を表 4-1-3-1 及び写真 4-1-3-1 から写真 4-1-3-12 に示す。なお、本工区の令和 4 年度の工事については、掘削工及び躯体構築工等を実施しているため、当該工事に関わる報告とする。

表4-1-3-1(1) 令和 4 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 4 年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-3-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-3-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-3-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-3-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-3-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-3-5
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	下水道への排水	

表4-1-3-1(2) 令和4年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和4年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水(地下水の水質、地下水の水位) ・水資源 ・地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	写真 4-1-3-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質(水の濁り、水の汚れ) ・水資源 	工事排水の監視	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質(水の濁り、水の汚れ) ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水(地下水の水質、地下水の水位) ・水資源 ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真 4-1-3-7
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真 4-1-3-8
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	建設発生土の再利用	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-3-9
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-3-10
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	発生土を有効利用する事業者への情報提供	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質(二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質(二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	

表4-1-3-1(3) 令和4年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和4年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等）	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-3-11
・大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-3-12
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	写真 4-1-3-9



写真4-1-3-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真4-1-3-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真4-1-3-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-3-4 工事現場の清掃、散水



写真4-1-3-5 工事従事者への講習・指導



写真4-1-3-6 止水性の高い土留め工法等の採用



写真4-1-3-7 地下水の継続的な監視



写真4-1-3-8 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真4-1-3-9 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化、低公害型の工事用車両の選定



写真4-1-3-10 副産物の分別、再資源化



写真4-1-3-11 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真4-1-3-12 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄

4-1-4 東雪谷非常口

環境保全措置の実施状況を表 4-1-4-1 及び写真 4-1-4-1 から写真 4-1-4-12 に示す。なお、本工区の令和 4 年度の工事については、躯体構築工等の実施となるため、当該工事に関わる報告とする。

表 4-1-4-1(1) 令和 4 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 4 年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（粉じん等） ・ 騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-4-1
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-4-2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-4-2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 	建設機械の使用時における配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-4-3
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-4-4
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-4-5
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質（水の濁り、水の汚れ） ・ 水資源 ・ 土壌汚染 	工事排水の適切な処理	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質（水の濁り、水の汚れ） ・ 水資源 	下水道への排水	

表 4-1-4-1(2) 令和4年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和4年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> 地下水（地下水の水質、地下水の水位） 水資源 地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	写真 4-1-4-6
<ul style="list-style-type: none"> 水質（水の濁り、水の汚れ） 水資源 	工事排水の監視	
<ul style="list-style-type: none"> 水質（水の濁り、水の汚れ） 水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> 地盤沈下 	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> 地下水（地下水の水質、地下水の水位） 水資源 地盤沈下・水資源 	地下水の継続的な監視	写真 4-1-4-7
<ul style="list-style-type: none"> 地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真 4-1-4-8
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物等 温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-4-9
<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-4-10
<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） 騒音 振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（粉じん等） 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-4-11
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 騒音 振動 温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-4-12
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 騒音 振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	低公害型の工事用車両の選定	写真 4-1-4-10



写真4-1-4-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真4-1-4-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真4-1-4-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-4-4 工事現場の清掃、散水



写真4-1-4-5 工事従事者への講習・指導



写真4-1-4-6 止水性の高い山留工法の採用



写真4-1-4-7 地下水の継続的な監視



写真4-1-4-8 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真4-1-4-9 副産物の分別、再資源化



写真4-1-4-10 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化、低公害型の工事用車両の選定



写真4-1-4-11 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄



写真4-1-4-12 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持

4-1-5 片平非常口

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-5-1 及び写真 4-1-5-1 から写真 4-1-5-14 に示す。
 なお、本工区の令和4年度の工事については、工事施工ヤード整備及び地中連続壁工等の実施となるため、当該工事に関わる報告とする。

表 4-1-5-1(1) 令和4年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和4年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-5-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-5-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-5-3
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-5-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-5-5
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃及び散水	写真4-1-5-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	下水道への排水	写真4-1-5-7
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 	止水性の高い山留め工法等の採用	写真4-1-5-8

表 4-1-5-1(2) 令和4年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和4年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	写真4-1-5-7
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の適切な処理	写真4-1-5-7
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	写真4-1-5-9
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真4-1-5-10
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真4-1-5-11
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	写真4-1-5-8
<ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・生態系 	外来種の拡大抑制のための在来種による緑化	写真4-1-5-12
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	建設汚泥の脱水処理	写真4-1-5-13
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真4-1-5-14
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底（資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運転）	



写真4-1-5-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真4-1-5-2 排出ガス対策型建設機械の採用



写真4-1-5-3 工事従事者への講習・指導



写真4-1-5-4 低騒音型建設機械の採用



写真4-1-5-5 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-5-6 工事現場の清掃及び散水



写真4-1-5-7 下水道への排水、工事排水の監視、工事排水の適切な処理



写真4-1-5-8 止水性の高い山留め工法等の採用、地質の状況等に応じた山留め工法等の採用



写真4-1-5-9 処理設備の点検・整備による性能維持

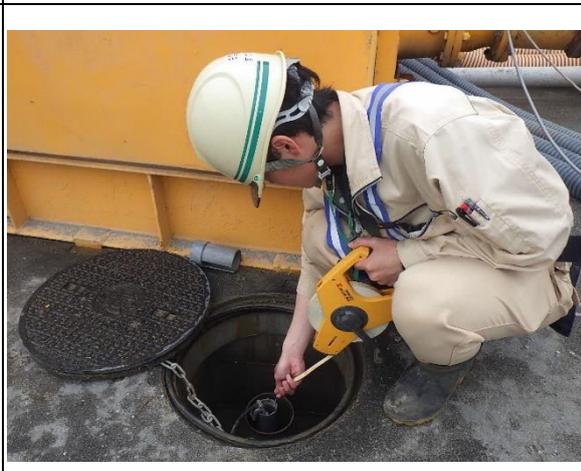


写真4-1-5-10 地下水の継続的な監視



写真4-1-5-11 山留材及び周辺地盤の計測管理



写真4-1-5-12 外来種の拡大抑制のための在来種による緑化



写真 4-1-5-13 建設汚泥の脱水処理



写真 4-1-5-14 副産物の分別・再資源化

4-1-6 第一首都圏トンネル（小野路工区）

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-6-1 及び写真 4-1-6-1 から写真 4-1-6-11 に示す。
 なお、本工区の令和 4 年度の工事については、シールド機発進準備工等の実施となるため、当該工事に関わる報告とする。

表 4-1-6-1(1) 令和 4 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 4 年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-6-1 写真4-1-6-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-6-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-6-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-6-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真4-1-6-5
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-6-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真4-1-6-7
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	

表 4-1-6-1(2) 令和4年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和4年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> 動物 生態系 	濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置	写真4-1-6-7
<ul style="list-style-type: none"> 動物 生態系 	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真4-1-6-1 写真4-1-6-2 写真4-1-6-3
<ul style="list-style-type: none"> 植物 生態系 	外来種の拡大抑制のためのタイヤ洗浄	
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物等 	建設発生土の再利用	
<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス 	低炭素型建設機械の採用	
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物等 温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真4-1-6-8
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物等 	発生土を有効利用する事業者への情報提供	
<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 騒音 振動 温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真4-1-6-9
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） 騒音 振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
<ul style="list-style-type: none"> 動物 生態系 	資材運搬等の適切化	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（粉じん等） 	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真4-1-6-10
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（粉じん等） 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真4-1-6-11
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 騒音 振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	低公害型の工事用車両の選定	
<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	



写真4-1-6-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真4-1-6-2 仮囲い・防音シート等
(防音ハウス)の設置状況



写真4-1-6-3 排出ガス対策型建設機械の採用、
低騒音型建設機械の採用

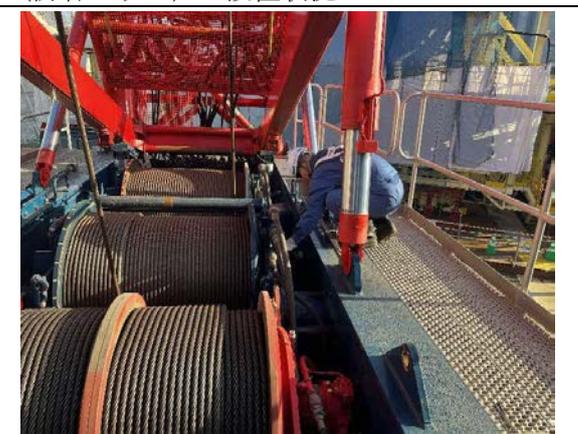


写真4-1-6-4 建設機械の点検及び整備
による性能維持



写真4-1-6-5 工事現場の清掃、散水



写真4-1-6-6 工事従事者への講習・指導



写真4-1-6-7 工事排水の適切な処理、濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置



写真4-1-6-8 副産物の分別、再資源化



写真4-1-6-9 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持



写真4-1-6-10 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真4-1-6-11 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄

4-1-7 上小山田非常口

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-7-1 及び写真 4-1-7-1 から写真 4-1-7-10 に示す。
 なお、本工区の令和 4 年度の工事については、ニューマチックケーソン工（躯体構築、掘削）等を実施したため、当該工事に関わる報告とする。

表 4-1-7-1(1) 令和 4 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 4 年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-7-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-7-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-7-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械使用時における配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-7-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真4-1-7-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-7-5
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真4-1-7-6
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	

表 4-1-7-1(2) 令和4年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和4年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真4-1-7-7
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地質の状況等に応じた工法の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	周辺地盤の計測管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	防音シート、低騒音型建設機械の採用	写真4-1-7-2
<ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・生態系 	外来種の拡大抑制のためのタイヤ洗浄	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	建設発生土の再利用	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低炭素型建設機械の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真4-1-7-8
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	発生土を有効利用する事業者への情報提供	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・振動 ・騒音 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	資材運搬等の適切化	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真4-1-7-9
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤ洗浄	写真4-1-7-4

表 4-1-7-1 (3) 令和4年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和4年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真4-1-7-10
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	低公害型の工事用車両の選定	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	



写真4-1-7-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真4-1-7-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用

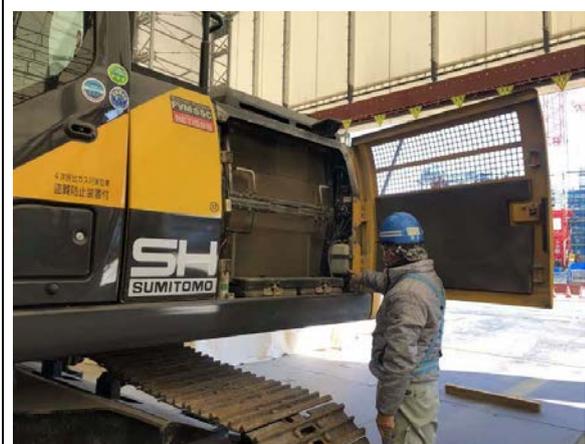


写真4-1-7-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-7-4 工事現場の清掃、散水、資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤ洗浄



写真4-1-7-5 工事従事者への講習・指導



写真4-1-7-6 沈砂池の設置状況



写真4-1-7-7 地下水の継続的な監視



写真4-1-7-8 副産物の分別、再資源化



写真4-1-7-9 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真4-1-7-10 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持

5 その他特に実施した調査

5-1 希少猛禽類の営巣地の状況調査

「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成26年11月」において調査の対象とした鳥類（希少猛禽類）について、営巣地の状況を確認した。本調査では、令和4年度に完了した繁殖期の調査結果を記載した。なお、専門家の助言を受けて、希少種の保護の観点から周辺状況等の詳細については非公開とした。

5-1-1 調査方法

調査方法を表 5-1-1-1 に示す。なお、評価書【東京都】時点で確認した小野路ペアをAペア、上小山田ペアをBペアとする。

表 5-1-1-1 希少猛禽類の調査方法

調査項目		調査方法
希少猛禽類	営巣地の状況調査	令和2年度の営巣地の状況調査で確認されたAペア及び令和3年度の営巣地の状況調査で確認されたBペアのオオタカの営巣地において、双眼鏡等を利用し、巣の使用状況の確認を行った。また、令和2年度や3年度に確認した巣を使用していない場合は、その他の古巣を確認するとともに、周辺の林内を踏査し、新たな営巣地の有無の確認を行った。
	営巣木調査	営巣地の状況調査で新たに確認された営巣木について、樹種、樹高、胸高直径、巣の状況等を記録した。

5-1-2 調査地点

現地調査地点は、令和2年度の営巣地の状況調査で確認されたAペア及び令和3年度の営巣地の状況調査で確認されたBペアのオオタカの巣周辺、また、過去に確認されたオオタカの巣周辺に設定した。なお、設定にあたっては専門家等から意見を聴取した。

5-1-3 調査期間

調査期間は、表 5-1-3-1 に示すとおりである。

表 5-1-3-1 希少猛禽類の調査期間

調査項目	調査手法	ペア名	調査実施日	
希少猛禽類	営巣地の状況調査	オオタカ (Aペア)	繁殖期	令和4年3月23日 ~ 令和4年3月25日 ^注 令和4年6月7日
		オオタカ (Bペア)		令和4年6月8日
	営巣木調査	オオタカ (Aペア)	非繁殖期	令和4年10月4日

注 令和3年度における営巣地の状況調査の補足調査日を示す。

5-1-4 調査結果

希少猛禽類の調査における確認状況は、表 5-1-4-1 に示すとおりである。

表 5-1-4-1 調査結果

ペア名	確認状況
オオタカ（Aペア）	令和2年度の営巣地の状況調査で確認した営巣地の近傍、また、過去に確認されたオオタカの営巣地の近傍にて踏査を実施したところ、令和元年度で確認した営巣地の近傍において、繁殖に繋がる指標行動（排斥行動等）を確認した。そのため、確認位置の周辺にて踏査を実施したところ、新巣及び巣内に雛を確認した。なお、非繁殖期において、今回発見した新巣について営巣木の調査を実施した。今後も、専門家の意見を踏まえ、継続して調査を実施する。
オオタカ（Bペア）	令和3年度の営巣地の状況調査で確認した営巣地の近傍、また、過去に確認されたオオタカの営巣地の近傍にて踏査を実施したところ、令和3年度で確認した営巣地の近傍において、成鳥を確認した。また、評価書【東京都】時で確認した営巣地にて繁殖に繋がる痕跡（食痕等）を確認した。今後も、専門家の意見を踏まえ、継続して調査を実施する。

5-2 動物（片平）

「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成 26 年 11 月」において調査の対象とした動物について、工事の実施に係る重要な種及び注目すべき生息地の状況を確認した。

5-2-1 調査方法

調査方法は、表 5-2-1-1 に示す方法、現地確認及び工事関係等の資料の整理とした。なお、生息が確認された種の内、表 5-2-1-2 に示す基準に該当するものを重要な種として選定した。

表 5-2-1-1(1) 動物の調査方法

調査項目		調査方法	
哺乳類		任意確認 (フィールドサイン法、バットディテクター法)、夜間撮影	調査地域内を任意に踏査し、哺乳類の生息の根拠となる足跡、糞、食痕、掘り返し跡等のフィールドサイン（生息痕）の確認から、調査地域に生息する種の把握を行った。夜間では、コウモリ類の生息種の確認及び生息状況の把握を目的として、バットディテクターを使用した。また、自動撮影装置を併用して、けもの道等の哺乳類の移動経路の把握に努めた。
		捕獲調査	<p>【ネズミ類】</p> 調査地域内に見られる樹林、草地等の様々な環境に地点を設定し、トラップを設置した。トラップにはシャーマントラップ及び墜落かんを使用した。シャーマントラップの餌はピーナッツ、ヒマワリ、オートミール等を用いた。シャーマントラップの設置数は 30 個/1 地点、墜落かんの設置数は 2~3 個/1 地点とし、1 地点に 2 晩設置した。
			<p>【モグラ類】</p> モグラ塚等が見られる地点にモルトトラップを設置した。モルトトラップの設置数は 10 個/1 地点とし、1 地点に 2 晩設置した。
鳥類	一般鳥類	任意確認	調査地域内を任意に踏査し、出現した鳥類の種名を記録した。重要な種が確認された場合は、確認位置、個体数、行動等を記録した。また、フクロウ類等の夜行性鳥類の生息確認を目的とした夜間調査も実施した。
		ラインセンサス法	調査地域内に設定した調査ルート上を、時速 2km で歩きながら一定範囲内（草地は片側 50m、林内は片側 25m 程度）に出現する鳥類の種名及び個体数を記録した。調査にあたっては、8~10 倍程度の双眼鏡を用いるとともに、姿、鳴き声により鳥類の確認を行った。調査時間帯は鳥類の活動が活発となる早朝に設定し、ルート数は 1 ルートとした。
		ポイントセンサス法	観察地点を定め、双眼鏡、望遠鏡を用いて 30 分程度の観察を行い、姿、鳴き声により確認される鳥類の種名及び個体数を記録した。1 地点に設置した。
	希少猛禽類	定点観察法	猛禽類の営巣が考えられる地域について繁殖地特定のための行動の確認を目的として、設定した定点において簡易無線機による情報交換を行いながら、8~10 倍程度の双眼鏡及び 20~60 倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認した。

表 5-2-1-1(2) 動物の調査方法

調査項目		調査方法	
鳥類	希少猛禽類	営巣地調査	古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を歩き、樹林の状況、巣がかけられている営巣木の状況（樹種、樹高、胸高直径、地上〇mに営巣等）、巣の形状（直径、厚さ）、周辺の地形、植生等を記録した。
爬虫類・両生類		任意確認	調査地域内を任意に踏査し、目視観察及び捕獲、鳴き声等により確認された両生類・爬虫類の種名、個体数、確認位置等を記録した。なお、昼間は目視により個体を確認し、夜間はカエル類の鳴き声等を確認した。
昆虫類		任意採集	調査地域内を任意に踏査し、目視観察及び鳴き声等で確認された昆虫類の種名を記録した。また、目視観察で種名の確認が困難な場合は、捕虫網等を用いて採集した。なお、捕虫網を振り回し昆虫類を採集するスウィーピング法、樹木の枝、葉等を叩き、付着している昆虫類を採集するビーティング法も併用した。また、現地での種の識別が困難なものは、標本として持ち帰り、同定を行った。
		ライトトラップ法	夜間に光に誘引されるコウチュウ類、ガ類等の確認を目的として、調査地域内に見られる代表的な環境において、ボックス法によるライトトラップを実施した。 光源（ブラックライト等）の下に、捕虫器（ボックス）を付け、飛来した昆虫類が光源にぶつかり捕虫器に落下した個体を捕獲した。設置は夕刻に行い、日没前に点灯を開始し、1地点に1晩放置した後、翌日、ボックス内の昆虫類を回収した。
		ベイトトラップ法	主に地表徘徊性のコウチュウ類、アリ類等の確認を目的として、調査地域内に見られる樹林、草地等の様々な環境に地点を設定し、トラップを設置した。トラップは、誘引餌を入れたプラスチックコップを20個/1地点で地中に埋設し、1地点に1晩設置した後、回収した。
魚類		任意採集	調査地域内に設定した調査地点・範囲（河川）において、各種漁具（投網、タモ網、トラップ）を用いて任意に魚類を採取し、種名、個体数、確認環境等を記録した。また、潜水による目視観察も行った。なお、現地での種の識別が困難なものは、採取した魚類をホルマリン等で固定して標本として持ち帰り、同定を行った。
底生動物		任意採集	調査地域内に設定した調査地点・範囲（河川）において、タモ網等を用いて任意に底生動物の採集を行った。採集した底生動物はホルマリンで固定して標本として持ち帰り、同定を行った。
		コドラート法	コドラート付サーバーネット（25cm×25cm）を用いて、一定面積内に生息する底生動物の採集を行った。採集は1地点あたり同様の環境で3回実施した。採集した底生動物はホルマリンで固定して、標本として持ち帰り、同定を行った。1地点で実施した。

表 5-2-1-2(1) 重要な種及び注目すべき生息地の選定基準

番号	文献及び法令名	区分
①	文化財保護法（昭和 25 年、法律第 214 号）	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年、法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
③	自然環境保全法（昭和 47 年、法律第 85 号）	○：指定の地域
④	特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（昭和 55 年）	○：指定湿地
⑤	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（平成 4 年）	○：自然遺産の登録基準に該当するもの
⑥	東京都における自然の保護と回復に関する条例（平成 12 年、東京都条例第 26 号）	希少：東京都希少野生動植物種
⑦	東京都文化財保護条例（昭和 51 年、東京都条例第 25 号） 町田市文化財保護条例（昭和 52 年、町田市条例第 30 号）	都：都指定天然記念物 市町村：市町村指定天然記念物
⑧	環境省第 4 次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物（平成 24 年、環境省）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
	環境省第 4 次レッドリスト 汽水・淡水魚類（平成 25 年、環境省）	
⑨	東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～（2010 年版、東京都環境局）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 *：留意種
⑩	神奈川県文化財保護条例（昭和 30 年、神奈川県条例第 13 号） 川崎市文化財保護条例（昭和 34 年、川崎市条例第 24 号）	県天：県指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
⑪	神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006（平成 18 年、神奈川県立生命の星・地球博物館）	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I 類 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 減少種 希少種 要注意種 注目種 情報不足 情報不足 A 情報不足 B 不明種 絶滅のおそれのある地域個体群

表 5-2-1-2(2) 重要な種及び注目すべき生息地の選定基準

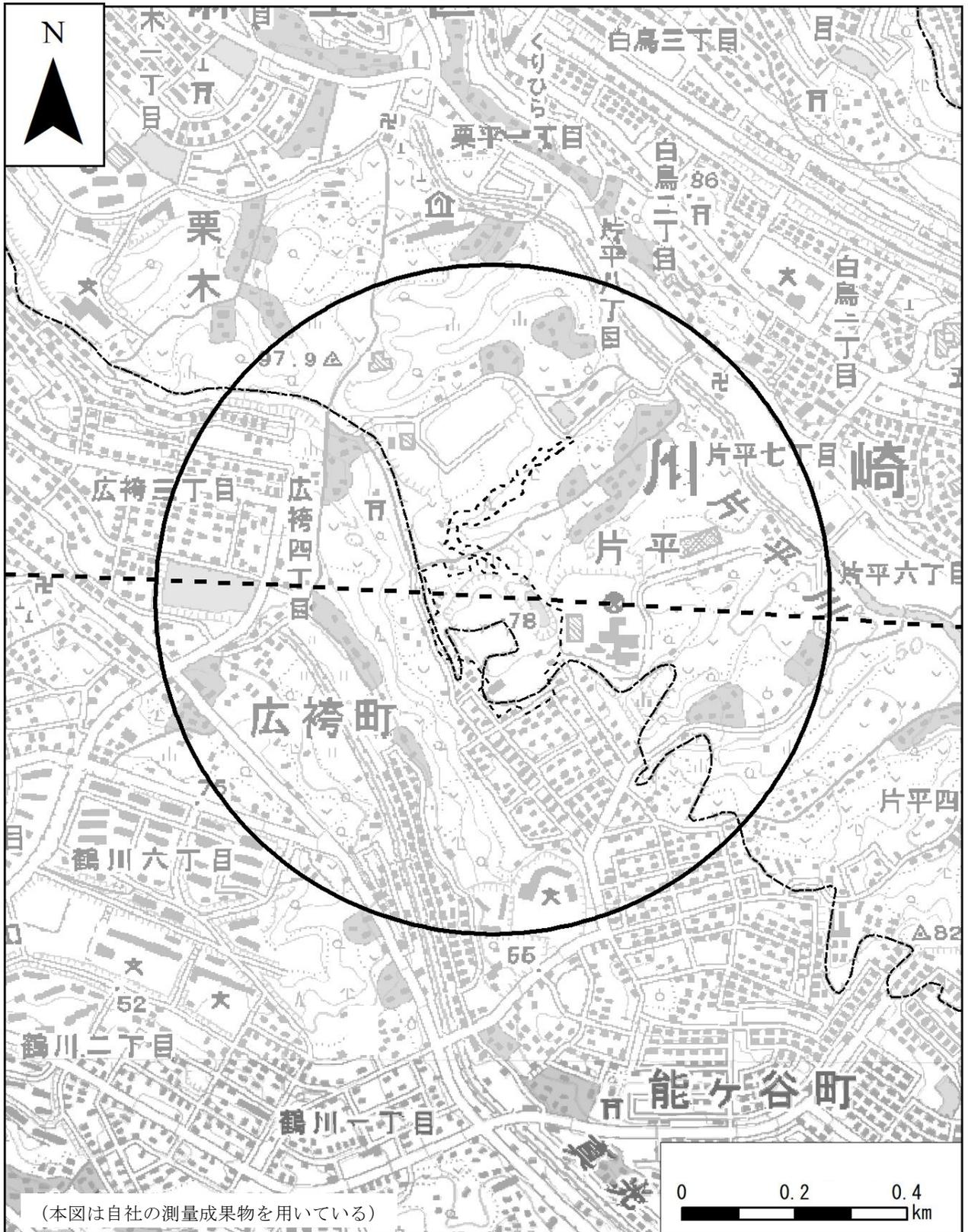
番号	文献及び法令名	区分
⑫	「環境省レッドリスト 2020 の公表について」 (令和 2 年、環境省)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑬	レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～（2013 年、東京都環境局）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 *：留意種
⑭	東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～2020 年版	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 *：留意種
⑮	東京都レッドデータブック 2023～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～（2023 年、東京都環境局）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 *：留意種

注 評価書【東京都】作成時の選定基準である⑧、⑨、⑩の改訂版として⑫、⑬、⑭、⑮を追加した。

5-2-2 調査地域

調査地域を、図 5-2-2-1 に示す。

なお、調査は非常口から半径約 600m の範囲において実施した。



凡例

- 計画路線(トンネル部)
変更区域
- 都県境
- 区市境
- 調査地域

図 5-2-2-1(2) 調査地域 (片平非常口)

5-2-3 調査期間

調査期間を、表 5-2-3-1 及び表 5-2-3-2 に示す。

表 5-2-3-1 調査時期等

調査項目		調査時期
哺乳類		4 季（春季、夏季、秋季、冬季）
鳥類	一般鳥類	5 回（春季、繁殖期、夏季、秋季、冬季） ※繁殖期とは個別の鳥類の繁殖する時期を意味するものではなく、春季と夏季の間の期間を言う。
爬虫類		3 季（春季、夏季、秋季）
両生類		4 季（早春季、春季、夏季、秋季）
昆虫類		3 季（春季、夏季、秋季）
魚類		4 季（春季、夏季、秋季、冬季）
底生動物		4 季（春季、夏季、秋季、冬季）

表 5-2-3-2 調査期間等

調査項目		調査手法	調査実施日		
哺乳類	任意確認（フィールドサイン法、バットディテクター法）、夜間撮影（1晩設置）	春季	令和4年5月9日	～10日	
		夏季	令和4年7月4日	～6日	
		秋季	令和4年9月27日	～29日	
		冬季	令和5年1月13日		
	捕獲調査（ネズミ類等）（2晩設置）	夏季	令和4年7月4日	～6日	
		秋季	令和4年9月27日	～29日	
	捕獲調査（モグラ類）（2晩設置）	夏季	令和4年7月4日	～6日	
		秋季	令和4年9月27日	～29日	
鳥類	一般鳥類	任意確認（春季、繁殖期、冬季は日没後1～2時間の夜間調査も実施）	春季	令和4年4月13日	～14日
			繁殖期	令和4年5月26日	
			夏季	令和4年7月15日	
			秋季	令和4年9月28日	
			冬季	令和5年1月20日	
	ラインセンサス法 ポイントセンサス法（早朝に実施）	春季	令和4年4月13日	～14日	
		繁殖期	令和4年5月26日		
		夏季	令和4年7月15日		
		秋季	令和4年9月28日		
		冬季	令和5年1月20日		
爬虫類	任意確認（春季、夏季は日没後1～2時間の夜間調査も実施）	春季	令和4年4月7日		
		夏季	令和4年5月9日		
		秋季	令和4年9月27日	～29日	
両生類	任意確認（早春季、春季、夏季は日没後1～2時間の夜間調査も実施）	早春季	令和4年4月7日		
		春季	令和4年5月9日		
		夏季	令和4年7月4日	～6日	
		秋季	令和4年9月27日	～29日	
昆虫類	任意採集 ライトトラップ法（ボックス法は1晩設置） ベイトトラップ法（1晩設置）	春季	令和4年4月25日	～26日	
		夏季	令和4年7月5日	～6日	
		秋季	令和4年10月12日	～13日	
魚類	任意採集	春季	令和4年5月10日	～11日	
		夏季	令和4年8月4日	～5日	
		秋季	令和4年10月13日	～14日	
		冬季	令和5年1月12日	～13日	
底生動物	任意採集 コドラート法	春季	令和4年5月10日	～11日	
		夏季	令和4年8月4日	～5日	
		秋季	令和4年10月13日	～14日	
		冬季	令和5年1月12日	～13日	

注1 哺乳類、一般鳥類、爬虫類、両生類の任意確認、希少猛禽類の定点観察法、営巣地の状況調査は日中に行った。

注2 昆虫類、魚類、底生動物の任意採集は日中に行った。

5-2-4 調査結果

(1) 哺乳類

片平非常口における現地調査において、4目7科7種の哺乳類が確認された（「参考資料 3 動物」参照）。調査結果の概要を、表 5-2-4-1 に示す。調査により確認された重要な哺乳類はなかった。

表 5-2-4-1 哺乳類調査結果の概要（片平非常口）

調査時期	確認種数	確認種
春季	3目6科6種	アズマモグラ、ヒナコウモリ科、ホンドタヌキ、ニホンアナグマ、アライグマ、ハクビシン
夏季	4目7科7種	アズマモグラ、ヒナコウモリ科、ホンドタヌキ、ニホンアナグマ、アライグマ、ハクビシン、アカネズミ
秋季	4目4科4種	アズマモグラ、ホンドタヌキ、アライグマ、ハクビシン
冬季	3目5科5種	アズマモグラ、ホンドタヌキ、アライグマ、ハクビシン、アカネズミ
計	4目7科7種	

(2) 鳥類

片平非常口における現地調査において、14目30科55種の鳥類が確認された（「参考資料 3 動物」参照）。調査結果の概要を、表 5-2-4-2 に示す。調査により確認された重要な鳥類は10目19科28種であった。調査により確認された重要な鳥類とその選定基準を、表 5-2-4-3 に示す。

表 5-2-4-2 鳥類調査結果の概要（片平非常口）

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	11目23科33種	オカヨシガモ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、ゴイサギ、アオサギ、バン、オオバン、ツミ、フクロウ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、カワラバト等
繁殖期	10目23科29種	カルガモ、カイツブリ、キジバト、アオサギ、バン、トビ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、カワラバト等
夏季	9目21科24種	カルガモ、キジバト、ゴイサギ、アオサギ、バン、ホトトギス、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ等
秋季	8目18科25種	カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、ダイサギ、バン、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、エゾビタキ、カワラバト等
冬季	12目26科45種	オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、ヒメアマツバメ、ハイタカ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、リュウキュウサンショウクイ、カワラバト等
計	14目30科55種	

表 5-2-4-3(1) 重要な鳥類確認種一覧（片平非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				⑧	⑪		⑫	⑬	⑭	⑮
					繁殖	非繁殖				
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ					NT	NT	NT
2	ペリカン	サギ	ゴイサギ						VU	VU
3			ダイサギ					NT		
4	ツル	クイナ	バン					VU	VU	VU
5			オオバン					VU		
6	カッコウ	カッコウ	ホトトギス					NT	NT	NT
7	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ		減少			NT	NT	NT
8	タカ	タカ	トビ					NT	NT	NT
9			ツミ		Ⅱ類	希少		VU	NT	NT

表 5-2-4-3(2) 重要な鳥類確認種一覧（片平非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				⑧	⑪		⑫	⑬	⑭	⑮
					繁殖	非繁殖				
10	タカ	タカ	ハイタカ	NT	不足	希少	NT	VU	VU	VU
11			ノスリ		Ⅱ類	希少		VU	VU	VU
12	フクロウ	フクロウ	フクロウ		準絶			EN	EN	EN
13	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ					NT	NT	NT
14	キツツキ	キツツキ	アオゲラ					NT		
15	スズメ	サンショウクイ	リュウキュウサンショウクイ						DD	DD
16		モズ	モズ		減少			NT	NT	NT
17		カラス	オナガ						NT	NT
18		ツバメ	ツバメ		減少					
19		ウグイス	ウグイス					NT		
20		ヨシキリ	オオヨシキリ		Ⅱ類			VU	VU	VU
21		ヒタキ	キビタキ		減少					
22		セキレイ	キセキレイ		減少					
23			セグロセキレイ		減少			NT	NT	NT
24			ビンズイ		Ⅱ類					
25		アトリ	カワラヒワ		減少					
26		ホオジロ	ホオジロ						NT	NT
27			カシラダカ						NT	NT
28			アオジ		Ⅱ類					
計	10 目	19 科	28 種	1 種	14 種	3 種	1 種	17 種	18 種	18 種

注1 分類、配列等は、原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」（平成24年、日本鳥学会）に準拠した。

注2 重要種の選定基準は、以下のとおりである。

⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑪「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）

絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

⑫「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月24日、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑬「レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」（2013年、東京都環境局）：南多摩地域区分における指定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

⑭「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2020年版」（令和3年、東京都環境保全局自然保護部）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

⑮東京都レッドデータブック2023～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～（2023年、東京都環境局）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

(3) 爬虫類

片平非常口における現地調査において、2目6科9種の爬虫類が確認された（「参考資料3 動物」参照）。調査結果の概要を、表5-2-4-4に示す。調査により確認された重要な爬虫類は1目5科8種であった。調査により確認された重要な爬虫類とその選定基準を、表5-2-4-5に示す。

表 5-2-4-4 爬虫類調査結果の概要（片平非常口）

調査時期	確認種数	確認種
春季	2目5科7種	ミシシippアカミミガメ、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、シマヘビ、ヤマカガシ
夏季	2目5科7種	ミシシippアカミミガメ、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ
秋季	2目6科9種	ミシシippアカミミガメ、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、シマヘビ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
計	2目6科9種	

表 5-2-4-5 重要な爬虫類確認種一覧（片平非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				⑧	⑪	⑫	⑬	⑭		⑮	
								南多摩	本土部	南多摩	本土部
1	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ				*1	*2	NT	*3	NT
2		トカゲ	ヒガシニホントカゲ		要注意種		VU	VU	VU	VU	VU
3		カナヘビ	ニホンカナヘビ				NT	NT	VU	NT	VU
4		ナミヘビ	アオダイショウ		要注意種		NT	NT	NT	NT	NT
5			シマヘビ		要注意種		NT	VU	VU	VU	VU
6			ヒバカリ		準絶滅危惧		NT	NT	VU	NT	VU
7			ヤマカガシ		要注意種		VU	EN	VU	EN	VU
8		クサリヘビ	ニホンマムシ		要注意種		CR+EN	CR	EN	CR	EN
計	1目	5科	8種	0種	6種	0種	8種	8種	8種	8種	8種

注1 分類、配列等は、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（平成24年、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注2 重要種の選定基準は、以下のとおりである。

⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑩「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）

絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

⑫「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月24日、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑬「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」（2013年、東京都環境局）：南多摩地域区分における指定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

【留意種とした理由】

*1：北多摩・南多摩・西多摩：急速に都市化が進んでおり、すみかとなる古い家屋などに変化が生じるなどして、本種の生息環境が悪化する可能性があるため。

- ⑭「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2020年版」 (令和3年、東京都環境保全局自然保護部)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

【留意種とした理由】

*2：家屋等の人工的な環境を好んで住むことから、建築物の材質、構造の変化の影響を受けることが考えられる。自然環境の変化だけでなく、古い木造建築等の減少に継続的に注目していく必要があるため。

- ⑮東京都レッドデータブック 2023～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～(2023年、東京都環境局)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

【留意種とした理由】

*3：家屋等の人工的な環境を好んで住むことから、建築物の材質、構造の変化の影響を受けることが考えられる。自然環境の変化だけでなく、古い木造建築等の減少に継続的に注目していく必要があるため。

(4) 両生類

片平非常口における現地調査において、1目4科4種の両生類が確認された（「参考資料3 動物」参照）。調査結果の概要を、表5-2-4-6に示す。調査により確認された重要な両生類は1目4科4種であった。調査により確認された重要な両生類とその選定基準を、表5-2-4-7に示す。

表 5-2-4-6 両生類調査結果の概要（片平非常口）

調査時期	確認種数	確認種
早春季	1目2科2種	アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル
春季	1目3科3種	アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル
夏季	1目3科3種	アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル
秋季	1目1科1種	ヤマアカガエル
計	1目4科4種	

表 5-2-4-7 重要な両生類確認種一覧（片平非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				⑧	⑪	⑫	⑬	⑭		⑮	
								南多摩	本土部	南多摩	本土部
1	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル		要注意種			VU	NT	VU	NT
2		アマガエル	ニホンアマガエル			VU	VU	NT	VU	NT	
3		アカガエル	ヤマアカガエル			EN	EN	VU	EN	VU	
4		アオガエル	シュレーゲルアオガエル		要注意種		VU	VU	NT	VU	NT
計	1目	4科	4種	0種	2種	0種	3種	4種	4種	4種	4種

注1 分類、配列等は、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（平成24年、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注2 重要種の選定基準は、以下のとおりである。

⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑩「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）

絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

⑫「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月24日、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑬「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」（2013年、東京都環境局）：南多摩地域区分における指定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

⑭「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2020年版」（令和3年、東京都環境保全局自然保護部）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

⑮「東京都レッドデータブック2023～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」（2023年、東京都環境局）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

(5) 昆虫類

片平非常口における現地調査において、20目214科735種の昆虫類が確認された（「参考資料3 動物」参照）。調査結果の概要を、表5-2-4-8に示す。調査により確認された重要な昆虫類は8目19科20種であった。調査により確認された重要な昆虫類とその選定基準を、表5-2-4-9に示す。

表 5-2-4-8 昆虫類調査結果の概要（片平非常口）

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	18目139科360種	ヤマトイシノミ、ホンサナエ、ヒゲナガカメムシ、ホシハラビロヘリカメムシ、マルガタゴミムシ、ヒラタハナムグリ、オオハナコメツキ、ヤトセスジジョウカイ、モモプトカミキリモドキ、ヒメスギカミキリ、シナノクロフカミキリ、ヤマイモハムシ、カタアカスギナハバチ、クロムネハバチ、キアシナガバチ、アシプトハナアブ、ベニシジミ、ウスオエダシャク等
夏季	16目149科394種	コシアキトンボ、ハラビロカマキリ、ヒメギス、トノサマバッタ、オオハサミムシ、ニイニイゼミ、ミズギワカメムシ、ホオズキカメムシ、ホシウスバカゲロウ、ナガヒラタムシ、トックリナガゴミムシ、ノコギリクワガタ、クワカミキリ、カブラハバチ、クロスズメバチ、コウカアブ、シリプトミドリバエ、アカイラガ、モンキアゲハ、セスジスズメ等
秋季	16目112科296種	ハグロトンボ、オオカマキリ、ウスイロササキリ、エンマコオロギ、ヤチスズ、ツマグロヨコバイ、アワダチソウグンバイ、ツチカメムシ、ミヤマヒメカゲロウ、キボシアオゴミムシ、センチコガネ、アカマダラセンチコガネ、ヨモギハムシ、アミメアリ、オオスズメバチ、ツマグロキンバエ、ヤマトシジミ本土亜種、オオスカシバ、オオタバコガ等
計	20目214科735種	

表 5-2-4-9(1) 重要な昆虫類確認種一覧（片平非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準								
				⑧	⑪	⑫	⑬		⑭		⑮	
							南多摩	本土部	多摩部	本土部	多摩部	本土部
1	トンボ	イトトンボ	ホソミイトトンボ		情報不足							
2		カワトンボ	ハグロトンボ		要注意種							
3		サナエトンボ	ヤマサナエ		要注意種		VU	EN	VU	VU	VU	VU
4			ホンサナエ		絶滅危惧Ⅱ類		NT	VU	VU	VU	VU	VU
5		ヤンマ	コシボソヤンマ		要注意種		VU	EN	VU	EN	VU	EN
6		エゾトンボ	コヤマトンボ		要注意種		NT	NT	NT	NT	NT	NT
7	バッタ	コオロギ	クマスズムシ				DD	DD				
8		ヒバリモドキ	ヤチスズ				DD	DD				
9		ケラ	ケラ		要注意種							
10		バッタ	ショウリョウバッタモドキ		要注意種		VU	VU				

表 5-2-4-9(2) 重要な昆虫類確認種一覧 (片平非常口)

No.	目名	科名	種名	選定基準								
				⑧	⑪	⑫	⑬		⑭		⑮	
							南多摩	本土部	多摩部	本土部	多摩部	本土部
11	カメムシ	キジラミ	エノキカイガラキジラミ	NT		NT						
12		アメンボ	オオアメンボ		準絶滅危惧			NT	NT	NT	NT	
13		グンバイムシ	ヤブガラシグンバイ		情報不足							
14	アミメカゲロウ	ヘビトンボ	ヤマトクロスジヘビトンボ					NT	NT	NT	NT	
15	コウチュウ	コガネムシ	アカマダラセンチコガネ		準絶滅危惧							
16		タマムシ	ヤマトタマムシ		要注意種			NT	NT	NT	NT	
17		ハムシ	アワクビボソハムシ		準絶滅危惧							
18	ハチ	アリ	トゲアリ	VU		VU						
19	ハエ	クロバエ	シリプトミドリバエ				*1	*1				
20	チョウ	ミノガ	オオミノガ		絶滅危惧Ⅱ類				NT	NT	NT	NT
計	8目	19科	20種	2種	14種	2種	8種	8種	8種	8種	8種	8種

注1 分類、配列等は、原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」(平成7年、環境庁)に準拠した。

注2 重要種のうち、ヤマサナエ、コシボソヤンマ、コヤマトンボ、オオアメンボ、ヤマトクロスジヘビトンボは昆虫綱に属する種であるため、重要な昆虫類として整理を行った。

注3 重要種の選定基準は、以下のとおりである。

⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」(平成24年、環境省)

EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類、CR: 絶滅危惧ⅠA類、EN: 絶滅危惧ⅠB類、VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

⑪「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館)

絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

⑫「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月24日、環境省)

EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類、CR: 絶滅危惧ⅠA類、EN: 絶滅危惧ⅠB類、VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

⑬「レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～」(2013年、東京都環境局): 南多摩地域区分における指定種

EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR: 絶滅危惧ⅠA類、EN: 絶滅危惧ⅠB類、VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、*: 留意種

【留意種とした理由】

*1: 林道整備や河川改修、宅地開発などによる樹林の伐採が進むことにより、生息環境の減少が懸念される。

⑭「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～2020年版」(令和3年、東京都環境保全局自然保護部)

EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類、CR: 絶滅危惧ⅠA類、EN: 絶滅危惧ⅠB類、VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、*: 留意種

⑮「東京都レッドデータブック2023～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～」(2023年、東京都環境局)

EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類、CR: 絶滅危惧ⅠA類、EN: 絶滅危惧ⅠB類、VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、*: 留意種

(6) 魚類

片平非常口における現地調査において、3目5科12種の魚類が確認された（「参考資料 3 動物」参照）。調査結果の概要を、表 5-2-4-10 に示す。調査により確認された重要な魚類は2目3科5種であった。調査により確認された重要な魚類とその選定基準を、表 5-2-4-11 に示す。

表 5-2-4-10 魚類調査結果の概要（片平非常口）

調査時期	確認種数	確認種
春季	2目4科7種	コイ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、ホトケドジョウ、カワヨシノボリ、トウヨシノボリ類
夏季	3目5科7種	コイ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ミナミメダカ、カワヨシノボリ
秋季	3目5科11種	コイ、キンギョ、ギンブナ、オイカワ、アブラハヤ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ミナミメダカ、カワヨシノボリ
冬季	3目5科7種	コイ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ミナミメダカ、カワヨシノボリ
計	3目5科12種	

表 5-2-4-11 重要な魚類確認種一覧（片平非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				⑧	⑪	⑫	⑬	⑭		⑮	
								南多摩	本土部	南多摩	本土部
1	コイ	コイ	ギンブナ					DD	DD	DD	DD
2			オイカワ					DD	DD	DD	DD
3			アブラハヤ		準絶滅危惧		NT	VU	VU	VU	VU
4			フクドジョウ	ホトケドジョウ	EN	絶滅危惧IB類	EN	VU	EN	EN	EN
5	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	VU	絶滅危惧IA類	VU	CR+EN	CR	CR	CR	CR
計	2目	3科	5種	2種	3種	2種	3種	5種	5種	5種	5種

注1 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査 最新版 平成24年度版生物リスト」（平成24年、リバーフロント研究所）に準拠した。

注2 重要種の選定基準は、以下のとおりである。

⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑪「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）

絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

⑫「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月24日、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑬「レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」(2013年、東京都環境局)：南多摩地域区分における指定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、

- NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
- ⑭「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2020年版」 (令和3年、東京都環境保全局自然保護部)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
- ⑮東京都レッドデータブック 2023～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～(2023年、東京都環境局)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

(7) 底生動物

片平非常口における現地調査において、22 目 60 科 104 種の底生動物が確認された（「参考資料 3 動物」参照）。調査結果の概要を、表 5-2-4-12 に示す。調査により確認された重要な底生動物は 1 目 2 科 2 種であった。調査により確認された重要な底生動物とその選定基準を、表 5-2-4-13 に示す。

表 5-2-4-12 底生動物調査結果の概要（片平非常口）

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	17 目 40 科 62 種	カワニナ、シマイシビル、アメリカザリガニ、フタモンコカゲロウ、シロハラコカゲロウ、ウルマーシマトビケラ等
夏季	19 目 39 科 53 種	アメリカツノウズムシ、ヒメタニシ、フタバコカゲロウ、ウデマガリコカゲロウ、アメンボ、コガタシマトビケラ等
秋季	18 目 34 科 45 種	アメリカツノウズムシ、カワニナ、シマイシビル、シナヌマエビ、ウデマガリコカゲロウ、シマアメンボ等
冬季	16 目 38 科 57 種	ヌマビル、スジエビ、サワガニ、フタモンコカゲロウ、シマアメンボ、ナミコガタシマトビケラ、チビヒゲナガハナノミ等
計	22 目 60 科 104 種	

表 5-2-4-13 重要な底生動物確認種一覧（片平非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準								
				⑧	⑪	⑫	⑬		⑭		⑮	
							南多摩	本土部	南多摩	本土部	南多摩	本土部
1	エビ	テナガエビ	スジエビ				*1	*1	*3	*3	*5	*5
2		サワガニ	サワガニ				*2	*2	*4	*4	*6	*6
計	1 目	2 科	2 種	0 種	0 種	0 種	2 種	2 種	2 種	2 種	2 種	2 種

注1 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査 最新版 平成 24 年度版生物リスト」（平成 24 年、リバーフロント研究所）に準拠した。

注2 重要種の選定基準は、以下のとおりである。

⑧「環境省第 4 次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成 24 年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑩「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（平成 18 年、神奈川県立生命の星・地球博物館）
絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足 A、情報不足 B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

⑫「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年 3 月 24 日、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑬「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」(2013 年、東京都環境局)：南多摩地域区分における指定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

【留意種とした理由】

*1：典型的な「中流域に生息するエビ」で、緩やかな流れに水草が育つ良好な河川の指標となるため。

*2：清流にすむカニであるが、低地では生息環境が失われた地域が多く、山間部では樹木の伐採、倒木の放置などにより良好な生息地が狭められつつあるため。

- ⑭「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2020年版」 (令和3年、東京都環境保全局自然保護部)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類、CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、
VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、*:留意種
【留意種とした理由】
*3:淡水の止水域を代表する種で、東京都においては、自然の生息環境が狭められているため
*4:清流にすむカニで、東京都で見られるのはほとんどが紫黒色である。山地では森林の伐採と木材の
放置、低地では丘陵地における宅地化で生息適地が奪われているため
- ⑮東京都レッドデータブック 2023～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～(2023年、東京都環境局)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類、CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、
VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、*:留意種
【留意種とした理由】
*5:淡水の止水域を代表する種で、東京都においては、自然の生息環境が狭められているため
*6:清流にすむカニで、東京都で見られるのはほとんどが紫黒色である。山地では森林の伐採と木材の
放置、低地では丘陵地における宅地化で生息適地が奪われているため

5-3 植物（片平）

「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成 26 年 11 月」において調査の対象とした植物について、工事の実施に係る重要な種及び注目すべき生育地の状況を確認した。

5-3-1 調査方法

調査方法は、表 5-3-1-1 に示す方法、現地確認及び工事関係等の資料の整理とした。なお、生育が確認された種の内、表 5-3-1-2 に示す基準に該当するものを重要な種として選定した。

表 5-3-1-1 植物の調査方法

調査項目	調査方法	
高等植物に係る植物相	任意確認	調査地域内を任意に踏査し、確認された種を記録した。調査の対象はシダ植物以上の高等植物とし、現地での同定が困難な種は標本を持ち帰り、室内で同定を行った。
高等植物に係る植生	コドラート法	植生、土地の利用の状況によって区分された植物群落について、方形枠（コドラート）を設定し、植生の状況を調査した。調査した植生はブロン-ブランケ法により、その特徴の把握を行った。

表 5-3-1-2(1) 高等植物に係る重要な種及び群落の選定基準

番号	文献及び法令名	区分
①	文化財保護法（昭和 25 年、法律第 214 号）	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年、法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
③	自然環境保全法（昭和 47 年、法律第 85 号）	○：指定の地域
④	東京都における自然の保護と回復に関する条例（平成 12 年、東京都条例第 26 号）	希少：東京都希少野生動植物種
⑤	東京都文化財保護条例（昭和 51 年、東京都条例第 25 号） 町田市文化財保護条例（昭和 52 年、町田市条例第 30 号）	都：都指定天然記念物 市町村：市町村指定天然記念物
⑥	環境省第 4 次レッドリスト 植物 I（維管束植物）（平成 24 年、環境省）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑦	東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～（2010 年版、東京都環境局）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 *：留意種
⑧	第 4 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査報告書 関東版 II（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）（1991、環境庁）	指定：掲載されている巨樹、巨木
⑨	第 2 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 南関東版（埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都）（1980、環境庁） 第 3 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 II 南関東版（埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都）（1988、環境庁） 第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書（2000、環境庁）	指定：指定されている特定植物群落
⑩	植物群落レッドデータ・ブック（平成 8 年、我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会）	1：要注意 2：破壊の危惧 3：対策必要 4：緊急に対策が必要
⑪	神奈川県文化財保護条例（昭和 30 年、神奈川県条例第 13 号） 川崎市文化財保護条例（昭和 34 年、川崎市条例第 24 号）	県天：県指定天然記念物 市天：市指定天然記念物

表 5-3-1-2(2) 高等植物に係る重要な種及び群落の選定基準

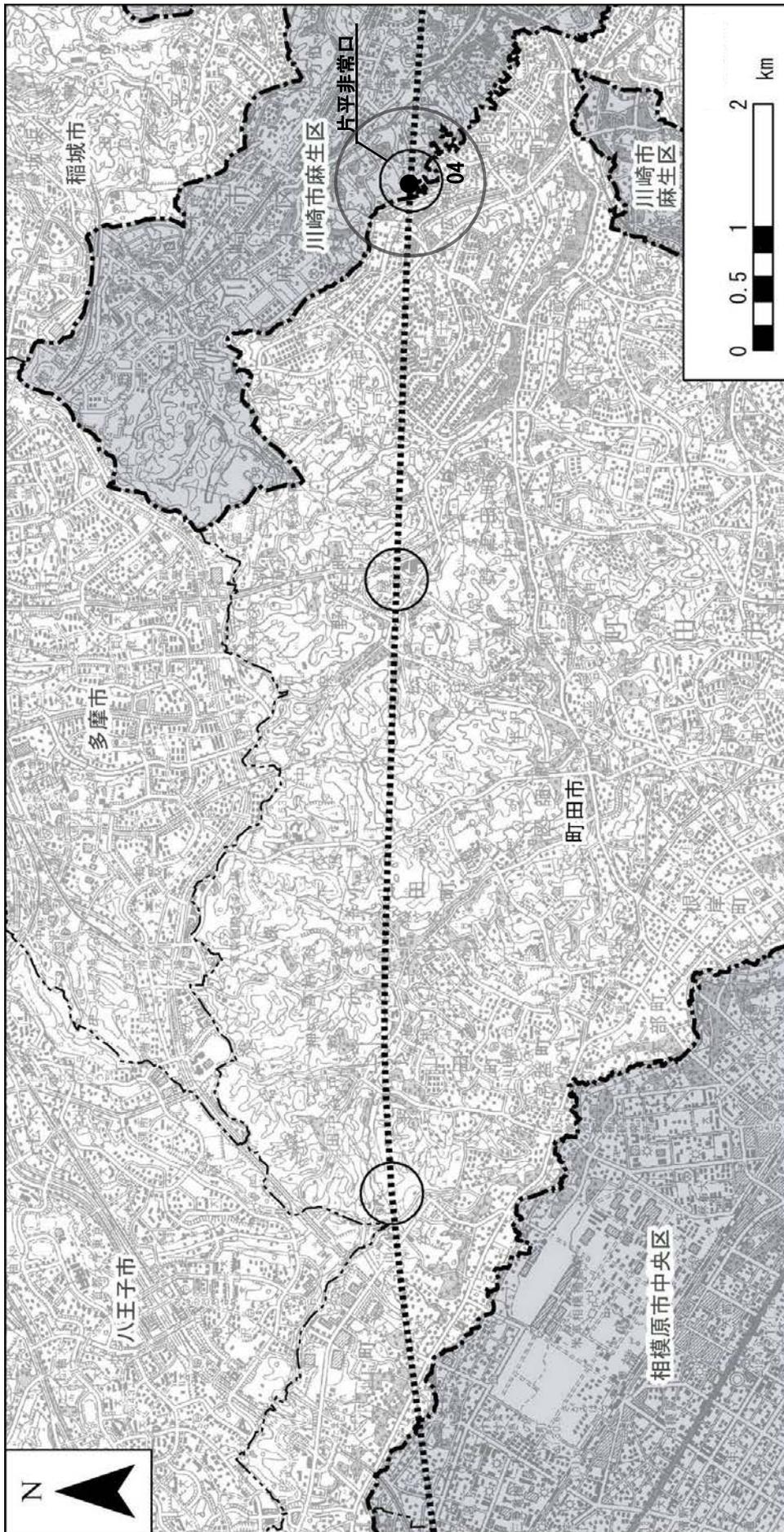
番号	文献及び法令名	区分
⑫	神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006(平成 18 年、神奈川県立生命の星・地球博物館)	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧Ⅰ類 絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類 絶滅危惧Ⅱ類 準絶滅危惧 減少種 希少種 要注意種 注目種 情報不足 情報不足 A 情報不足 B 不明種 絶滅のおそれのある地球個体群
⑬	環境省レッドリスト 2020 維管束植物 (令和 2 年、環境省)	EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類 CR: 絶滅危惧ⅠA類 EN: 絶滅危惧ⅠB類 VU: 絶滅危惧Ⅱ類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群
⑭	レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版～ (2013 年, 東京都環境局)	EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧ⅠA類 EN: 絶滅危惧ⅠB類 VU: 絶滅危惧Ⅱ類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 *: 留意種
⑮	東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 2020 年版 (2021 年 4 月公表) : 南多摩地域区分における指定種	EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧ⅠA類 EN: 絶滅危惧ⅠB類 VU: 絶滅危惧Ⅱ類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 *: 留意種
⑯	神奈川県レッドデータブック 2022 植物編 (2022 年、神奈川県)	EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧ⅠA類 EN: 絶滅危惧ⅠB類 VU: 絶滅危惧Ⅱ類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足
⑰	東京都レッドデータブック 2023～東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版～ (2023 年、東京都環境局)	EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類 CR: 絶滅危惧ⅠA類 EN: 絶滅危惧ⅠB類 VU: 絶滅危惧Ⅱ類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 *: 留意種

注 評価書【東京都】作成時の選定基準である⑥、⑦、⑫の改訂版として⑬、⑭と⑮、⑯、⑰を追加した。

5-3-2 調査地域

調査地域を、図 5-3-2-1 に示す。

なお、調査は非常口から半径約 600m の範囲において実施した。



凡例

..... 計画路線(トンネル部)

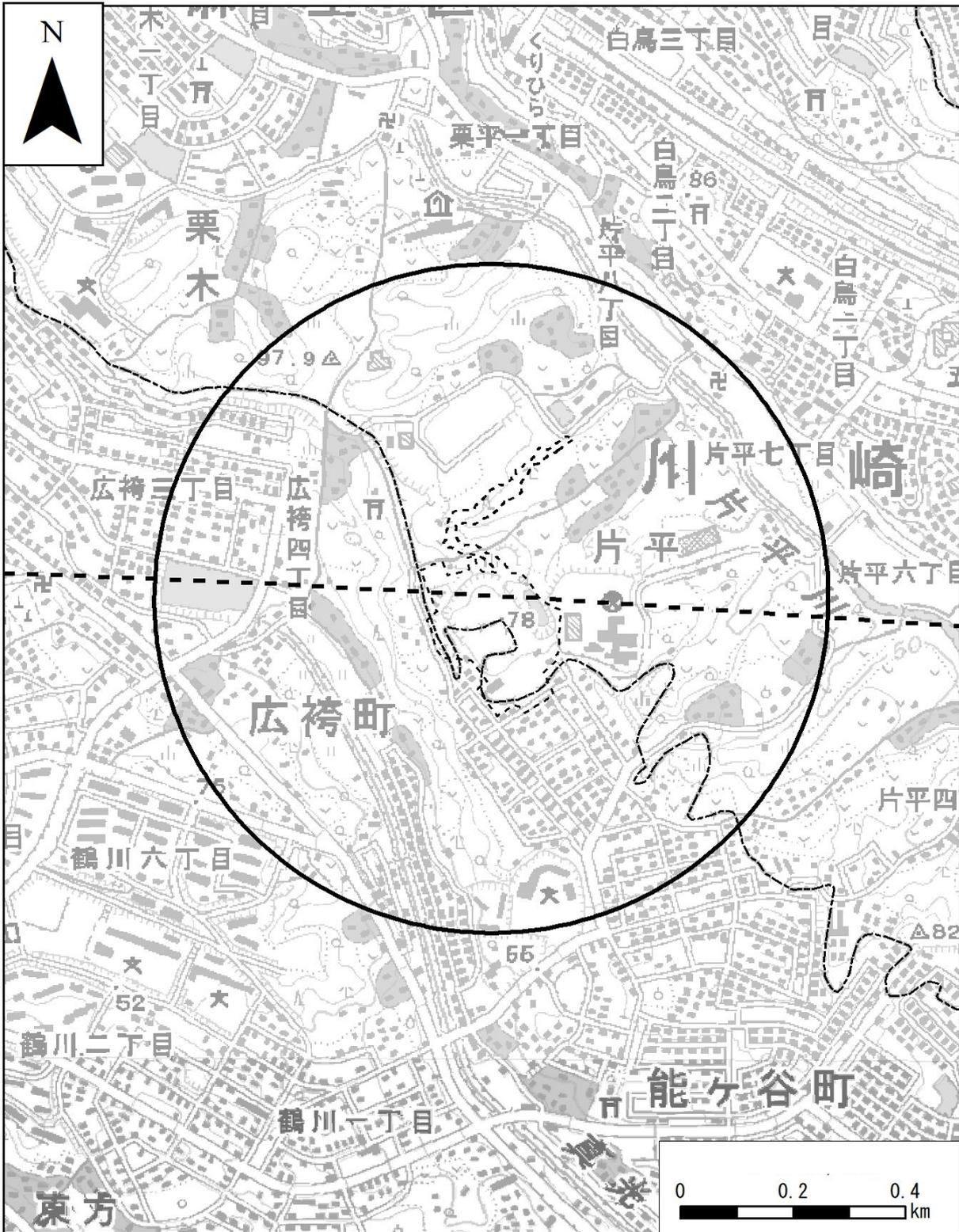
○ 調査地域(植物)

--- 都県境

※本調査は04地点で実施した。

- - - 区市境

図 5-3-2-1(1) 調査地域(植物)



凡例

- 計画路線(トンネル部) - - - - 変更区域
- · — 都県境
- · - · 区市境
- 調査地域

図 5-3-2-1(2) 調査地点 (片平非常口)

5-3-3 調査期間

調査期間を、表 5-3-3-1 及び表 5-3-3-2 に示す。

表 5-3-3-1 調査時期等

調査項目	調査時期
高等植物に係る植物相	4 季（早春季、春季、夏季、秋季）
高等植物に係る植生	2 季（夏季、秋季）

表 5-3-3-2 調査期間等

調査項目	調査実施日
高等植物に係る植物相	早春季 令和 4 年 4 月 5 日～ 6 日
	春季 令和 4 年 5 月 16 日～17 日
	夏季 令和 4 年 8 月 8 日～ 9 日
	秋季 令和 4 年 10 月 17 日～18 日
高等植物に係る植生	夏季 令和 4 年 7 月 4 日
	秋季 令和 4 年 10 月 28 日

5-3-4 調査結果

(1) 高等植物に係る植物相の状況

片平非常口における現地調査において、127 科 744 種の高等植物が確認された（「参考資料 4 植物」参照）。調査の結果を、表 5-3-4-1 に示す。調査地域の主な生育環境は、雑木林、植林等の樹林、ススキなどの草地、河川や調整池等の水辺、畑地、水田等の耕作地、住宅地等の市街地が挙げられる。調査の結果概要を、表 5-3-4-2 に示す。

表 5-3-4-1 高等植物に係る植物相の調査結果（片平非常口）

分類			調査時期								合計	
			早春季		春季		夏季		秋季			
			科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シダ植物			12	33	10	38	11	38	12	46	13	55
種子植物	裸子植物		3	4	3	3	4	4	3	3	5	6
	被子植物	双子葉植物	45	164	61	228	59	207	65	235	68	310
		離弁花類	18	84	23	120	22	111	23	125	26	174
	単子葉植物		11	63	13	124	14	118	14	131	15	199
合計			89	348	110	513	110	478	117	540	127	744

注1 分類、配列等は「自然環境保全基礎調査 植物目録 1987」環境庁（1987）に準拠した。

注2 各季節において重複して確認されている種が含まれていることから、科数及び種数の合計は季節毎の確認数の合計と一致しない。

表 5-3-4-2 高等植物に係る植物相事後調査結果の概要（片平非常口）

主な生育環境	主な確認種
樹林	ベニシダ、オクマワラビ、イノデ、ミゾシダ、スギ、ヒノキ、イヌシデ、クヌギ、シラカシ、コナラ、ムクノキ、エノキ、アケビ、ドクダミ、ヒサカキ、ウワミズザクラ、フジ、アカメガシワ、サンショウ、アオキ、ミズキ、キツタ、エゴノキ、ムラサキシキブ、ナガバハエドクソウ、ウグイスカグラ、ホウチャクソウ、ヤブラン、ナガバジャノヒゲ、ケチヂミザサマダケ、アズマネザサ、シュロ等
草地	ワラビ、イヌワラビ、ヒナタイノコズチ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、ヤブカンゾウ、ツユクサ、チガヤ、オギ、ススキ、セイバンモロコシ、アオスゲ等
水辺	ヤナギタデ、ミゾソバ、オランダガラシ、アメリカセンダングサ、キショウブ、クサヨシ、ヨシ、ツルヨシ等
耕作地	スギナ、ザクロソウ、コハコベ、タネツケバナ、コニシキソウ、ホトケノザ、アメリカアゼナ、コセンダングサ、ハキダメギク、スズメノテッポウ、メヒシバ、イヌビエ、アキノエノコログサ、コゴメガヤツリ等
市街地	アレチギシギシ、コハコベ、ゴウシュウアリタソウ、オッタチカタバミ、コニシキソウ、コセンダングサ、ノボロギク、セイタカアワダチソウ、オニノゲシ、メヒシバ、シマスズメノヒエ、エノコログサ等

1) 高等植物に係る重要な種の確認状況

片平非常口における現地調査において、確認された高等植物に係る重要な種は 18 科 29 種であった。調査で確認された高等植物に係る重要な種を、表 5-3-4-3 に示す。

表 5-3-4-3 高等植物に係る重要な種確認一覧（片平非常口）

No.	科名	種名	選定基準							
			⑥	⑦	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
1	ハナヤスリ科	コヒロハハナヤスリ		VU	NT		VU	VU	NT	VU
2	オシダ科	トウゴクシダ		NT			NT	NT		NT
3		ナライシダ		VU			VU	NT		NT
4		ナンゴクナライシダ		VU			VU	NT		NT
5	イラクサ科	ミズ		NT			NT	NT		NT
6	キンポウゲ科	ニリンソウ						NT		NT
7	メギ科	イカリソウ		VU			VU	EN		EN
8	ウマノスズクサ科	タマノカンアオイ	VU	VU	VU	VU	VU	VU	VU	VU
9	ユキノシタ科	チダケサシ		NT			NT			
10	トウダイグサ科	ニシキソウ		VU			VU	NT		NT
11	ヒメハギ科	ヒメハギ						VU		VU
12	アワゴケ科	ミズハコベ		EN			EN	EN		EN
13	ゴマノハグサ科	コシオガマ						VU		VU
14	キキョウ科	キキョウ	VU	CR	CR	VU	CR	CR	EN	CR
15	キク科	オケラ						NT		NT
16	ユリ科	アマドコロ		NT			NT	NT		NT
17	イネ科	ミズタカモジグサ	VU	VU		VU	VU	VU		VU
18		セトガヤ		NT			NT	VU		VU
19		ムツオレグサ		NT			NT	VU		VU
20		エゾノサヤヌカグサ		NT			NT	NT		NT
21	サトイモ科	ショウブ		NT			NT	NT		NT
22	カヤツリグサ科	ホソバヒカゲスゲ		NT			NT	NT		NT
23		ミコシガヤ						VU		VU
24		クロテンツキ		VU			VU	VU		VU
25	ラン科	エビネ	NT	VU	VU	NT	VU	NT	NT	NT
26		ギンラン		VU			VU	VU		VU
27		キンラン	VU	VU	VU	VU	VU	NT	NT	NT
28		ササバギンラン		NT			NT	NT		NT
29		コ克蘭		NT			NT	NT		NT
計	18 科	29 種	5 種	24 種	5 種	5 種	24 種	28 種	5 種	28 種

注1 分類、配列等は「自然環境保全基礎調査 植物目録 1987」環境庁（1987）に準拠した。

注2 高等植物に係る重要な種の選定基準は以下のとおりである。

⑥「環境省第4次レッドリスト 植物Ⅰ（維管束植物）」（2012年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑦「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～」（2010年版、東京都環境局）：南多摩地域区分における指定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

⑫「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）

絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、
減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

- ⑬「環境省レッドリスト 2020 維管束植物」(令和2年、環境省)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類、CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、
VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑭「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～」(2013年、
東京都環境局):南多摩地域区分における指定種
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、
NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、*:留意種
- ⑮「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」(2021年4月22日公表):南多摩地域
区分における指定種
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、
NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、*:留意種
- ⑯「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」(2022年、神奈川県)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、
NT:準絶滅危惧、DD:情報不足
- ⑰「東京都レッドデータブック 2023～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～」(2023年、東
京都環境局)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類、CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、
VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、*:留意種

(2) 高等植物に係る植生

1) 高等植物に係る群落及び土地利用の状況

片平非常口における調査において、合計 21 の高等植物に係る群落等が確認された。調査の結果概要を、表 5-3-4-4 及び図 5-3-4-1 に示す。

表 5-3-4-4(1) 高等植物に係る群落及び土地利用の概要 (片平非常口)

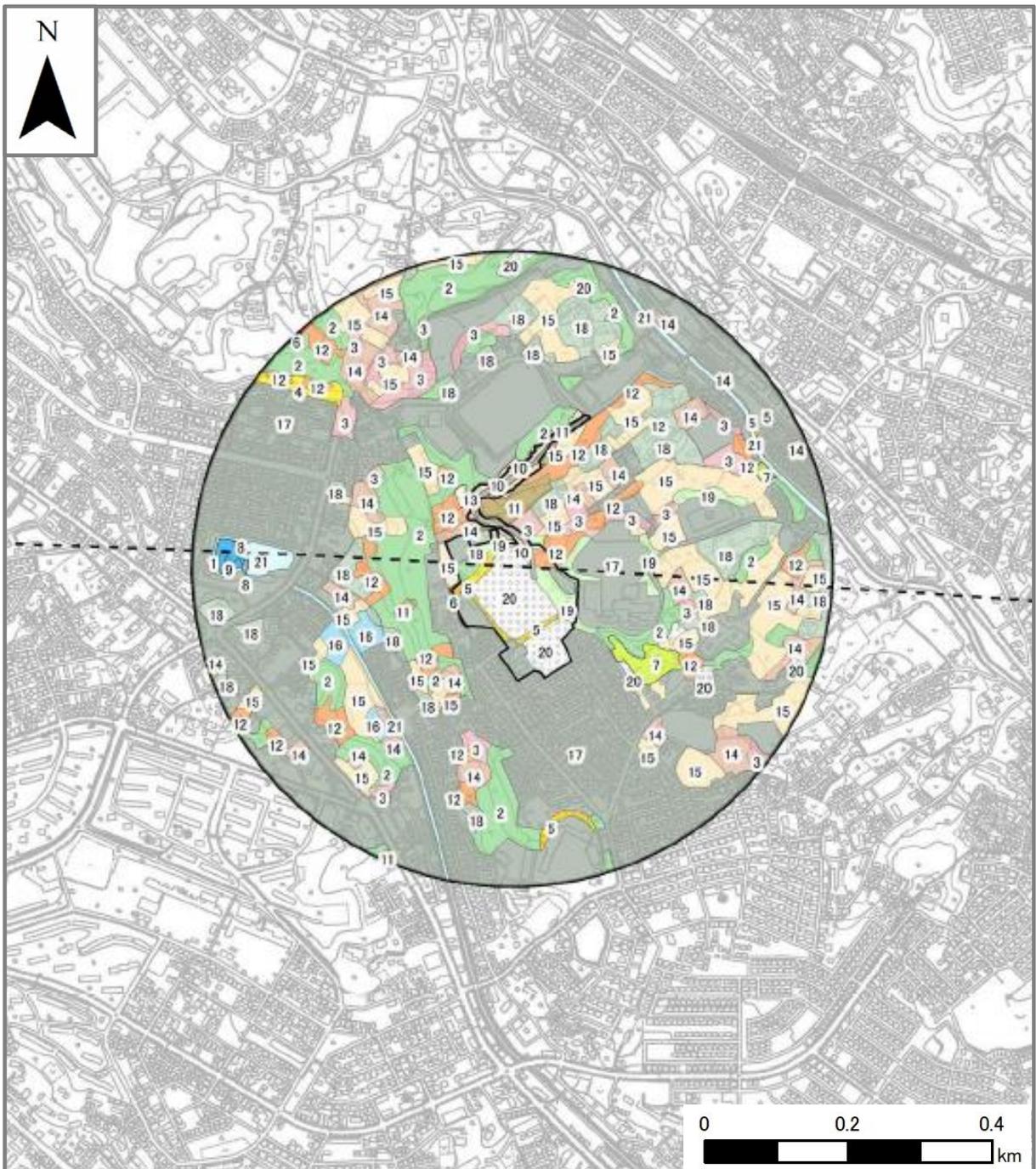
No.	名称	概要
1	タチヤナギ群集	湿った立地に成立する、タチヤナギが優占する低木性の落葉広葉樹林である。評価書【東京都】時にヨシ群落だった広袴公園の調整池内に小面積で分布しており、今回新たに確認された群落であった。
2	コナラ群落	暖温帯域の代表的な落葉広葉樹二次林で、かつては薪炭、堆肥作り等に利用されていた。近年は管理されていない林分が多く、マダケ等の竹類の混生や林床にアズマネザサが繁茂する林分が多い。わずかではあるが、積極的に林床管理を行っている林分も見られた。調査地域では市街地以外に点在していた。
3	クズ群落	つる植物のクズ、カナムグラ、ヤブガラシ等が繁茂する群落で、アズマネザサやススキ、セイタカアワダチソウなどの高茎草本の上部を覆っていることが多い。調査地域では、伐採跡地や放棄耕作地、草刈り頻度が低い造成法面などに分布していた。
4	ススキ群団 (VII)	造成法面に成立する、ススキが優占する高茎草本群落である。定期的な刈り取り管理をしている植分と考えられるが、評価書【東京都】時よりも減少し、一部はクズ群落やセイバンモロコシ群落へと変わったほか、造成されて市街地となった場所も多かった。
5	チガヤーススキ群落	チガヤが優占する低～中茎の草本群落である。頻繁に草刈り管理がされた立地に成立しており、土手草地や休耕地に小面積で分布していた。
6	セイタカアワダチソウ群落	北アメリカ原産の多年草であるセイタカアワダチソウが優占する高茎草本群落である。今回新たに確認され、草刈り等の管理がされていない造成地に成立していた。
7	セイバンモロコシ群落	地中海地方のヨーロッパや中東原産の多年草であるセイバンモロコシが優占する高茎草本群落である。今回新たに確認された群落であり、評価書【東京都】時には神奈川県内の他の地区でも未確認の群落であった。休耕地と評価書【東京都】時にススキ群落や人工裸地・造成地だった場所に成立していた。
8	ヒメガマ群落	浅い水中に成立する、ヒメガマが優占する高茎草本群落で、広袴公園の調整池内に分布していた。構成種はヒメガマしかなく、評価書【東京都】時よりも減少しており、一部はヨシ群落に遷移していた。
9	ヨシ群落	水湿地に成立する、ヨシが優占する高茎草本群落で、広袴公園の調整池内に分布していた。評価書【東京都】時にヨシ群落だった場所の一部は、タチヤナギ群集へと遷移していた。
10	ヨモギ・メドハギ群落	今回新たに確認された、ヨモギが優占する中～高茎の草本群落である。造成された工所用道路の法面に成立しており、道路沿いに帯状に分布していた。植被率は比較的高かったが、ヨモギ以外の出現種はクズやシバなどわずかであり、構成種は比較的貧弱であった。
11	スギ・ヒノキ・サワラ植林	常緑針葉樹のスギもしくはヒノキが植栽された植林である。もともと調査地域には分布が少なく、評価書【東京都】時以降に伐採された一部の地点では、クズ群落となっていた。
12	竹林	マダケ、モウソウチク、ハチクが密生する植林である。調査地域の集落周辺に広く点在しており、管理されていない林分が多かった。林床には植栽されたタケ類の落ち葉が堆積しており、構成種が比較的貧弱な林分であった。

注1 群落名は「自然環境保全基礎調査(環境省)・統一凡例」に準拠し、本調査にて確認した群落のみを抜粋した。

表 5-3-4-4(2) 高等植物に係る群落及び土地利用の概要（片平非常口）

No.	名称	概要
13	メヒシバーエノコログサ群落	今回新たに確認された、一年草のメヒシバが優占する低～中茎の草本群落である。休耕地に成立しており、イヌタデやコセンダングサ、アオミズなどの一年草が多く混生していた。畑雑草群落と共通する構成種が多く見られた。
14	果樹園	クリ、ウメ、カキノキ、モモ等が植林されており、小面積ではあるが、古くからの集落周辺を中心に広く点在していた。
15	畑雑草群落	耕作中の畑地に分布する、一年草がまばらに生える低茎の草本群落である。調査地域では、古くからの集落の周辺を中心にやや広い面積で点在していた。
16	水田雑草群落	耕作中の水田に分布する湿性の低茎草本群落である。調査地域では、真光寺川沿いの耕作地に小面積でわずかに点在していた。
17	市街地	住宅地、ビル、人工構造物、道路が卓越する区域。
18	緑の多い住宅地	植栽樹群や草地を含む植被が混在する住宅地。古くからの集落内に点在していた。
19	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	ソメイヨシノやオオシマザクラなどが植栽された植林地をもった公園や墓地などである。相観や構成種は、植林地の規模や管理の程度、植栽木の種類などにより様々であり、土地利用上の区分として扱った。
20	造成地	無植生の人為的な裸地や造成地。
21	開放水面	河川や調整池内の無植生な水面。

注1 群落名は「自然環境保全基礎調査（環境省）・統一凡例」に準拠し、本調査にて確認した群落のみを抜粋した。



凡例

-  計画路線(トンネル部)
-  調査地域
-  工事範囲

図 5-3-4-1 植生図 (片平非常口)

凡例

-  1 タチヤナギ群集
-  2 コナラ群落
-  3 クズ群落
-  4 ススキ群団(VII)
-  5 チガヤーススキ群落
-  6 セイタカアワダチソウ群落(外来種二次草原)
-  7 セイバンモロコシ群落(外来種二次草原)
-  8 ヒメガマ群落
-  9 ヨシ群落
-  10 ヨモギーメドハギ群落
-  11 スギ・ヒノキ・サワラ植林
-  12 竹林
-  13 メヒシバーエノコログサ群落(路傍・空地雑草群落)
-  14 果樹園
-  15 畑雑草群落
-  16 水田雑草群落
-  17 市街地
-  18 緑の多い住宅地
-  19 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
-  20 造成地
-  21 開放水面

2) 高等植物に係る重要な群落の確認状況

事後調査において、高等植物に係る重要な群落は確認されなかった。

5-4 生態系

「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成 26 年 11 月」において調査の対象とした生態系について、工事の実施に係る地域を特徴づける生態系として選定した注目種等のハビタット（生息・生育環境）への影響を確認した。

5-4-1 調査方法

調査方法は、注目種等のハビタット（生息・生育環境）の確認、現地確認及び工事関係等の資料の整理とする。

5-4-2 調査地点

調査地点を、図 5-4-2-1 に示す。



凡例

■■■■ 計画路線(トンネル部)

—— 都県境

----- 区市境

○ 調査地域

■ 里地・里山の生態系

■ 市街地の生態系

※本調査は01、02、03地点で実施した。

図 5-4-2-1 調査地域 (生態系)

5-4-3 調査期間

調査期間は、工事の実施に係る地域を特徴づける生態系の注目種等のハビタット（生息・生育環境）への影響が最大となるおそれがある時期の確認に適した時期を基本とし、各地点における動物、植物調査期間である表 5-4-3-1 の調査期間中に実施した。

表 5-4-3-1 調査期間等

地点番号 (調査地域)	調査期日	備考
01	令和4年4月～ 令和5年1月	動物・植物の調査期間
02	平成29年12月～ 平成31年1月	動物・植物の調査期間
03	令和元年12月～ 令和3年1月	動物・植物の調査期間

5-4-4 調査結果

調査結果は、以下に示すとおりである。

(1) 選定した注目種等のハビタット（生息・生育環境）の状況

a) オオタカの本ビタット（生息環境）の状況

オオタカの本ビタットへの直接的影響の程度を、表 5-4-4-1に示す。なお、希少種の保護の観点から、調査結果等の一部については非公開とした。

表 5-4-4-1 オオタカの本ビタットへの直接的影響の程度（Aペア・Bペア）

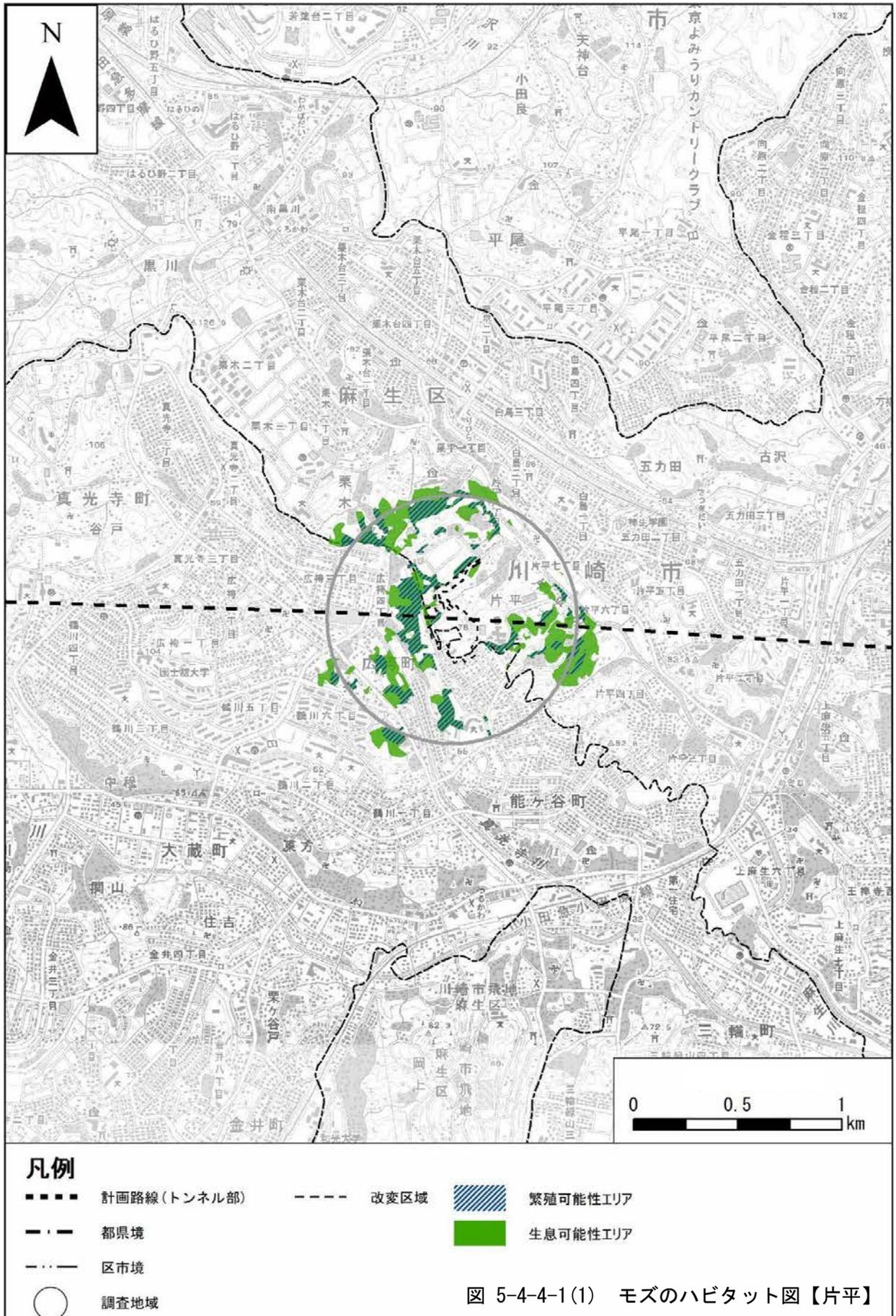
	A：調査地域及びその周辺のハビタット面積(ha)	B：改変したハビタット面積(ha)	B/A (%)	記事
営巣エリア	9.2	0.0	0.0	Aペア
	19.3	0.0	0.0	Bペア
繁殖エリア	137.0	0.0	0.0	Aペア
	137.4	0.3	0.2	Bペア
生息エリア	451.6	1.3	0.3	Aペア
	144.0	2.8	1.9	Bペア

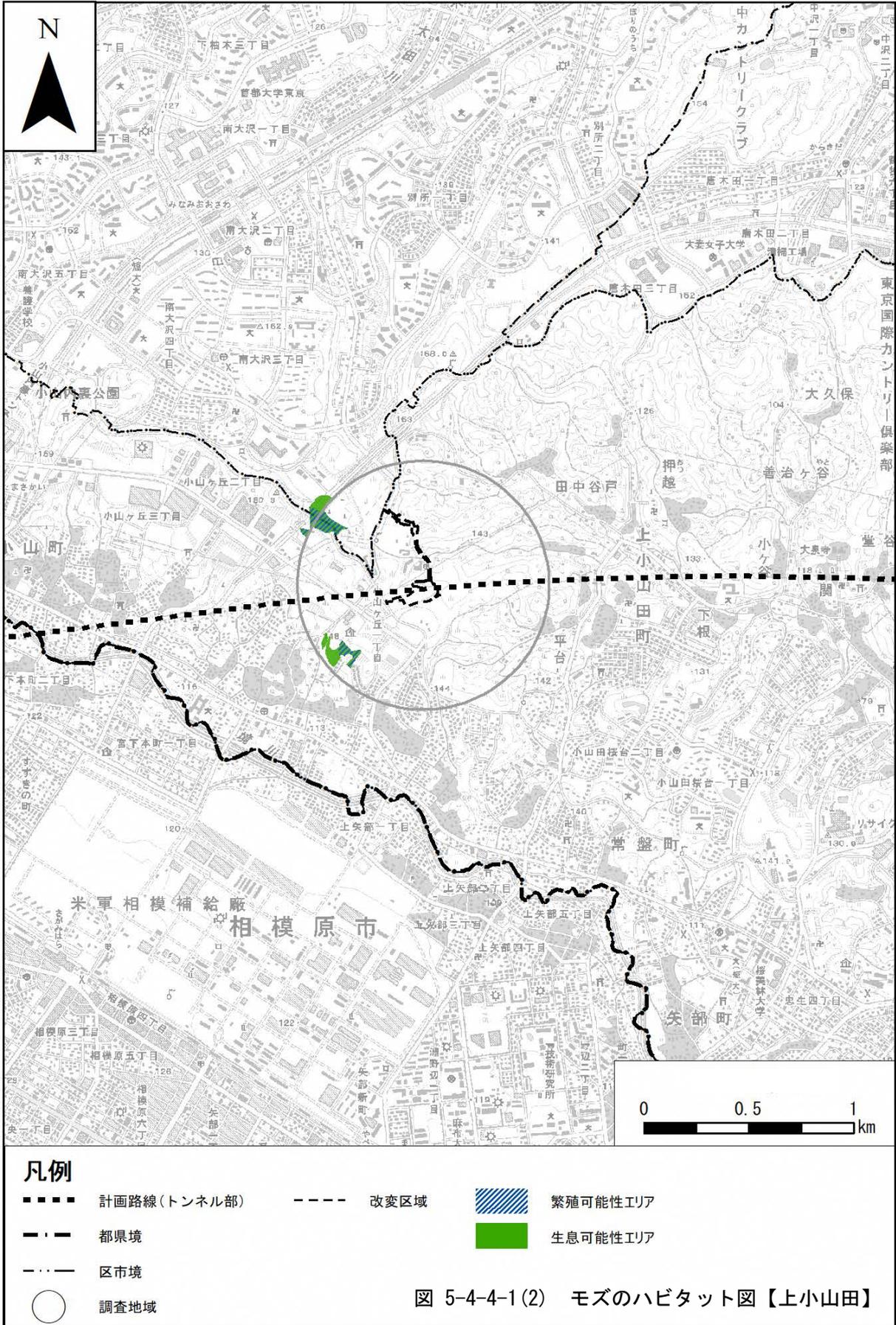
b) モズのハビタット（生息環境）の状況

市街地の生態系におけるモズの推定ハビタット図を、図 5-4-4-1に示す。また、モズのハビタットへの直接的影響の程度を、表 5-4-4-2に示す。

表 5-4-4-2 モズのハビタットへの直接的影響の程度

	A：調査地域及びその 周辺のハビタット 面積 (ha)	B：改変したハビタッ ト面積 (ha)	B/A (%)	記事
繁殖可能性エリア	16.7	0.2	1.2	
生息可能性エリア	36.0	0.2	0.6	





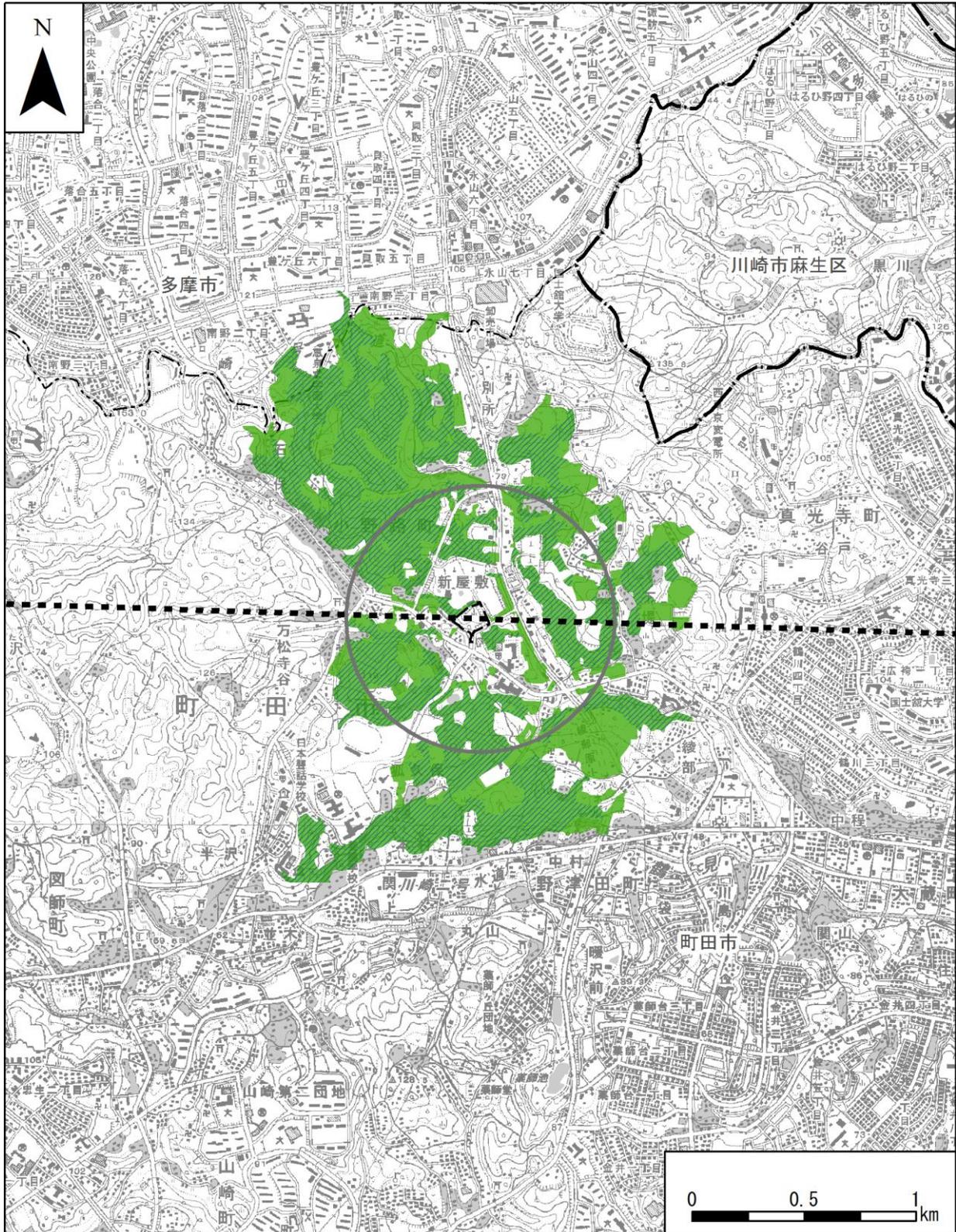
c) ホンドタヌキのハビタット（生息環境）の状況

里地・里山の生態系におけるホンドタヌキの推定ハビタット図を、図 5-4-4-2に示す。

また、ホンドタヌキのハビタットへの直接的影響の程度を、表 5-4-4-3に示す。

表 5-4-4-3 ホンドタヌキのハビタットへの直接的影響の程度

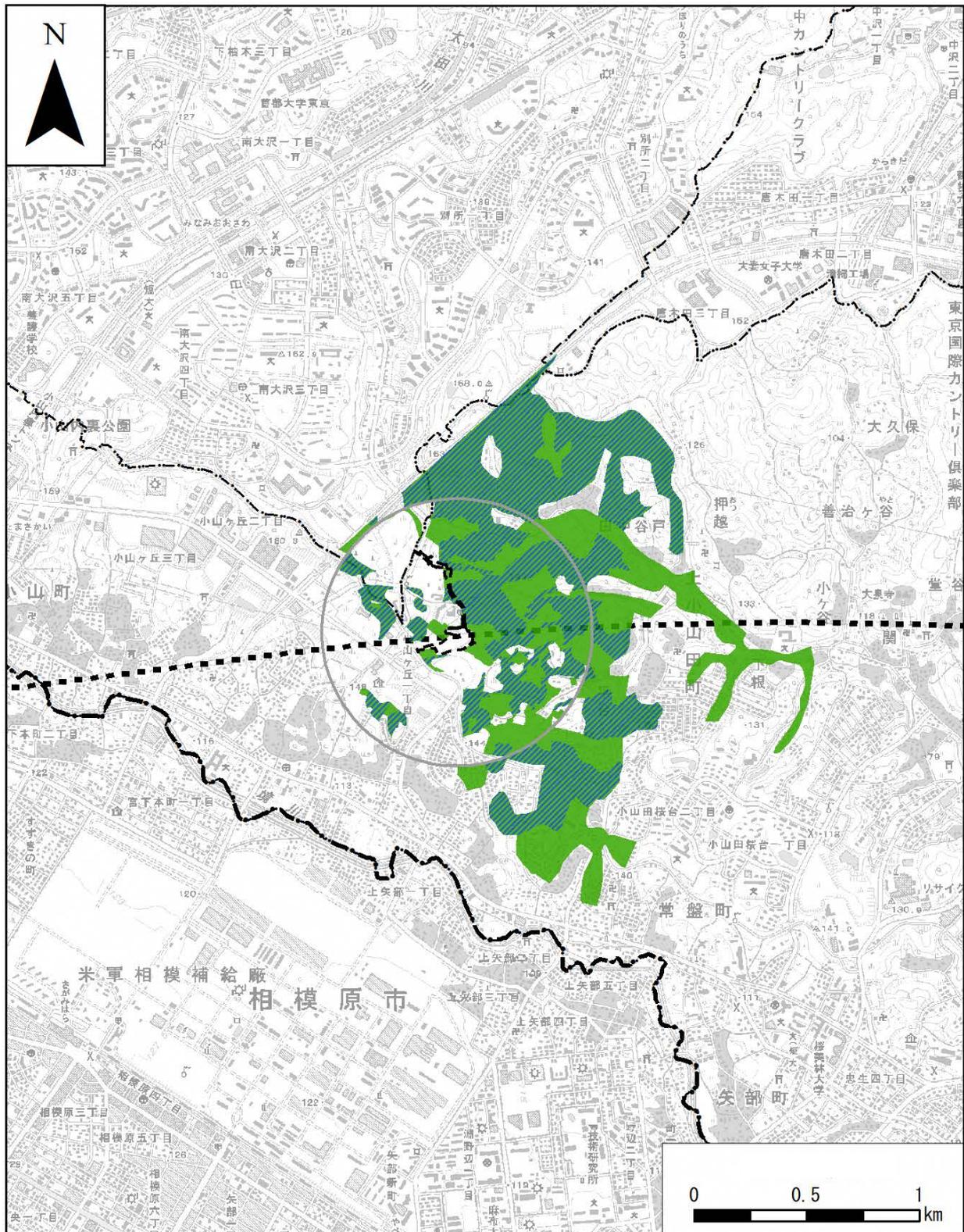
	A：調査地域及びその 周辺のハビタット 面積 (ha)	B：改変したハビタッ ト面積 (ha)	B/A (%)	記事
繁殖可能性エリア	233.5	1.1	0.5	
生息可能性エリア	491.5	1.7	0.3	



凡例

- | | | | | | |
|---------|-------------|---|------|---|----------|
| ■■■■ | 計画路線(トンネル部) | ---- | 工事範囲 |  | 繁殖可能性エリア |
| — — — | 都県境 |  | | | 生息可能性エリア |
| - - - - | 区市境 | | | | |
| ○ | 調査地域 | | | | |

図 5-4-4-2(1) ホンドタヌキのハビタット図【小野路】



凡例

■■■■	計画路線(トンネル部)	-----	変更区域		繁殖可能性エリア
-.-.-	都県境				生息可能性エリア
-.-.-	区市境				
○	調査地域				

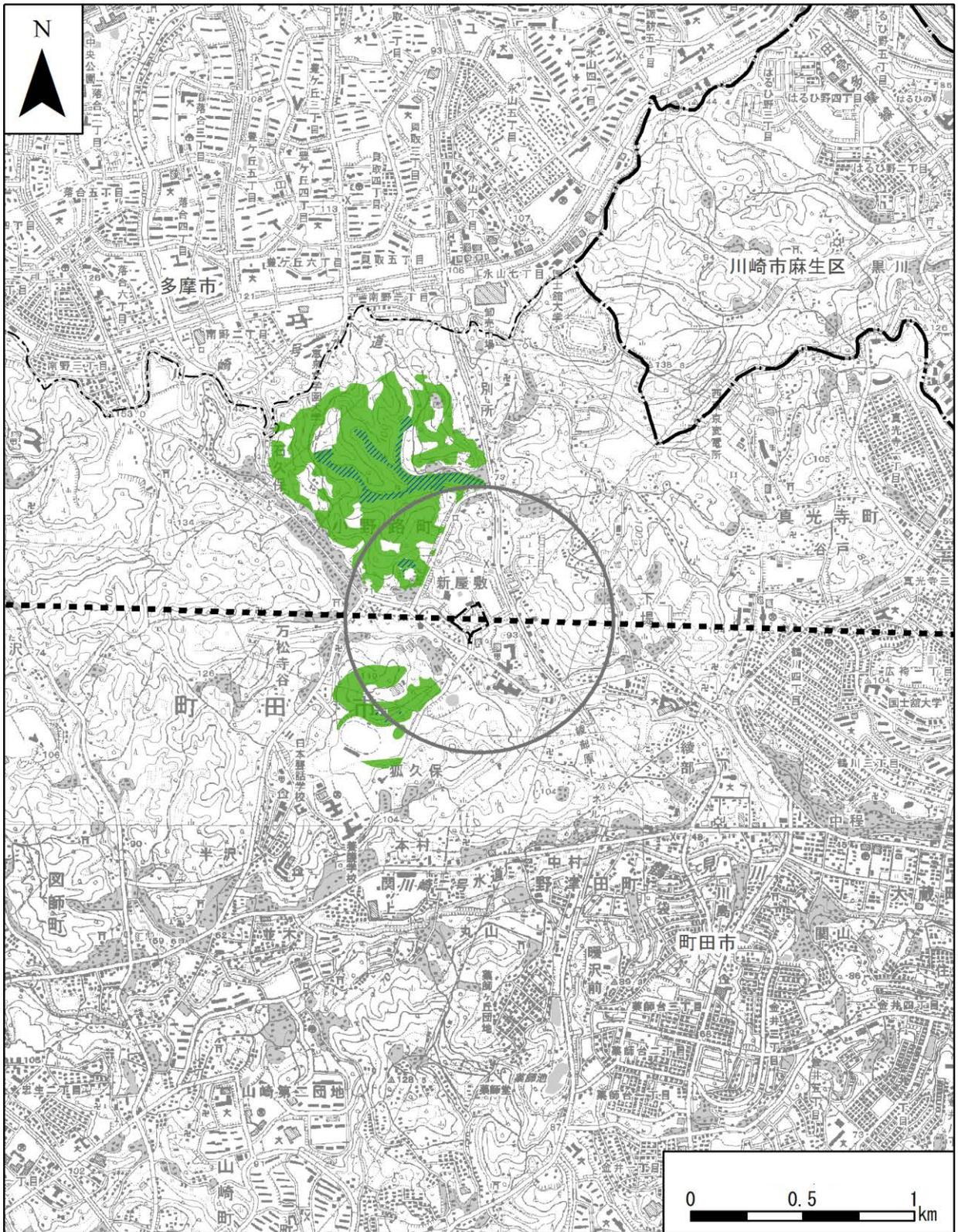
図 5-4-4-2 (2) ホンドタヌキのハビタット図【上小山田】

d) ヤマアカガエルのハビタット（生息環境）の状況

里地・里山の生態系におけるヤマアカガエルの推定ハビタット図を、図 5-4-4-3に示す。また、ヤマアカガエルのハビタットへの直接的影響の程度を、表 5-4-4-4に示す。

表 5-4-4-4 ヤマアカガエルのハビタットへの直接的影響の程度

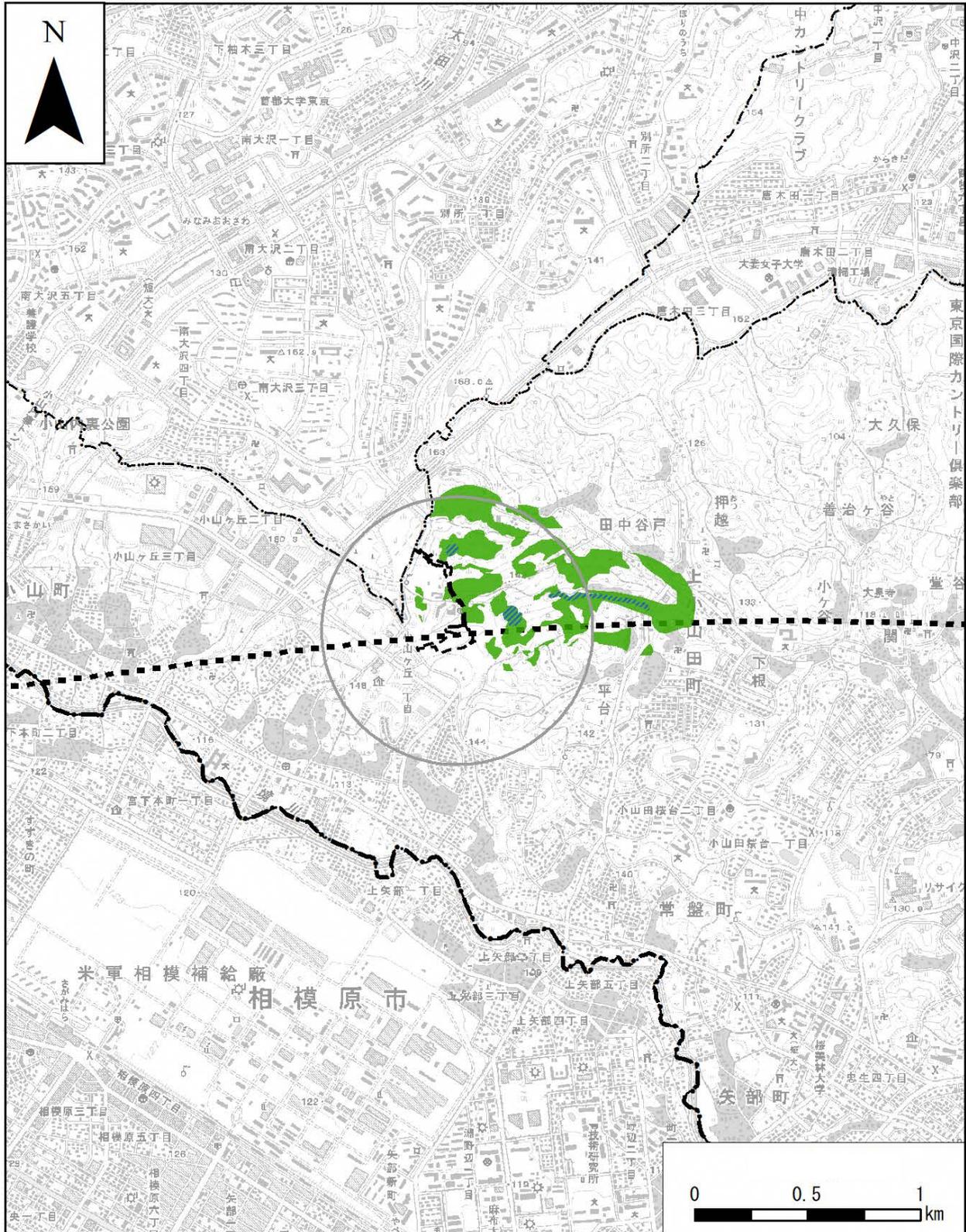
	A：調査地域及びその 周辺のハビタット 面積 (ha)	B：改変したハビタッ ト面積 (ha)	B/A (%)	記事
繁殖可能性エリア	7.8	0.0	0.0	
生息可能性エリア	90.9	0.2	0.2	



凡例

- 計画路線(トンネル部) - - - 工事範囲 繁殖可能性エリア
- — — 都県境 生息可能性エリア
- · — · 区市境
- 調査地域

図 5-4-4-3(1) ヤマアカガエルのハビタット図【小野路】



凡例

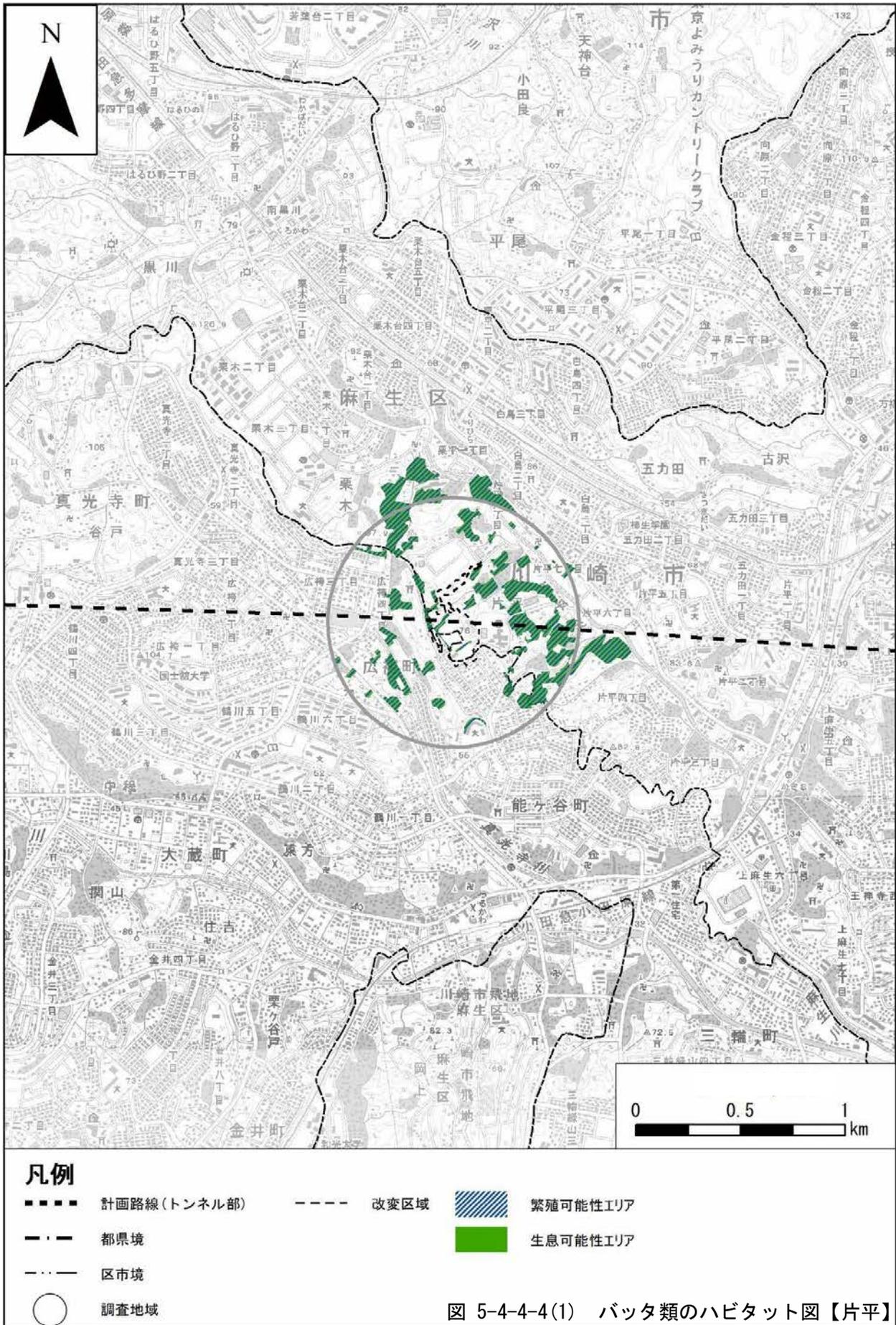
-
- 計画路線(トンネル部)
 改変区域
 繁殖可能性エリア
 生息可能性エリア
- 都県境
 区市境
- 調査地域

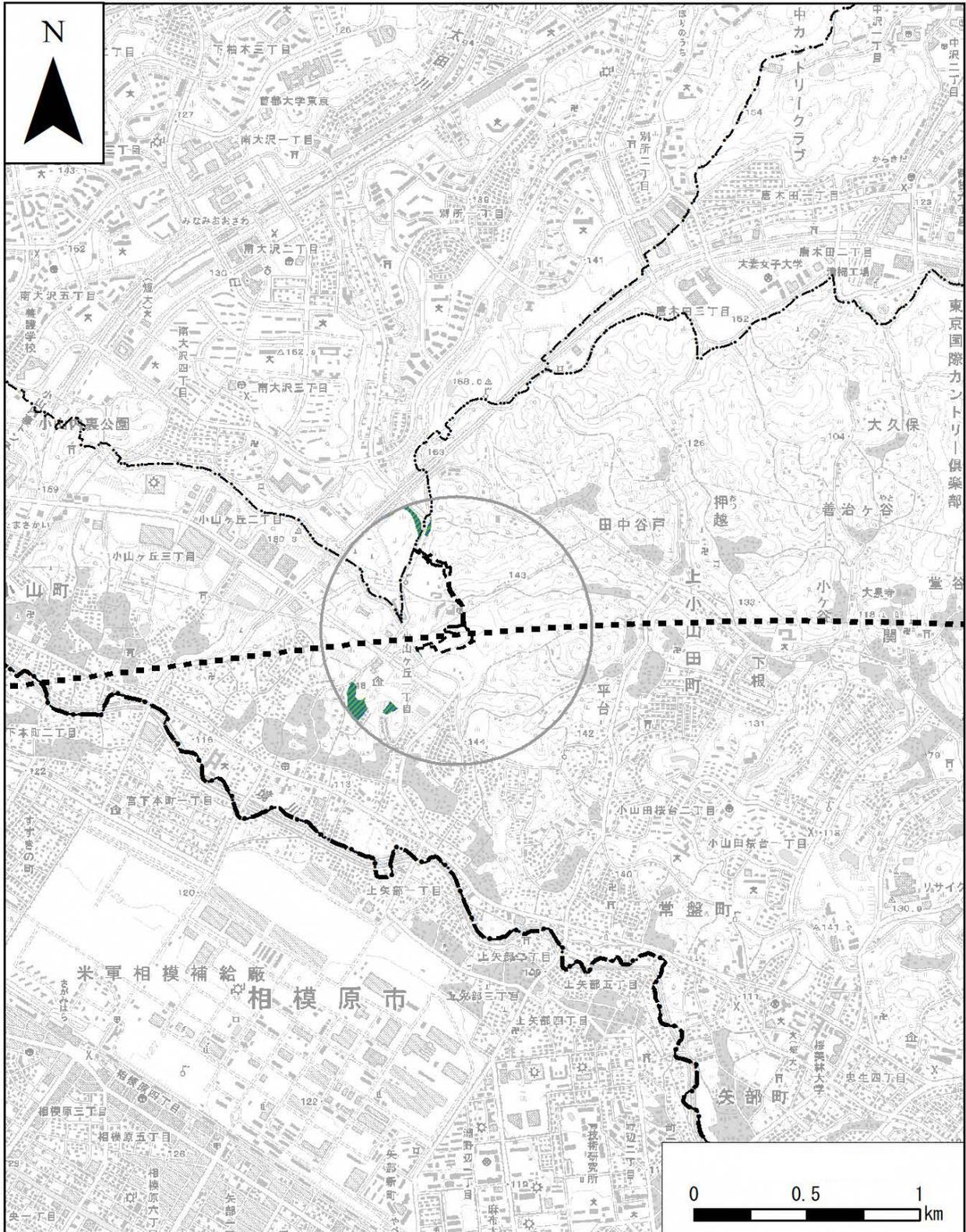
図 5-4-4-3(2) ヤマアマガエルのハビタット図【上小山田】

- e) バッタ類（ショウヨウバッタトビキ、オガサキ）のハビタット（生息環境）の状況
 市街地の生態系におけるバッタ類の推定ハビタット図を、図 5-4-4-4に示す。また、
 バッタ類のハビタットへの直接的影響の程度を、表 5-4-4-5に示す。

表 5-4-4-5 バッタ類のハビタットへの直接的影響の程度

	A：調査地域及びその 周辺のハビタット 面積 (ha)	B：改変したハビタッ ト面積 (ha)	B/A (%)	記事
繁殖可能性エリア	27.3	0.4	1.5	





凡例

-
- 計画路線(トンネル部)
 改変区域
 繁殖可能性エリア
 生息可能性エリア
- 都県境
- 区市境
- 調査地域

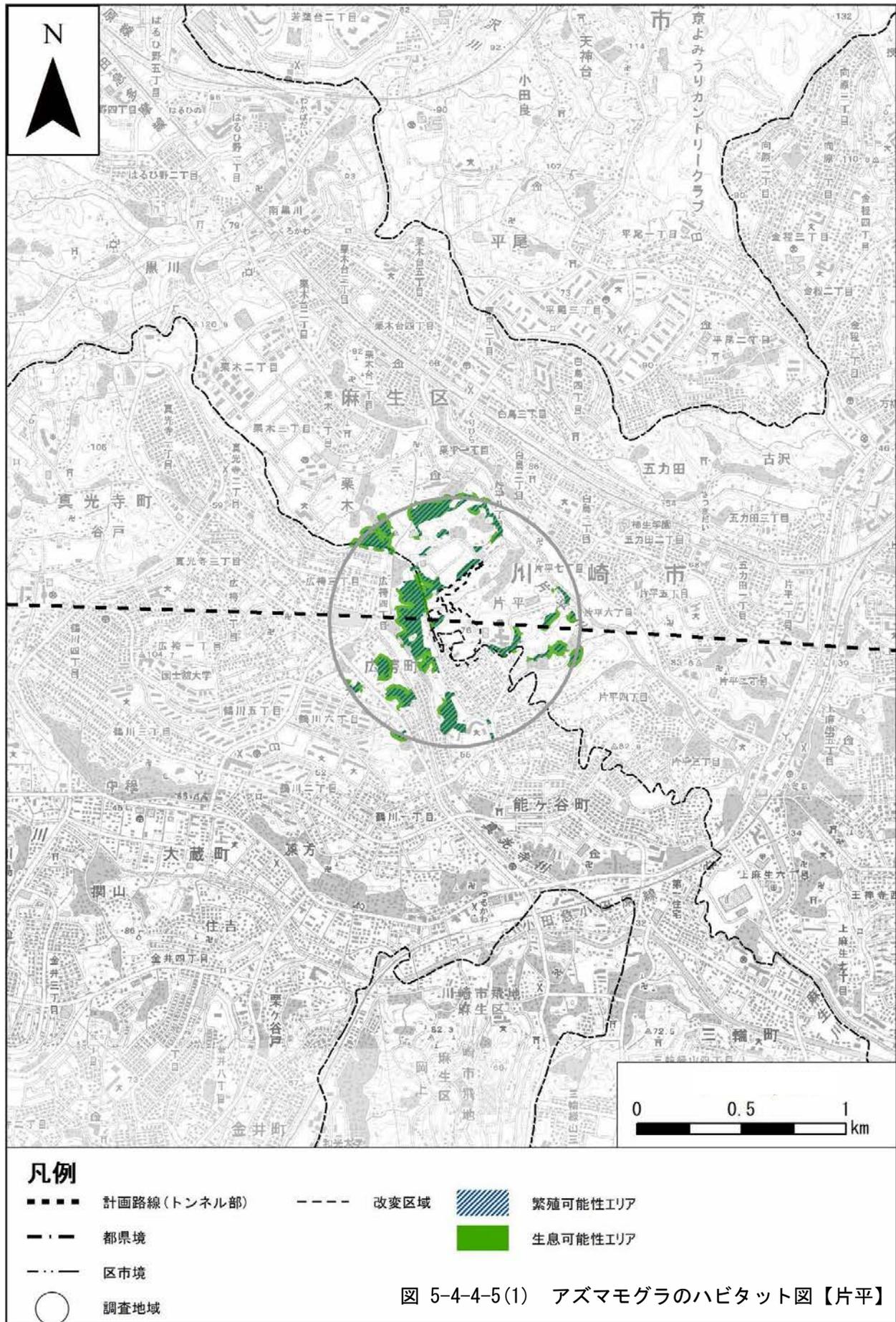
図 5-4-4-4(2) バッタ類のハビタット図【上山田】

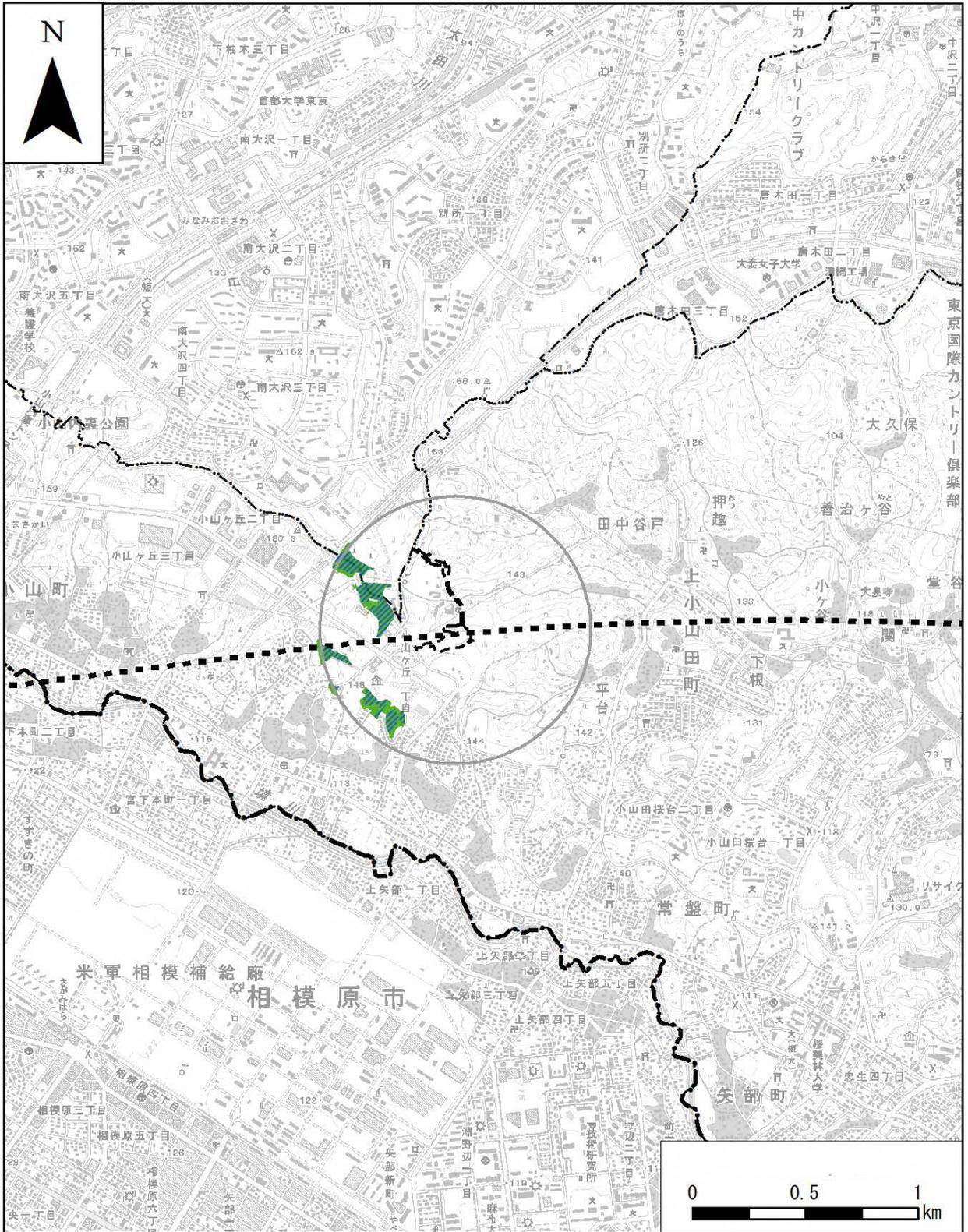
f) アズマモグラのハビタット（生息環境）の状況

市街地の生態系におけるアズマモグラの推定ハビタット図を、図 5-4-4-5に示す。また、アズマモグラのハビタットへの直接的影響の程度を、表 5-4-4-6に示す。

表 5-4-4-6 アズマモグラのハビタットへの直接的影響の程度

	A：調査地域及びその 周辺のハビタット 面積 (ha)	B：改変したハビタッ ト面積 (ha)	B/A (%)	記事
繁殖可能性エリア	18.0	0.2	1.1	
生息可能性エリア	25.4	0.2	0.8	





凡例

-
- 計画路線(トンネル部)
 変更区域
 繁殖可能性エリア
 生息可能性エリア
- 都県境
 区市境
 調査地域

図 5-4-4-5(2) アズマモグラの生息可能性図【上小山田】

g) クヌギ-コナラ群集のハビタット（生育環境）の状況

里地・里山の生態系におけるクヌギ-コナラ群集（植物）の推定ハビタット図を、図5-4-4-6に示す。また、クヌギ-コナラ群集（植物）のハビタットへの直接的影響の程度を、表5-4-4-7に示す。

表5-4-4-7 クヌギ-コナラ群集のハビタットへの直接的影響の程度

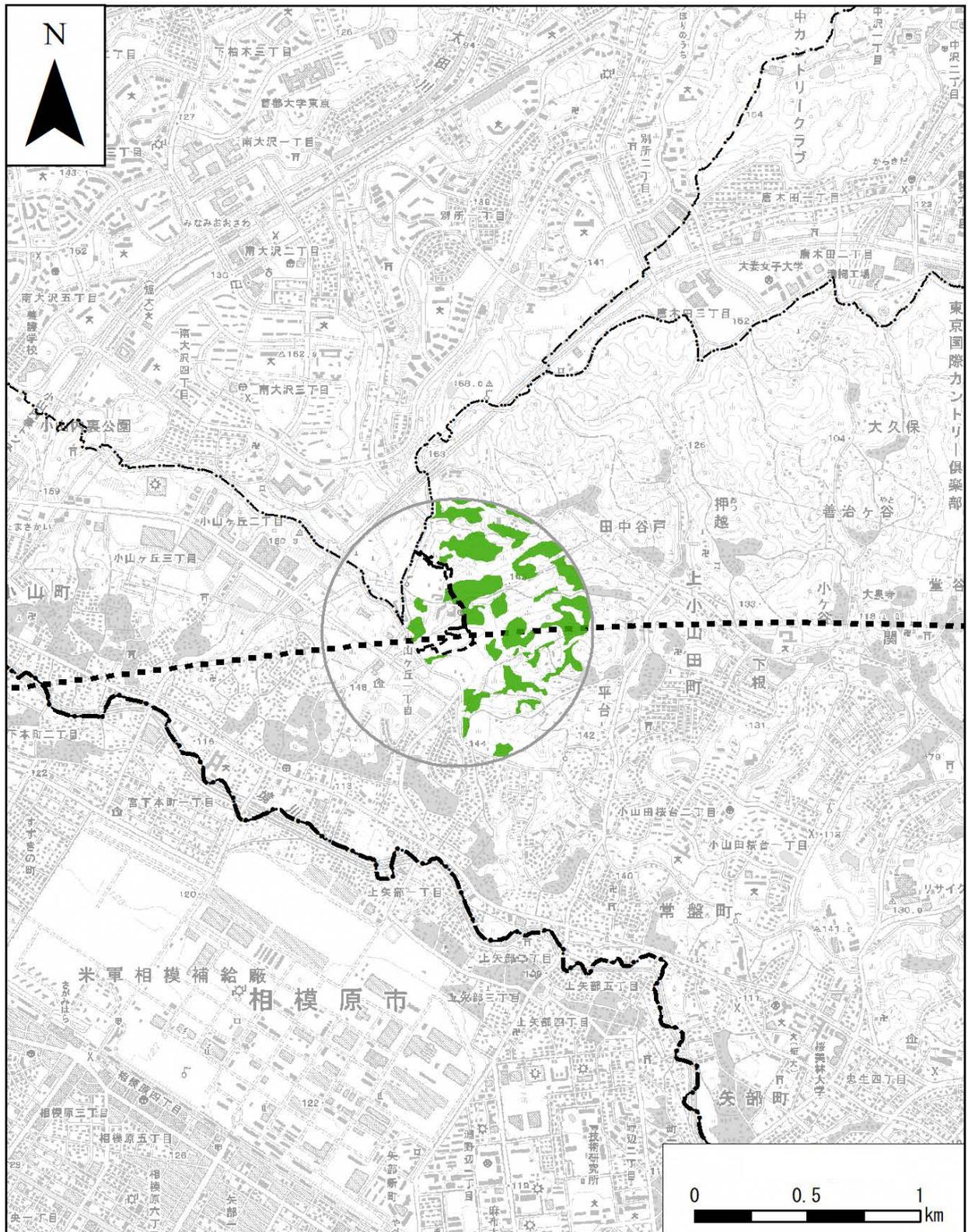
	A：調査地域のハビタット面積 (ha)	B：改変したハビタット面積 (ha)	B/A (%)	記事
生育エリア	56.4	1.1	2.0	



凡例

- 計画路線(トンネル部) - - - 工事範囲 ■■■ 生育エリア
- — — 都県境
- - - 区市境
- 調査地域

図 5-4-4-6 (1) クヌギコナラ群集のハビタット図【小野路】



凡例

- 計画路線(トンネル部) - - - - 変更区域 ■■■■ 生育エリア
- 都県境
- 区市境
- 調査地域

図 5-4-4-6 (2) クヌギコナラ群集のハビタット図【上小山田】

6 工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績

6-1 廃棄物等

工事の実施に伴う、建設発生土及び建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況は、次のとおりである。

6-1-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う、廃棄物等の状況（建設発生土及び建設廃棄物）とした。

6-1-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績やマニフェスト等による確認とした。

6-1-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、令和4年度に廃棄物等が発生した品川駅、第一首都圏トンネル（北品川工区）、目黒川変電所、東雪谷非常口、片平非常口、第一首都圏トンネル（小野路工区）及び上小山田非常口とした。

6-1-4 集計期間

集計期間は、令和4年度と集計した。

6-1-5 集計結果

集計結果を、表 6-1-5-1 に示すとおりである。

表 6-1-5-1(1) 建設発生土の発生量

主な副産物の種類	発生量
建設発生土 ^注	151,287m ³

注：建設発生土は、ほぐし土量である。

表 6-1-5-1(2) 建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況

主な副産物の種類	発生量	再資源化等の量 ^{注1}	再資源化等の率 ^{注2}	
建設廃棄物	建設汚泥	55,546m ³	55,546m ³	100%
	コンクリート塊	3,464m ³	3,438m ³	99%
	アスファルト・コンクリート塊	541m ³	534m ³	99%
	建設発生木材	562t	562t	100%

注1 「再資源化等の量」の定義は以下の通りとする。

・コンクリート塊及びアスファルト・コンクリート塊：再資源化された量と工事間利用された量の合計

・建設汚泥、建設発生木材：再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計

なお、再資源化された量、再資源化及び縮減された量は、運搬先の施設ごとに、発生量にその施設における項目ごとの「再資源化された割合」、「再資源化及び縮減された割合」の実績値を乗じて推計した。

注2 「再資源化等の率」はそれぞれの項目について「再資源化等の量」を「発生量」で除した値（再資源化率または再資源化・縮減率）を示す。

6-2 温室効果ガス

工事の実施に伴う、温室効果ガスの排出の状況は、次のとおりである。

6-2-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う温室効果ガスの排出の状況とした。

6-2-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績や電力会社発行の使用明細等による確認とし、二酸化炭素（CO₂）換算で算出した。

6-2-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、令和4年度に工事を実施した品川駅、第一首都圏トンネル（北品川工区）、目黒川変電所、東雪谷非常口、片平非常口、第一首都圏トンネル（小野路工区）及び上小山田非常口とした。

6-2-4 集計期間

集計期間は、令和4年度とした。

6-2-5 集計結果

集計結果を、表 6-2-5-1 に示すとおりである。

表 6-2-5-1 温室効果ガス（CO₂換算）排出量の状況

区分		温室効果ガス（CO ₂ 換算）排出量		
		小計	行為別合計	
建設機械の稼働	燃料消費（CO ₂ ）	3,225	7,027	
	燃料消費（N ₂ O）	24		
	電力消費（CO ₂ ）	3,778		
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	CO ₂	2,501	2,515	
	CH ₄	1		
	N ₂ O	13		
建設資材の使用	CO ₂	44,780	44,780	
廃棄物の発生	焼却	CO ₂	48	49
		N ₂ O	1	
	埋立	CH ₄	0	
CO ₂ 換算排出量の合計			54,371	

注：四捨五入して「0」となった場合は「0」と記載した。

7 業務の委託先

環境調査等に係る一部の業務は、表 7-1 に示す者に委託して実施した。なお、委託した業務の内、東京都においては、主にパシフィックコンサルタンツ株式会社が担当した。

表 7-1 事後調査及びモニタリングに係る業務の委託先

名称	代表者の氏名	主たる事務所の所在地
ジェイアール東海 コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 岩田 眞	愛知県名古屋市中村区 名駅五丁目 33 番 10 号
アジア航測株式会社	代表取締役社長 畠山 仁	東京都新宿区 西新宿六丁目 14 番 1 号
パシフィック コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 大本 修	東京都千代田区 神田錦町三丁目 22 番地
国際航業株式会社	代表取締役社長 土方 聡	東京都新宿区北新宿二丁目 21 番 1 号
株式会社 トーニチコンサルタント	代表取締役社長 横井 輝明	東京都渋谷区 本町一丁目 13 番 3 号
株式会社 復建エンジニアリング	代表取締役社長 川村 栄一郎	東京都中央区 日本橋堀留町一丁目 11 番 12 号

注：令和 5 年 6 月時点の情報

上記のほか、工事中の環境調査等に係る業務の内、工事の実施に関わる一部の測定は、表 7-2 に示す工事請負業者が実施した。なお、小野路非常口及び上小山田非常口については、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構に工事を委託している。

表 7-2 測定を実施した工事請負業者

主な実施箇所	工事請負業者の名称
品川駅	中央新幹線品川駅新設（北工区）工事共同企業体
	中央新幹線品川駅新設（南工区）工事共同企業体
	株式会社安藤・間
目黒川変電所	中央新幹線北品川非常口及び変電施設（地下部）新設工事共同企業体
東雪谷非常口	中央新幹線東雪谷非常口新設工事共同企業体
上小山田非常口	戸田・りんかい日産 中央新幹線、上小山田非常口特定建設工事共同企業体
第一首都圏トンネル	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（北品川工区）工事共同企業体
	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（小野路工区）工事共同企業体

参考資料 1：事業の実施状況

1-1 トンネルの施工状況

令和4年度までの工事の実施箇所におけるトンネル（立坑を含む）の施工状況を、以下に示す。

北品川非常口^{注1}について、立坑（約90m）が令和元年度に完成した。

第一首都圏トンネルについて、調査掘進としてトンネル（北品川非常口～等々力非常口）を約50m掘進した。

東雪谷非常口^{注1}について、立坑（約90m）の掘削が令和3年度に完了した。その後、躯体構築を2割程度（約10m）施工した。

小野路非常口^{注2}について、立坑（約80m）が令和2年度に完成した。

上小山田非常口^{注2}について、立坑を7割程度（約80m）掘削・沈設した。

注1：地中連続壁工法

注2：ニューマチックケーソン工法

1-2 建設発生土の主な搬出先と土量

令和4年度の各工事実施箇所における建設発生土の主な搬出先と土量を、以下に示す。

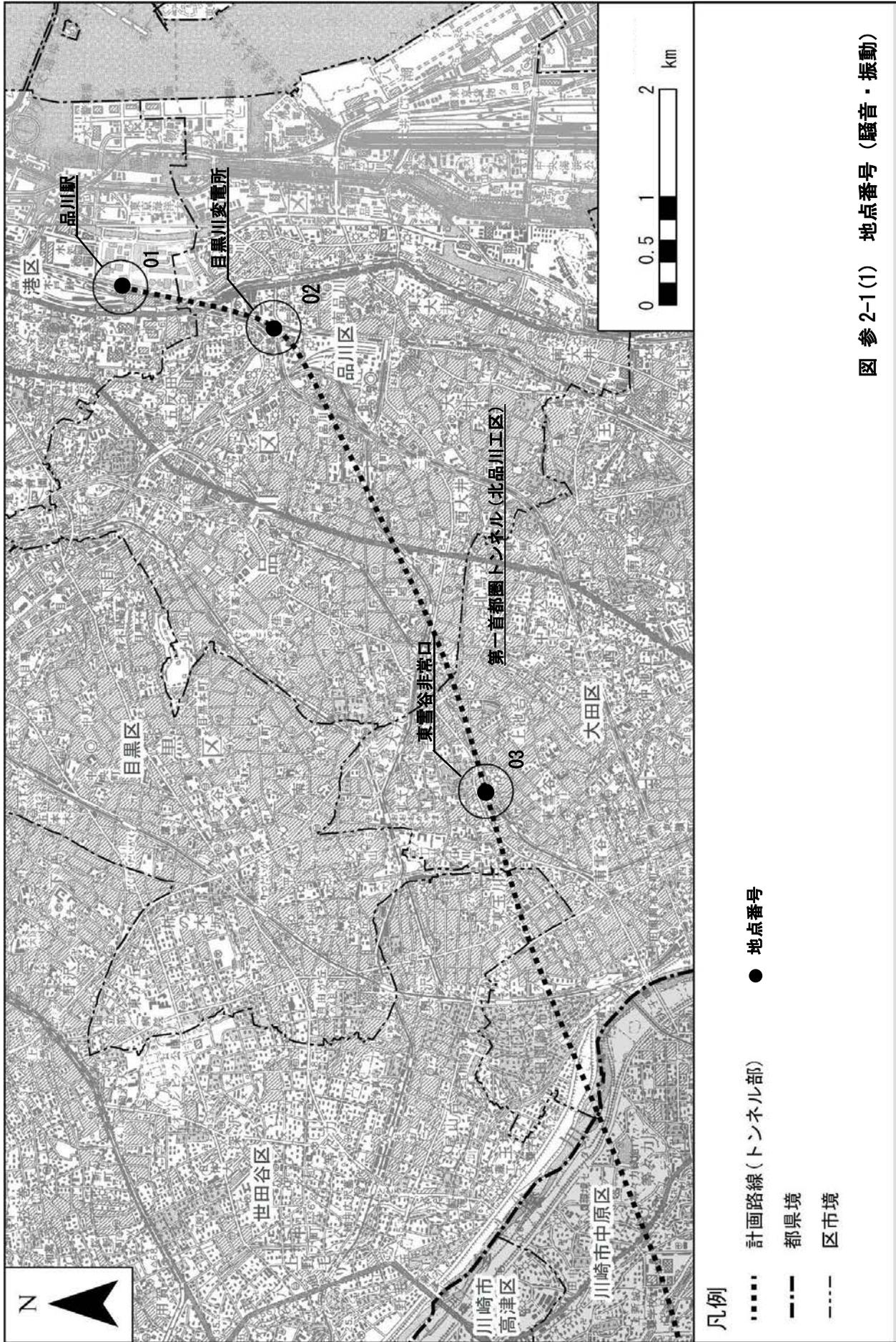
品川駅、目黒川変電所、第一首都圏トンネル（小野路工区）及び上小山田非常口からの建設発生土は、公共事業等に約6万m³、UCR（株式会社 建設資源広域利用センター）の斡旋による受入先に約6万m³を活用した。

参考資料2：騒音・振動の簡易計測

工事最盛期のモニタリングとは別に、各工区において、建設機械の稼働に係る騒音・振動の状況を確認するための簡易計測を実施している。計測中は、周辺からも確認できる位置にモニターを設置して騒音・振動の値を常時表示するとともに、作業中は適宜、騒音・振動の状況を確認して作業騒音・振動の低減に努めた。騒音・振動の計測地点は、表 参 2-1 及び図 参 2-1 に示すとおりである。また、モニターの表示例を写真 参 2-1 に示す。

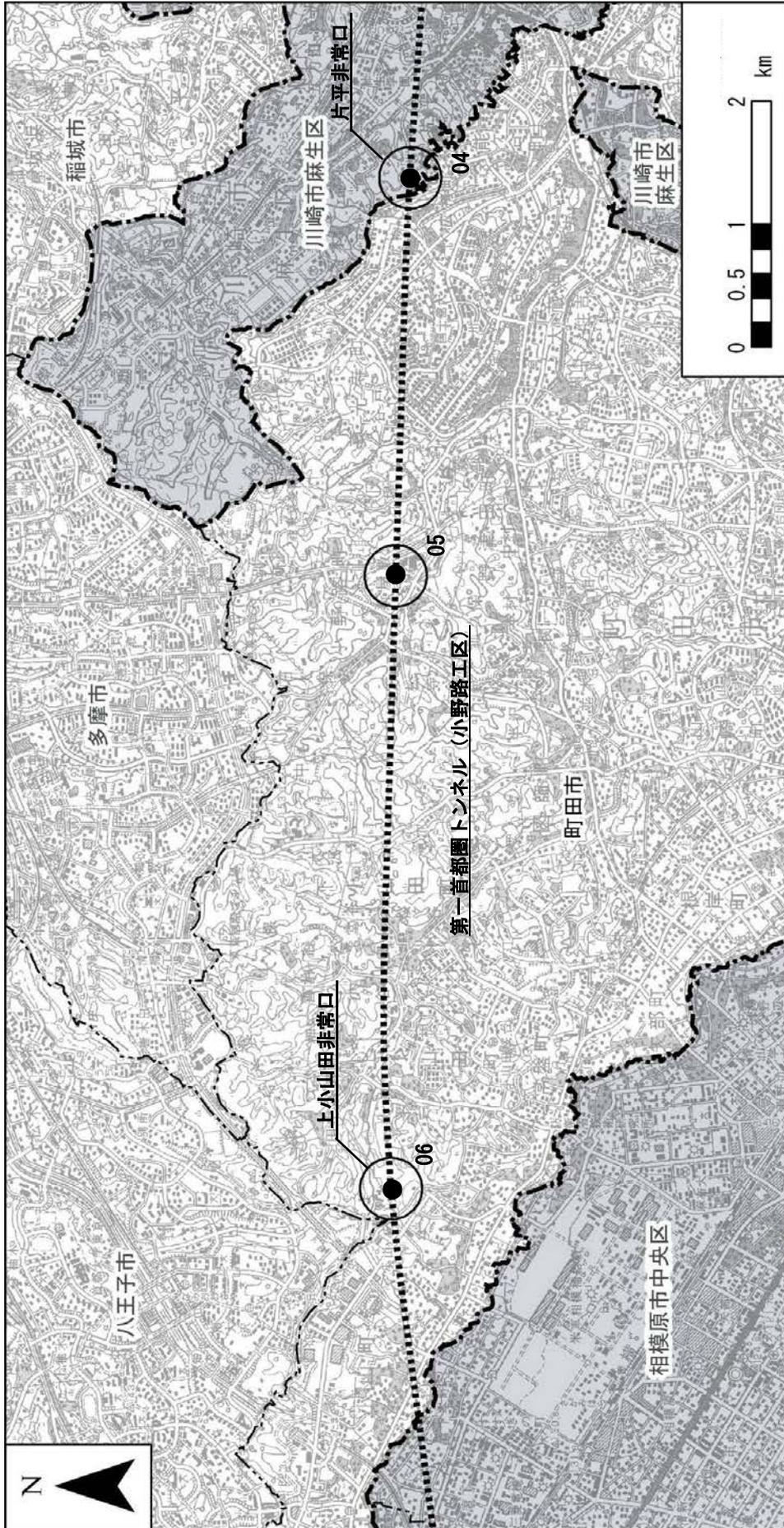
表 参 2-1 簡易計測の実施地点

地点番号	区市名	所在地	実施箇所
01	港区	港南	品川駅
02	品川区	北品川	第一首都圏トンネル（北品川工区） 目黒川変電所
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口
04	町田市	能ヶ谷	片平非常口
05		小野路町	第一首都圏トンネル（小野路工区）
06		上小山田町	上小山田非常口



- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 地点番号
 - 都県境
 - - - 区市境

図 参 2-1(1) 地点番号 (騒音・振動)



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 地点番号
- - - 都県境
- · - 区市境

図 参 2-1(2) 地点番号 (騒音・振動)

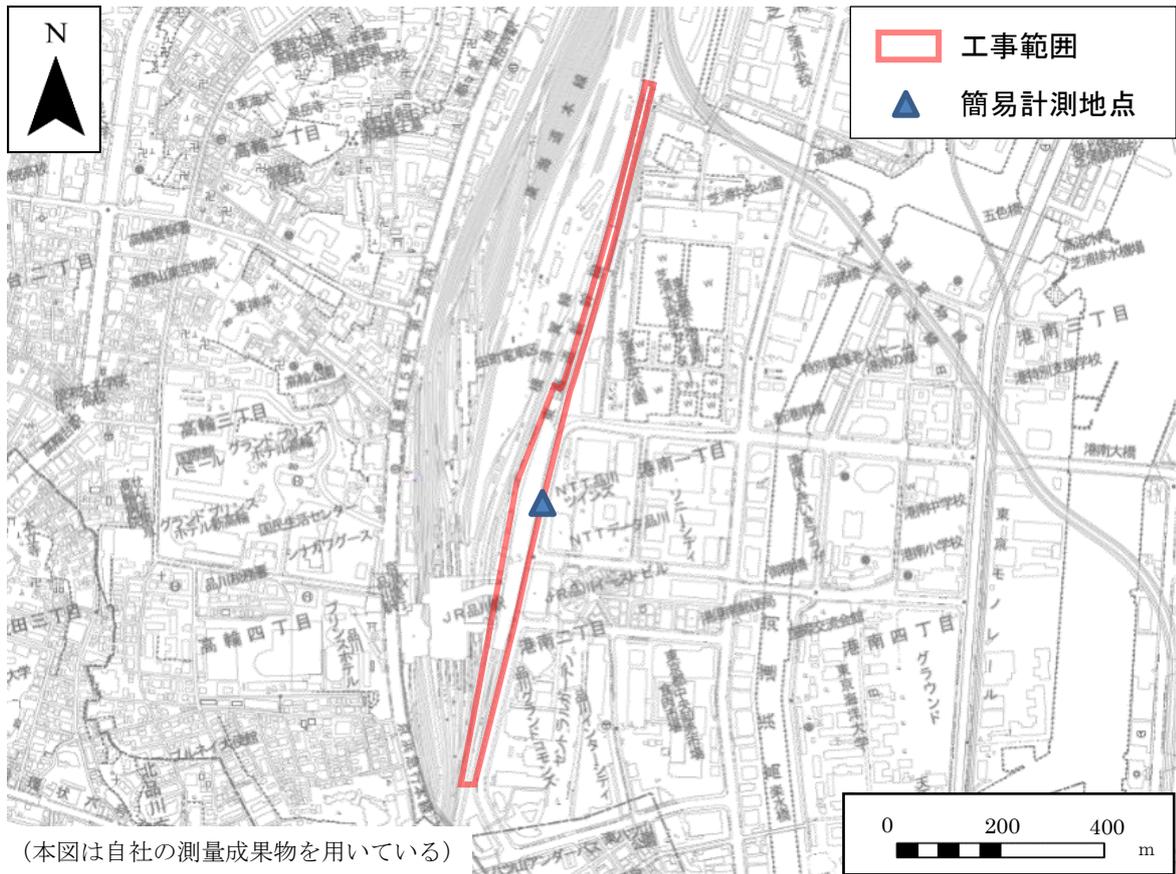


図 参 2-1(3) 簡易計測の実施地点（騒音・振動）(01 品川駅)

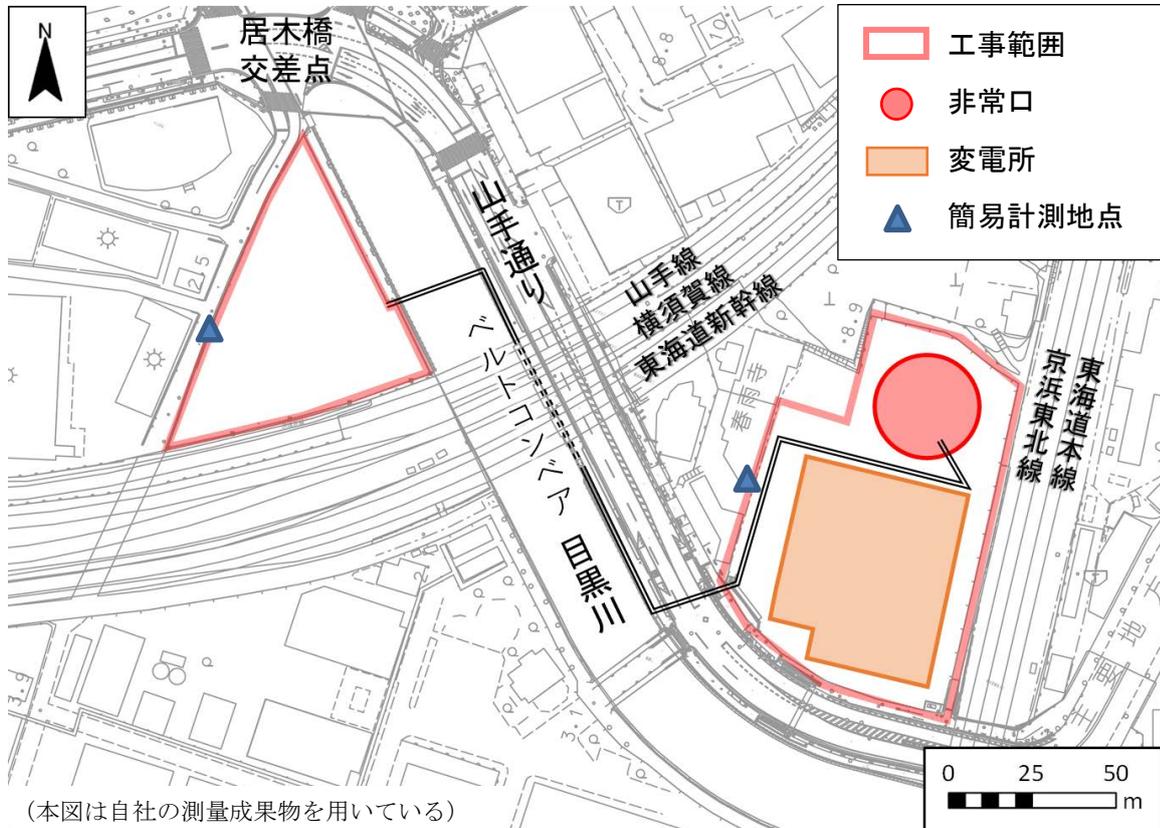


図 参 2-1(4) 簡易計測の実施地点（騒音・振動）(02 北品川)

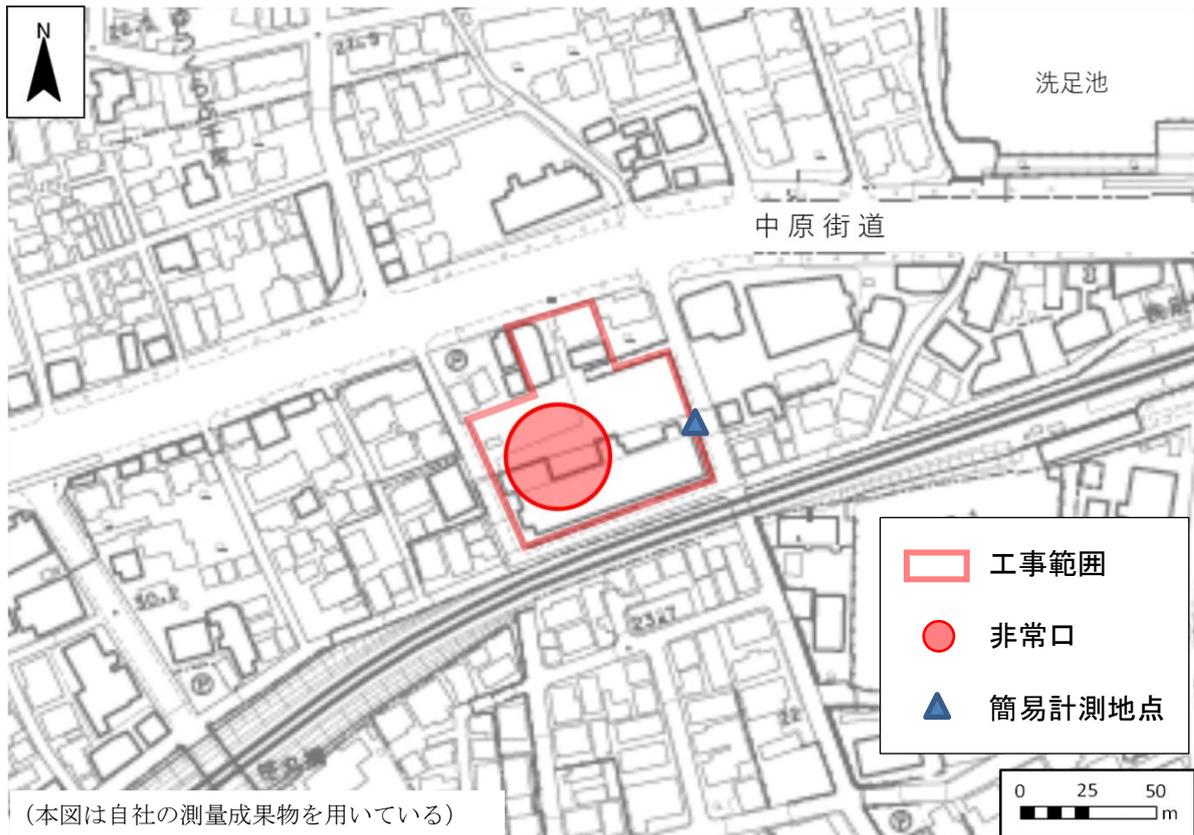


図 参 2-1 (5) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (03 東雪谷)

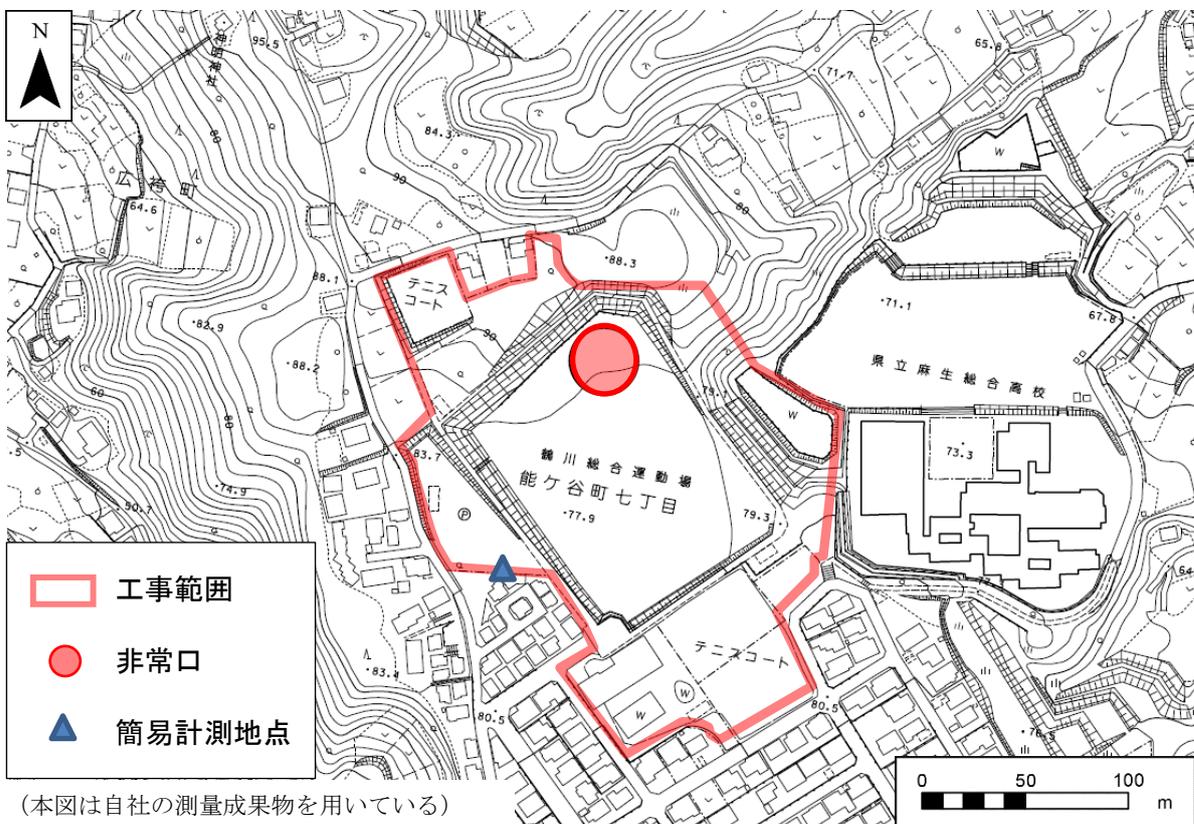


図 参 2-1 (6) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (04 片平)



図 参 2-1 (7) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (05 小野路)



図 参 2-1 (8) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (06 上小山田)

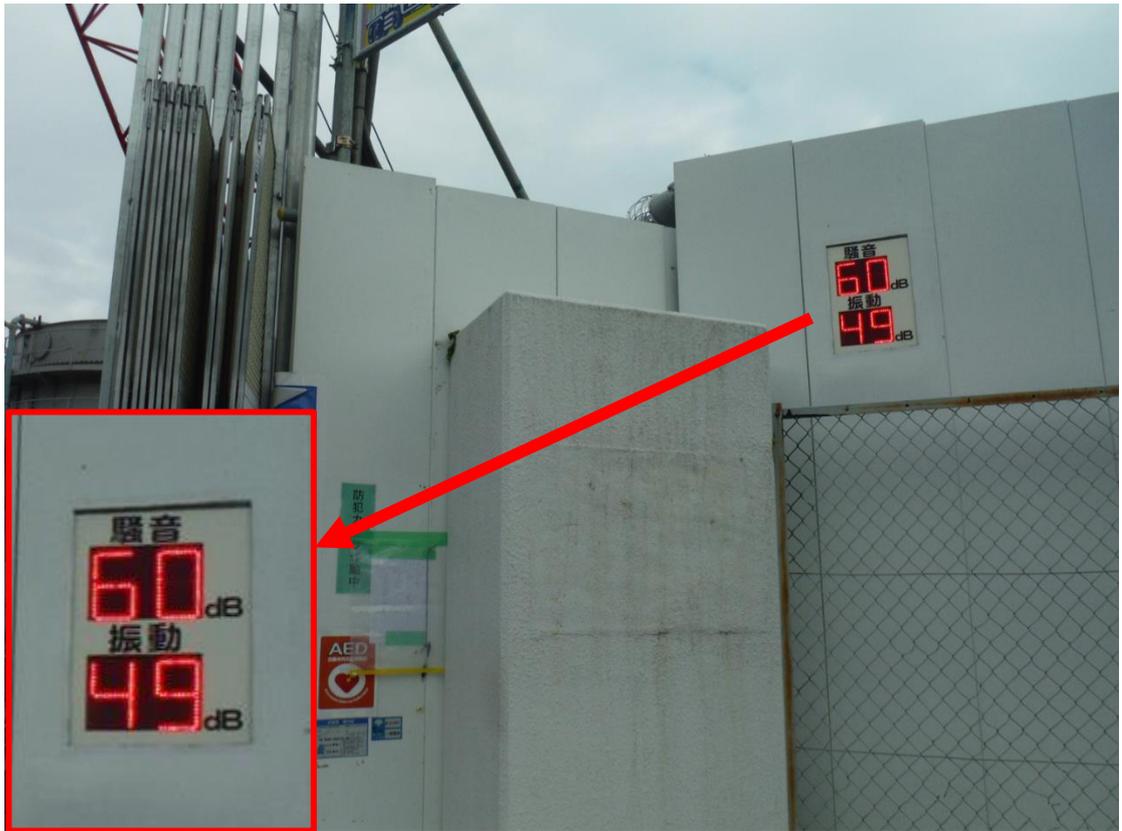


写真 参 2-1 モニター表示例 (02 北品川)

参考資料3：動物

5-2 動物（片平）における、哺乳類確認種の一覧を、以下に示す。

表 参3-1 哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度				重要種
						春季	夏季	秋季	冬季	
1	モグラ	モグラ	アズマモグラ	<i>Mogera imaizumii</i>	●	●	●	●	●	
2	コウモリ	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科の数種	<i>Vespertilionidae gen. spp.</i>		●	●			
3	ネコ	イヌ	ホンダタヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides viverrinus</i>	●	●	●	●	●	
4		イタチ	ニホンアナグマ	<i>Meles meles anakuma</i>		●	●			
5		アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	●	●	●	●	●	
6		ジャコウネコ	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	●	●	●	●	●	
7	ネズミ	ネズミ	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	●		●		●	
計	4目	7科	7種		5種	6種	7種	4種	5種	0種

注1 分類、配列などは、原則として「種の多様性（動植物分布調査）対象種一覧」（平成10年、環境庁）に準拠した。

注2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

5-2 動物（片平）における鳥類確認種の一覧を、以下に示す。

表 参3-2 鳥類確認種一覧表

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度					重要種
						春季	繁殖期	夏季	秋季	冬季	
1	キジ	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	●						●
2	カモ	カモ	オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	●	●				●	
3			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	●					●	
4			カルガモ	<i>Anas zonorhynchos</i>	●	●	●		●	●	
5			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	●						
6			コガモ	<i>Anas crecca</i>	●				●	●	
7	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	●	●	●				●
8	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	●	●	●	●	●	●	
9	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	●				●	●	
10	ペリカン	サギ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	●	●		●		●	●
11			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	●	●	●	●		●	
12			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	●				●	●	●
13			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	●						●
14	ツル	クイナ	バン	<i>Gallinula chloropus</i>	●	●	●	●	●	●	●
15			オオバン	<i>Fulica atra</i>	●	●				●	●
16	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	●			●			●
17	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>	●					●	●
18	チドリ	シギ	イツシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	●						●
19	タカ	タカ	トビ	<i>Milvus migrans</i>	●		●				●
20			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	●	●					●
21			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	●					●	●
22			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	●						●
23			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	●					●	●
24	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	●	●					●
25	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	●	●	●	●	●	●	●
26	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	●	●	●	●	●	●	●
27			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	●	●	●	●	●	●	●
28	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	●						●
29	スズメ	サンショウクイ	リュウキュウサンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	●					●	●
30		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	●						●
31		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	●		●		●	●	●
32		カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	●						●
33			オナガ	<i>Cyanopica cyanus</i>	●		●			●	●
34			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	●	●	●	●	●	●	●
35			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●	●	●	●	●	●	●
36		キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	●						●
37		シジュウカラ	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	●	●	●		●	●	
38			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	●						
39			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	●	●	●	●	●	●	
40		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	●						●
41		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	●	●	●	●			●
42			イロツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	●						●
43		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	●	●	●	●	●	●	●
44		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	●	●	●	●	●	●	●
45		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	●	●				●	
46		ムシクイ	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	●						●
47		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	●	●	●	●	●	●	●
48		ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	●						●
49		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	●		●	●	●	●	
50		ヒタキ	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	●					●	
51			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	●	●				●	
52			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>	●					●	
53			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	●				●		
54			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	●						●
55			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	●						●
56		スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	●	●	●	●	●	●	●
57		セキレイ	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	●	●	●	●	●	●	●
58			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	●	●	●	●	●	●	●
59			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	●	●		●	●	●	●
60			ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	●					●	●
61		アトリ	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	●	●		●			●
62			ウソ	<i>Pyrhula pyrrhula</i>	●						●
63			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	●						●
64		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	●	●	●	●			●
65			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	●					●	●
66			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●	●				●	●
67	キジ	キジ	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	●	●	●	●		●	
68	ハト	ハト	カワラバト	<i>Columba livia</i>	●	●	●		●	●	
69	スズメ	チメドリ	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	●	●	●	●	●	●	
70			ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	●						●
計	19目	38科	70種		63種	33種	29種	24種	25種	45種	40種

注1 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」（平成24年、日本鳥学会）に準拠した。

注2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

5-2 動物（片平）における爬虫類確認種の一覧を、以下に示す。

表 参3-3 爬虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度			重要種
						春季	夏季	秋季	
1	カメ	ヌマガメ	ミシシippiaカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>	●	●	●	●	
2		スッポン	ニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i>	●				●
3	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>	●	●	●	●	●
4		トカゲ	ヒガシニホントカゲ	<i>Plestiodon finitimus</i>	●	●	●	●	●
5		カナヘビ	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	●	●	●	●	●
6		ナミヘビ	アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>		●	●	●	●
7			シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	●	●		●	●
8			ヒバカリ	<i>Hebius vibakari</i>	●		●	●	●
9			ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>	●	●	●	●	●
10		クサリヘビ	ニホンマムシ	<i>Gloydus blomhoffii</i>				●	●
計	2目	7科	10種		8種	7種	7種	9種	9種

注1 分類、配列などは、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（平成24年、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

5-2 動物（片平）における両生類確認種の一覧を、以下に示す。

表 参3-4 両生類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度				重要種
						早春季	春季	夏季	秋季	
1	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>		●	●	●		●
2		アマガエル	ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i>	●		●	●		●
3		アカガエル	ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i>					●	●
4		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>	●	●	●	●		●
計	1目	4科	4種		2種	2種	3種	3種	1種	4種

注1 分類、配列などは、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（平成24年、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

5-2 動物（片平）における昆虫類確認種の一覧を、以下に示す。

表 参3-5(1) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度			重要種	
						春季	夏季	秋季		
1	トビムシ	ヒメトビムシ	ヒメトビムシ科の一種	Hypogastridae gen. sp.				●		
2		ツチトビムシ	ツチトビムシ科の一種	Isotomidae gen. sp.			●			
3		アヤトビムシ	アヤトビムシ科の一種	Entomobryidae gen. spp.	●		●	●		
4		マルトビムシ	マルトビムシ科の一種	Sminthuridae gen. sp.				●		
5	イシノミ	イシノミ	ヤマトイシノミ	<i>Pedetontus nipponicus</i>		●				
-			イシノミ科の一種	Machilidae gen. sp.	●					
6	カゲロウ	カワカゲロウ	キイロカワカゲロウ	<i>Potamanthus (Potamanthodes) formosus</i>		●				
7	トンボ	イトトンボ	ホソミイトトンボ	<i>Actagrion migratum</i>		●	●		●	
8			アジイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>		●	●			
9		アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>			●				
10		カワトンボ	ハグロトンボ	<i>Calopteryx atrata</i>			●	●	●	
11		サナエトンボ	ホンサナエ	<i>Gomphus postocularis</i>		●			●	
12		ヤンマ	クロスジゲンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>	●					
13		オニヤンマ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>				●		
14		トンボ	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	●	●	●			
15			オシオカラトンボ	<i>Orthetrum triangulare melania</i>			●			
16			コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>			●			
17			マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	●				●	
18			アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>	●		●	●		
19	カワゲラ	オナシカワゲラ	ジュッポンオナシカワゲラ	<i>Amphinemura decimceta</i>		●				
-			Amphinemura属の一種	<i>Amphinemura</i> sp.		●				
-			オナシカワゲラ科の一種	Nemouridae gen. sp.					●	
20	ゴキブリ	チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	<i>Blattella nipponica</i>	●	●	●	●		
21	カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>			●	●	●	
22			コカマキリ	<i>Statilia maculata</i>				●	●	
23			オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i>					●	
-			Tenodera属の一種	<i>Tenodera</i> sp.		●				
24		シロアリ	ミゾガシラシロアリ	ヤマトシロアリ	<i>Reticulitermes speratus speratus</i>		●			
25	バッタ	コロギス	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>		●				
26			キリギリス	コバネヒメギス	<i>Chiculla bonneti</i>	●				
27				ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>			●		
28				ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>	●	●	●		
29				クビキリギス	<i>Euconocephalus varius</i>		●		●	
30				ヒメクサキリ	<i>Ruspolia dubia</i>	●				
31				ウスイロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i>	●				●
32				オナガササキリ	<i>Conocephalus gladius</i>	●				●
33				ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i>	●				●
34				ササキリ	<i>Conocephalus melaenus</i>	●				●
-				Conocephalus属の一種	<i>Conocephalus</i> spp.			●	●	
35			ツコムシ	セスジツコムシ	<i>Ducetia japonica</i>					●
36				ツコムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>					●
-				Phaneroptera属の一種	<i>Phaneroptera</i> sp.			●		
37		コオロギ	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblenmus campestris</i>					●	
38			ミツカドコオロギ	<i>Loxoblenmus doenirzi</i>					●	
39			モリオカメコオロギ	<i>Loxoblenmus sylvestris</i>	●				●	
-			Loxoblenmus属の一種	<i>Loxoblenmus</i> sp.			●			
40			エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>	●		●	●		
41			ツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus micado</i>					●	
42			クマズムシ	<i>Sclerogryllus punctatus</i>	●				●	
-			コオロギ科の一種	Gryllidae gen. spp.			●			
43		マツムシ	アオマツムシ	<i>Truljaria hibionis</i>					●	
44	ヒバリモドキ		クサヒバリ	<i>Sivistella bifasciata</i>	●				●	
45			マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>	●		●		●	
46			シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>	●				●	
47			ヤチズ	<i>Pteronemobius ohmachi</i>			●	●	●	
48			カネタタキ	<i>Ornebius kanetaki</i>				●	●	
49		アリツカコオロギ	Myrmecophilus属の一種	<i>Myrmecophilus</i> sp.			●			
50		ケラ	ケラ	<i>Gryllotalpa orientalis</i>	●	●			●	
51		ノミバッタ	ノミバッタ	<i>Xya japonica</i>	●		●		●	
52	ヒシバッタ		トゲヒシバッタ	<i>Crietotix japonicus</i>		●			●	
53			ハネナガヒシバッタ	<i>Euparattix insularis</i>	●	●			●	
54			コバネヒシバッタ	<i>Formosatettix larvatus</i>	●	●			●	
55			ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>	●	●			●	
56			ヤセヒシバッタ	<i>Tetrix macilenta</i>			●			
57			ヒメヒシバッタ	<i>Tetrix minor</i>	●					
-				Tetrix属の一種	<i>Tetrix</i> sp.			●	●	
58		オンブバッタ	オンブバッタ		<i>Atractomorpha lata</i>	●		●	●	
59	バッタ		ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>	●	●	●	●		
60			コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i>	●				●	
61			ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>	●		●			
62			ショウリョウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>	●		●	●	●	
63			ヒナバッタ	<i>Glyptotendipes maritimus maritimus</i>	●				●	
64			トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i>				●		
65			クルマバッタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i>	●		●			
66			イボバッタ	<i>Trilophidia japonica</i>	●					
67		ナナフシ	ナナフシ	ナナフシモドキ	<i>Baculum irregularidentatum</i>		●	●		
68		ハサミムシ		ヒゲジロハサミムシ	<i>Anisolabella marginalis</i>	●	●	●	●	
69			ハマバハサミムシ	<i>Anisolabella maritima</i>	●	●		●		
70			Euborellia属の一種	<i>Euborellia</i> sp.				●		
71			オオハサミムシ	<i>Labidura riparia</i>				●		
72	チャタテムシ		ウロコチャタテ	Stimulopalpus属の一種			●			
73			ケチャタテ	ケチャタテ科の一種			●			
74			ハグルマチャタテ	ハグルマチャタテ	<i>Matsumuraiella rapiopicta</i>			●		
75			Stenopsocus属の一種	<i>Stenopsocus</i> sp.		●				
76			ケブカチャタテ	ウスベニチャタテ	<i>Amphipsocus rubrostigma</i>		●			
77		チャタテ	チャタテ科の一種	Psocidae gen. sp.					●	
78	カメムシ	ヒシウンカ	Cixius属の一種	<i>Cixius</i> sp.			●			
79		ウンカ	テラウチウンカ	<i>Terauchiana singularis</i>			●			
80			ヒメトビウンカ	<i>Laodelphax striatella</i>				●		

表 参3-5(2) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度			重要種
						春季	夏季	秋季	
81	カメムシ	ウンカ	ゴマフウンカ	<i>Phyllodinus nigropunctatus</i>				●	
82			セジロウンカ	<i>Sogatella furcifera</i>				●	
83		ハネナガウンカ	アヤヘリハネナガウンカ	<i>Nomuraida hibarenis</i>				●	
84			シリアカハネナガウンカ	<i>Zoraida horishana</i>				●	
85		ガンバイウンカ	ヒラタガンバイウンカ	<i>Ossoides lineatus</i>				●	
86		アオバハゴロモ	アオバハゴロモ	<i>Geisha distinctissima</i>	●			●	●
87		ハゴロモ	ベッコウハゴロモ	<i>Orosanga japonicus</i>	●			●	
88			アミガサハゴロモ	<i>Pochazia albomaculata</i>	●			●	
89		ゼミ	アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>	●			●	
90			ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>	●			●	
91	ニイニイゼミ		<i>Platypleura kaempferi</i>	●			●		
92	コガシラアワフキ	コガシラアワフキ	<i>Euscartopsis assimilis</i>	●			●		
93	アワフキムシ	シロオビアワフキ	<i>Aphrophora intermedia</i>				●		
94		クロスジアワフキ	<i>Aphrophora vittata</i>				●		
95	ツノゼミ	マルツノゼミ	<i>Gargara genistae</i>				●		
96		トビイロツノゼミ	<i>Machaerotypus sibiricus</i>	●			●		
97	ヨコバイ	コミミズク	<i>Ledropsis discolor</i>				●		
98		ズキンヨコバイ	<i>Podulmorinus vitticollis</i>				●		
99		クロヒラタヨコバイ	<i>Penthimia nitida</i>	●			●		
100		クロスジホソサジヨコバイ	<i>Sophonia orientalis</i>				●		
101		Pagaronia属の一種	<i>Pagaronia</i> sp.	●	●		●		
102		ツマグロオオヨコバイ	<i>Bothrogonia ferruginea</i>	●	●		●		
103		オオヨコバイ	<i>Cicadella viridis</i>	●			●		
104		ホシヒメヨコバイ	<i>Limassella multipunctata</i>				●		
105		クズヒメヨコバイ	<i>Tautoneura japonica</i>				●		
106		Balclutha属の一種	<i>Balclutha</i> sp.				●		
107		イネマダラヨコバイ	<i>Recilia oryzae</i>				●	●	
108		ツマグロヨコバイ	<i>Nephotettix cincticeps</i>				●		
-			ヨコバイ科の数種	Deltocephalidae gen. spp.				●	
109	キジラミ	エノキカイガラキジラミ	<i>Celisuspis japonica</i>				●	●	
110		ベニキジラミ	<i>Psylla coccinea</i>				●		
111	ヤツデキジラミ	<i>Psylla fatisiae</i>				●			
112	アブラムシ	ヨモギクダナシアアブラムシ	<i>Cryptosiphum artemisiae</i>				●		
113		ギシギシオマルアブラムシ	<i>Dysaphis rumeicola</i>				●		
114		ソラマメヒゲナガアブラムシ	<i>Megoura crassicauda</i>				●		
115		モモアカアブラムシ	<i>Myzus persicae</i>				●		
116		Aphis属の数種	<i>Aphis</i> spp.				●		
-			アブラムシ科の数種	Aphididae gen. spp.				●	
117	ワタフキカイガラムシ	オオワラジカイガラムシ	<i>Drosicha corpulenta</i>				●		
118	アメンボ	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	●	●		●		
119		ヒメアメンボ	<i>Gerris (Gerris) latiaabdominis</i>	●	●		●		
120	ミズギワカメムシ	ミズギワカメムシ	<i>Salduia saltatoria</i>				●		
121	カスミカメムシ	ズアカシダカスミカメ	<i>Monalocoris filicis</i>				●		
122		ナカグロカスミカメ	<i>Adelphocoris suturalis</i>				●		
123		ブチヒゲクロカスミカメ	<i>Adelphocoris triannulatus</i>	●			●		
124		フタモンカスミカメ	<i>Adelphocoris variabilis</i>				●		
125		コアオカスミカメ	<i>Apylygus lucorum</i>				●		
126		ヒメセダカカスミカメ	<i>Charagochilus angusticollis</i>				●		
127		アカホシカスミカメ	<i>Creontiades coloripes</i>				●		
128		メンガタカスミカメ	<i>Eurystylus coelestialium</i>	●			●		
129		ムモンミドリカスミカメ	<i>Lygocoris (Lygocoris) idoneus</i>				●		
130		ヒメウスミドリカスミカメ	<i>Lygocoris (Neolygus) hoberlandti</i>				●		
131		イネホソミドリカスミカメ	<i>Trigonotylus caelestialium</i>	●			●		
132	ケブカキベリナガカスミカメ	<i>Dryophilocoris miyamotoi</i>				●			
133	コブヒゲカスミカメ	<i>Harpocera orientalis</i>				●			
134	マキバサシガメ	アカマキバサシガメ	<i>Gorpis brevilineatus</i>				●		
135		ミナミマキバサシガメ	<i>Nabis (Tropiconabis) kimbergii</i>				●		
136	ハナカメムシ	Orius属の一種	<i>Orius</i> sp.				●		
137		ヤサハナカメムシ	<i>Amphiareus obscuriceps</i>				●		
138	ガンバイムシ	ヤブガラシガンバイ	<i>Cysteochila consueta</i>				●	●	
139		ナシガンバイ	<i>Stephanitis nashi</i>				●		
140		ツツジガンバイ	<i>Stephanitis pyrioides</i>				●		
141		トサカガンバイ	<i>Stephanitis takeyai</i>				●		
142		ヒメガンバイ	<i>Uhlirites debilis</i>				●		
143		アワダチソウガンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>				●		
144	カメムシ	サシガメ	アカサシガメ	<i>Cyndocoris ruscatus</i>			●		
145			オオトビサシガメ	<i>Isyndus obscurus</i>				●	
146			シマサシガメ	<i>Sphedanolestes impressicollis</i>	●	●		●	
147			ヤニサシガメ	<i>Velinus nodipes</i>				●	
148			ミナミホソサシガメ	<i>Pygolampis foeda</i>				●	
149			ピロウドサシガメ	<i>Ectrychotes andreae</i>				●	
150			アカシマサシガメ	<i>Haematoloecha nigrorufa</i>	●	●		●	
151			ヒラタカメムシ	クロヒラタカメムシ	<i>Mezira taiwanica</i>			●	
152			イトカメムシ	イトカメムシ	<i>Yemma exilis</i>			●	
153			ナガカメムシ	アカヘリナガカメムシ	<i>Arocatus sericans</i>			●	
154		ヒメナガカメムシ	<i>Nysius plebejus</i>			●	●		
-		Nysius属の一種	<i>Nysius</i> sp.	●		●	●		
155		カンシャコバネナガカメムシ	<i>Caverelius saccharivorus</i>			●			
156		コバネナガカメムシ	<i>Dimorphopterus pallipes</i>			●			
157		ホソコバネナガカメムシ	<i>Macropes obnubilus</i>			●			
158		コガシラコバネナガカメムシ	<i>Pirkimerus japonicus</i>			●			
159		Geocoris属の一種	<i>Geocoris</i> sp.			●			
160		オオメカメムシ	<i>Picocoris varius</i>	●			●		

表 参3-5(3) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度			重要種	
						春季	夏季	秋季		
161	カメムシ	ナガカメムシ	ヒゲナガカメムシ	<i>Pachygrontha antennata</i>	●	●	●	●		
162			オオモンシロナガカメムシ	<i>Metochus abbreviatus</i>	●	●	●	●		
163			アムールシロヘリナガカメムシ	<i>Panaorus csikii</i>			●	●		
-			Panaorus属の一種	<i>Panaorus</i> sp.				●		
164			ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	<i>Paraucosmetus pallicornis</i>			●	●	●	
165			キベリヒョウタンナガカメムシ	<i>Paraparomius lateralis</i>				●	●	
166			コバナヒョウタンナガカメムシ	<i>Togo hemipterus</i>	●	●	●	●		
-			ナガカメムシ科の数種	Lygaeidae gen. spp.				●		
167			メダカナガカメムシ	メダカナガカメムシ	<i>Chauliops fallax</i>	●	●	●	●	
168			ホシカメムシ	フタモンホシカメムシ	<i>Pyrhocoris sibiricus</i>	●	●	●	●	
169		ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ	<i>Leptocoris chinensis</i>	●		●	●		
170			ヒメクモヘリカメムシ	<i>Paraplesius unicolor</i>			●	●		
171			ホソヘリカメムシ	<i>Riptortus clavatus</i>			●	●	●	
172		ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ	<i>Acanthocoris sordidus</i>			●	●		
173			オオクモヘリカメムシ	<i>Anacanthocoris striicornis</i>				●	●	
174			ホソハリカメムシ	<i>Cletus punctiger</i>	●	●	●	●		
175			ハリカメムシ	<i>Cletus rusticus</i>				●	●	
176			ヒメハリカメムシ	<i>Cletus trigonus</i>					●	
177	ホシハラビロヘリカメムシ		<i>Homoeocerus unipunctatus</i>	●	●	●	●			
178	オオツマキヘリカメムシ		<i>Hygia (Colpura) lativentris</i>	●						
179	ツマキヘリカメムシ		<i>Hygia (Hygia) opaca</i>	●	●	●	●			
180	キバラヘリカメムシ		<i>Plinacthus bicoloripes</i>					●		
181	ヒメヘリカメムシ		スカシヒメヘリカメムシ	<i>Liorhyssus hyalinus</i>	●		●			
182		アカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus (Aeschynoteles) maculatus</i>	●	●	●	●			
183		ブチヒメヘリカメムシ	<i>Stictopleurus punctatonevrosus</i>	●	●	●	●			
184	マルカメムシ	マルカメムシ	<i>Megacopta punctatissima</i>	●	●	●	●			
185	ツチカメムシ	ヒメツチカメムシ	<i>Geotomus pygmaeus</i>					●		
186		ツチカメムシ	<i>Macroscytus japonensis</i>	●	●	●	●			
-		Macroscytus属の一種	<i>Macroscytus</i> sp.				●			
187		ミツボシツチカメムシ	<i>Adomerus triguttulus</i>			●				
-	ツチカメムシ科の一種	Cydnidae gen. sp.				●				
188	キンカメムシ	アカスジキンカメムシ	<i>Poecilocoris lewisi</i>	●						
189		チャイロカメムシ	<i>Eurygaster testudinaria</i>			●				
190	ノコギリカメムシ	ノコギリカメムシ	<i>Megymenum gracilicorne</i>			●				
191	カメムシ	イネクロカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i>					●		
192		ウズラカメムシ	<i>Aelia fieberti</i>	●			●			
193		シロヘリカメムシ	<i>Aenalia lewisi</i>			●		●		
194		ウシカメムシ	<i>Alcimocoris japonensis</i>					●		
195		ブチヒゲカメムシ	<i>Dolycoris baccarum</i>					●		
196		キマダラカメムシ	<i>Erthesina fullo</i>			●	●	●		
197		ナガメ	<i>Eurydema rugosa</i>	●	●	●	●			
198		ムラサキシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris annamita</i>	●	●	●	●			
199		シラホシカメムシ	<i>Eysarcoris ventralis</i>	●				●		
200		クサギカメムシ	<i>Halyomorpha picus</i>			●	●	●		
201		アオクサカメムシ	<i>Nezara antennata</i>	●						
202		ミナミアオカメムシ	<i>Nezara viridula</i>			●				
203		イチモンジカメムシ	<i>Piezodorus hybneri</i>				●			
204		チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>	●	●			●		
205		ツノカメムシ	アオモンツノカメムシ	<i>Dichobothrium nubilum</i>				●		
206			エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>	●	●				
207		アミメカゲロウ	ヒロバカゲロウ	<i>Spilosmylus nipponensis</i>				●		
208			ヒメカゲロウ	<i>Hemerobius humulinus</i>					●	
209	チャバネヒメカゲロウ		<i>Eumicromus numerosus</i>				●	●		
210	ホソバヒメカゲロウ		<i>Micromus multipunctatus</i>				●	●	●	
211	ヤマトクサカゲロウ		<i>Chrysoperla carnea</i>				●	●		
212	アミメクサカゲロウ		<i>Nacaura matsumurae</i>					●	●	
213	ウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ	<i>Baliga micans</i>	●						
214		ホシウスバカゲロウ	<i>Paraglenurus japonicus</i>				●			
215	コウチュウ	ナガヒラタムシ	ナガヒラタムシ	<i>Tenomergera mucida</i>				●		
216		ハンミョウ	トウキョウヒメハンミョウ	<i>Cicindela kalea yedoensis</i>	●					
217		オサムシ	アオオサムシ	<i>Carabus (Ohomopterus) insulicola</i>	●	●	●			
218			ウスモンコムズギワゴミムシ	<i>Tachyura fuscicauda</i>					●	
219			ヨツモンコムズギワゴミムシ	<i>Tachyura laetifica</i>	●	●				
220			トックリナガゴミムシ	<i>Pterostichus haptopteroides</i>					●	
221			コガシラナガゴミムシ	<i>Pterostichus microcephalus</i>					●	
222			ヨリトモナガゴミムシ	<i>Pterostichus yoritomus</i>				●		
223			セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i>	●					●
224			マルガタツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus arcuaticollis</i>			●			
225			クロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus cycloderus</i>					●	
226			オオクロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus nitidus</i>					●	●
227			マルガタゴミムシ	<i>Amara chalcites</i>	●	●				
228			ニセマルガタゴミムシ	<i>Amara congrua</i>			●	●		
229			ホシボシゴミムシ	<i>Anisodactylus punctatipennis</i>	●					
230			ハコダテゴモクムシ	<i>Harpalus discrepans</i>			●			
231			ケウスゴモクムシ	<i>Harpalus griseus</i>	●		●			
232			クロゴモクムシ	<i>Harpalus niigatanus</i>						●
233	ウスアカクロゴモクムシ		<i>Harpalus sinicus</i>				●			
234	クビナガゴモクムシ	<i>Oxycentrus argutoroides</i>					●			
235	カラカネゴモクムシ	<i>Platymetopus flavilabris</i>	●			●				
236	クビアカツヤゴモクムシ	<i>Trichotichnus longitarsis</i>						●		
237	ヒコサンツヤゴモクムシ	<i>Trichotichnus noctuabundus</i>						●		
238	イクビツヤゴモクムシ	<i>Trichotichnus orientalis</i>				●				
239	マメゴモクムシ	<i>Stenolophus fulvicornis</i>				●	●			
240		ムネアカマメゴモクムシ	<i>Stenolophus propinquus</i>			●		●		

表 参3-5(4) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度			重要種
						春季	夏季	秋季	
241	コウチュウ	オサムシ	ニセコガシラアオゴミムシ	<i>Chlaenius kurosawai</i>		●			
242			アトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius naeviger</i>			●		
243			キボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius posticalis</i>					●
244			コガシラアオゴミムシ	<i>Chlaenius varicornis</i>		●			
245			クロズホナンゴミムシ	<i>Perigona nigriceps</i>		●			
246			フタホシアトキリゴミムシ	<i>Lebia bifenestrata</i>		●			
247			ジュウジアトキリゴミムシ	<i>Lebia retrofasciata</i>				●	●
248			コルリアトキリゴミムシ	<i>Lebia viridis</i>		●			●
249		ガムシ	アカゲシガムシ	<i>Cercyon olivrus</i>			●	●	
250			ホソケンガムシ	<i>Oosternum sorex</i>				●	
251			キベリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i>		●		●	
252		エンマムシ	ツヤマルエンマムシ	<i>Atholus pithous</i>			●		
253			コエンマムシ	<i>Margarinotus (Grammostethus) niponicus</i>		●	●	●	
254		タマキノコムシ	チビタマキノコムシ	<i>Zeadolopus japonicus</i>			●		
255		ヒゲブトチビシデムシ	Colon属の一種	<i>Colon</i> sp.			●		
256			シデムシ	オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i>		●		●
257		ハネカクシ	Lordithon属の一種	<i>Lordithon</i> sp.			●		
258			Sepedophilus属の数種	<i>Sepedophilus</i> spp.			●	●	●
259			Aleochara属の一種	<i>Aleochara</i> sp.					●
260			Porocallus属の一種	<i>Porocallus</i> sp.				●	
261			コバナエシバセスジハネカクシ	<i>Anotylus amicus</i>				●	●
262			ルイスツヤセスジハネカクシ	<i>Anotylus lewisii</i>				●	
-				Anotylus属の一種	<i>Anotylus</i> sp.			●	
263			Stenus属の数種	<i>Stenus</i> spp.				●	
264			Astenus属の一種	<i>Astenus</i> sp.				●	
265			コマルズハネカクシ	<i>Domene curtipennis</i>				●	
266			アオバアリガタハネカクシ	<i>Paederus fuscipes</i>		●	●		●
267	Xantholinus属の一種		<i>Xantholinus</i> sp.					●	
268	ツヤケシブチヒゲハネカクシ	<i>Anisolinus elegans</i>		●					
269	Philonthus属の数種	<i>Philonthus</i> spp.				●	●		
270		アカバトガリオオズハネカクシ	<i>Platydracus brevicornis</i>			●	●		
-		ハネカクシ科の数種	<i>Staphylinidae</i> gen. spp.		●	●			
271	アリヅカムシ	アリヅカムシ科の一種	<i>Pselaphidae</i> gen. sp.		●				
272	デオキノコムシ	Scaphisoma属の一種	<i>Scaphisoma</i> sp.			●			
273	マルハナノミダマシ	ツマアカマルハナノミダマシ	<i>Eucinetus haemorrhoidalis</i>			●			
274	マルハナノミ	トビイロマルハナノミ	<i>Scirtes japonicus</i>			●			
275	クワガタムシ	クワガタ	<i>Dorcus rectus rectus</i>		●	●	●		
276		ノコギリクワガタ	<i>Prosopocoilus inclinatus</i>				●		
277	センチコガネ	センチコガネ	<i>Geotrupes laevistriatus</i>				●		
278	コウチュウ	コガネムシ	アカマダラセンチコガネ	<i>Ochodaeus maculatus maculatus</i>				●	
279			クロマルエンマコガネ	<i>Onthophagus ater</i>			●	●	
280			コブマルエンマコガネ	<i>Onthophagus atripennis atripennis</i>		●	●	●	●
281			ナガチャコガネ	<i>Heptophylla picea</i>				●	
282			クロコガネ	<i>Holotrichia kiononensis</i>		●			
283			オオクロコガネ	<i>Holotrichia parallela</i>		●			
284			オオコフキコガネ	<i>Melolontha frater frater</i>		●			
285			コフキコガネ	<i>Melolontha japonica</i>				●	
286			アシナゴコガネ	<i>Hoplia communis</i>		●			
287			ピロウドコガネ	<i>Maladera japonica japonica</i>		●		●	
288			ヒメピロウドコガネ	<i>Maladera orientalis</i>			●		
289			マルガタピロウドコガネ	<i>Maladera secreta</i>				●	
290			Serica属の一種	<i>Serica</i> sp.		●			
291			コイチャコガネ	<i>Adoretus tenuimaculatus</i>		●			
292			アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa albopilosa</i>		●			●
293			ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i>				●	
294			サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i>		●			
295			ヒラタアオコガネ	<i>Anomala octescostata</i>			●		
296			ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i>		●			
297			セマダラコガネ	<i>Blitopertha orientalis</i>		●		●	
298			マメコガネ	<i>Papillia japonica</i>		●		●	
299			ヒラタハナムグリ	<i>Nipponovalgus angusticollis angusticollis</i>			●		
300			クロハナムグリ	<i>Glycyphana fulvitemna</i>			●	●	
301			コアオハナムグリ	<i>Oxyctonia jucunda</i>		●	●		●
302			シラホシハナムグリ	<i>Protaetia brevitarsis brevitarsis</i>				●	
303			シロテンハナムグリ	<i>Protaetia orientalis submarumorea</i>		●		●	
304			カナブン	<i>Rhomborrhina japonica</i>		●		●	
305			クロカナブン	<i>Rhomborrhina polita</i>		●			●
306			カブトムシ	<i>Allomyrina dichotoma septentrionalis</i>		●		●	
307			コカブトムシ	<i>Eophileurus chinensis chinensis</i>		●	●	●	
308			ヒラタドロムシ	チビヒゲナガハナノミ	<i>Ectopria opaca</i>			●	
309			タマムシ	ヤマトタマムシ	<i>Chrysochroa fulgidissima fulgidissima</i>				●
310	ヒシモンナガタマムシ	<i>Agrilus discalis</i>					●		
-		Agrilus属の一種		<i>Agrilus</i> sp.			●		
311	クズノチビタマムシ	<i>Trachys auricollis</i>				●	●	●	
312	コウゾチビタマムシ	<i>Trachys broussonetiae</i>					●	●	
313	マルガタチビタマムシ	<i>Trachys inedita</i>						●	
314	サシゲチビタマムシ	<i>Trachys robusta</i>				●			
315	ソーンダースチビタマムシ	<i>Trachys saundersi</i>			●				
316	ヒゲコメツキ	<i>Pectocera fortunei</i>			●				
317	コメツキムシ	イチハシチビサビキコリ		<i>Adelocera ichihashii</i>			●		
318		マダラチビコメツキ	<i>Aeoloderma agnatum</i>			●			
319		サビキコリ	<i>Agrypnus binodulus binodulus</i>		●	●	●	●	
320		コガタヒメサビキコリ	<i>Agrypnus hypnicola</i>		●				

表 参3-5(5) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度			重要種
						春季	夏季	秋季	
321	コウチュウ	コメツキムシ	オオシモフリコメツキ	<i>Actenicerus orientalis</i>		●			
322			シモフリコメツキ	<i>Actenicerus pruinus</i>	●				
323			キバネホソコメツキ	<i>Dolerosomus gracilis</i>		●			
324			キバネクチボソコメツキ	<i>Glyphonyx bicolor bicolor</i>			●		
325			マルクビクシコメツキ	<i>Melanotus caudex</i>		●			
326			クシコメツキ	<i>Melanotus legatus legatus</i>	●		●		
327			ルイスクシコメツキ	<i>Melanotus lewisi lewisi</i>	●				
328			チャバネクシコメツキ	<i>Melanotus seniculus</i>		●			
329			クロクシコメツキ	<i>Melanotus senilis senilis</i>	●				
-			Melanotus属の数種	<i>Melanotus spp.</i>		●	●		
330			Migiwa属の一種	<i>Migiwa sp.</i>		●			
331			クロコハナコメツキ	<i>Paracardiophorus opacus</i>	●				
-			Paracardiophorus属の一種	<i>Paracardiophorus sp.</i>		●	●	●	
332			アカアシハナコメツキ	<i>Platynychus adjutor adjutor</i>	●				
333			オオハナコメツキ	<i>Platynychus nothus nothus</i>		●	●		
334		コメツキダマシ	コチャイロコメツキダマシ	<i>Fornax nipponicus</i>			●		
335			Plateros属の一種	<i>Plateros sp.</i>			●		
336		ベニボタル	テングベニボタル	<i>Platycis nasutus</i>		●			
337		ホタル	ノハラボタル	<i>Pyropyga alicola</i>				●	
338		ジョウカイボン	Asiopodabrus属の一種	<i>Asiopodabrus sp.</i>		●			
339			ニセヒメジョウカイ	<i>Lycocerus lineatipennis</i>		●			
340			ジョウカイボン基準亜種	<i>Lycocerus sutarellus sutarellus</i>	●	●			
341			セボンジョウカイ	<i>Lycocerus vittellinus</i>	●	●			
342			ヤトセシジョウカイ	<i>Lycocerus yato</i>		●			
343			クロヒメクビボソジョウカイ	<i>Podabrus malthinoides malthinoides</i>		●			
344		シバンムシ	フルホンシバンムシ	<i>Gastrallus immarginatus</i>			●		
345		ヒョウホンムシ	ケジロヒョウホンムシ	<i>Pinus senilis senilis</i>			●		
346		ジョウカイモドキ	ケンジョウカイモドキ	<i>Dasytes vulgaris</i>		●			
347			ヒロオビジョウカイモドキ	<i>Latus historio</i>			●		
348			ツマキアオジョウカイモドキ	<i>Malachius prolongatus</i>	●	●			
349	コウチュウ	ケンキスイ	クリイロゾオキスイ	<i>Carpophilus marginellus</i>		●	●		
350			ホソキヒラタケシスイ	<i>Eपुरaea parilis</i>		●			
351			ナミヒラタケシスイ	<i>Eपुरaea pellax</i>		●			
-			Eपुरaea属の一種	<i>Eपुरaea sp.</i>		●			
352			マメヒラタケシスイ	<i>Haptoncurina paulula</i>		●			
353			モンチビヒラタケシスイ	<i>Haptoncus ocularis</i>		●	●		
354			クロヒラタケシスイ	<i>Ipidia variolosa</i>		●		●	
355			アカマダラケシスイ	<i>Lasiodactylus pictus</i>		●	●	●	
356			ヒメアカマダラケシスイ	<i>Lasiodactylus sadanarii</i>		●	●	●	
357			マルキマダラケシスイ	<i>Stelidota multiguttata</i>		●	●		
358			ルイスコオニケシスイ	<i>Cryptarcha lewisi</i>				●	
359			キボシコオニケシスイ	<i>Cryptarcha longipennis</i>				●	
360			ナミモンコケシスイ	<i>Cryptarcha strigata</i>			●		
361			ヨツボシケシスイ	<i>Librodor japonicus</i>		●	●		
362		ヒメハナムシ	キイロアシナガヒメハナムシ	<i>Heterolitus nipponicus</i>		●			
363			フタホシヒメハナムシ	<i>Merobrachys bimaculatus</i>			●		
364			アカボシチビヒメハナムシ	<i>Stilbus bipustulatus</i>			●		
365		ヒラタムシ	カドムネチビヒラタムシ	<i>Placonotus testaceus</i>		●			
366			セマルチビヒラタムシ	<i>Xylolestes laevior</i>		●			
367		ホソヒラタムシ	ブナホソヒラタムシ	<i>Silvanoprus fagi</i>			●		
368			ホソミツカドホソヒラタムシ	<i>Silvanoprus grouvellei</i>		●			
369			Psammoecus属の一種	<i>Psammoecus sp.</i>		●		●	
370		キシイムシ	ヨツモンキシイ	<i>Cryptophagus callosipennis</i>		●			
-			Cryptophagus属の一種	<i>Cryptophagus sp.</i>		●			
371			クロノコムネキシイ	<i>Henoticus japonicus</i>		●			
372			ケナガセマルキシイ	<i>Atomaria horridula</i>		●			
373		キシイモドキ	キシイモドキ	<i>Byturus affinis</i>		●			
374		ムクゲキシイムシ	ハスモンムクゲキシイ	<i>Biphylus rufopictus</i>		●	●		
375		コメツキモドキ	アカスジナガムクゲキシイ	<i>Cryptophilus hiranoi</i>			●		
376			キムネヒメコメツキモドキ	<i>Anadastus atriceps</i>		●			
377			ケシコメツキモドキ	<i>Microlanguria jansoni</i>		●			
378		オオキノコムシ	ルリオオキノコ	<i>Aulacochilus sibiricus</i>			●		
379			ヒメオビオオキノコ	<i>Episcapha fortunei</i>		●			
380		ミジンムシ	ベニモンツヤミジンムシ	<i>Parmilus pollus</i>		●			
381		テントウムシダマシ	ヨツボシテントウダマシ	<i>Ancylopus pictus asiaticus</i>		●	●	●	
382		テントウムシ	クロツヤテントウ	<i>Serangium japonicum</i>			●		
383			フタホシテントウ	<i>Hyperaspis japonica</i>				●	
384			シコクフタホシヒメテントウ	<i>Nephus shikokensis</i>			●		
385			ツマアカヒメテントウ	<i>Scymnus (Pullus) dorcatomoides</i>				●	
386			コクロヒメテントウ	<i>Scymnus (Pullus) posticalis</i>	●		●		
387			ニセツマアカヒメテントウ	<i>Scymnus (Pullus) rectoides</i>				●	
-			Scymnus属の数種	<i>Scymnus spp.</i>		●	●	●	
388			ヒメアカホシテントウ	<i>Chilocorus kuwanae</i>				●	
389			フタモンクロテントウ	<i>Cryptogonus orbiculus</i>			●		
390			モンクチビルテントウ	<i>Platynaspidius maculosus</i>		●	●	●	
391			ベニヘリテントウ	<i>Rodolia limbata</i>				●	
392			ハラグロオオテントウ	<i>Callicaria superba</i>		●			
393			ムーアシロホシテントウ	<i>Calvia (Eocaria) muii</i>	●		●	●	
394			ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>	●	●	●	●	
395			マクガタテントウ	<i>Coccinula crotchi</i>		●	●	●	
396			ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>	●	●	●	●	
397			キイロテントウ	<i>Ileis koebelei koebelei</i>	●		●	●	
398			ダングラテントウ	<i>Menochilus sexmaculatus</i>			●	●	
399			ウスキシテントウ	<i>Oenopia (Synharmonia) hirayamai</i>			●	●	
400			ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea japonica</i>	●	●	●	●	

表 参3-5(6) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度			重要種		
						春季	夏季	秋季			
401	コウチュウ	テントウムシ	クモガタテントウ	<i>Psyllobora vigintimaculata</i>		●					
402			ムネアカオオクロテントウ	<i>Synona consanguinea</i>		●					
403			Vibidia属の一種	<i>Vibidia</i> sp.					●		
404			ヤマトアザミテントウ	<i>Epilachna niponica</i>	●						
405			オオニジュウヤホシテントウ	<i>Epilachna vigintioctomaculata</i>				●			
406			ルイヨウマダラテントウ	<i>Epilachna yasutomii</i>			●		●		
407			ヒメマキムシ	ニセクロオビケシマキムシ	<i>Corticaria geisha</i>					●	
408				ナカネケシマキムシ	<i>Corticaria nakanei</i>					●	
409				ムナボソヒメマキムシ	<i>Stephostethus angusticollis</i>						●
410			ホソカタムシ	ツヤケシヒメホソカタムシ	<i>Microprius opacus</i>						
411		ツヤナガヒラタホソカタムシ		<i>Penthelispa vilis</i>							
412		ホソマダラホソカタムシ		<i>Sympantus pictus</i>	●						
413		ツツキノコムシ	フタツノツツキノコムシ	<i>Neoneonearthron bicarinatum</i>			●				
414		ハナノミ	シラホシハナノミ	<i>Hoshihananomia perlata</i>	●						
415		カミキリモドキ	モモプトカミキリモドキ	<i>Oedemeronia lucidicollis</i>	●	●					
416		アカハネムシ	ムナビロアカハネムシ	<i>Pseudopyrochroa laticollis</i>							
417		アリモドキ	アカホソアリモドキ	<i>Anthicus fugiens</i>							
418			ホソクビアリモドキ	<i>Formicomus braminus coiffaiti</i>				●	●		
419			ヨツボシホソアリモドキ	<i>Pseudoleptaleus valgipes</i>	●					●	
420		ハナノミダマシ	クロフナガタハナノミ	<i>Anaspis marsuli</i>			●				
421		ハムシダマシ	オオメキバネハムシダマシ	<i>Lagria rufipennis</i>	●			●			
422			フジナガハムシダマシ	<i>Macrolagria rufobrunnea</i>			●				
423			ヒゲフトゴミムシダマシ	<i>Luprops orientalis</i>	●	●				●	
424	コウチュウ	クチキムシ	Allecula属の一種	<i>Allecula</i> sp.				●			
425			クリイロクチキムシ	<i>Borboresthes acicularis</i>	●				●		
426			ホンドトビイロクチキムシ	<i>Borboresthes cruralis</i>						●	
427			ナミクチキムシ	<i>Upinella melanaria</i>	●	●				●	
428			ホンドクロオオクチキムシ	<i>Upinella fuliginosa</i>				●			●
429		ゴミムシダマシ	ゴコムシダマシ	<i>Pedinus japonicus</i>					●		
430			ムネビロスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum japanum japanum</i>	●	●					
431			コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i>							●
432			ルリゴミムシダマシ	<i>Encyalesthus violaceipennis</i>						●	
433			ニホンキマワリ本土亜種	<i>Plesiophthalmus (Plesiophthalmus) nigrocyaneus nigroc</i>	●						
434	カミキリムシ	ノコギリカミキリ	<i>Prionus insularis insularis</i>	●						●	
435		アカハナカミキリ	<i>Corymbia succedanea</i>					●			
436		ルリボシカミキリ	<i>Rosalia batesi</i>						●		
437		ヒメスギカミキリ	<i>Callidiellum rufipenne</i>			●					
438		ヒメクロトラカミキリ	<i>Rhaphuma diminuta diminuta</i>	●							
439		カノコサビカミキリ	<i>Apomecyna naevia naevia</i>	●							
440		シナノクロフカミキリ	<i>Asaperda agapanthina</i>			●					
441		ニイジマチビカミキリ	<i>Egesina bifasciana bifasciana</i>						●		
442		アトジロサビカミキリ	<i>Pterolophia zonata</i>						●		
443		ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>						●		
444		ヤハズカミキリ	<i>Uruecha bimaculata bimaculata</i>	●							
445		クワカミキリ	<i>Aprionia japonica</i>						●		
446		ガロアケシカミキリ	<i>Exocentrus galloisi</i>						●		
447		リンゴカミキリ	<i>Oberea japonica</i>						●		
448		ラミーカミキリ	<i>Paraglena fortunei</i>						●		
449	キクスイカミキリ	<i>Phytoecia rufiventris</i>	●								
450	ハムシ	キバラルリクビボソハムシ	<i>Lema concinnipennis</i>	●	●		●				
451		トゲアシクビボソハムシ	<i>Lema coronata</i>				●				
452		アカクビボソハムシ	<i>Lema diversa</i>						●		
453		ヤマイモハムシ	<i>Lema honorata</i>				●				
454		キイロクビナガハムシ	<i>Lilioceris rugata</i>	●			●				
455		アワクビボソハムシ	<i>Oulema dilutipes</i>						●		
456		ムナキルリハムシ	<i>Smaragdina semiaurantiaca</i>	●	●						
457		タマツツハムシ	<i>Adiscus lewisii</i>						●		
458		バラルリツツハムシ	<i>Cryptocephalus approximatus</i>	●	●			●			
459		クロボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus signaticeps</i>	●	●						
460		ツツジコブハムシ	<i>Chlamisus laticollis</i>				●				
461		ムシクソハムシ	<i>Chlamisus spilotus</i>				●				
462		ドウガネツヤハムシ	<i>Oomorhoides cupreatus</i>				●		●		
463		アカガネサルハムシ	<i>Acrothium gashkevitchii gashkevitchii</i>						●		
464		アオバネサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i>						●		
465		サクラサルハムシ	<i>Cleoporus variabilis</i>						●		
466		マダラアラゲサルハムシ	<i>Demotina fasciculata</i>	●						●	
467		クロオビカサハラハムシ	<i>Hyperaxis fasciata</i>			●					
468		コフケケブカサルハムシ	<i>Lypsthes ater</i>	●							
469		ムネアカキバネサルハムシ	<i>Pagria consimile</i>							●	
470	ツヤキバネサルハムシ	<i>Pagria flavopustulata</i>							●		
471	マルキバネサルハムシ	<i>Pagria ussuriensis</i>	●								
472	ドウガネサルハムシ	<i>Scelodonta lewisii</i>	●	●		●		●			
473	キカサハラハムシ	<i>Xanthonia placida</i>						●			
474	ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>				●			●		
475	ハッカハムシ	<i>Chrysolina exanthematica</i>	●						●		
476	ズグロキハムシ	<i>Gastrolinoides japonicus</i>				●					
477	コガタルリハムシ	<i>Gastrophysa atrocyanea</i>	●	●					●		
478	ヤツボシハムシ	<i>Gonioctena nigroplagiata</i>				●		●			
479	フジハムシ	<i>Gonioctena rubripennis</i>				●					
480	ダイコンハムシ	<i>Phaedon brassicae</i>	●								

表 参3-5(7) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度			重要種		
						春季	夏季	秋季			
481	コウチュウ	ハムシ	ヤナギルリハムシ	<i>Plagiodera versicolosa</i>			●				
482			ウリハムシモドキ	<i>Atrachya menetriesi</i>			●				
483			ウリハムシ	<i>Aulacophora femoralis</i>	●		●	●			
484			クロウリハムシ	<i>Aulacophora nigripennis</i>	●	●	●	●			
485			キバラヒメハムシ	<i>Exosoma flaviventre</i>			●				
486			クワハムシ	<i>Fleutiauxia armata</i>	●	●					
487			イタドリハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>			●				
488			ブタクサハムシ	<i>Ophraella communa</i>	●		●	●			
489			サンゴジュハムシ	<i>Pyrrhalta humeralis</i>			●	●			
490			カミナリハムシ	<i>Altica cyanea</i>			●		●		
491			アカバナトビハムシ	<i>Altica oleracea</i>				●			
492			ヘリグロテントウノミハムシ	<i>Argopistes coccinelliformis</i>				●			
493			ヒメテントウノミハムシ	<i>Argopistes isekooni</i>				●			
494			ヒメドウガネトビハムシ	<i>Chaetocnema concinnicollis</i>				●			
495			タバコノミハムシ	<i>Epitrix hirtipennis</i>			●				
496			クロボシトビハムシ	<i>Longitarsus bimaculatus</i>				●	●		
497			ココロアシナガトビハムシ	<i>Longitarsus morrisonus</i>				●			
498			トウヨウアシナガトビハムシ	<i>Longitarsus orientalis</i>				●			
499			キアシノミハムシ	<i>Luperomorpha tenebrosa</i>				●			
500			ルリマルノミハムシ	<i>Nonarthra cyanea</i>	●	●	●				
501			ルリナガスネトビハムシ	<i>Psyllodes bretinghami</i>			●				
502			ナトビハムシ	<i>Psylliodes punctifrons</i>			●	●	●		
503			キベリトゲハムシ	<i>Dactylispa masonii</i>				●			
504			イノコヅチカメノコハムシ	<i>Cassida japana</i>					●		
505			セモンジンガサハムシ	<i>Cassida versicolor</i>				●			
506			ヨツモンカメノコハムシ	<i>Laccoptera quadrimaculata</i>			●	●	●		
-				ハムシ科の一種	<i>Chrysomelidae</i> gen. sp.				●		
507			コウチュウ	ヒゲナガゾウムシ	カオジロヒゲナガゾウムシ	<i>Sphinctotropis laxus</i>		●			
508					クロフヒゲナガゾウムシ	<i>Tropideres roelofsi</i>			●		
509					エゴヅルクビオトシブミ	<i>Cynotrachelus roelofsi</i>	●				
510	オトシブミ	カシルリオトシブミ		<i>Euops (Synaptops) splendidus</i>			●				
511		ファウストハマキチョッキリ		<i>Byctiscus fausti</i>	●						
512		ハイイロチョッキリ		<i>Mechoris ursulus</i>	●		●				
513	モモチョッキリ	<i>Rhychites heros</i>				●					
514	ゾウムシ	アザミホソクチゾウムシ		アザミホソクチゾウムシ	<i>Apion (Piezotrachelus) japonicum</i>		●				
515				メナガクチフトゾウムシ	<i>Calomycterus setarius</i>			●			
516				サビクチフトゾウムシ	<i>Canoix japonicus</i>				●		
517		ケブカクチフトゾウムシ		<i>Myllocerus fumosus</i>			●				
518		カシワクチフトゾウムシ		<i>Myllocerus griseus</i>				●			
519		チビヒョウタンゾウムシ		<i>Myosides seriehispidus</i>				●			
520		ヒレルクチフトゾウムシ		<i>Oedophrys hilleri</i>				●	●		
521		ツヤツゾウムシ		<i>Asphalmus japonicus</i>			●				
-				Asphalmus属の一種	<i>Asphalmus</i> sp.			●			
522		ケブカヒメカタゾウムシ		<i>Arrhaphogaster pilosa</i>			●				
523		ホソゲチビツチゾウムシ		<i>Trachyphloeosoma advena</i>			●				
524		シロコブゾウムシ		<i>Episomus turrinus</i>				●			
525		ヒメシロコブゾウムシ		<i>Dermatoxenus caesicollis</i>				●			
526		スグリゾウムシ		<i>Pseudocneorhinus bifasciatus</i>				●	●		
527		コフキノゾウムシ		<i>Eugnathus distinctus</i>	●			●			
528		チビコフキノゾウムシ		<i>Sitona japonicus</i>				●			
529		アルファルファタコゾウムシ		<i>Hypera postica</i>				●		●	
530		オジロアシナガゾウムシ		<i>Mesalcidodes trifidus</i>	●			●			
531		イネミズゾウムシ		<i>Lissorhoptrus oryzophilus</i>				●			
532		エノキノミゾウムシ		<i>Rhynchaenus (Orchestes) horii</i>				●			
533		イチゴハナゾウムシ		<i>Anthonomus bisignifer</i>				●	●		
534		ジュウジチビキノゾウムシ		<i>Curculio pictus</i>				●	●		
535		ダイコンサルゾウムシ		<i>Ceuthorrhynchidius albosuturalis</i>				●			
536		Metialma属の一種	<i>Metialma</i> sp.					●			
537		ヒサゴクチカクシゾウムシ	<i>Simulacalles simulator</i>					●			
538		チャバネキクイゾウムシ	<i>Kojimazo lewisi</i>					●			
539		オサゾウムシ	トホシオサゾウムシ	<i>Aplotes roelofsi</i>				●			
540			トゲナガキクイムシ	<i>Diapus aculeatus</i>				●			
541		ナガキクイムシ	カシノナガキクイムシ	<i>Platypus quercivorus</i>				●			
542			クリノミクイムシ	<i>Poecilips cardamomi</i>				●			
543	Xyleborus属の一種	<i>Xyleborus</i> sp.				●					
544	ハチ	ミフシハバチ	カタアカチュウレンジ	<i>Arge rejecta</i>	●						
545			ルリチュウレンジ	<i>Arge similis</i>	●	●	●				
546		ハバチ	キバラワラビハバチ	<i>Aneugmenus japonicus</i>	●						
547			オスグロハバチ	<i>Dolerus similis japonicus</i>	●						
-			Dolerus属の一種	<i>Dolerus</i> sp.				●			
548			カタアカカシギハバチ	<i>Loderus genucinctus insulicola</i>	●	●					
549			ハグロハバチ	<i>Allantus lucifer</i>	●						
550			セグロカブラハバチ	<i>Athalia infumata</i>				●			
551			ニホンカブラハバチ	<i>Athalia japonica</i>				●			
552			イヌノフグリハバチ	<i>Athalia kashmirensis</i>	●						
553			カブラハバチ	<i>Athalia rosae ruficornis</i>					●		
554			クロムネハバチ	<i>Lagidina irritans</i>	●	●					
555			オクタニキモンハバチ	<i>Pachyprotasis okutanii</i>	●						
556			キコシホソハバチ	<i>Tenthredo morivaga</i>	●						
557			クロムネアオハバチ	<i>Tenthredo nigropicta</i>	●						
-				ハバチ科の数種	<i>Tenthredinidae</i> gen. spp.				●		
558	コマユバチ		Phanerotoma属の一種	<i>Phanerotoma</i> sp.				●			
559			Apanteles属の一種	<i>Apanteles</i> sp.			●				
560		Braunsia属の一種	<i>Braunsia</i> sp.					●			
-			コマユバチ科の数種	<i>Braconidae</i> gen. spp.	●		●	●			

表 参3-5(8) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度			重要種
						春季	夏季	秋季	
561	ハチ	ヒメバチ	Pimpla属の一種	<i>Pimpla</i> sp.		●		●	
562			マイマイヒラタヒメバチ	<i>Coccygomimus luctuosus</i>		●			
563			チビキアシヒラタヒメバチ	<i>Coccygomimus nipponicus</i>		●			
564			シロスジクチキヒメバチ	<i>Eugalia albimarginalis</i>					●
565			Charops属の一種	<i>Charops</i> sp.					●
566			シロクホシアメバチ	<i>Enicospilus shikokuensis</i>			●		
-			Enicospilus属の一種	<i>Enicospilus</i> sp.					●
567			キオビコシプトヒメバチ	<i>Metopius (Metopius) browni</i>		●			
-			Metopius属の一種	<i>Metopius</i> sp.			●		
-			ヒメバチ科の数種	Ichneumonidae gen. spp.		●		●	●
568		シリボソクロボチ	<i>Disogmus areolator</i>	<i>Disogmus areolator</i>		●			
569		ハエヤドリクロボチ	ハエヤドリクロボチ科の数種	Diapriidae gen. spp.		●			
570		タマゴクロボチ	タマゴクロボチ科の一種	Scelionidae gen. sp.		●			
571		シリアゲコバチ	シリアゲコバチ	<i>Leucospis (Leucospis) japonica</i>				●	
572		コガネコバチ	コガネコバチ科の一種	Pteromalidae gen. sp.			●		
573		ヒメコバチ	ヒメコバチ科の一種	Eulophidae gen. sp.				●	
574		カマバチ	カマバチ科の一種	Dryinidae gen. sp.				●	
575		アリガタバチ	Epyris属の一種	<i>Epyris</i> sp.			●		
576		ムカシアリガタバチ	ムカシアリガタバチ	<i>Acrepyris japonicus</i>		●	●		
577		コツチバチ	Tiphia属の一種	<i>Tiphia</i> sp.		●		●	
578	ハチ	ツチバチ	オオモンツチバチ	<i>Scolia (Scolia) histrionica japonica</i>			●		
579			ヒメハラナガツチバチ	<i>Campsomeriella (Annulimeris) annulata annulata</i>		●			
580			キンケハラナガツチバチ	<i>Megacampsomeris prismatica</i>		●			
581	アリ	オオハリアリ	<i>Brachyponera chinensis</i>			●		●	
582		ハリフトシリアゲアリ	<i>Crematogaster (Crematogaster) matsumurai</i>			●	●	●	
583		テラニシシリアゲアリ	<i>Crematogaster (Crematogaster) teranishii</i>				●	●	
584		キイロシリアゲアリ	<i>Crematogaster (Orthocrema) osakensis</i>		●	●	●	●	
585		ムネボソアリ	<i>Leptothorax congruus</i>			●	●	●	
586		ハリナガムネボソアリ	<i>Leptothorax spinosior</i>		●				
587		ヒメアリ	<i>Monomorium intrudens</i>		●	●	●	●	
588		アズマオオズアリ	<i>Pheidole fervida</i>		●	●	●	●	
589		アミアリ	<i>Pristomyrmex pungens</i>		●	●	●	●	
590		トフシアリ	<i>Solenopsis japonica</i>		●	●			
591		ウロコアリ	<i>Strumigenys lewisi</i>		●				
592		トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i>		●	●	●	●	
593		シベリアカタアリ	<i>Dolichoderus sibirica</i>		●		●		
594		クロオアリ	<i>Camponotus (Camponotus) japonicus</i>		●	●	●	●	
595		ムネアカオアリ	<i>Camponotus (Camponotus) obscuripes</i>		●				
596		クサオアリ	<i>Camponotus (Myrmentoma) keihitai</i>					●	
597		クロヤマアリ 隠蔽種群	<i>Formica japonica</i> s.l.		●	●	●	●	
598		クロクサアリ 隠蔽種群	<i>Lasius (Dendrolasius) fuji</i> s.l.					●	
599		ヒラアシクサアリ	<i>Lasius (Dendrolasius) spathepus</i>			●	●	●	
600		ハヤシケアリ	<i>Lasius (Lasius) hayashi</i>					●	
601		トビイロケアリ	<i>Lasius (Lasius) japonicus</i>		●	●	●	●	
-		Lasius属の数種	<i>Lasius</i> spp.				●	●	
602		アメイロアリ	<i>Paratrechina flavipes</i>		●	●	●	●	
603		サクラアリ	<i>Paratrechina sakurae</i>			●		●	
604		トゲアリ	<i>Polyrhachis (Polyrhachis) lamellidens</i>				●	●	
605		クモバチ	シラキトゲアシクモバチ	<i>Calidurgus ussuriensis</i>				●	
606			ベッコウクモバチ	<i>Cyphononyx fulvognathus</i>				●	
607			トゲアシクモバチ	<i>Priocnemis (Umbripennis) atrapos</i>				●	
608			オオモンクモバチ	<i>Anoplius (Lophopompilus) samariensis</i>				●	
609		ドロバチ	スズバチ	<i>Oreumenes decoratus</i>		●			
610	スズメバチ	ムモンホソアシナガバチ	<i>Parapolybia indica indica</i>				●		
611		セクロアシナガバチ	<i>Polistes jokahamae jokahamae</i>			●	●		
612		キアシナガバチ	<i>Polistes rothneyi iwatai</i>		●	●			
613		コアシナガバチ	<i>Polistes snelleni</i>				●		
614		コガタスズメバチ	<i>Vespa analis insularis</i>			●		●	
615		ヒメスズメバチ	<i>Vespa ducalis pulchra</i>				●		
616		オオスズメバチ	<i>Vespa mandarinia japonica</i>		●	●	●	●	
617		キイロスズメバチ	<i>Vespa similima xanthoptera</i>		●	●	●	●	
618		クロスズメバチ	<i>Vespula flaviceps lewisii</i>				●		
619		アナバチ	ルリジガバチ	<i>Chalybion (Chalybion) japonicum</i>				●	
620		サトジガバチ	<i>Ammophila sabulosa nipponica</i>				●		
621	ヒメコシボソバチ	Psen属の一種	<i>Psen</i> sp.				●		
622	コハナバチ	アカガネコハナバチ	<i>Halictus (Seladonia) aerarius</i>		●	●	●	●	
623		ホクダイコハナバチ	<i>LasioGLOSSUM (Evyllaetus) duplex</i>			●			
624		オバケチビハナバチ	<i>LasioGLOSSUM (Evyllaetus) pallidulum</i>				●		
625		シロスジカタコハナバチ	<i>LasioGLOSSUM (LasioGLOSSUM) occidentis</i>				●		
-	LasioGLOSSUM属の数種	<i>LasioGLOSSUM</i> spp.		●	●	●			
626	ヒメハナバチ	キバナヒメハナバチ	<i>Andrena (Chlorandrena) knuthi</i>		●				
627		ワタセヒメハナバチ	<i>Andrena (Gymandrena) watasei</i>					●	
-		Andrena属の数種	<i>Andrena</i> spp.		●	●		●	
628	ミツバチ	ダイミョウキマダラハナバチ	<i>Nomada japonica</i>			●	●		
-		Nomada属の一種	<i>Nomada</i> sp.		●		●		
629		シロスジヒゲナガハナバチ	<i>Eucera spurcatipes</i>		●				
630		ニッポンヒゲナガハナバチ	<i>Tetralonia nipponensis</i>			●			
631		ヤマトツヤハナバチ	<i>Ceratina (Ceratinidia) japonica</i>		●		●		
632		クマバチ	<i>Xylocopa appendiculata circumvolans</i>		●	●			
633		コマルハナバチ	<i>Bombus (Pyrobombus) ardens ardens</i>		●				
634		ニホンミツバチ	<i>Apis cerana japonica</i>		●	●	●	●	
635		セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera</i>		●	●	●	●	
636		シリアゲムシ	ヤマトシリアゲ	<i>Panorpa japonica</i>		●	●		
637	ハエ	ガガンボモドキ	<i>Bitacus nipponicus</i>				●		
638		ガガンボ	キイロホソガガンボ	<i>Nephrotoma virgata</i>		●	●		
-		Nephrotoma属の一種	<i>Nephrotoma</i> sp.		●	●			
639		マダラガガンボ	<i>Tipula (Nippotipula) coquillei</i>			●			
640		キリウジガガンボ	<i>Tipula (Yamatotipula) aino</i>			●			

表 参3-5(9) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度			重要種
						春季	夏季	秋季	
641	ハエ	ガガンボ	マドガガンボ	<i>Tipula (Yamatotipula) nova</i>		●	●	●	
-			Tipula属の数種	<i>Tipula spp.</i>	●	●	●		
642			Metalimnobia属の一種	<i>Metalimnobia sp.</i>				●	
643			Limnophila属の一種	<i>Limnophila sp.</i>				●	
-			ガガンボ科の数種	<i>Tipulidae gen. spp.</i>	●	●	●		
644		チョウバエ	チョウバエ科の一種	<i>Psychodidae gen. sp.</i>		●			
645		カ	ヒトスジシマカ	<i>Aedes (Stegomyia) albopictus</i>			●	●	
-			Aedes属の一種	<i>Aedes sp.</i>	●				
646			アカイエカ	<i>Culex (Culex) pipiens pallens</i>				●	
647	ハエ	スカカ	スカカ科の一種	<i>Ceratopogonidae gen. sp.</i>	●				
648			ユスリカ	Cricetopus属の一種	<i>Cricetopus sp.</i>		●		
649				オオユスリカ	<i>Chironomus plumosus</i>		●		
-		Chironomus属の数種		<i>Chironomus spp.</i>	●	●			
650		ハイロユスリカ		<i>Glyptotendipes (Phytotendipes) tokunagai</i>		●			
651		Stenochironomus属の一種		<i>Stenochironomus sp.</i>		●			
-		ユスリカ科の数種	<i>Chironomidae gen. spp.</i>	●	●	●			
652		ケバエ	ハグロケバエ	<i>Bibio tenebrosus</i>			●		
-			Bibio属の一種	<i>Bibio sp.</i>			●		
653		タマバエ	エノキトガリタマバエ	<i>Celticecis japonica</i>			●		
654			Daphnephila属の一種	<i>Daphnephila sp.</i>			●		
655			Contarinia属の一種	<i>Contarinia sp.</i>			●		
-		タマバエ科の数種	<i>Cecidomyiidae gen. spp.</i>			●	●		
656		キノコバエ	シワバネキノコバエ	<i>Allactoneura cincta</i>		●			
-			Allactoneura属の一種	<i>Allactoneura sp.</i>	●				
657			Leptomorphus (Diononus)属の一種	<i>Leptomorphus (Diononus) sp.</i>			●		
658			Mycetophila属の一種	<i>Mycetophila sp.</i>				●	
-		キノコバエ科の一種	<i>Mycetophilidae gen. sp.</i>	●			●		
659		クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科の数種	<i>Sciaridae gen. spp.</i>	●	●			
660			ミズアブ	キアシホソリミズアブ	<i>Actina diadema</i>	●			
661				エゾホソリミズアブ	<i>Actina jezoensis</i>		●		
662				コウカアブ	<i>Plechnicus tenebrifer</i>			●	
663			アメリカミズアブ	<i>Hermietia illucens</i>			●		
664			ネグロミズアブ	<i>Craspedometopon frontale</i>		●			
665			シギアブ	<i>Rhagio morulus</i>		●			
666			アブ	<i>Tabanus rufidens</i>	●	●			
667			ツリアブ	ヒロウドツリアブ	<i>Bombylius major</i>		●		
668	コウヤツリアブ			<i>Anthrax aygulus</i>		●			
669	ムシヒキアブ	ハラボソムシヒキ	<i>Dioctria (Dioctria) nakanensis</i>	●					
670		Leptogaster属の一種	<i>Leptogaster sp.</i>			●			
671		シオヤアブ	<i>Promachus yesonicus</i>	●					
672		シリアカコムシヒキ	<i>Kiyr caucasicus</i>	●					
673		ナミマガリケムシヒキ	<i>Neotamus angusticornis</i>	●	●				
674		サキグロムシヒキ	<i>Trichomachimus scutellaris</i>	●					
675		マダラホソアシナガバエ	<i>Condylostylus nebulosus</i>	●		●			
676	ノミバエ	Dolichopus属の数種	<i>Dolichopus spp.</i>		●	●			
677		Megaselia属の一種	<i>Megaselia sp.</i>			●			
-	ノミバエ科の数種	<i>Phoridae gen. spp.</i>	●	●					
678	アタマアブ	アタマアブ科の一種	<i>Pipunculidae gen. sp.</i>				●		
679		Epistrophe属の一種	<i>Epistrophe sp.</i>				●		
680	ハナアブ	ホソヒラタアブ	<i>Episyrphus balteatus</i>	●	●	●	●		
681		ナミホシヒラタアブ	<i>Eupeodes (Metasyrphus) ferquens</i>	●					
682		ミナミヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria indiana</i>	●		●	●		
683		ホソヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria macrogaster</i>	●		●	●		
684		キイロナミホシヒラタアブ	<i>Syrphus vitripennis</i>		●				
685		ツヤヒラタアブ	<i>Melanostoma orientale</i>		●		●		
686		ホシツヤヒラタアブ	<i>Melanostoma scalare</i>				●		
-		Melanostoma属の一種	<i>Melanostoma sp.</i>	●					
687		キアシメヒラタアブ	<i>Paragus (Pandasyphibabmus) haemorhous</i>	●			●		
688		ムチンシマメヒラタアブ	<i>Paragus (Paragus) clauseni</i>	●					
689		シマメヒラタアブ	<i>Paragus (Paragus) fasciatus</i>	●			●		
690		ニッポンクロハナアブ	<i>Chelostia japonica</i>		●				
691		スイセンハナアブ	<i>Merodon equestris</i>		●				
692	シマハナアブ	<i>Eristalis (Eoseristalis) cerealis</i>		●					
693	ナミハナアブ	<i>Eristalis (Eristalis) tenax</i>	●	●					
694	アシブトハナアブ	<i>Helophilus (Helophilus) virgatus</i>	●	●		●			
695	ハナアブ科の数種	<i>Mallota</i> 属の一種	<i>Mallota sp.</i>	●					
-		<i>Syrphidae</i> gen. spp.			●				
696	メバエ	マダラメバエ	<i>Myopa buccata</i>		●				
697	ナガズヤセバエ	ホシアシナガヤセバエ	<i>Syrpocladus appendiculatus</i>			●			
698		ミスジミバエ	<i>Bactrocera scutellatus</i>		●	●	●		
699	クロホソスジハマダラミバエ	<i>Hendelina fossata</i>			●				
700	ヤチバエ	ヒゲナガヤチバエ	<i>Sepedon aenescens</i>	●	●		●		
701	ツヤホソバエ	オスアカツヤホソバエ	<i>Sepsis thoracica</i>			●			
702	シマバエ	Homoneura属の一種	<i>Homoneura sp.</i>	●			●		
-	シマバエ科の数種	<i>Lauxaniidae</i> gen. spp.			●	●			
703	キモグリバエ	キモグリバエ科の一種	<i>Chloropidae gen. sp.</i>				●		
704	ミギワバエ	ミナミカマバエ	<i>Ochthera circularis</i>				●		
705	ショウジョウバエ	ツヤカブトショウジョウバエ	<i>Siegana (Stegania) nigrifrons</i>			●	●		
706		キイロショウジョウバエ	<i>Drosophila (Sophophora) melanogaster</i>			●	●		
-		Drosophila属の数種	<i>Drosophila spp.</i>	●		●	●		
-		ショウジョウバエ科の数種	<i>Drosophilidae</i> gen. spp.		●	●	●		
707	フンコバエ	フンコバエ科の一種	<i>Sphaeroceridae gen. sp.</i>		●	●			
708	フンバエ	キアシフンバエ	<i>Scathophaga mellipes</i>	●					
709	ハナバエ	タネバエ	<i>Delia platura</i>		●				
-	ハナバエ科の一種	<i>Anthomyiidae</i> gen. sp.					●		
710	ハエ	イエバエ	Muscina属の一種	<i>Muscina sp.</i>				●	
711			Musca属の数種	<i>Musca spp.</i>		●			
712			ギョウギシバクキイエバエ	<i>Atherigona reversura</i>	●				
713			Phaonia属の一種	<i>Phaonia sp.</i>		●	●	●	
714			Coenosia属の一種	<i>Coenosia sp.</i>		●	●	●	
715		ヘリグロハナレメイバエ	<i>Orchisia costata</i>				●		
-		イエバエ科の数種	<i>Muscidae</i> gen. spp.		●	●	●		
716		クロバエ	ケバククロバエ	<i>Aldrichina grahami</i>			●	●	
717			オオクロバエ	<i>Calliphora (Acrophaga) lata</i>		●	●		
718			ミヤマキンバエ	<i>Lucilia (Lucilia) papuensis</i>	●	●			
719	キンバエ		<i>Lucilia caesar</i>	●	●				
720	ミドリキンバエ		<i>Lucilia illustris</i>		●	●	●		

表 参3-5(10) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度			重要種	
						春季	夏季	秋季		
721	ハエ	クロバエ	シリプトミドリバエ	<i>Strongylopera prasina</i>			●		●	
722			ツマグロキンバエ	<i>Stomorphina obsoleta</i>	●	●	●	●		
-			クロバエ科の一種						●	
723		ニクバエ	シリグロニクバエ	<i>Sarcophaga (Helicophagella) melanura</i>	●					
-			Sarcophaga属の数種	<i>Sarcophaga spp.</i>		●	●	●		
-	ニクバエ科の一種		<i>Sarcophagidae gen. sp.</i>					●		
724	ヤドリバエ	シナヒラタハナバエ	<i>Ectophasia rotuiventris</i>					●		
725		Cylindromyia属の一種	<i>Cylindromyia sp.</i>					●		
-		ヤドリバエ科の数種	<i>Tachinidae gen. spp.</i>			●	●			
726	トビケラ	シマトビケラ	Cheumatopsyche属の一種	<i>Cheumatopsyche sp.</i>	●					
727			ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>					●	
-			Hydropsyche属の一種	<i>Hydropsyche sp.</i>	●		●			
-			シマトビケラ科の数種	<i>Hydropsychidae gen. spp.</i>			●			
728		ヒゲナガトビケラ	ヒゲナガトビケラ科の一種	<i>Leptoceridae gen. sp.</i>					●	
729	エグリトビケラ	エグリトビケラ科の一種	<i>Limnephilidae gen. sp.</i>				●			
730	ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ	<i>Goera japonica</i>					●		
731	チョウ	ハマキガ	ビロードハマキ	<i>Cerace xanthocosma</i>		●				
732			ハリオビヒメハマキ	<i>Cryptasasma marginifasciata</i>				●		
-			Cryptasasma属の一種	<i>Cryptasasma sp.</i>			●			
733				シロモンヒメハマキ	<i>Hedya dimidiana</i>			●		
734			ミノガ	オオミノガ	<i>Eumeta japonica</i>			●		●
735		チャミノガ		<i>Eumeta minuscula</i>			●			
736		ヒロズコガ	マダラマルハヒロズコガ	<i>Gaphara conspersa</i>	●	●	●			
737		マルハキバガ	カレハチバマルハキバガ	<i>Tyrolimnas anthraconesa</i>				●		
-			マルハキバガ科の一種	<i>Oecophoridae gen. sp.</i>	●					
738		カザリバガ	ベニモントガリホソガ	<i>Labdia semicoccinea</i>				●		
739		ヒゲナガキバガ	ゴマフシロハビロキバガ	<i>Scythrioides leucostola</i>	●					
740		マダラガ	ミノウスバ	<i>Pryeria sinica</i>		●				
741			ホタルガ	<i>Pidorus atratus</i>					●	
742			タケノホソクロバ	<i>Artona martini</i>					●	
743		イラガ	アカイラガ	<i>Phrixolepia sericea</i>				●		
744			ヒメクロイラガ	<i>Scopelodes contractus</i>				●		
745		メイガ	シロツトガ	<i>Calamotropha paludella purella</i>				●		
746			シロスジツトガ	<i>Crambus argyrophorus</i>	●					
747			シバツトガ	<i>Parapediasia tenerella</i>	●					
748			Bradina属の一種	<i>Bradina sp.</i>				●		
749			マエキノメイガ	<i>Herpetogramma rudis</i>					●	
750			シロオビノメイガ	<i>Spoladea recurvalis</i>	●					
-				メイガ科の数種	<i>Pyralidae gen. spp.</i>				●	
751			トリバガ	トリバガ科の一種	<i>Pterophoridae gen. sp.</i>					●
752		セセリチョウ	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>	●					
753	イチモンジセセリ		<i>Parnara guttata guttata</i>	●	●			●		
754	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous alcinous</i>		●					
755		アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nipponum</i>	●	●	●				
756		ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>	●	●	●	●			
757		キアゲハ	<i>Papilio machaon hippocrates</i>	●	●	●	●			
758		モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicolens</i>				●			
759		クロアゲハ	<i>Papilio protenor demetrius</i>	●	●	●				
760		ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon thunbergii</i>	●						
761	シロチョウ	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographus</i>	●	●					
762		キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>	●	●	●	●			
763		モンシロチョウ	<i>Pieris (Artogeia) rapae crucivora</i>	●	●	●	●			
764		スジグロシロチョウ	<i>Pieris (Artogeia) melete</i>	●	●	●	●			
765	シジミチョウ	ベニシジミ	<i>Lycena phlaeas daimio</i>	●	●	●				
766		ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>	●	●	●	●			
767		ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>	●	●	●	●			
768		ツバメシジミ	<i>Everes argiades argiades</i>	●		●	●			
769		ウラギンシジミチョウ	<i>Curetis acuta paracuta</i>	●				●		
770	タテハチョウ	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>	●			●			
771		コミスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>	●	●	●	●			
772		キタテハ	<i>Polygona c-aureum c-aureum</i>	●	●	●	●			
773		ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i>	●			●	●		
774		アカボシゴマダラ名義タイプ亜種	<i>Hestina assimilis assimilis</i>				●	●		
775		チョウ	ジャノメチョウ	<i>Ypthima argus</i>	●	●	●	●		
776			ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>	●	●	●	●		
777			クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>	●	●	●	●		
778	ヒメジャノメ		<i>Mycalasis gotama fulginia</i>				●	●		
779	コジャノメ		<i>Mycalasis francisca perdiccas</i>	●						
780	クロノマチョウ		<i>Melanitis phedima oitensis</i>					●		
781	カギバガ		<i>Agnidra scabiosa scabiosa</i>				●			
782	シャクガ		Timandra属の一種	<i>Timandra sp.</i>				●		
783			ヨモギエダシャク	<i>Ascotis selenaria cretacea</i>			●	●		
784			ウスオエダシャク	<i>Godonela hebesata</i>			●			
785		ツマジロエダシャク	<i>Krananda latmarginaria</i>	●						
786		ウスキオエダシャク	<i>Oxymacaria normata proximaria</i>			●				
787	カイコガ	クワコ	<i>Bombyx mandarina</i>				●			
788	ヤママユガ	オオミズアオ	<i>Actias artemis aliena</i>				●			
789	スズメガ	クロメンガタスズメ	<i>Acherontia lachesis</i>				●			
790		エビガラスズメ	<i>Agrilus convolvuli</i>					●		
791		ウンモンズズメ	<i>Callambulyx tatarinovi gabyae</i>					●		
792		モモスズメ	<i>Marumba gaschkewitschii echephron</i>					●		
793		オオスカシバ	<i>Cephonodes hylas</i>					●		
794		ベニスズメ	<i>Deilephila elpenor lewisii</i>				●			
795		コスズメ	<i>Theretra japonica</i>					●		
796		キイロスズメ	<i>Theretra nessus</i>					●		
797		セスジスズメ	<i>Theretra odenlandiae</i>					●		
798		ドクガ	ゴマフドリドクガ	<i>Euproctis pulverea</i>			●			
799	マイマイガ	マイマイガ	<i>Lymantria dispar japonica</i>			●	●			
800	ヒトリガ	キシタホソバ	<i>Eilema aegrota</i>	●						

表 参3-5(11) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度			重要種	
						春季	夏季	秋季		
801	チョウ	ヒトリガ ヤガ	スジベニコケガ	<i>Milochrista striata striata</i>	●					
802			ナシケンモン	<i>Vimonia rumicis</i>					●	
803			オオタバコガ	<i>Helicoverpa armigera</i>					●	
804			Mythimna属の一種	<i>Mythimna sp.</i>				●	●	
805			キバラモクメキリガ	<i>Xylena formosa</i>			●			
806			アヤモクメキリガ	<i>Xylena fumosa</i>			●			
807			ヒメサビスジヨトウ	<i>Atheis stellata</i>			●			
808			ミツモンキンウワバ	<i>Ctenoplusia agnata</i>					●	
809			フクラスズメ	<i>Arcie coerulea</i>			●			
810			アシプトクチバ	<i>Dysgonia stuposa</i>					●	
811			オオウンモンクチバ	<i>Mocis undata</i>					●	
812			アケビコノハ	<i>Adris tyrannus</i>					●	
813			クロテンカバアツバ	<i>Anachrostitis nigripunctalis</i>			●			
814			コウンモンクチバ	<i>Blasticorhinus ussuriensis</i>					●	
815			アカエグリバ	<i>Oraesia excavata</i>					●	
816			マエテンアツバ	<i>Rhesala imparata</i>					●	
817			タイワンキシタアツバ	<i>Hypena trigonalis</i>			●			
-				Hypena属の一種	<i>Hypena sp.</i>					●
818			トビスジアツバ	<i>Herminia tarsicrinalis</i>					●	
819			オオシラナミアツバ	<i>Hipoepa fractalis</i>			●		●	
-		ヤガ科の数種	Noctuidae gen. spp.		●		●			
計	29目	222科	884種		304種	360種	394種	296種	19種	

- 注1 分類、配列などは原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物Ⅱ」（平成5年,平成7年,平成10年、環境庁）に準拠した。
- 注2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

5-2 動物（片平）における魚類確認種の一覧を、以下に示す。

表 参3-6 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度				重要種		
						春季	夏季	秋季	冬季			
1	コイ	コイ	コイ(飼育型)	<i>Cyprinus carpio</i>		●	●	●	●			
-			コイ(型不明)	<i>Cyprinus carpio</i>	●							
-			キンギョ	<i>Carassius auratus</i>				●				
2			ギンブナ	<i>Carassius sp.</i>				●			●	
3			オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>	●	●	●	●	●	●	●	
4			アブラハヤ	<i>Rhynchocypris lagowskii steindachneri</i>	●			●			●	
5			モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	●	●	●	●	●	●		
6			タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	●			●				
7			ドジョウ	ドジョウ(中国大陸系統)	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>		●	●	●	●		
-				ドジョウ類	<i>Misgurnus anguillicaudatus sp.complex</i>	●						
8			フクドジョウ	ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>		●	●	●	●	●	
9			ダツ	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	●		●	●	●	●
10			スズキ	サンフィッシュ	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>	●					
11				ハゼ	カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>	●	●	●	●	●	
12					トウヨシノボリ類	<i>Rhinogobius sp.OR unidentified</i>	●	●				
計	3目	6科	15種		10種	7種	7種	11種	7種	5種		

注1 分類、配列などは原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度版生物リスト」（平成29年、河川環境データベース）に準拠した。

注2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

5-2 動物（片平）における底生動物確認種の一覧を、以下に示す。

表 参3-7(1) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度				重要種
						春季	夏季	秋季	冬季	
1	ザラカイメン	タンスイカイメン	タンスイカイメン科の一種	Spongillidae sp.	●					
2	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	ナミウズムシ	Dugesia japonica	●					
3			アメリカツノウズムシ	Girardia dorocephala	●	●	●	●	●	
-			サンカクアタマウズムシ科の一種	Dugesidae sp.	●					
4	ハリガネムシ	ハリガネムシ	ハリガネムシ科の一種	Gordidae sp.	●					
5	新生腹足	タニシ	ヒメタニシ	Sinotia histrica	●	●	●	●		
6		カワナナ	カワナナ	Semilucospora libertina	●	●	●	●	●	
7		カワザンショウガイ	ウスイロオカチグサガイ	Solenomphala debilis				●	●	
8	汎有肺	モノアラガイ	ヒメモノアラガイ	Orientogalba oollua				●		
9			ハブタエモノアラガイ	Pseudosuccinea columella	●				●	
10			モノアラガイ	Radix auricularia japonica	●					●
-			モノアラガイ科の数種	Lymnaeidae spp.	●	●	●	●	●	
11		サカマキガイ	サカマキガイ	Physella acuta	●	●	●	●	●	
12		ヒラマキガイ	ヒラマキガイ科の一種	Planorbidae sp.	●	●	●	●	●	
13	マルスダレガイ	シジミ	シジミ属の数種	Corbicula spp.	●	●	●	●	●	
14		トブシジミ	トブシジミ	Musculium japonicum		●				
15	ナガミミズ	ナガミミズ	ナガミミズ科の一種	Haplotaxidae sp.					●	
16	オヨギミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ科の数種	Lumbriculidae spp.	●	●	●	●	●	
17	イトミミズ	ミズミミズ	ユラミミズ	Branchiura sowerbyi			●		●	
18			ユリミミズ	Limnodrilus hoffmeisteri			●			
19			ミズミミズ属の一種	Nais sp.	●					
-			ミズミミズ科の数種	Naididae spp.		●	●	●	●	
20	ツリミミズ	フトミミズ	フトミミズ科の一種	Megascolecidae sp.			●			
-			ツリミミズ目の一種	Lumbricida sp.	●	●				
21	物蛭	ヒラタビル	ハバヒロビル	Alboglossiphonia lata			●			
22			ヌマビル	Helobdella stagnalis			●		●	
23	物無蛭	イシビル	シマイシビル	Dina lineata	●	●	●	●	●	
-			イシビル科の数種	Erpobdellidae spp.	●	●	●	●	●	
24		ナガレビル	ナガレビル科の数種	Salifidae spp.		●	●	●	●	
25	ヨコエビ	ハマトビムシ	ヒメハマトビムシ属の数種	Platorchestia spp.			●	●	●	
26		マミズヨコエビ	フロリダマミズヨコエビ	Crangonyx floridanus	●	●	●	●	●	
27	ワラジムシ	ミズムシ(甲)	ミズムシ(甲)	Asellus hilgendorfi hilgendorfi	●	●	●	●	●	
28	エビ	ヌマエビ	シナヌマエビ	Neocaridina davidi		●	●	●	●	
-			カワリヌマエビ属の数種	Neocaridina spp.	●	●	●	●	●	
29		テナガエビ	スジエビ	Palaemon paucidens	●	●	●	●	●	●
30		アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	Procambarus clarkii	●	●	●	●	●	
31		サワガニ	サワガニ	Geothelphusa dehaani					●	●
32		モクズガニ	モクズガニ	Eriocheir japonica	●					●
33	カゲロウ(蜉蝣)	ヒメシロカゲロウ	ヒメシロカゲロウ属の数種	Caenis spp.		●	●			
34		マダラカゲロウ	エラブタマダラカゲロウ	Torleya japonica			●		●	
35		コカゲロウ	ミツオミジカオフトバココカゲロウ	Acentrella gnom	●			●		
36			ミジカオフトバココカゲロウ	Acentrella sibirica	●	●				
37			フトバココカゲロウ	Baetiella japonica	●		●			
38			サホココカゲロウ	Baetis sahoensis	●	●				
39			フタモンココカゲロウ	Baetis taiwanensis	●	●	●	●	●	
40			シロハラココカゲロウ	Baetis thermicus	●	●			●	
41			フトバカゲロウ属の一種	Cloeon sp.	●		●			
42			ウスイロフトヒゲココカゲロウ	Labiobaetis atrebatinus orientalis	●		●		●	
43			ウデマカリココカゲロウ	Tenuibaetis flexifemora	●	●	●	●	●	
44		ヒラタカゲロウ	タニガワカゲロウ属の一種	Ecdyonurus sp.			●			
45	トンボ(蜻蛉)	アオイトトンボ	アオアオイトトンボ	Lestes temporalis		●				
46		イトトンボ	アオモンイトトンボ属の数種	Ischnura spp.	●	●	●			
-			イトトンボ科の数種	Coenagrionidae spp.				●		
47		カワトンボ	ハグロトンボ	Atrocalopteryx atrata	●	●				●
48			アオハダトンボ属の一種	Calopteryx sp.	●					
-			カワトンボ科の数種	Calopterygidae spp.		●		●	●	
49		ヤンマ	マルタンヤンマ	Anaciaeschna martini		●				
50			クロスジヤンマ	Anax nigrofasciatus nigrofasciatus				●		
51			ギンヤンマ	Anax parthenope julius		●		●		
-			ギンヤンマ属の一種	Anax sp.	●			●		
52		コシボソヤンマ	コシボソヤンマ	Boyeria maclachlani	●			●		●
53		ヤマサナエ	ヤマサナエ	Asiagomphus melaenops				●	●	●
54		オナガサナエ	オナガサナエ	Meligomphus viridicostus	●	●	●	●	●	
55		ホンサナエ	ホンサナエ	Shaogomphus postocularis				●	●	●
56		コオニヤンマ	コオニヤンマ	Sieboldius albardae	●				●	
-			サナエトンボ科の一種	Gomphidae sp.			●			
57	エゾトンボ	コヤマトンボ	コヤマトンボ	Macromia amphigena amphigena			●			●
58	トンボ	ショウジョウトンボ	ショウジョウトンボ	Crocothemis servilia mariannae		●		●	●	
59		シオカラトンボ	シオカラトンボ	Orthetrum albistylum speciosum	●		●	●		
60			シオヤトンボ	Orthetrum japonicum	●					●

表 参3-7(2) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2022年度				重要種
						春季	夏季	秋季	冬季	
61			オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum melania</i>		●		●	●	
62			ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	●					
63			アカネ属の一種	<i>Sympetrum</i> sp.	●					
-			トンボ科の一種	<i>Libellulidae</i> sp.				●		
64	カワゲラ(セキ翅)	オナシカワゲラ	オナシカワゲラ属の数種	<i>Nemoura</i> spp.				●	●	
65	カメムシ(半翅)	アメンボ	オオアメンボ	<i>Aquarius elongatus</i>	●	●				●
66			アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	●	●	●	●		
67			ヒメアメンボ	<i>Gerris latiaabdominis</i>	●	●				
68			コセアカアメンボ	<i>Gerris gracilicornis</i>		●				
69			シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>	●			●	●	
-			アメンボ科	<i>Gerridae</i> sp.		●	●			
70		カタビロアメンボ	ケシカダビロアメンボ属の数種	<i>Microvelia</i> spp.			●	●		
71		マツモムシ	マツモムシ	<i>Notonecta triguttata</i>		●				
72	ヘビトンボ	ヘビトンボ	ヤマトクロスジヘビトンボ	<i>Parachauliodes japonicus</i>					●	●
73	アミメカゲロウ(脈翅)	ミスカゲロウ	ミスカゲロウ	<i>Sisyra nikkoana</i>			●			
74	トビケラ(毛翅)	シマトビケラ	コガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche brevitineata</i>	●	●	●	●	●	
75			ナミコガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche infascia</i>					●	
-			コガタシマトビケラ属の一種	<i>Cheumatopsyche</i> sp.	●					
76			ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>	●	●	●		●	
-			シマトビケラ属の数種	<i>Hydropsyche</i> spp.	●	●			●	
77		クダトビケラ	キタクダトビケラ属の数種	<i>Lype</i> spp.			●	●	●	
78			クダトビケラ属の一種	<i>Psychomyia</i> sp.	●				●	
79			ホソクダトビケラ属の一種	<i>Tinodes</i> sp.	●					
80		ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>		●	●		●	
81		ヒメトビケラ	ヒメトビケラ属の数種	<i>Hydropitla</i> spp.		●				
82		コエグリトビケラ	コエグリトビケラ属の数種	<i>Apatania</i> spp.		●				
83		ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ	<i>Goera japonica</i>	●	●	●		●	
84		ヒゲナガトビケラ	アオヒゲナガトビケラ属の数種	<i>Mystacides</i> spp.	●		●		●	
85		エグリトビケラ	キリバネトビケラ属の一種	<i>Limnephilus</i> sp.					●	
86	ハエ(双翅)	ヒメガガンボ	ウスバガガンボ属の数種	<i>Antocha</i> spp.	●	●	●	●	●	
87		ガガンボ	ガガンボ属の数種	<i>Tipula</i> spp.	●	●	●	●	●	
88		チョウバエ	ハマダラチョウバエ属の数種	<i>Pericoma</i> spp.			●			
-			チョウバエ科の一種	<i>Psychodidae</i> sp.	●					
89		ヌカカ	ヌカカ科の数種	<i>Ceratopogonidae</i> spp.		●				
90		ユスリカ	ケブカユスリカ属の一種	<i>Brillia</i> sp.	●				●	
91			ハダカユスリカ属の一種	<i>Cardiocladius</i> sp.	●					
92			ユスリカ属の数種	<i>Chironomus</i> spp.	●	●	●	●	●	
93			エダゲヒゲユスリカ属の数種	<i>Cladotanytarsus</i> spp.	●	●	●			
94			トラフユスリカ属の数種	<i>Conchapelopia</i> spp.		●				
95			ツヤユスリカ属の数種	<i>Cricotopus</i> spp.		●	●	●	●	
96			カマガタユスリカ属の一種	<i>Cryptochironomus</i> sp.					●	
97			ホソユスリカ属の数種	<i>Dicrentidipes</i> spp.		●				
98			テンマクエリユスリカ属の一種	<i>Eukiefferiella</i> sp.	●					
99			セボリユスリカ属の一種	<i>Glyptotendipes</i> sp.	●					
100			フユスリカ属の一種	<i>Hydrobaenus</i> sp.					●	
101			ボカシヌマユスリカ属の一種	<i>Macropelopia</i> sp.	●					
102			ツヤムネユスリカ属の一種	<i>Microtendipes</i> sp.		●				
103			エリユスリカ属の一種	<i>Orthocladius</i> sp.	●					
104			カワリユスリカ属の数種	<i>Paratendipes</i> spp.			●			
105			ハモンユスリカ属の数種	<i>Polypedilum</i> spp.	●	●	●			
106			カモヤユスリカ	<i>Pothastia longimanus</i>	●					
107			ナガレツヤユスリカ属の数種	<i>Rheocricotopus</i> spp.	●	●	●	●		
108			ウスギヌヒメユスリカ属の数種	<i>Rheopelopia</i> spp.	●	●			●	
109			ナガレユスリカ属の数種	<i>Rheotanytarsus</i> spp.	●	●	●		●	
110			アシマダラユスリカ属の数種	<i>Stictochironomus</i> spp.					●	
111			フサユスリカ属の数種	<i>Symphosthia</i> spp.					●	
112			ヒゲユスリカ属の数種	<i>Tanytarsus</i> spp.	●	●	●			
113			ヌカユスリカ属の数種	<i>Thienemanniella</i> spp.	●	●				
114			ニセテンマクエリユスリカ属の数種	<i>Tvetenia</i> spp.		●			●	
-			ユスリカ科の数種	<i>Chironomidae</i> spp.	●	●	●	●	●	
115		カ	カ科の一種	<i>Culicidae</i> sp.			●			
116		ホソカ	ホソカ属の一種	<i>Dixa</i> sp.	●				●	
-			ホソカ科の一種	<i>Dixidae</i> sp.	●					
117		ブユ	アシマダラブユ属の数種	<i>Simulium</i> spp.				●	●	
118		ミズアブ	Beris属の一種	<i>Beris</i> sp.			●			
119		アシナガバエ	アシナガバエ科の一種	<i>Dolichopodidae</i> sp.		●				
120		イエバエ	イエバエ科の一種	<i>Muscidae</i> sp.	●					
121	コウチュウ(鞘翅)	ガムシ	コモンシジミガムシ	<i>Laccobius oscillans</i>		●		●		
-			シジミガムシ属の数種	<i>Laccobius</i> spp.	●	●	●	●		
122		ヒラタドロムシ	チビヒゲナガハナムミ	<i>Ectopria opaca opaca</i>	●	●			●	
計	24目	64科	140種		79種	62種	53種	45種	57種	12種

注1 分類、配列などは原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度版生物リスト」(平成29年、河川環境データベース)に準拠した。

注2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

参考資料 4 : 植物

5-3 植物（片平）における植物確認種の一覧を、以下に示す。

表 参 4-1(1) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	評価書	2022年度				重要種
					早春季	春季	夏季	秋季	
1	イワヒバ科	イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>		●		●	●	
2	トクサ科	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>	●	●	●	●	●	
3		イヌドクサ	<i>Equisetum ramosissimum</i>					●	
4	ハナヤスリ科	フユノハナワラビ	<i>Botrychium ternatum</i>	●	●			●	
5		コヒロハハナヤスリ	<i>Ophioglossum petiolatum</i>			●		●	●
6	ゼンマイ科	ゼンマイ	<i>Osmunda japonica</i>	●	●	●	●	●	
7	ウラボシ科	コシダ	<i>Dicranopteris linearis</i>	●					●
8	フサシダ科	カニクサ	<i>Lygodium japonicum</i>	●	●	●	●	●	
9	コバノイシカグマ科	イヌシダ	<i>Dennstaedtia hirsuta</i>	●	●	●	●	●	
10		コバノイシカグマ	<i>Dennstaedtia scabra</i>						
11		フモトシダ	<i>Microlepia marginata</i>	●	●	●	●	●	
12		ワラビ	<i>Pteridium aquilinum var. latiusculum</i>	●	●	●	●	●	
13	ミズワラビ科	ホウライシダ	<i>Adiantum capillus-veneris</i>						
14		イワガネソウ	<i>Coniogramme japonica</i>					●	
15		タチシノブ	<i>Onychium japonicum</i>	●				●	
16	イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ	<i>Pteris cretica</i>	●	●		●	●	
17		イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>	●	●	●	●	●	
18	チャセンシダ科	トラノオシダ	<i>Asplenium incisum</i>	●	●	●			
19	オンダ科	リョウメンシダ	<i>Arachniodes standishii</i>	●	●	●	●	●	
20		キヨスミヒメワラビ	<i>Ctenitis maximowicziana</i>		●				
21		ナガバヤブソテツ	<i>Cyrtomium devexiscapulae</i>	●	●	●	●	●	
22		オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>	●					
23		ヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i>	●					
24		テリハヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei f. laetevirens</i>	●	●	●	●	●	
25		ヤマヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei var. clivicola</i>				●		
26		ミサキカグマ	<i>Dryopteris chinensis</i>	●		●	●	●	
27		ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>	●	●	●	●	●	
28		トウゴクシダ	<i>Dryopteris erythrosora var. dilatata</i>	●	●	●	●	●	●
29		オオベニシダ	<i>Dryopteris hondoensis</i>	●	●	●	●	●	
30		クマワラビ	<i>Dryopteris lacera</i>	●	●	●	●	●	
31		オクマワラビ	<i>Dryopteris uniformis</i>	●	●	●	●	●	
32		オオイタチシダ	<i>Dryopteris varia var. hikonensis</i>	●	●	●	●	●	
33		ヤマイタチシダ	<i>Dryopteris varia var. setosa</i>	●	●	●	●	●	
34		アイノコクマワラビ	<i>Dryopteris x mituii</i>	●	●	●	●	●	
35		ナライシダ	<i>Leptorumohra miqueliana</i>	●	●	●	●	●	●
36		ナンコクナライシダ	<i>Leptorumohra miqueliana ssp. fimbriata var. narawensis</i>			●			●
37		アスカイノデ	<i>Polystichum fibrilloso-paleaceum</i>				●	●	
38		アイアスカイノデ	<i>Polystichum longifrons</i>		●	●	●	●	
39		イノデ	<i>Polystichum polyblepharum</i>	●	●	●	●	●	
40		イノデモドキ	<i>Polystichum tagawanum</i>		●				
41		ミウライノデ	<i>Polystichum x miuranum</i>					●	
42	ヒメシダ科	ホシシダ	<i>Cyclogramma acuminatus</i>	●	●	●	●	●	
43		ゲンゲシダ	<i>Phegopteris decursive-pinnata</i>	●	●	●	●	●	
44		ミソシダ	<i>Stegnoگرامma pozoi ssp. mollissima</i>	●	●	●	●	●	
45		ハシゴシダ	<i>Thelypteris glanduligera</i>	●	●	●	●	●	
46		ハリガネワラビ	<i>Thelypteris japonica</i>	●	●	●	●	●	
47		ヤウラシダ	<i>Thelypteris laxa</i>	●	●	●	●	●	
48		ヒメシダ	<i>Thelypteris palustris</i>	●	●	●	●	●	
49		ヒメワラビ	<i>Thelypteris torresiana var. calvata</i>	●					
50		ミドリヒメワラビ	<i>Thelypteris viridifrons</i>	●		●	●	●	
51	メシダ科	イヌワラビ	<i>Athyrium niponicum</i>	●	●	●	●	●	
52		ヘビノネゴザ	<i>Athyrium yokoscense</i>	●	●	●	●	●	
53		ホソバシケシダ	<i>Deparia conilii</i>	●	●	●	●	●	
54		セイタカシケシダ	<i>Deparia dimorphophylla</i>					●	
55		シケシダ	<i>Deparia japonica</i>	●	●	●	●	●	
56		キヨタキシダ	<i>Diplazium squamigerum</i>		●				
57		イヌガンソク	<i>Matteuccia orientalis</i>	●					
58		クサソテツ	<i>Matteuccia struthiopteris</i>	●					
59		コウヤワラビ	<i>Onoclea sensibilis var. interrupta</i>	●		●	●	●	
60	ウラボシ科	マメツタ	<i>Lemmaphyllum microphyllum</i>			●			
61		ノキシノブ	<i>Lepisorus thunbergianus</i>	●	●	●	●	●	
62	イチョウ科	イチョウ	<i>Ginkgo biloba</i>				●	●	
63	マツ科	アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>				●	●	
64	スギ科	スギ	<i>Cryptomeria japonica</i>	●	●	●	●	●	
65	ヒノキ科	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	●	●	●	●	●	
66		サウラ	<i>Chamaecyparis pisifera</i>	●	●				
67	マキ科	イヌマキ	<i>Podocarpus macrophyllum</i>	●	●	●			
68	クルミ科	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i>	●		●	●	●	
69	ヤナギ科	シダレヤナギ	<i>Salix babylonica var. lavalle</i>				●	●	
70		アカメヤナギ	<i>Salix chaenomeloides</i>			●	●	●	
71		イヌコリヤナギ	<i>Salix integra</i>	●					
72		タチヤナギ	<i>Salix subfragilis</i>	●	●	●	●	●	
73	カバノキ科	ヤマハンノキ	<i>Alnus hirsuta var. sibirica</i>	●					
74		オオバヤシヤブシ	<i>Alnus sieboldiana</i>	●					
75		クマシデ	<i>Carpinus japonica</i>	●	●	●	●	●	
76		アカシデ	<i>Carpinus laxiflora</i>		●	●	●	●	
77		イヌシデ	<i>Carpinus tschonoskii</i>	●	●	●	●	●	
78	ブナ科	クリ	<i>Castanea crenata</i>	●	●	●	●	●	
79		スタジイ	<i>Castanopsis cuspidata var. sieboldii</i>	●	●	●	●	●	
80		マテバシイ	<i>Lithocarpus edulis</i>	●				●	

表 参 4-1 (2) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	通年 2012	事後調査(2022年度)					重要種
					早春季	春季	夏季	秋季		
81	(ブナ科)	クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>	●	●	●	●	●		
82		アラカシ	<i>Quercus glauca</i>	●	●	●	●	●		
83		シラカシ	<i>Quercus myrsinaefolia</i>	●	●	●	●	●		
84		ウラジロガシ	<i>Quercus salicina</i>	●	●	●	●	●		
85		コナラ	<i>Quercus serrata</i>	●	●	●	●	●		
86	ニレ科	ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	●	●	●	●	●		
87		エノキ	<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>	●	●	●	●	●		
88		アキノニレ	<i>Ulmus parvifolia</i>			●	●	●		
89		ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	●	●	●	●	●		
90	クワ科	ヒメコウゾ	<i>Broussonetia kazinoki</i>	●	●	●	●	●		
91		クワクサ	<i>Fatoua villosa</i>	●	●	●	●	●		
92		カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i>	●	●	●	●	●		
93		ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	●	●	●	●	●		
94	イラクサ科	ヤブマオ	<i>Boehmeria japonica</i> var. <i>longispica</i>			●	●	●		
95		ナンバンカラムシ	<i>Boehmeria nivea</i>	●	●	●	●	●		
96		クサマオ	<i>Boehmeria nivea</i> ssp. <i>nippononivea</i>	●	●	●	●	●		
97		メヤブマオ	<i>Boehmeria platanifolia</i>	●						
98		ムカゴイラクサ	<i>Laportea bulbifera</i>					●		
99		ミス	<i>Pilea hamaoi</i>					●	●	
100		アオミス	<i>Pilea pumila</i>	●			●	●		
101	ヤドリギ科	ヤドリギ	<i>Viscum album</i> ssp. <i>coloratum</i>				●	●		
102	タデ科	ミスヒキ	<i>Antenoron filiforme</i>	●	●	●	●	●		
103		シヤクチリソバ	<i>Fagopyrum cymosum</i>	●						
104		ヒメツルソバ	<i>Persicaria capitata</i>	●	●	●	●	●		
105		ヤナギタデ	<i>Persicaria hydropiper</i>	●				●		
106		オオイヌタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i>	●	●		●	●		
107		イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>	●		●	●	●		
108		ヤノネグサ	<i>Persicaria nipponensis</i>			●		●		
109		イシミカフ	<i>Persicaria perfoliata</i>			●				
110		ハナタデ	<i>Persicaria posumbu</i> var. <i>laxiflora</i>	●			●	●		
111		ボシトクタデ	<i>Persicaria pubescens</i>	●			●	●		
112		ママコシリスグイ	<i>Persicaria senticosa</i>	●		●				
113		ミソソバ	<i>Persicaria thunbergii</i>	●			●	●		
114		ネバリタデ	<i>Persicaria viscofera</i>					●		
115		ハルタデ	<i>Persicaria vulgaris</i>			●	●	●		
116		ミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i>				●	●		
117		イタドリ	<i>Reynoutria japonica</i>	●	●	●	●	●		
118		スイバ	<i>Rumex acetosa</i>	●	●	●	●	●		
119		アレチギシギシ	<i>Rumex conglomeratus</i>	●	●	●	●	●		
120		ナガバギシギシ	<i>Rumex crispus</i>	●	●	●	●	●		
121		ギシギシ	<i>Rumex japonicus</i>	●	●	●	●	●		
122		エソノギシギシ	<i>Rumex obtusifolius</i>	●	●	●	●	●		
123	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i>				●	●		
124	オシロイバナ科	オシロイバナ	<i>Mirabilis jalapa</i>	●		●	●	●		
125	ザクロソウ科	ザクロソウ	<i>Mollugo pentaphylla</i>	●			●	●		
126		クマバザクロソウ	<i>Mollugo verticillata</i>				●	●		
127	スベリヒユ科	スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>	●		●	●	●		
128		ハゼラン	<i>Talinum crassifolium</i>	●			●	●		
129	ナデシコ科	ノミノツツリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i>	●	●	●				
130		オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>	●	●	●		●		
131		ミミナグサ	<i>Cerastium holosteoides</i> var. <i>angustifolium</i>		●	●				
132		ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	●	●	●		●		
133		ムシトリナデシコ	<i>Silene armeria</i>	●		●				
134		シロバナマンテマ	<i>Silene gallica</i>			●				
135		ノミノフスマ	<i>Stellaria alsine</i> var. <i>undulata</i>	●	●	●		●		
136		ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>	●	●	●	●	●		
137		コハコベ	<i>Stellaria media</i>	●	●	●		●		
138		ミドリハコベ	<i>Stellaria neglecta</i>	●	●	●				
139		イヌコハコベ	<i>Stellaria pallida</i>	●	●	●				
140	アカザ科	シロザ	<i>Chenopodium album</i>	●		●	●	●		
141		アリタソウ	<i>Chenopodium ambrosioides</i> var. <i>anthelminticum</i>	●			●			
142		コアカザ	<i>Chenopodium ficifolium</i>			●				
143		ゴウシュウアリタソウ	<i>Chenopodium pumilio</i>	●		●	●	●		
144	ヒユ科	ヒカゲイノコスチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>				●	●		
145		ヒナタイノコスチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>tomentosa</i>	●	●	●	●	●		
146		ホナガアオゲイトウ	<i>Amaranthus hybridus</i>	●						
147		イヌビユ	<i>Amaranthus lividus</i>	●			●	●		
148		アオビユ	<i>Amaranthus viridis</i>				●	●		
149	モクレン科	ホオノキ	<i>Magnolia hypoleuca</i>	●		●	●	●		
150		コブシ	<i>Magnolia praecoccissima</i>	●		●	●	●		
151	マツバサ科	サネカズラ	<i>Kadsura japonica</i>	●	●	●	●	●		
152		シキミ	<i>Illicium anisatum</i>		●	●	●	●		
153	クスノキ科	クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>	●	●	●	●	●		
154		ヤブニッケイ	<i>Cinnamomum japonicum</i>					●		
155		ヤマコウバシ	<i>Lindera glauca</i>	●				●		
156		クロモジ	<i>Lindera umbellata</i>	●		●	●	●		
157		タブノキ	<i>Machilus thunbergii</i>					●		
158		シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i>	●	●	●	●	●		
159	キンボウゲ科	ニリンソウ	<i>Anemone flaccida</i>	●	●	●			●	
160		ヒメウス	<i>Aquilegia adoxoides</i>	●	●	●			●	

表 参4-1(3) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	通年 2012	事後調査(2022年度)					重要種
					早春季	春季	夏季	秋季		
161	(キンポウゲ科)	イヌシヨウマ	<i>Cimicifuga japonica</i>	●	●		●			
162		ボタンヅル	<i>Clematis apiifolia</i>	●				●		
163		コボタンヅル	<i>Clematis apiifolia</i> var. <i>bitemata</i>	●			●		●	
164		ハンシヨウヅル	<i>Clematis japonica</i>	●			●			
165		センニンソウ	<i>Clematis terniflora</i>	●	●		●		●	
166		ケキツネノボタン	<i>Ranunculus cantoniensis</i>	●	●		●		●	
167		ウマノアシガタ	<i>Ranunculus japonicus</i>				●			
168		タガラン	<i>Ranunculus scleratus</i>	●	●		●			
169		キツネノボタン	<i>Ranunculus silerifolius</i>	●	●				●	
170		アキカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>hypoleucum</i>	●	●		●		●	
171	メギ科	イカリソウ	<i>Epimedium grandiflorum</i> var. <i>thunbergianum</i>	●	●					●
172		ホソバヒラギナンテン	<i>Mahonia fortunei</i>				●			
173		ヒラギナンテン	<i>Mahonia japonica</i>	●	●		●		●	
174		ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	●	●		●		●	
175	アケビ科	ゴヨウアケビ	<i>Akebia pentaphylla</i>	●						
176		アケビ	<i>Akebia quinata</i>	●	●		●		●	
177		ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i>	●	●		●		●	
178		ムベ	<i>Stauntonia hexaphylla</i>	●	●		●		●	
179	ツツラフジ科	アオツツラフジ	<i>Cocculus orbiculatus</i>	●	●		●		●	
180		コウモリカズラ	<i>Menispermum dauricum</i>						●	
181	ドクダミ科	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	●	●		●		●	
182	センリョウ科	ヒトリシズカ	<i>Chloranthus japonicus</i>	●	●		●			
183		フタリシズカ	<i>Chloranthus serratus</i>				●		●	
184		センリョウ	<i>Sarcandra glaber</i>		●		●		●	
185	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	<i>Aristolochia debilis</i>	●						
186		タマノカンアオイ	<i>Heterotropa tamaensis</i>	●	●		●			●
187	マタビ科	キウイフルーツ	<i>Actinidia deliciosa</i>	●			●		●	
188	ツバキ科	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>	●	●		●		●	
189		ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>	●	●		●		●	
190		モッコク	<i> Ternstroemia gymnanthera</i>	●	●		●		●	
191		チャノキ	<i>Thea sinensis</i>	●	●		●		●	
192	オトギリソウ科	トモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i>	●						●
193		オトギリソウ	<i>Hypericum erectum</i>				●		●	
194		コケオトギリ	<i>Hypericum laxum</i>	●			●			
195	ケシ科	クサノオウ	<i>Chelidonium majus</i> var. <i>asiaticum</i>	●	●		●		●	
196		ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>	●	●		●		●	
197		タケニグサ	<i>Macleaya cordata</i>	●	●		●		●	
198		ケナシチャンパギク	<i>Macleaya cordata</i> var. <i>thunbergii</i>	●						
199		ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i>	●	●		●			
200	フウチョウソウ科	セイヨウフウチョウソウ	<i>Cleome spinosa</i>	●						
201	アブラナ科	シロイヌナズナ	<i>Arabidopsis thaliana</i>		●					
202		セイヨウカラシナ	<i>Brassica juncea</i>		●		●			
203		ナズナ	<i>Capsella bursa-pastoris</i>	●	●		●		●	
204		タネツケバナ	<i>Cardamine flexuosa</i>	●	●		●		●	
205		ミチタネツケバナ	<i>Cardamine hirsuta</i>	●	●		●			
206		マメグンバイナズナ	<i>Lepidium virginicum</i>	●	●		●		●	
207		オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>		●		●			
208		ハナダイコン	<i>Orychophragmus violaceus</i>	●	●		●		●	
209		ミチバタガラシ	<i>Rorippa dubia</i>	●			●			
210		イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>	●			●		●	
211		スカシタゴボウ	<i>Rorippa islandica</i>				●		●	
212		ヒメイヌガラシ	<i>Rorippa x brachyceras</i>	●					●	
213		カキネガラシ	<i>Sisymbrium officinale</i>	●			●			
214	ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>	●	●		●		●	
215		オカタイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> ssp. <i>oryzifolium</i> var. <i>pumilum</i>	●	●				●	
216		オノマンネングサ	<i>Sedum lineare</i>				●		●	
217		メキシコマンネングサ	<i>Sedum mexicanum</i>	●			●			
218		ツルマンネングサ	<i>Sedum sarmentosum</i>		●		●		●	
219		ヨコハママンネングサ	<i>Sedum</i> sp.				●		●	
220	ユキノシタ科	チダケサシ	<i>Astilbe microphylla</i>	●			●			●
221		ウツギ	<i>Deutzia crenata</i>	●	●		●		●	
222		アジサイ	<i>Hydrangea macrophylla</i>		●					
223		ユキノシタ	<i>Saxifraga stolonifera</i>				●		●	
224	トベラ科	トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>						●	
225	バラ科	キンミズヒキ	<i>Agrimonia japonica</i>	●			●		●	
226		クサボケ	<i>Chaenomeles japonica</i>	●	●		●		●	
227		ヘビイチゴ	<i>Duchesnea chrysantha</i>	●	●		●		●	
228		ヤブヘビイチゴ	<i>Duchesnea indica</i>	●			●		●	
229		ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	●	●		●		●	
230		ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	●	●		●			
231		キンムシロ	<i>Potentilla fragarioides</i> var. <i>major</i>				●			
232		ミツバツチグリ	<i>Potentilla freyniana</i>	●	●		●		●	
233		カマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>	●	●		●		●	
234		ケカマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>zollingeri</i>	●						
235		イヌザクラ	<i>Prunus buergeriana</i>	●	●					
236		ウウミスザクラ	<i>Prunus grayana</i>	●	●		●		●	
237		ヤマザクラ	<i>Prunus jamasakura</i>	●	●		●		●	
238		オオシマザクラ	<i>Prunus lannesiana</i> var. <i>speciosa</i>		●					
239		ソメイヨシノ	<i>Prunus x yedoensis</i>		●				●	
240		トキワサンザシ	<i>Pyracantha coccinea</i>						●	

表 参4-1(4) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	通年 2012	事後調査(2022年度)					重要種
					早春季	春季	夏季	秋季		
241	(バラ科)	シャリンバイ	<i>Rhaphiolepis umbellata</i>	●					●	
242		アズマイバラ	<i>Rosa luciae</i>	●			●	●	●	
243		ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>	●	●		●	●	●	
244		テリハノイバラ	<i>Rosa wichuraiana</i>	●	●		●	●	●	
245		クマイチゴ	<i>Rubus crataegifolius</i>	●						
246		クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>	●	●		●	●	●	
247		モミジチゴ	<i>Rubus palmatus</i> var. <i>coptophyllus</i>	●	●		●	●	●	
248		ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	●			●	●	●	
249		ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i>	●	●		●	●	●	
250		ユキヤナギ	<i>Spiraea thunbergii</i>	●			●	●	●	
251		ココメウツギ	<i>Stephanandra incisa</i>	●	●		●	●	●	
252	マメ科	ホムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>	●			●	●	●	
253		ヤブマメ	<i>Amphicarpaea bracteata</i> ssp. <i>edgeworthii</i> var. <i>japonica</i>	●			●	●	●	
254		ゲンゲ	<i>Astragalus sinicus</i>	●	●		●	●	●	
255		カワラケツメ	<i>Cassia mimosoides</i> ssp. <i>nomame</i>	●				●	●	
256		アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>	●				●	●	
257		ケヤブハギ	<i>Desmodium podocarpium</i> ssp. <i>fallax</i>	●			●	●	●	
258		ヌスビトハギ	<i>Desmodium podocarpium</i> ssp. <i>oxyphyllum</i>	●			●	●	●	
259		ヤブハギ	<i>Desmodium podocarpium</i> ssp. <i>oxyphyllum</i> var. <i>mandshuricum</i>	●			●	●	●	
260		ノササゲ	<i>Dumasia truncata</i>	●			●	●	●	
261		ツルマメ	<i>Glycine max</i> ssp. <i>soja</i>	●						
262		コマツナギ	<i>Indigofera pseudotinctoria</i>	●				●	●	
263		キダチコマツナギ	<i>Indigofera</i> sp.	●				●	●	
264		マルバヤハズソウ	<i>Kummerowia stipulacea</i>	●				●	●	
265		ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i>	●				●	●	
266		メドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>	●			●	●	●	
267		ネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i>	●			●	●	●	
268		ミヤコグサ	<i>Lotus corniculatus</i> var. <i>japonicus</i>	●			●	●	●	
269		クズ	<i>Pueraria lobata</i>	●	●		●	●	●	
270		オオバタンキリマメ	<i>Rhynchosia acuminatifolia</i>	●			●	●	●	
271		ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>	●			●	●	●	
272		クスマツメクサ	<i>Trifolium campestre</i>	●			●	●	●	
273		コメツツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>	●	●		●	●	●	
274		ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i>	●	●		●	●	●	
275		シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	●	●		●	●	●	
276		ヤハズエンドウ	<i>Vicia angustifolia</i>	●	●		●	●	●	
277		スズメノエンドウ	<i>Vicia hirsuta</i>	●	●		●	●	●	
278		カスマグサ	<i>Vicia tetrasperma</i>	●	●		●	●	●	
279		ナンテンハギ	<i>Vicia unijuga</i>	●			●	●	●	
280		フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	●			●	●	●	
281	カタバミ科	イモカタバミ	<i>Oxalis articulata</i>	●	●		●	●	●	
282		カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	●	●		●	●	●	
283		アカカタバミ	<i>Oxalis corniculata</i> f. <i>rubrifolia</i>	●	●		●	●	●	
284		ウスアカカタバミ	<i>Oxalis corniculata</i> f. <i>tropaeoloides</i>	●			●	●	●	
285		ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>	●	●		●	●	●	
286		オッタチカタバミ	<i>Oxalis stricta</i>	●	●		●	●	●	
287	フウロソウ科	アメリカフウロ	<i>Geranium carolinianum</i>	●	●		●	●	●	
288		ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>	●			●	●	●	
289	トウダイグサ科	エナキグサ	<i>Acalypha australis</i>	●			●	●	●	
290		トウダイグサ	<i>Euphorbia helioscopia</i>	●	●		●	●	●	
291		ショウジョウソウモドキ	<i>Euphorbia heterophylla</i>	●			●	●	●	
292		オオニシキソウ	<i>Euphorbia maculata</i>	●			●	●	●	
293		ニシキソウ	<i>Euphorbia pseudochamaesyce</i>	●			●	●	●	●
294		コニシキソウ	<i>Euphorbia supina</i>	●			●	●	●	
295		アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	●	●		●	●	●	
296		ヒメミカンソウ	<i>Phyllanthus matsumurae</i>	●			●	●	●	
297		ナガエコミカンソウ	<i>Phyllanthus tenellus</i>	●			●	●	●	
298		コミカンソウ	<i>Phyllanthus urinaria</i>	●			●	●	●	
299		ナンキンハゼ	<i>Sapium sebiferum</i>	●			●	●	●	
300	ユズリハ科	ユズリハ	<i>Daphniphyllum macropodum</i>	●			●	●	●	
301		ヒメユズリハ	<i>Daphniphyllum teijsmannii</i>	●	●					
302	ミカン科	コクサギ	<i>Orixa japonica</i>	●			●	●	●	
303		カラスザンショウ	<i>Zanthoxylum ailanthoides</i>	●			●	●	●	
304		ザンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	●	●		●	●	●	
305		イヌザンショウ	<i>Zanthoxylum schinifolium</i>	●			●	●	●	
306	ニガキ科	シンジュ	<i>Ailanthus altissima</i>	●			●	●	●	
307		ニガキ	<i>Picrasma quassioides</i>	●			●	●	●	
308	センダン科	センダン	<i>Melia azedarach</i>	●			●	●	●	
309	ヒメハギ科	ヒメハギ	<i>Polygala japonica</i>	●			●	●	●	●
310	ウルシ科	ツタウルシ	<i>Rhus ambigua</i>	●			●	●	●	
311		ヌルデ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>roxburgii</i>	●			●	●	●	
312		ハゼノキ	<i>Rhus succedanea</i>	●			●	●	●	
313		ヤマハゼ	<i>Rhus sylvestris</i>	●			●	●	●	
314		ウルシ	<i>Rhus verniciflua</i>	●			●	●	●	
315	カエデ科	ウラゲエンコウカエデ	<i>Acer mono</i> f. <i>connivens</i>	●			●	●	●	
316		エンコウカエデ	<i>Acer mono</i> f. <i>marmoratum</i>	●			●	●	●	
317		イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>	●	●		●	●	●	
318		オオモミジ	<i>Acer palmatum</i> var. <i>amoenum</i>	●			●	●	●	
319	ムクロジ科	ムクロジ	<i>Sapindus mukorossi</i>	●			●	●	●	
320	アワブキ科	アワブキ	<i>Meliosma myriantha</i>	●			●	●	●	

表 参 4-1 (5) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	通年 2012	事後調査(2022年度)					重要種
					早春季	春季	夏季	秋季		
321	モチノキ科	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i>	●	●	●	●	●		
322		モチノキ	<i>Ilex integra</i>	●		●	●	●		
323		クロガネモチ	<i>Ilex rotunda</i>	●	●	●	●	●		
324		ウメドキ	<i>Ilex serrata</i>	●		●	●	●		
325	ニシキギ科	ツルウメドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i>	●	●	●	●	●		
326		ニシキギ	<i>Euonymus alatus</i>	●		●				
327		コマユミ	<i>Euonymus alatus f.ciliato-dentatus</i>	●		●				
328		マサキ	<i>Euonymus japonicus</i>	●	●		●	●		
329		ツリバナ	<i>Euonymus oxyphyllus</i>	●	●	●	●	●		
330		マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>	●	●	●	●	●		
331		カントウマユミ	<i>Euonymus sieboldianus var.sanguineus</i>	●		●				
332	ミツバウツギ科	ゴンスイ	<i>Euscaphis japonica</i>	●		●	●	●		
333		ミツバウツギ	<i>Staphylea bumalda</i>	●	●					
334	クロウメドキ科	クマヤナギ	<i>Berchemia racemosa</i>	●		●				
335		ケンボナシ	<i>Hovenia dulcis</i>	●						
336	ブドウ科	ノドウ	<i>Ampelopsis glandulosa var.heterophylla</i>	●		●	●	●		
337		ヤブガラシ	<i>Cayratia japonica</i>	●	●	●	●	●		
338		ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	●	●	●	●	●		
339		エビツル	<i>Vitis ficifolia var.lobata</i>	●		●	●	●		
340	アオイ科	カラスノゴマ	<i>Corchoropsis tomentosa</i>	●						
341		ゼニアオイ	<i>Malva sylvestris var.mauritiana</i>	●						
342		アメリカキンゴジカ	<i>Sida spinosa</i>	●						
343		アオギリ	<i>Firmiana simplex</i>	●						
344	グミ科	ツルグミ	<i>Elaeagnus glabra</i>	●	●	●	●	●		
345		マルバナツグミ	<i>Elaeagnus multiflora var.crispa f.orbiculata</i>	●	●					
346		イイギリ	<i>Idesia polycarpa</i>	●			●	●		
347	スミレ科	タチツボスミレ	<i>Viola grypceras</i>	●	●	●	●	●		
348		アオイスミレ	<i>Viola hondoensis</i>	●	●	●	●	●		
349		コスミレ	<i>Viola japonica</i>	●	●	●	●	●		
350		ケマルバスミレ	<i>Viola keiskei f.okuboi</i>	●	●	●	●	●		
351		スミレ	<i>Viola mandshurica</i>	●	●		●	●		
352		ヒメスミレ	<i>Viola minor</i>	●	●					
353		ニオイタチツボスミレ	<i>Viola obtusa</i>	●	●	●	●	●		
354		アカネスミレ	<i>Viola phalacrocarpa</i>	●		●				
355		アメリカスミレサイシン	<i>Viola sororia</i>	●	●	●				
356		サンシキスミレ	<i>Viola tricolor</i>	●	●					
357		ゲンジスミレ	<i>Viola variegata</i>	●		●				
358		ツボスミレ	<i>Viola verecunda</i>	●	●	●		●		
359		ノジスミレ	<i>Viola yedoensis</i>	●	●					
360	キブシ科	キブシ	<i>Stachyurus praecox</i>	●	●	●	●	●		
361	シュウカイドウ科	シュウカイドウ	<i>Begonia evansiana</i>	●	●					
362	ウリ科	アマチャヅル	<i>Gynostemma pentaphyllum</i>	●	●	●	●	●		
363		アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	●						
364		カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	●			●	●		
365	ミソハギ科	ミソハギ	<i>Lythrum anceps</i>	●		●	●	●		
366	アカバナ科	ミスタマソウ	<i>Circaea mollis</i>	●						
367		チョウジタデ	<i>Ludwigia epilobioides</i>	●			●	●		
368		メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>	●	●	●	●	●		
369		コマツヨイグサ	<i>Oenothera lacinata</i>	●	●	●	●	●		
370		ユウゲシヨウ	<i>Oenothera rosea</i>	●	●	●	●	●		
371		ヒルザキツクミソウ	<i>Oenothera speciosa</i>	●						
372		マツヨイグサ	<i>Oenothera striata</i>	●		●				
373	アリノトウグサ科	オオフサモ	<i>Myriophyllum brasiliense</i>	●	●		●	●		
374	ミズキ科	アオキ	<i>Aucuba japonica</i>	●	●	●	●	●		
375		ミズキ	<i>Cornus controversa</i>	●	●	●	●	●		
376		クマノミズキ	<i>Cornus macrophylla</i>	●	●	●	●	●		
377		ハナイカダ	<i>Helwingia japonica</i>	●	●	●	●	●		
378	ウコギ科	ヤマウコギ	<i>Acanthopanax spinosus</i>	●	●	●	●	●		
379		ウド	<i>Aralia cordata</i>	●		●	●	●		
380		タラノキ	<i>Aralia elata</i>	●	●	●	●	●		
381		カクレミノ	<i>Dendropanax trifidus</i>	●	●	●	●	●		
382		ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i>	●	●	●	●	●		
383		カナリーキツタ	<i>Hedera canariensis</i>	●	●	●	●	●		
384		キツタ	<i>Hedera rhombica</i>	●	●	●	●	●		
385		ハリギリ	<i>Kalopanax pictus</i>	●	●	●	●	●		
386	セリ科	ノダケ	<i>Angelica decursiva</i>	●	●	●	●	●		
387		アシタバ	<i>Angelica keiskei</i>	●		●		●		
388		ツボクサ	<i>Centella asiatica</i>	●	●		●			
389		ミツバ	<i>Cryptotaenia japonica</i>	●	●	●	●	●		
390		ノチドメ	<i>Hydrocotyle maritima</i>	●	●	●	●	●		
391		オオチドメ	<i>Hydrocotyle raniflora</i>	●	●	●	●	●		
392		チドメグサ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>	●	●	●	●	●		
393		セリ	<i>Oenanthe javanica</i>	●	●	●	●	●		
394		ヤブニンジン	<i>Osmorhiza aristata</i>	●						
395		ウマノミツバ	<i>Sanicula chinensis</i>	●	●		●	●		
396		オヤブツラミ	<i>Torilis scabra</i>	●	●	●		●		
397	ツツジ科	イチヤクソウ	<i>Pyrola japonica</i>	●	●	●	●	●		
398		ヤマツツジ	<i>Rhododendron obtusum var.kaempferi</i>	●						
399	サクランソウ科	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	●	●	●	●	●		
400		ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica</i>	●	●	●	●	●		

表 参4-1(6) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	通年 2012	事後調査(2022年度)					重要種
					早春季	春季	夏季	秋季		
401	(サクラソウ科)	オカトラノオ	<i>Lysimachia clethroides</i>	●		●	●	●		
402		コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i> f. <i>subsessilis</i>	●	●	●	●	●		
403	カキノキ科	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i>	●		●	●	●		
404	エゴノキ科	エゴノキ	<i>Syrax japonicus</i>	●	●	●	●	●		
405		ハクウンボク	<i>Syrax obassia</i>						●	
406	ハイノキ科	サワフタギ	<i>Symplocos chinensis</i> var. <i>leucocarpa</i> f. <i>pilosa</i>						●	
407	モクセイ科	シマトネリコ	<i>Fraxinus griffithii</i>		●		●			
408		ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>	●		●	●	●		
409		トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	●	●	●	●	●		
410		イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i>	●	●	●	●	●		
411		ヒラギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>	●	●	●	●	●		
412	キョウチクトウ科	テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i> f. <i>intermedium</i>	●	●	●	●	●		
413		ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i>	●	●	●	●			
414		コバノカモメヅル	<i>Cynanchum sublancoletum</i>	●						
415		ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>	●			●			
416	アカネ科	オオフタバムグラ	<i>Diodia teres</i>						●	
417		ヒメヨツバムグラ	<i>Galium gracilens</i>	●		●	●	●		
418		オオバノヤエムグラ	<i>Galium pseudo-asprellum</i>						●	
419		ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>	●	●	●				
420		ヨツバムグラ	<i>Galium trachyspermum</i> var. <i>trachyspermum</i>	●						
421		ハンシクグサ	<i>Hedyotis lindleyana</i> var. <i>hirsuta</i>	●			●		●	
422		ヤイトバナ	<i>Paederia scandens</i>	●		●	●	●		
423		アカネ	<i>Rubia argyi</i>	●	●	●	●	●		
424		ハナヤエムグラ	<i>Sherardia arvensis</i>	●						
425	ヒルガオ科	コヒルガオ	<i>Calystegia hederacea</i>	●		●	●	●		
426		ヒルガオ	<i>Calystegia japonica</i>	●	●	●	●	●		
427		アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta pentagona</i>				●			
428		アオイゴケ	<i>Dichondra repens</i>						●	
429		マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i>	●			●		●	
430		アメリカアサガオ	<i>Ipomoea hederacea</i>	●			●		●	
431		マルバアメリカアサガオ	<i>Ipomoea hederacea</i> var. <i>integriuscula</i>						●	
432		マルバアサガオ	<i>Ipomoea purpurea</i>				●		●	
433		ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>						●	
434	ムラサキ科	ハナイバナ	<i>Bothriospermum tenellum</i>	●	●	●	●	●		
435		ヤマハリソウ	<i>Omphalodes japonica</i>		●					
436		キュウリグサ	<i>Trigonotis peduncularis</i>	●	●	●	●	●		
437	クマツヅラ科	コムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i>	●			●	●		
438		コシロシキブ	<i>Callicarpa dichotoma</i> f. <i>leucocarpa</i>						●	
439		ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i>	●	●	●	●	●		
440		ヤブムラサキ	<i>Callicarpa mollis</i>	●	●	●	●	●		
441		ボタンクサギ	<i>Clerodendrum bungei</i>			●	●	●		
442		クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	●	●	●	●	●		
443		ヒメイワダレソウ	<i>Lippia canescens</i>						●	
444		ヤナギハナガサ	<i>Verbena bonariensis</i>			●				
445	アワゴケ科	ミスハコベ	<i>Callitriche verna</i>			●				●
446	シソ科	キラソウ	<i>Ajuga decumbens</i>	●	●	●	●	●		
447		ジュウニヒトエ	<i>Ajuga nipponensis</i>	●	●					
448		トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>	●		●	●	●		
449		カキドオシ	<i>Glechoma hederacea</i> var. <i>grandis</i>	●	●	●	●	●		
450		ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>	●	●	●	●	●		
451		ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>	●					●	
452		コシロネ	<i>Lycopus ramosissimus</i> var. <i>japonicus</i>	●						
453		マルバハッカ	<i>Mentha rotundifolia</i>			●	●	●		
454		イヌコウジュ	<i>Mosla punctulata</i>	●			●	●		
455		エゴマ	<i>Perilla frutescens</i>				●	●	●	
456		シソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>acuta</i>	●			●			
457		チリメンジソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i>	●						
458		アオジソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>viridis</i>	●			●			
459		ハナトラノオ	<i>Physostegia virginiana</i>				●			
460		ヤマハッカ	<i>Rabdosia inflexa</i>	●		●	●	●		
461		アキノタムラソウ	<i>Salvia japonica</i>	●			●	●	●	
462		タツナミソウ	<i>Scutellaria indica</i>	●		●				
463		コバノタツナミ	<i>Scutellaria indica</i> var. <i>parvifolia</i>			●	●			
464		ニガクサ	<i>Teucrium japonicum</i>			●				
465		ツルニガクサ	<i>Teucrium viscidum</i> var. <i>miquelianum</i>				●			
466	ナス科	クコ	<i>Lycium chinense</i>	●	●	●	●	●		
467		ウルナスビ	<i>Solanum carolinense</i>	●	●	●	●	●		
468		ヒョドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i>	●	●	●	●	●		
469		イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>				●	●	●	
470		タマサンゴ	<i>Solanum pseudocapsicum</i>				●	●	●	
471		アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum ptycanthum</i>	●			●		●	
472	ゴマノハグサ科	ツタバウンラン	<i>Cymbalaria muralis</i>	●			●	●	●	
473		マツバウンラン	<i>Linaria canadensis</i>	●	●	●			●	
474		ウリクサ	<i>Lindernia crustacea</i>	●			●	●	●	
475		アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i>	●			●	●	●	
476		タケトアゼナ	<i>Lindernia dubia</i>	●			●			
477		アゼナ	<i>Lindernia procumbens</i>	●			●		●	
478		サギゴケ	<i>Mazus miquelii</i>		●	●				
479		シロバナサギゴケ	<i>Mazus miquelii</i> f. <i>albiflorus</i>	●		●				
480		トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>	●	●	●	●	●		

表 参 4-1 (7) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	通年 2012	事後調査(2022年度)					重要種
					早春季	春季	夏季	秋季		
481	(ゴマノハグサ科)	コシオガマ	<i>Phtheirospermum japonicum</i>						●	●
482		オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>		●	●			●	
483		タチヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>	●	●	●				
484		フラサバソウ	<i>Veronica hederifolia</i>		●					
485		ムシクサ	<i>Veronica peregrina</i>	●	●	●				
486		オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>	●	●	●	●	●		
487	ノウゼンカズラ科	キリ	<i>Paulownia tomentosa</i>	●			●	●		
488	キツネノマゴ科	キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i>	●		●	●	●		
489	ハマウツボ科	ヤセウツボ	<i>Orobancha minor</i>			●				
490	ハエドクソウ科	ナガバハエドクソウ	<i>Phryma leptostachya</i> var. <i>oblongifolia</i>	●		●	●	●		
491	オオバコ科	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	●	●	●	●	●		
492		へらオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>	●	●	●	●	●		
493		タチオオバコ	<i>Plantago virginica</i>	●	●	●	●	●		
494	スイカズラ科	ウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i>	●	●	●	●	●		
495		スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	●	●	●	●	●		
496		ソクズ	<i>Sambucus chinensis</i>	●	●	●	●	●		
497		ニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>sieboldiana</i>	●	●	●	●	●		
498		ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	●	●	●	●	●		
499		コノガマズミ	<i>Viburnum erosum</i> var. <i>punctatum</i>	●	●	●	●	●		
500		サンゴジュ	<i>Viburnum odoratissimum</i> var. <i>awabuki</i>		●					
501		オトコエシ	<i>Patrinia villosa</i>	●	●	●	●	●		
502	キキョウ科	ツリガネニンジン	<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i>	●	●	●	●	●		
503		ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i>			●	●			
504		ヤマホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i> var. <i>hondoensis</i>	●						
505		ツルニンジン	<i>Codonopsis lanceolata</i>		●					
506		ミソカクシ	<i>Lobelia chinensis</i>	●		●	●	●		
507		キキョウ	<i>Platycodon grandiflorum</i>			●	●	●		●
508		キキョウソウ	<i>Specularia perfoliata</i>	●		●				
509	キク科	フタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia</i> var. <i>elatior</i>	●		●	●			
510		クワモドキ	<i>Ambrosia trifida</i>	●	●	●	●	●		
511		カワラニンジン	<i>Artemisia apiacea</i>				●			
512		カワラヨモギ	<i>Artemisia capillaris</i>			●				
513		ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>	●	●	●	●	●		
514		シロヨメナ	<i>Aster ageratoides</i> ssp. <i>leiophyllus</i>	●						
515		ノコンギク	<i>Aster ageratoides</i> ssp. <i>ovatus</i>	●	●	●	●	●		
516		シラヤマギク	<i>Aster scaber</i>	●	●	●	●	●		
517		ヒロハホウキギク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>ligulatus</i>	●		●	●	●		
518		オケラ	<i>Atractylodes japonica</i>	●		●	●	●		●
519		アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>	●		●	●	●		
520		コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i>	●		●	●	●		
521		シロバナセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>minor</i>	●		●	●	●		
522		ホンキンセンカ	<i>Calendula arvensis</i>			●				
523		サシガクビソウ	<i>Carpesium glossophyllum</i>	●			●	●		
524		ヤグルマギク	<i>Centaurea cyanus</i>			●				
525		トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>	●			●	●		
526		フランスギク	<i>Chrysanthemum leucanthemum</i>	●	●	●	●	●		
527		ノアザミ	<i>Cirsium japonicum</i>	●	●	●	●	●		
528		トネアザミ	<i>Cirsium nipponicum</i> var. <i>incomptum</i>							●
529		ノハラアザミ	<i>Cirsium oligophyllum</i>	●						
530		アメリカオニアザミ	<i>Cirsium vulgare</i>	●	●	●	●	●		
531		オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>	●	●	●	●	●		
532		オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	●	●	●	●	●		
533		コスモス	<i>Cosmos bipinnatus</i>	●		●	●	●		
534		キバナコスモス	<i>Cosmos sulphureus</i>	●		●	●	●		
535		ベニバナポロギク	<i>Crassocephalum crepidioides</i>	●			●	●		
536		アメリカカタサブロウ	<i>Eclipta alba</i>	●			●	●		
537		ダンドポロギク	<i>Erechtites hieracifolia</i>	●		●	●	●		
538		ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>	●	●	●	●	●		
539		ペラペラヨメナ	<i>Erigeron karvinskianus</i>	●	●	●	●	●		
540		ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>	●	●	●	●	●		
541		ケナシヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron pusillus</i>	●		●	●	●		
542		ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium chinense</i> var. <i>oppositifolium</i>	●		●	●	●		
543		ツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i>	●			●	●		
544		ハキダメギク	<i>Galinsoga ciliata</i>	●		●	●	●		
545		ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>	●	●	●	●	●		
546		タチチコグサ	<i>Gnaphalium calviceps</i>	●		●	●	●		
547		チコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>	●		●	●	●		
548		セイタカハハコグサ	<i>Gnaphalium luteoalbum</i>			●				
549		チコグサモドキ	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>	●	●	●	●	●		
550		ウスベニチコグサ	<i>Gnaphalium purpureum</i>	●		●	●	●		
551		ウラジロチコグサ	<i>Gnaphalium spicatum</i>	●	●	●	●	●		
552		キクイモ	<i>Helianthus tuberosus</i>	●		●	●	●		
553		キツネアザミ	<i>Hemistepta lyrata</i>	●	●	●	●	●		
554		フタナ	<i>Hypochoeris radicata</i>	●	●	●	●	●		
555		オオヂシバリ	<i>Ixeris debilis</i>	●	●	●	●	●		
556		ニガナ	<i>Ixeris denata</i>	●	●	●	●	●		
557		イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i>	●		●	●	●		
558		ユウガギク	<i>Kalimeris pinnatifida</i>	●		●	●	●		
559		カントウヨメナ	<i>Kalimeris pseudoyomena</i>	●		●	●	●		
560		アキノゲンシ	<i>Lactuca indica</i> var. <i>indica</i>	●	●	●	●	●		

表 参4-1(8) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	通年 2012	事後調査(2022年度)				重要種		
					早春季	春季	夏季	秋季			
561	(キク科)	ホソバアキノゲシ	<i>Lactuca indica</i> var. <i>indica</i> f. <i>indivisa</i>	●							
562		ムラサキニガナ	<i>Lactuca scariola</i>		●						
563		コオニタビラコ	<i>Lapsana apogonoides</i>	●	●	●			●		
564		ヤブタビラコ	<i>Lapsana humilis</i>	●	●	●					
565		センボンヤリ	<i>Leibnitzia anandria</i>				●				
566		コウヤボウキ	<i>Pteris scandens</i>	●		●	●	●			
567		フキ	<i>Petasites japonicus</i>	●	●	●	●	●			
568		コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> var. <i>glabrescens</i>	●	●	●			●		
569		ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>	●	●	●					
570		セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	●	●	●	●	●			
571		オノノゲシ	<i>Sonchus asper</i>	●	●	●	●	●			
572		ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	●		●			●		
573		ヒメジョオン	<i>Stenactis annuus</i>	●	●	●	●	●			
574		ヘラバヒメジョオン	<i>Stenactis strigosus</i>	●		●					
575		アカミタンポポ	<i>Taraxacum laevigatum</i>	●	●	●					
576		セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>	●	●	●	●	●			
577		カントウタンポポ	<i>Taraxacum platycarpum</i>	●	●	●					
578		アイノコセイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i> x <i>platycarpum</i>	●	●	●					
579		オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>	●		●	●	●			
580		ヤクシソウ	<i>Youngia denticulata</i>	●	●	●	●	●			
581		オニタビラコ(広義)	<i>Youngia japonica</i>	●		●					
582		アカオニタビラコ	<i>Youngia japonica</i> ssp. <i>elstonii</i>		●	●			●		
583		アオオニタビラコ	<i>Youngia japonica</i> ssp. <i>japonica</i>		●		●	●			
584		ユリ科	ノビル	<i>Allium grave</i>	●	●	●				
585			ニラ	<i>Allium tuberosum</i>	●	●	●	●	●		
586			ハラシ	<i>Aspidistra elatior</i>	●			●			
587			ハナニラ	<i>Brodiaea uniflora</i>	●	●	●				
588			ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>	●	●	●	●	●		
589			テゴユリ	<i>Disporum smilacinum</i>	●		●				
590			ヤブカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>kwanso</i>	●	●	●	●	●		
591			オオバギボウシ	<i>Hosta montana</i>	●		●	●	●		
592			コバギボウシ	<i>Hosta sieboldii</i> f. <i>lancifolia</i>	●		●				
593			ヤマユリ	<i>Lilium auratum</i>	●		●	●	●		
594			シンテッポウユリ	<i>Lilium</i> x <i>formolongo</i>			●	●	●		
595			ヒメヤブラン	<i>Liriope minor</i>			●	●	●		
596			ヤブラン	<i>Liriope muscari</i>	●	●	●	●	●		
597			ハタケニラ	<i>Nothoscordum gracile</i>			●				
598			ノシラン	<i>Ophiopogon jaburan</i>		●	●				
599			ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>	●	●	●	●	●		
600			ナガバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon ohwii</i>		●	●	●	●		
601			オオバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon planiscapus</i>		●	●	●	●		
602			ホソバオオアマナ	<i>Ornithogalum gussonei</i>	●		●				
603			ナルコユリ	<i>Polygonatum falcatum</i>	●		●	●	●		
604			ミヤマナルコユリ	<i>Polygonatum lasianthum</i>	●	●	●	●	●		
605			アマドコロ	<i>Polygonatum odoratum</i> var. <i>pluriflorum</i>	●	●	●	●	●	●	
606			キチジョウソウ	<i>Reineckea carnea</i>	●	●	●	●	●		
607			オモト	<i>Rohdea japonica</i>	●	●	●	●	●		
608			ツルボ	<i>Scilla scilloides</i>	●	●	●	●	●		
609			サルトリイバラ	<i>Smilax china</i>	●	●	●	●	●		
610			シオデ	<i>Smilax riparia</i> var. <i>ussuriensis</i>	●		●	●	●		
611			タイワンホトギス	<i>Tricyrtis formosana</i>			●			●	
612			ヤマホトギス	<i>Tricyrtis macropoda</i>	●		●	●	●		
613			ヒガンバナ科	ヒガンバナ	<i>Lycoris radiata</i>	●	●	●	●	●	
614				キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i>	●		●			●
615			ヤマノイモ科	ナガイモ	<i>Dioscorea batatas</i>	●		●	●	●	
616		タチドコロ		<i>Dioscorea gracillima</i>	●		●	●	●		
617		ヤマノイモ		<i>Dioscorea japonica</i>	●		●	●	●		
618		オニドコロ		<i>Dioscorea tokoro</i>	●		●	●	●		
619	ミズアオイ科	コナギ	<i>Monochoria vaginalis</i> var. <i>plantaginea</i>	●		●	●	●			
620	アヤメ科	シャガ	<i>Iris japonica</i>	●	●	●	●	●			
621		キシウブ	<i>Iris pseudacorus</i>	●	●	●	●	●			
622		ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium atlanticum</i>	●		●					
623		オオニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium</i> sp.			●					
624		ヒメヒオウギズイセン	<i>Tritonia crocosmaeflora</i>	●	●	●	●	●			
625	イグサ科	イ	<i>Juncus effusus</i> var. <i>decipiens</i>		●						
626		コウガイゼキショウ	<i>Juncus leschenaultii</i>	●		●					
627		コゴメイ	<i>Juncus</i> sp.				●				
628		クサイ	<i>Juncus tenuis</i>	●		●	●	●			
629		スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>	●	●	●	●	●			
630	ツユクサ科	マルバツユクサ	<i>Commelina benghalensis</i>			●	●	●			
631		ツユクサ	<i>Commelina communis</i>	●		●	●	●			
632		イボクサ	<i>Murdannia keissak</i>	●		●	●	●			
633		ヤブミョウガ	<i>Pollia japonica</i>			●	●	●			
634		ノハカタラクサ	<i>Tradescantia flumiensis</i>	●	●	●	●	●			
635		ムラサキツユクサ	<i>Tradescantia reflexa</i>	●		●	●	●			
636		イネ科	ミスアカモジグサ	<i>Agropyron humidorum</i>	●		●			●	
637	アオカモジグサ		<i>Agropyron racemiferum</i>	●		●	●	●			
638	カモジグサ		<i>Agropyron tsukushiense</i> var. <i>transiens</i>	●	●	●	●	●			
639	ヌカボ		<i>Agrostis clavata</i> ssp. <i>matsumurae</i>			●	●	●			
640		スズメノテッポウ	<i>Alopecurus aequalis</i>	●	●	●	●	●			

表 参4-1(9) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	通年 2012	事後調査(2022年度)					重要種
					早春季	春季	夏季	秋季		
641	(イネ科)	ノハラスズメノテッポウ	<i>Alopecurus aequalis</i>	●						
642		セトガヤ	<i>Alopecurus japonicus</i>	●			●			●
643		メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>	●	●		●	●	●	
644		ハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i>	●						
645		コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i>	●			●		●	
646		トダシバ	<i>Arundinella hirta</i>	●					●	
647		カラスムギ	<i>Avena fatua</i>	●						
648		ミノゴメ	<i>Beckmannia syzigachne</i>	●			●			
649		ヤマカモジグサ	<i>Brachypodium sylvaticum</i>	●			●			
650		コバンソウ	<i>Briza maxima</i>	●	●			●		
651		ヒメコバンソウ	<i>Briza minor</i>	●			●			
652		ヤクナガイヌムギ	<i>Bromus carinatus</i>	●			●			
653		イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i>	●	●			●		
654		スズメノチャヒキ	<i>Bromus japonicus</i>	●			●	●		
655		キツネガヤ	<i>Bromus pauciflorus</i>	●				●		
656		カラスノチャヒキ	<i>Bromus secalinus</i>	●			●			
657		ノガリヤス	<i>Calamagrostis arundinacea var.brachytricha</i>	●				●	●	
658		ジュスダマ	<i>Coix lacryma-jobi</i>	●	●			●	●	
659		ギョウギシバ	<i>Cynodon dactylon</i>	●			●		●	
660		カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>	●			●	●	●	
661		メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>	●				●	●	
662		コメヒシバ	<i>Digitaria radicata</i>	●				●	●	
663		アキメヒシバ	<i>Digitaria violascens</i>	●				●	●	
664		アブラスキ	<i>Eccoilopus contulifer</i>	●			●		●	
665		イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i>	●				●	●	
666		ヒメイヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli var.praticola</i>	●				●	●	
667		オヒシバ	<i>Eleusine indica</i>	●			●	●	●	
668		シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i>	●			●	●	●	
669		カゼクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>	●				●	●	
670		ニワホコリ	<i>Eragrostis multicaulis</i>	●				●	●	
671		コスズメガヤ	<i>Eragrostis poaeoides</i>	●				●	●	
672		ナルコビエ	<i>Eriochloa villosa</i>	●				●	●	
673		オニウシノケグサ	<i>Festuca arundinacea</i>	●	●		●	●	●	
674		トボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i>	●			●			
675		オオウシノケグサ	<i>Festuca rubra</i>	●			●			
676		ムツオレグサ	<i>Glyceria acutiflora</i>	●	●		●			●
677		ドジョウツナギ	<i>Glyceria ischyreura</i>	●			●			
678		ケナンチガヤ	<i>Imperata cylindrica f.pallida</i>	●			●			
679		チガヤ	<i>Imperata cylindrica var.koenigii</i>	●	●		●		●	
680		チゴザサ	<i>Isachne globosa</i>	●				●	●	
681		エゾノサヤヌカグサ	<i>Leersia oryzoides</i>	●					●	●
682		サヤヌカグサ	<i>Leersia sayanuka</i>	●						
683		ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>	●	●		●	●		
684		ササガヤ	<i>Microstegium japonicum</i>	●				●	●	
685		ヒメアシボソ	<i>Microstegium vimineum</i>	●					●	
686		アシボソ	<i>Microstegium vimineum var.polystachyum</i>	●					●	
687		オギ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>	●			●	●	●	
688		ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	●	●		●	●	●	
689		ネズミガヤ	<i>Muhlenbergia japonica</i>	●					●	
690		コネズミガヤ	<i>Muhlenbergia schreberi</i>	●					●	
691		ケチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i>	●			●	●	●	
692		コチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius var.japonicus</i>	●					●	
693		ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i>	●	●				●	
694		ハナクサキビ	<i>Panicum capillare</i>	●					●	
695		オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>	●					●	
696		シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>	●			●	●	●	
697		アメリカスズメノヒエ	<i>Paspalum notatum</i>	●				●	●	
698		スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i>	●				●	●	
699		タチスズメノヒエ	<i>Paspalum urvillei</i>	●				●	●	
700		チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides f.purpurascens</i>	●					●	
701		クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>	●	●		●	●	●	
702		ヨシ	<i>Phragmites australis</i>	●	●		●	●	●	
703		ツルヨシ	<i>Phragmites japonica</i>	●			●	●	●	
704		マダケ	<i>Phyllostachys bambusoides</i>	●	●			●	●	
705		ハチク	<i>Phyllostachys nigra var.henonis</i>	●			●			
706		モウソウチク	<i>Phyllostachys pubescens</i>	●	●		●	●	●	
707		アズマネザサ	<i>Pleiblastus chino</i>	●	●		●	●	●	
708		メダケ	<i>Pleiblastus simonii</i>	●			●	●	●	
709		ミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i>	●	●		●			
710		タマミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca var.submoniliformis</i>	●						
711		スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>	●	●		●		●	
712		オオイチゴツナギ	<i>Poa nipponica</i>	●			●			
713		ナガハグサ	<i>Poa pratensis</i>	●			●			
714		イチゴツナギ	<i>Poa sphondyloides</i>	●						
715		オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>	●						
716		タマオオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis ssp.sylvicola</i>	●	●		●			
717		ヒエガエリ	<i>Polygona fugax</i>	●			●	●		
718		ハイヌメリ	<i>Sacciolepis indica</i>	●					●	
719		ウシクサ	<i>Schizachyrium brevifolium</i>	●				●	●	
720		イヌアワ	<i>Setaria chondrachne</i>	●					●	

表 参4-1(10) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	通年 2012	事後調査(2022年度)				重要種
					早春季	春季	夏季	秋季	
721	(イネ科)	アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>	●			●	●	
722		コツブキンエノコロ	<i>Setaria pallide-fusca</i>	●			●	●	
723		キンエノコロ	<i>Setaria pumilla</i>	●				●	
724		エノコログサ	<i>Setaria viridis</i>	●			●	●	
725		ムラサキエノコロ	<i>Setaria viridis f.misera</i>					●	
726		オオエノコロ	<i>Setaria x pycnocomia</i>	●					
727		セイバンモロコシ	<i>Sorghum halepense</i>	●		●	●	●	
728		ネズミノオ	<i>Sporobolus fertilis</i>	●				●	
729		カニツリグサ	<i>Trisetum bifidum</i>	●		●			
730		ナギナダガヤ	<i>Vulpia myuros</i>	●		●			
731		シバ	<i>Zoysia japonica</i>	●			●	●	
732		コウシュンシバ	<i>Zoysia matrella</i>	●					
733		ヤシ科	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>	●	●	●	●	●
734	サトイモ科	ショウブ	<i>Acorus calamus</i>	●	●	●	●	●	●
735		セキショウ	<i>Acorus gramineus</i>	●	●	●	●	●	
736		マムシグサ	<i>Arisaema serratum</i>	●	●	●			
737		カントウマムシグサ	<i>Arisaema serratum f.viridescens</i>	●					
738		ウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii ssp.urashima</i>	●	●	●			
739	カラスビシャク	<i>Pinellia ternata</i>	●		●	●	●		
740	ウキウキ科	アオウキクサ	<i>Lemma aoukikusa</i>	●			●		
741		コウキクサ	<i>Lemma minor</i>	●					
742		ウキクサ	<i>Spirodela polyrhiza</i>	●			●		
743	ガマ科	ヒメガマ	<i>Typha angustifolia</i>	●	●	●	●	●	
744		コガマ	<i>Typha orientalis</i>	●			●		
745	カヤツリグサ科	アオスゲ	<i>Carex breviculmis</i>	●	●	●			
746		メアオスゲ	<i>Carex candolleana</i>	●	●	●			
747		ミヤマシラスゲ	<i>Carex confertiflora</i>	●					
748		ヒメカンスゲ	<i>Carex conica</i>	●	●	●			
749		アゼナルコ	<i>Carex dimorpholepis</i>	●		●			
750		カサスゲ	<i>Carex dispalata</i>	●		●			
751		シラスゲ	<i>Carex doniana</i>	●		●			
752		ケスゲ	<i>Carex duvaliana</i>	●	●	●	●	●	
753		マスクサ	<i>Carex gibba</i>	●		●	●		
754		ホソバヒカゲスゲ	<i>Carex humilis</i>	●		●			●
755		ヒゴクサ	<i>Carex japonica</i>	●		●			
756		ヒカゲスゲ	<i>Carex lanceolata</i>	●	●	●	●	●	
757		ナキリスゲ	<i>Carex lenta</i>	●	●	●	●	●	
758		オオアオスゲ	<i>Carex lonchophora</i>	●		●			
759		ノゲスカスゲ	<i>Carex mirata var.aristata</i>	●	●	●			
760		ミヤマカンスゲ	<i>Carex multifolia</i>	●	●	●			
761		ミコシガヤ	<i>Carex neurocarpa</i>	●		●			●
762		コジュズスゲ	<i>Carex parciflora var.macroglossa</i>	●		●			
763		ヤブスゲ	<i>Carex rochebrunii</i>	●		●			
764		オオイトスゲ	<i>Carex sachalinensis var.alterniflora</i>	●	●	●			
765		タガネソウ	<i>Carex siderosticta</i>	●		●			●
766		モエギスゲ	<i>Carex tristachya</i>	●		●			
767		シュロガヤツリ	<i>Cyperus alternifolius</i>	●					●
768		チャガヤツリ	<i>Cyperus amuricus</i>	●			●	●	
769		アイダクグ	<i>Cyperus brevifolius</i>	●				●	
770		ヒメクグ	<i>Cyperus brevifolius var.leirolepis</i>	●				●	
771		タマガヤツリ	<i>Cyperus difformis</i>	●			●	●	
772		メリケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>	●		●	●	●	
773		シヨクヨウガヤツリ	<i>Cyperus esculentus</i>	●			●	●	
774		ヒナガヤツリ	<i>Cyperus flaccidus</i>	●			●	●	
775		アゼガヤツリ	<i>Cyperus globosus</i>	●			●	●	
776		ヌマガヤツリ	<i>Cyperus glomeratus</i>	●			●	●	
777		ココマガヤツリ	<i>Cyperus iria</i>	●			●	●	
778	カヤツリグサ	<i>Cyperus microiria</i>	●			●	●		
779	ウシクグ	<i>Cyperus orthostachyus</i>	●				●		
780	イガガヤツリ	<i>Cyperus polystachyos</i>	●			●	●		
781	ハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i>	●			●	●		
782	ハリイ	<i>Eleocharis congesta</i>	●			●	●	●	
783	ヒメヒラテンツキ	<i>Fimbristylis autumnalis</i>	●				●		
784	テンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i>	●			●	●		
785	クロテンツキ	<i>Fimbristylis diphyloides</i>	●			●	●	●	
786	ヒデリコ	<i>Fimbristylis miliacea</i>	●			●	●		
787	ヤマイ	<i>Fimbristylis subbispicata</i>	●			●	●		
788	ヒンジガヤツリ	<i>Lipocarpa microcephala</i>	●			●	●		
789	サンカクイ	<i>Scirpus triquetus</i>	●			●	●		
790	シヨウガ科	ミョウガ	<i>Zingiber mioga</i>	●		●	●	●	
791	ラン科	エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	●	●	●	●	●	●
792		ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i>	●		●	●	●	●
793		キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	●		●	●	●	●
794		ササバギンラン	<i>Cephalanthera longibracteata</i>	●		●	●	●	●
795		サイハイラン	<i>Cremastra appendiculata</i>	●		●	●	●	●
796		シュラン	<i>Cymbidium goeringii</i>	●	●	●	●	●	●
797		クロヤツシロラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i>	●				●	
798		コクラン	<i>Liparis nervosa</i>	●	●	●	●	●	●
799		オオバトンボソウ	<i>Platanthera minor</i>	●		●	●	●	●
800			ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis var.amoena</i>	●			●	
計	131科	800種		604種	348種	513種	478種	540種	33種

注1 分類、配列などは原則として「自然環境保全基礎調査 植物目録1987」環境庁(1987)に準拠した。

注2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。